

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第154集

上 切 寺 尾 古 墳 群  
日 焼 遺 跡  
(第2分冊)

2021

岐阜県文化財保護センター



かみ ぎり てら お  
上 切 寺 尾 古 墳 群  
ひ やけ  
日 焼 遺 跡  
(第2分冊)

2021

岐阜県文化財保護センター



## 目 次 (第2分冊)

第3章 調査の成果	1
第7節 中世以降の遺構と遺物	1
遺構一覧表	5
遺物観察表	30
発掘区全域図分割図	55
第4章 自然科学分析	136
第1節 分析の概要	136
第2節 放射性炭素年代測定	137
第3節 礎石建物内土坑出土の八稜鏡付着物の同定	139
第4節 土器付着物同定	141
第5節 土坑内堆積物の微細物分析	146
第5章 総括	
第1節 平安時代の礎石建物について	149
第2節 上切寺尾古墳群の造墓の変遷及び位置づけについて	159
第3節 飛騨地域における古代の土器について	171
第4節 高山盆地北部丘陵における土地利用の変遷について	177
引用・参考文献	181
写真図版	

### 第1分冊目次

第1章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法と経過	
第2章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第3章 調査の成果	
第1節 遺跡の基本層序	
第2節 調査前地形測量成果について	
第3節 遺構・遺物の概要	
第4節 上切寺尾古墳群	
第5節 縄文時代から弥生時代の遺構と遺物	
第6節 古代の遺構と遺物	

報告書抄録

## 挿図目次

図 298	SK716 遺構図	1	図 331	発掘区全域図分割図 (29)	84
図 299	SK716 出土遺物	2	図 332	発掘区全域図分割図 (30)	85
図 300	SK724 遺構図、出土遺物、中世以降の遺構外出土遺物 (1)	3	図 333	発掘区全域図分割図 (31)	86
図 301	中世以降の遺構外出土遺物 (2)	4	図 334	発掘区全域図分割図 (32)	87
図 302	発掘区全域図割付図	55	図 335	発掘区全域図分割図 (33)	88
図 303	発掘区全域図分割図 (1)	56	図 336	発掘区全域図分割図 (34)	89
図 304	発掘区全域図分割図 (2)	57	図 337	発掘区全域図分割図 (35)	90
図 305	発掘区全域図分割図 (3)	58	図 338	発掘区全域図分割図 (36)	91
図 306	発掘区全域図分割図 (4)	59	図 339	発掘区全域図分割図 (37)	92
図 307	発掘区全域図分割図 (5)	60	図 340	発掘区全域図分割図 (38)	93
図 308	発掘区全域図分割図 (6)	61	図 341	発掘区全域図分割図 (39)	94
図 309	発掘区全域図分割図 (7)	62	図 342	発掘区全域図分割図 (40)	95
図 310	発掘区全域図分割図 (8)	63	図 343	発掘区全域図分割図 (41)	96
図 311	発掘区全域図分割図 (9)	64	図 344	発掘区全域図分割図 (42)	97
図 312	発掘区全域図分割図 (10)	65	図 345	発掘区全域図分割図 (43)	98
図 313	発掘区全域図分割図 (11)	66	図 346	発掘区全域図分割図 (44)	99
図 314	発掘区全域図分割図 (12)	67	図 347	発掘区全域図分割図 (45)	100
図 315	発掘区全域図分割図 (13)	68	図 348	発掘区全域図分割図 (46)	101
図 316	発掘区全域図分割図 (14)	69	図 349	発掘区全域図分割図 (47)	102
図 317	発掘区全域図分割図 (15)	70	図 350	発掘区全域図分割図 (48)	103
図 318	発掘区全域図分割図 (16)	71	図 351	発掘区全域図分割図 (49)	104
図 319	発掘区全域図分割図 (17)	72	図 352	発掘区全域図分割図 (50)	105
図 320	発掘区全域図分割図 (18)	73	図 353	発掘区全域図分割図 (51)	106
図 321	発掘区全域図分割図 (19)	74	図 354	発掘区全域図分割図 (52)	107
図 322	発掘区全域図分割図 (20)	75	図 355	発掘区全域図分割図 (53)	108
図 323	発掘区全域図分割図 (21)	76	図 356	発掘区全域図分割図 (54)	109
図 324	発掘区全域図分割図 (22)	77	図 357	発掘区全域図分割図 (55)	110
図 325	発掘区全域図分割図 (23)	78	図 358	発掘区全域図分割図 (56)	111
図 326	発掘区全域図分割図 (24)	79	図 359	発掘区全域図分割図 (57)	112
図 327	発掘区全域図分割図 (25)	80	図 360	発掘区全域図分割図 (58)	113
図 328	発掘区全域図分割図 (26)	81	図 361	発掘区全域図分割図 (59)	114
図 329	発掘区全域図分割図 (27)	82	図 362	発掘区全域図分割図 (60)	115
図 330	発掘区全域図分割図 (28)	83	図 363	発掘区全域図分割図 (61)	116
			図 364	発掘区全域図分割図 (62)	117

図 365	発掘区全域図分割図 (63) ……………	118	ル図 (1) ……………	143
図 366	発掘区全域図分割図 (64) ……………	119	図 385	黒色付着物(内面)の赤外分光スペクトル図 (2) ……………
図 367	発掘区全域図分割図 (65) ……………	120	144	
図 368	発掘区全域図分割図 (66) ……………	121	図 386	遺跡の立地……………
図 369	発掘区全域図分割図 (67) ……………	122	150	
図 370	発掘区全域図分割図 (68) ……………	123	図 387	礎石建物……………
図 371	発掘区全域図分割図 (69) ……………	124	151	
図 372	発掘区全域図分割図 (70) ……………	125	図 388	礎石建物に関わる遺物の分布……………
図 373	発掘区全域図分割図 (71) ……………	126	153	
図 374	発掘区全域図分割図 (72) ……………	127	図 389	礎石建物周辺の瓦の分布……………
図 375	発掘区全域図分割図 (73) ……………	128	154	
図 376	発掘区全域図分割図 (74) ……………	129	図 390	礎石建物周辺の主要遺構及び仏堂に関わる遺物……………
図 377	発掘区全域図分割図 (75) ……………	130	156	
図 378	発掘区全域図分割図 (76) ……………	131	図 391	墳墓の規模……………
図 379	発掘区全域図分割図 (77) ……………	132	162	
図 380	発掘区全域図分割図 (78) ……………	133	図 392	斜面における方台部構築の模式図……………
図 381	発掘区全域図分割図 (79) ……………	134	162	
図 382	発掘区全域図分割図 (80) ……………	135	図 393	斜面下方側の掘削 (SZ19) ……………
図 383	暦年較正結果……………	138	162	
図 384	黒色付着物(内面)の赤外分光スペクトル図 (1) ……………	143	図 394	墳丘の盛土 (I 類) ……………
			162	
			図 395	主な出土土器……………
			164	
			図 396	墳墓の配置と造墓の変遷……………
			167	
			図 397	ロクロ土師器の出土位置……………
			172	
			図 398	ロクロ土師器分類図……………
			175	
			図 399	縄文時代の主要遺構……………
			177	
			図 400	古代の竪穴建物……………
			179	

## 表目次

表 6	墳墓一覧表 (1) ……………	5	表 19	竪穴建物内柱穴等一覧表 (6) ……………	13
表 7	墳墓一覧表 (2) ……………	6	表 20	竪穴建物内炉・カマド一覧表……………	14
表 8	墳墓主体部一覧表 (1) ……………	6	表 21	掘立柱建物・礎石建物一覧表……………	14
表 9	墳墓主体部一覧表 (2) ……………	7	表 22	掘立柱建物柱穴一覧表 (1) ……………	14
表 10	墳墓周溝内土坑等一覧表……………	7	表 23	掘立柱建物柱穴一覧表 (2) ……………	15
表 11	土坑墓一覧表……………	7	表 24	礎石建物柱穴一覧表……………	15
表 12	竪穴建物一覧表 (1) ……………	7	表 25	柵一覧表……………	16
表 13	竪穴建物一覧表 (2) ……………	8	表 26	柵柱穴一覧表……………	16
表 14	竪穴建物内柱穴等一覧表 (1) ……………	8	表 27	焼土・炉跡一覧表……………	16
表 15	竪穴建物内柱穴等一覧表 (2) ……………	9	表 28	遺物集積一覧表……………	16
表 16	竪穴建物内柱穴等一覧表 (3) ……………	10	表 29	集石遺構一覧表……………	16
表 17	竪穴建物内柱穴等一覧表 (4) ……………	11	表 30	単独柱穴一覧表……………	17
表 18	竪穴建物内柱穴等一覧表 (5) ……………	12	表 31	溝状遺構一覧表……………	18

表 32	土坑一覧表 (1)	19	表 58	土器観察表 (16)	45
表 33	土坑一覧表 (2)	20	表 59	土器観察表 (17)	46
表 34	土坑一覧表 (3)	21	表 60	土器観察表 (18)	47
表 35	土坑一覧表 (4)	22	表 61	土器観察表 (19)	48
表 36	土坑一覧表 (5)	23	表 62	土器観察表 (20)	49
表 37	土坑一覧表 (6)	24	表 63	土器観察表 (21)	50
表 38	土坑一覧表 (7)	25	表 64	土器観察表 (22)	51
表 39	土坑一覧表 (8)	26	表 65	土製品観察表 (1)	51
表 40	土坑一覧表 (9)	27	表 66	土製品観察表 (2)	52
表 41	土坑一覧表 (10)	28	表 67	石器・石製品一覧表 (1)	52
表 42	土坑一覧表 (11)	29	表 68	石器・石製品一覧表 (2)	53
表 43	土器観察表 (1)	30	表 69	金属製品一覧表 (1)	53
表 44	土器観察表 (2)	31	表 70	金属製品一覧表 (2)	54
表 45	土器観察表 (3)	32	表 71	測定試料及び処理	137
表 46	土器観察表 (4)	33	表 72	放射性炭素年代測定及び暦年較正の 結果	138
表 47	土器観察表 (5)	34	表 73	紙の蛍光X線分析結果	139
表 48	土器観察表 (6)	35	表 74	黒色付着物を伴う遺物の詳細	141
表 49	土器観察表 (7)	36	表 75	生漆の赤外吸収位置とその強度	142
表 50	土器観察表 (8)	37	表 76	微細物の同定結果	147
表 51	土器観察表 (9)	38	表 77	籾殻の蛍光X線分析結果	147
表 52	土器観察表 (10)	39	表 78	上切寺尾古墳群における墳墓の属性	161
表 53	土器観察表 (11)	40	表 79	時期別の出土状況	165
表 54	土器観察表 (12)	41	表 80	ロクロ土師器観察表	174
表 55	土器観察表 (13)	42	表 81	周辺の遺跡消長表	180
表 56	土器観察表 (14)	43			
表 57	土器観察表 (15)	44			

## 挿入写真目次

写真 5	鏡付着の紙片の試料写真と顕微鏡	140
写真 6	黒色物が付着したロクロ土師器と採取位置	145
写真 7	黒色物が付着したロクロ土師器・灰釉陶器と採取位置	146
写真 8	SK233 から出土した微細物	148

## 写真図版目次

- |       |                |       |                   |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 図版 1  | 調査前遠景、近景       | 図版 36 | SI29・SI30         |
| 図版 2  | 発掘区遠景（1）、全景（1） | 図版 37 | SI30・SI33         |
| 図版 3  | 発掘区全景（2）       | 図版 38 | SI33～SI36         |
| 図版 4  | 発掘区遠景（2）、全景（3） | 図版 39 | SI36・SI37         |
| 図版 5  | 発掘区遠景（3）、全景（4） | 図版 40 | SI37              |
| 図版 6  | 発掘区近景（1）       | 図版 41 | SI39・SB01         |
| 図版 7  | 発掘区全景（5）、近景（2） | 図版 42 | SB01・SB02         |
| 図版 8  | SZ01、SZ02      | 図版 43 | SB02・SB03         |
| 図版 9  | SZ03、SZ04      | 図版 44 | SB03・SB04         |
| 図版 10 | SZ05、SZ06      | 図版 45 | SB04・SK223        |
| 図版 11 | SZ07、SZ12、SZ13 | 図版 46 | SB04・SB08         |
| 図版 12 | SZ14～SZ17      | 図版 47 | SB07～SB09         |
| 図版 13 | SZ18～SZ21      | 図版 48 | SB09              |
| 図版 14 | SZ22～SZ24      | 図版 49 | SB09、土坑墓（2）、土坑（3） |
| 図版 15 | SZ25～SZ28      | 図版 50 | 土坑（4）             |
| 図版 16 | SZ29～SZ33      | 図版 51 | 出土遺物（1）           |
| 図版 17 | SZ34～SZ36      | 図版 52 | 出土遺物（2）           |
| 図版 18 | SZ38           | 図版 53 | 出土遺物（3）           |
| 図版 19 | SZ37、SZ39～SZ42 | 図版 54 | 出土遺物（4）           |
| 図版 20 | SZ43～SZ47      | 図版 55 | 出土遺物（5）           |
| 図版 21 | SZ48～SZ51      | 図版 56 | 出土遺物（6）           |
| 図版 22 | SI31           | 図版 57 | 出土遺物（7）           |
| 図版 23 | SI38           | 図版 58 | 出土遺物（8）           |
| 図版 24 | 炉穴、土坑（1）       | 図版 59 | 出土遺物（9）           |
| 図版 25 | 土坑（2）、土坑墓（1）   | 図版 60 | 出土遺物（10）          |
| 図版 26 | SI01～SI05      | 図版 61 | 出土遺物（11）          |
| 図版 27 | SI06～SI08      | 図版 62 | 出土遺物（12）          |
| 図版 28 | SI08～SI12      | 図版 63 | 出土遺物（13）          |
| 図版 29 | SI12～SI14      | 図版 64 | 出土遺物（14）          |
| 図版 30 | SI14・SI15      | 図版 65 | 出土遺物（15）          |
| 図版 31 | SI15・SI16      | 図版 66 | 出土遺物（16）          |
| 図版 32 | SI16・SI17      | 図版 67 | 出土遺物（17）          |
| 図版 33 | SI17～SI21      | 図版 68 | 出土遺物（18）          |
| 図版 34 | SI21・SI23～SI25 | 図版 69 | 出土遺物（19）          |
| 図版 35 | SI25～SI27      | 図版 70 | 出土遺物（20）          |

- 图版 71 出土遺物 (21)  
图版 72 出土遺物 (22)  
图版 73 出土遺物 (23)  
图版 74 出土遺物 (24)  
图版 75 出土遺物 (25)  
图版 76 出土遺物 (26)  
图版 77 出土遺物 (27)  
图版 78 出土遺物 (28)  
图版 79 出土遺物 (29)  
图版 80 出土遺物 (30)  
图版 81 出土遺物 (31)  
图版 82 出土遺物 (32)  
图版 83 出土遺物 (33)  
图版 84 出土遺物 (34)  
图版 85 出土遺物 (35)  
图版 86 出土遺物 (36)  
图版 87 出土遺物 (37)  
图版 88 出土遺物 (38)  
图版 89 出土遺物 (39)  
图版 90 出土遺物 (40)

第7節 中世以降の遺構と遺物

この遺跡において、鎌倉時代以降のものを中世以降としてまとめた。検出した遺構の中から土坑2基を報告する。

1 土坑

SK716 (図 298・図 299)

検出状況 D020～EP2 グリッド、IV層の上面で検出した、不定形の土坑である。底面は東側、西側、

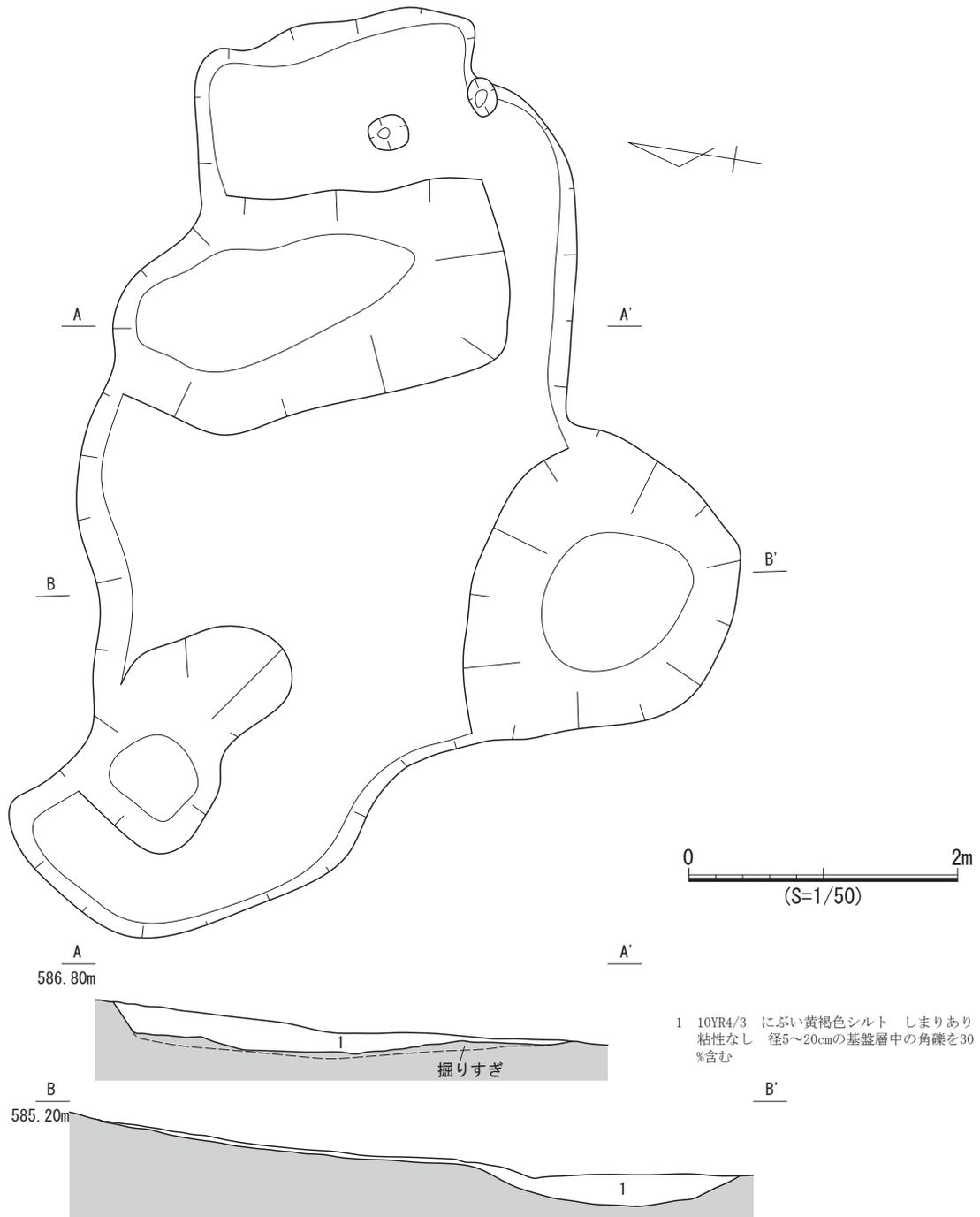


図 298 SK716 遺構図

南側に部分的に深くなる。こうした部分以外は浅く、壁面は底面から緩やかに開く。壁の残存高は最大で0.24mである。

**埋土** 単層で、角礫を多く含む。

**遺物出土状況** 埋土中から土師器や須恵器、灰釉陶器、古瀬戸、大窯製品、石製品といった多くの遺物が散在した状態で出土した。

**出土遺物** 899は高台を持つ須恵器碗である。900は古瀬戸平碗で、古瀬戸後Ⅰ期～後Ⅱ期と考えられる。901～903は天目茶碗で、901が古瀬戸後Ⅲ期、902と903は大窯第4段階前半と考えられる。904は尊式花瓶の底部で、古瀬戸後Ⅲ期～後Ⅳ期古段階と考えられる。905は石製容器で、口縁部の一角は注口のような形状に削り出される。また、口縁部付近の外面には突帯が巡る。この突帯は蓋の受け口である可能性がある。仮に蓋を持つとすると、注口は二次利用によるもので、櫃もしくは香炉、手あぶりの可能性も考えられる。906は磨製石斧で、刃部に使用による刃こぼれがあり、基部は一部

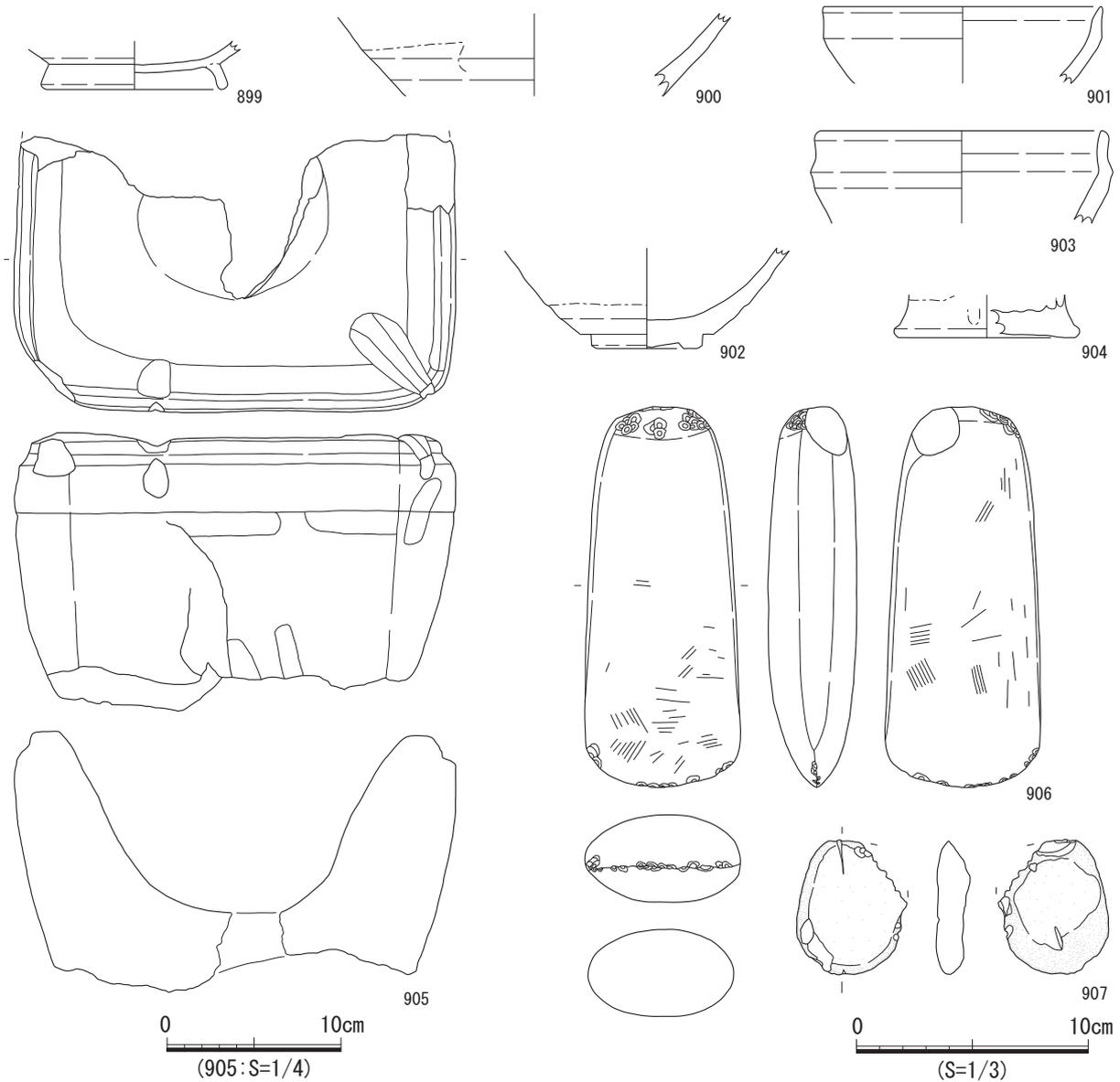


図 299 SK716 出土遺物

欠損するが、敲打痕が認められる。907は切目石錘で、楕円形の円礫の両端に抉りを作り出している。  
**時期** 出土した陶器から、16世紀末と考えられる。

**SK724 (図300)**

**検出状況** E03 グリッド、IV層の上面で検出した。平面は南北方向に長い不整な楕円形である。底面は北側が1段深く掘り込まれ、南側にテラス状の平坦面を有する。壁の残存高は最大で0.20mである。  
**埋土** 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積し、1層にはIV層起源のブロック土が含まれるため、人為的埋土の可能性はある。

**遺物出土状況** 埋土中から陶器片が1点出土した。

**出土遺物** 908は卸目付大皿で、古瀬戸後IV期古段階と考えられる。

**時期** 出土した遺物から、15世紀中頃と考えられる。

**2 遺構外出土遺物 (図300・図301)**

909~911は中世の遺物である。909は尾張型山茶碗の底部片で、910は珠洲焼の播鉢である。911は常滑産陶器の広口壺で、常滑窯6b型式と考えられる。912と913は近世の遺物である。912は灯明皿で、913は筒状容器の蓋と思われる。913の内面には全体に煤状の付着物が付き、容器との接合部は付着物がやや厚い。

914~916は五輪塔で、いずれも破損している。914と915は空風輪であり、916は地輪である。石材はいずれも安山岩である。

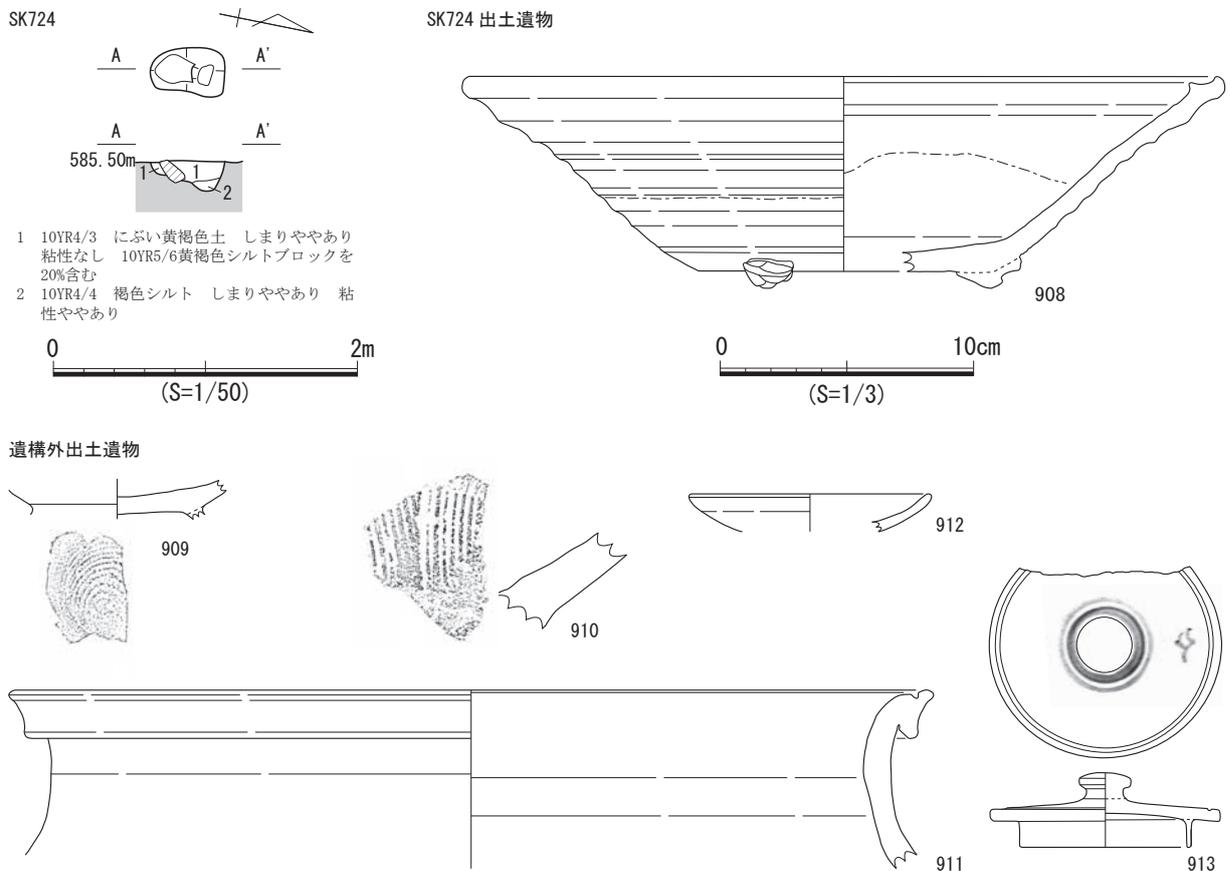


図300 SK724 遺構図、出土遺物、中世以降の遺構外出土遺物 (1)

4 第3章 調査の成果

917 と 918 は近世と思われる金属製品である。917 は煙管の吸口で、918 は寛永通宝である。

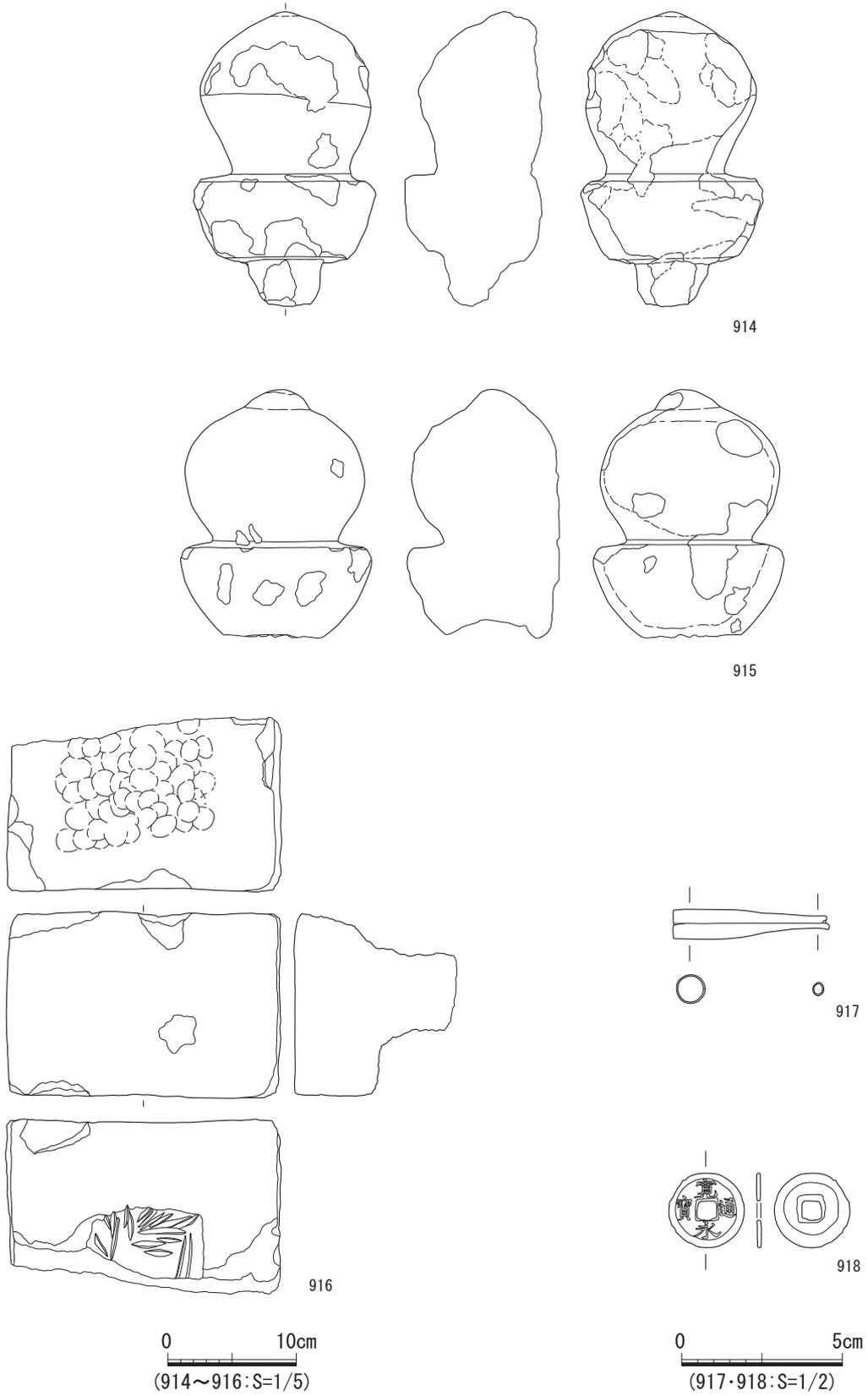


図 301 中世以降の遺構外出土遺物（2）

表6 墳墓一覽表(1)

遺構番号	調査時番号	検出グリップ	重複関係		外周規模(m)		内周規模(m)		深さ(m)	長軸方位	出土遺物	挿図番号	図版番号
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
SZ01	S074、C467(方台部) C246、S045(周溝)	EA4~EC7	SI04, SI12, SP02, SK023, SK027	SK025, SK026, SK038, SK039, SK040, SK041	12.30	(12.20)	11.50	9.10	0.54	N 24° W	J, H, P, K, S, Y	11・12	8
SZ02	C468(方台部) C108(周溝)	EC2~EE5	SI06, SI07, SI08, SI09, SD03	SK044, SK047, SK052, SK267	14.40	(9.20)	10.78	(7.50)	0.66	N 20° W	H, P, Y	14	8
SZ03	S072(方台部) S080, S592, C511(周溝)	BS7~BT9	SZ04, SI10	SK355	8.58	(7.92)	6.72	(7.08)	0.21	N 5° W	H, P, Y	15	9
SZ04	S071(方台部) S061(周溝)	BS9~BT11		SZ03, SK067, SK289	9.61	5.72	6.69	4.65	0.42	N 1° W	H, P, Y	16・17	9
SZ05	S057、A001(方台部) S186、A002(周溝)	BT13~EA15		SZ48, SZ48 - 周溝	9.55	(9.25)	8.40	(7.25)	0.52	N 19° W	J, H, P, Y	18・19	10
SZ06	S036(方台部) S076(周溝)	EA7~EC10	SI11, SI12, SK115	SK071, SK072, SK073, SK269	11.35	7.40	10.60	4.95	1.05	N 80° E	J, H, P, S	20・21	10
SZ07	S070(方台部) S201、S011(周溝)	EB12~ED14		SK085	9.90	7.75	7.00	6.28	0.47	N 75° E	J, H, F, P, K	22・23	11
SZ08	S586(方台部) S465, S486(周溝)	EC7~EE9	SI13, SI15, SI16, SI19, SK096, SK107, SK109, SK124, SK125, SK126	SK097, SK110, SK111, SK112, SK113	12.00	(7.62)	9.28	(6.10)	0.54	N 80° E	H, P, S, Y	24・25	—
SZ09	S111(周溝)	ED10~EF13	ST04, SI21, SI23, SI24, SI28, SU01, SP09, SP15, SK147, SK262	SP15, SK146, SK150	16.45	(12.00)	13.12	(9.28)	0.58	N 72° E	J, H, P, Y	26	—
SZ10	C451(方台部) C212(周溝)	EF9~EH11	SZ11, SI25, SI26, SB04, SK226,		10.10	(8.49)	(7.60)	(6.15)	0.96	N 61° E	H, P, S, Y	27	—
SZ11	C262(方台部) C238(周溝)	EG9~EI11	SI25, SI26, SB04	SZ10, SK225, SK260	(9.90)	(8.35)	6.91	(7.30)	0.94	N 80° E	J, P, S	29	—
SZ12	A026(方台部) C498(周溝)	BJ6~BK7	SZ13, SZ14, SZ15	SI31, SK375	10.60	(8.60)	7.90	(7.30)	0.54	N 25° E	J, H, D, S, Y	30・31	11
SZ13	C484(方台部) C485(周溝)	BK3~BL5	SZ19	SZ12, SZ14, SK374, SK379	10.30	9.60	7.10	6.50	0.56	N 15° E	H, S, Y	32・33	11
SZ14	A025(方台部) C499(周溝)	BI4~BJ6	SZ12, SZ13	SK372, SK373, SK374	(6.10)	(4.90)	(4.70)	(3.50)	0.75	— — —	—	34	12
SZ15	A027(方台部) A085, A091, A093(周溝)	BK7~BL8	SZ16	SZ12, SK380, SK381	9.30	(7.80)	6.40	(6.00)	0.80	N 25° E	J, H, P, K, S, Y	35・36	12
SZ16	A028(方台部) A080, A088, A089(周溝)	BK8~BM10		SZ15, SK376, SK382, SK383	9.90	9.00	7.10	5.50	0.65	N 82° W	J, H, P, S, Y	37~39	12
SZ17	A029(方台部) A035(周溝)	BK11~BM13		SK384, SK385, SK389, SK390	12.60	12.50	9.80	9.40	0.70	— — —	K	40・41	12
SZ18	C486(方台部) C487(周溝)	BL2~BM4		SZ26 - 主体部, SK377, SK378, SK391	6.60	(4.96)	5.36	(4.12)	0.40	N 46° E	—	42・43	13
SZ19	C488(方台部) C489(周溝)	BL4~BN6		SZ13, SZ19 - 主体部, SP23, SK386, SK387	9.30	6.70	8.90	7.70	0.35	N 27° W	H, Y	44・45	13
SZ20	B009(方台部) B010(周溝)	BL17~BN19	SD19	SZ27, SK393, SK400	11.80	11.50	8.30	6.30	0.70	N 5° W	Y	46・47	13
SZ21	B014(方台部) B015(周溝)	BL19~CN1	SZ30, SD19, SK319, SK320		11.90	(10.30)	7.50	6.90	0.62	N 4° W	—	48・49	13
SZ22	A003(方台部) A004(周溝)	CL2~CO4	SZ38	SK321, SK326	(13.00)	12.60	10.20	9.00	0.40	N 2° W	—	50・51	14
SZ23	C500(方台部) C501(周溝)	BM7~BM8		SD22, SK388, SK396, SK397	7.88	7.40	5.12	4.48	0.40	N 44° E	H, P, S, Y	52・53	14
SZ24	A074(方台部) A073(周溝)	BM8~B010	SZ25	SK404	(13.00)	(12.40)	(9.90)	(9.50)	0.60	N 83° E	J, P, Y	54・55	14
SZ25	A079(方台部) A092(周溝)	BM10~B012	SZ24, SZ29	SZ24, SK398, SK399	7.35	(6.90)	4.80	(4.30)	0.56	N 5° E	—	57	15
SZ26	A030(方台部) A033, A068, A070, A071, A072(周溝)	BM14~BN15		SD23, SK391	8.44	8.16	6.42	5.76	0.56	N 26° W	J	58・59	15
SZ27	A034(方台部) A054(周溝)	BM16~B017	SZ20, ST05	SK327, SK392	7.86	7.60	6.16	5.72	0.48	N 16° E	—	60	15
SZ28	C490(方台部) C492(周溝)	BN5~B07		SK395, SK402	8.76	8.32	6.48	5.80	0.40	N 16° E	H, P, T, Y	61・62	15
SZ29	A031(方台部) A041(周溝)	BM11~BP14	SZ32	SZ25, SD20, SZ33, SK398, SK399	13.10	11.80	10.40	8.60	0.60	N 75° E	Y	63・64	16
SZ30	B012(方台部) B013(周溝)	BN20~CO2	SZ37, SK323, SK324, SK325, SK401	SZ21, SK322	9.24	(7.62)	7.08	5.68	0.52	N 62° W	—	66・67	16
SZ31	C506(方台部) C507(周溝)	B07~BP8	ST06	SK403, SK404	6.44	5.32	4.68	3.36	0.12	N 60° W	H, S	68	16
SZ32	A094(方台部) A098(周溝)	B010~BQ12	SZ32 - 周溝内土坑, SZ29, SZ41, SK346	SK409	(10.20)	9.00	(8.40)	7.20	0.60	N 81° E	Y	69~71	16

6 第3章 調査の成果

表7 墳墓一覧表(2)

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		外周規模(m)		内周規模(m)		深さ	長軸方位	出土遺物	挿図番号	図版番号
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
SZ33	B087(方台部) A155、A159(下部遺構) B088(周溝)	B013~ BQ16		SZ29, SZ34	10.92	10.80	8.20	7.40	0.44	N 4° W H		73・74	16
SZ34	B072(方台部) B073(周溝)	B016~ BP17	SZ33	SK327, SK410, SK411, SK412	11.10	(8.08)	8.92	5.72	0.80	N 4° W Y		75・76	17
SZ35	B070(方台部) B071(周溝)	B018~ BP19	SZ36	SK327	9.50	8.50	5.90	5.40	0.60	N 84° E -		77・78	17
SZ36	B040(方台部) B038(周溝)	B019~ CQ1	SZ37	SZ35	7.60	(7.00)	5.90	4.50	0.60	N 80° E -		79・80	17
SZ37	B044(方台部) B045(周溝)	C01~ CQ2	SZ38, SZ46, SK333, SK334, SK335, SK336, SK337, SK338, SK339, SK340, SK341, SK348	SZ36	(8.28)	7.80	6.12	4.76	0.60	N 62° E Y		81	19
SZ38	A008(方台部) A009(周溝)	C02~ CP4	SZ46 - 周溝, SK321, SK326	SZ22, SZ37, SZ37 - 周溝, SZ40 - 周溝, SZ47, SZ47 - 周溝	13.20	10.30	8.30	6.10	1.00	N 77° E Y		82・83	18
SZ39	A010(方台部) A011(周溝)	CQ4~ CQ5		SZ40, SZ47	4.30	(1.60)	2.40	(0.66)	0.20	N 58° E -		84	19
SZ40	A006(方台部) A007(周溝)	C05~ CP6	SZ38 - 周溝, SZ39 - 周溝, SZ47 - 周溝		(9.50)	(9.30)	(7.40)	7.30	0.70	N 54° W S		85・86	19
SZ41	A096(方台部) C510(周溝)	BP7~ BR10	SZ42, SI29, SI30, SI30 - 壁際溝, SI30 - P01, SI30 - P02, SI30 - P03, SI30 - P04, SI30 - 壁際溝,	SZ32, SK328, SK329, SK342, SK343, SK344, SK406, SK407, SK408, SK413, SK414, SK415, SK416, SK417, SK418, SK419, SK420, SK421, SK423, SK430	13.70	13.20	12.00	9.90	0.40	N 8° E H, P		87~ 89	19
SZ42	A101(方台部) A105(周溝)	BQ10~ BR12		SZ41, SP24, SK424, SK425, SK426, SK427, SK428, SK431	9.60	7.32	6.00	5.90	0.52	N 88° E H, P, K		90・91	19
SZ43	A106(方台部) A100(周溝)	BQ12~ BQ13			10.40	6.40	6.00	4.88	0.52	N 83° E -		92・93	20
SZ44	B047(方台部) B048(周溝)	BQ17~ BQ18	SZ49, SZ51, SK357	SK358	10.42	10.12	6.80	5.92	0.52	N 89° W S, Y		94・95	20
SZ45	B059(方台部) B058(周溝)	BQ19~ BR20	SZ46, SK347, SK354		(5.56)	5.08	(3.96)	2.36	0.28	N 84° E J		96	20
SZ46	A022(方台部) A023(周溝)	BQ20~ CR2		SZ37, SZ45, SK348, SK448, SK450	9.80	7.40	5.80	5.50	0.75	N 78° E P		97	20
SZ47	A021(方台部) A017(周溝)	CQ3~ CQ5	SZ38, SZ39, SZ50	SZ40, SK449	4.58	(3.08)	(3.08)	2.44	0.38	N 72° E -		98	20
SZ48	C509(方台部) C520(周溝)	BR12~ BS14	SZ05	SK432, SK438, SK439, SK436, SK440	10.20	6.60	(8.80)	6.00	0.75	N 0° - P, K, Y		99・ 100	21
SZ49	B053(方台部) B052(周溝)	BR15~ BR16	SK353	SZ44, SK352, SK429, SK433, SK434, SK435, SP21	10.40	4.00	8.10	2.40	0.26	N 84° E Y		101	21
SZ50	A019(方台部) A016(周溝)	CR2~ CR3		SZ47	4.18	(2.78)	3.06	(1.90)	0.34	N 80° E -		102	21
SZ51	B001(方台部) B003、B004(周溝)	BS15~ EA18	SZ05, SZ44 - 周溝内土坑, SK363, SK364, SK365	SZ44, SK442, SK443, SK444, SK445	14.10	10.30	11.25	9.80	0.50	N 86° E J, H, Y		103~ 105	21

表8 墳墓主体部一覧表(1)

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		上端規模(m)		下端規模(m)		深さ(m)	長軸方位	出土遺物	挿図番号	図版番号
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
SZ01-主体部	S236	EB6			(1.30)	0.75	(1.20)	0.60	0.20	N 90° E	-	12	-
SZ04-主体部1	S093	BT10			2.30	0.94	2.23	0.88	0.12	N 85° E	-	17	-
SZ04-主体部2	S094	BT10~BT11			2.20	1.00	2.00	0.80	0.23	N 62° E	-	17	-
SZ05-主体部	S189	BT14~EA14			3.32	0.85	1.54	0.50	0.70	N 80° E	-	19	-
SZ06-主体部	S250	EB8~EB9		SZ06-P1	3.85	1.10	3.26	0.63	0.40	N 86° E	-	21	-
SZ07-主体部	S161	EC14			3.82	0.92	3.60	0.73	0.32	N 78° E	J	23	-
SZ08-主体部	S243	ED7~ED8	SI15	SK112, SK113	4.85	1.35	4.76	0.75	0.25	N 88° E	P, S, Y	25	-
SZ12-主体部	C497	BJ6~BK6			2.88	2.06	2.36	1.64	0.58	N 67° W	J, D	31	-
SZ13-主体部	C496	BK4~BL5			2.72	2.02	2.20	1.38	0.38	N 75° W	-	33	-
SZ15-主体部	A087	BL8			1.80	1.30	1.40	0.90	0.40	N 15° E	Y	36	-
SZ16-主体部	A083	BL9~BL10		SK382	3.20	1.30	3.00	1.00	0.60	N 90° W	-	38	-
SZ17-主体部	A069	BL12		SK385	1.90	1.20	1.00	0.50	0.90	N 3° E	-	41	-
SZ18-主体部	C493	BL2~BL3			2.28	1.70	2.04	1.42	0.16	N 45° E	-	43	-
SZ19-主体部	C495	BM5			2.40	1.56	1.76	0.92	0.62	N 34° W	-	45	13
SZ20-主体部	B043・B042	BM18		SK393	2.64	1.90	2.26	1.52	0.38	N 50° E	-	47	-
SZ21-主体部	B035	BM20			2.46	1.04	2.06	0.70	0.40	N 46° W	-	49	-
SZ22-主体部	A005	CM2~CN3			(2.90)	0.89	(2.38)	0.58	0.40	N 85° E	-	51	-
SZ23-主体部	C504	BM7~BN7			2.23	1.44	1.85	0.64	0.49	N 44° E	S	52	-
SZ24-主体部	A090	BN9~BN10			3.10	1.30	2.80	0.80	0.60	N 10° W	J, Y	55	-
SZ26-主体部	A036・C552	BM14~BN15			3.20	1.40	2.90	1.10	0.50	N 25° W	-	59	15
SZ27-主体部	A042	BN17			3.40	3.00	1.60	0.76	0.40	N 23° E	-	60	-



8 第3章 調査の成果

表 13 竪穴建物一覧表 (2)

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		上端規模 (m)		下端規模 (m)		深さ (m)	長軸方位	出土遺物	挿図番号	図版番号
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
SI10	S078	BS7~BT8		SZ03	3.90	3.20	3.00	2.85	0.50	N 81° W	H, P, I, S	148・149	28
SI11	S190	EA8~EB8	SK071, SK072	SZ06, SK069, SK070	4.00	3.02	2.98	2.66	0.25	N 82° E	H, P	150・151	28
SI12	S044	EB7		SZ01, SZ06, SK269	3.34	2.58	2.90	2.25	0.25	N 80° W	J, H, P, I	152・153	28・29
SI13	S434	EC7~ED8	SI19		5.33	5.03	5.01	4.68	0.72	N 7° W	J, H, P	154~156	29
SI14	S304	EC5~ED6	SK090, SK091, SK093	SP05, SK092, SK095	5.01	3.54	4.94	3.12	0.32	N 9° E	H, P	157~159	29・30
SI15	S240	EC7~ED8		SZ08, SI13	4.90	4.08	4.54	3.72	0.24	N 1° E	H, F, P, K, S	161・162	30・31
SI16	S183	EC9~ED10		SZ08, SB02・03-整地層, SK123, SK124, SK125	4.58	4.14	1.38	3.90	0.52	N 3° W	H, F, P, K	164~166	31・32
SI17	S090	EC11~EC12	SK181		3.99	3.82	3.53	3.40	0.38	N 82° E	H, F, P, K	167~169	32・33
SI18	S030	EB10~ED12		SK130	7.92	7.28	7.48	6.62	0.60	N 73° E	H, P, I	171~173	33
SI19	S239	ED6~EE7	SZ08		4.00	(3.82)	3.61	(3.65)	0.42	N 85° E	H, F, P, K	175・176	33
SI20	S088	EE8~EF9	SS01		4.43	4.28	4.34	3.98	0.26	N 80° E	H, P, I	178~180	33
SI21	S087	EE9~EF10	SD06	SZ09	3.96	3.96	3.68	3.52	0.62	N 10° W	H, F, P	182・183	33・34
SI22	S351	EE11~EF11	SK177	SD11, SK177, SK178, SK273, SK274	3.62	3.21	3.30	2.95	0.20	N 69° E	H, P, K	185	—
SI23	S544 (S545の一部)	EE12~EF13	SI28, SP13, SP14, SK152, SK169, SK170, SK171	SZ09, SI24	4.68	4.34	3.92	3.84	0.52	N 12° W	H, F, P	187・188	34
SI24	S546	EE11~EF13	SI23, SP11, SP12, SK152, SK172, SK173	SZ09	(5.10)	(4.76)	(4.48)	(4.24)	0.44	N 9° W	H, P, S	190	34
SI25	C263	EG8~EI10	SI26, SB04, SD12	SK219	9.60	8.84	9.00	2.40	0.48	N 15° W	H, F, P, K, D, S	191~193	34・35
SI26	C271	EG8~EH9	SB04	SI02, SI25, SK219	5.20	4.06	4.82	3.68	0.74	N 36° W	J, H, F, P, K, D, I, S	196・197	35
SI27	C362	EH8~EI9	SB04	SI25	3.54	(3.40)	3.34	(3.12)	0.48	N 76° E	J, H, P, K, S	200	35
SI28	S543 (S352・S545の一部)	EE12~EF13		SZ09, SI23, SK151, SK152, SK153	(5.28)	3.20	(5.00)	(2.91)	0.28	N 13° W	P, I	202	—
SI29	C514	BP8		SZ41, SZ41 - 周溝	4.26	2.92	3.20	2.45	0.76	N 8° W	H, P	204・205	36
SI30	B100	BP9		SZ41, SZ41 - 周溝	2.70	2.54	2.24	2.24	0.24	N 5° E	J, H, P	206	36・37
SI31	C561	BJ6~BK6		SZ12, SZ12 - 周溝	4.00	3.80	3.58	3.51	0.58	N 8° E	J, S	106	22
SI32	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SI33	C012	EK5~EL6	SI33	SI36	(1.46)	1.36	(1.18)	0.96	0.10	N 9° W	J, H, S	208	37
SI34	C061	EK6~EL6	SK617, SK584, SB09, SI34, SK815, SK579, SP72, SK817, SK580	SI36, SK640, SK814, SP73, SI35, SP41	3.50	(1.85)	3.14	(1.60)	0.14	N 18° W	P	209	38
SI35	C197	EK6	SK584, SI35, SI36, SB09, SI34, SK582	SI36, SK581	2.80	(2.76)	2.60	(2.60)	0.04	N 1° W	P	210	38
SI36	C010	EK6~EL6	SI36, SK584, SI33, SP34, SI34, SK578, SI35, SK582, SK586	SK581	4.28	(3.28)	4.08	(3.10)	0.16	N 2° W	J, H, P, K, S, I	211・212	38・39
SI37	S200	EL5~EM5	SK615, SK668, SK669, SP70	SD40, SD40, SK806	4.37	4.17	4.04	3.73	0.37	N 0° W	J, H, P, K, T, C, S, R	213・214	39・40
SI38	S285	E02~E03	SK704, SK723, SK726, SK739, SK742, SK743, SK744, SK745, SK812, SK820, SK813	SK819	3.62	(2.24)	3.13	1.99	0.13	N 40° W	J, Y, H, P, K, T, S	108・109	23
SI39	S269	EN4~EN5		SK818	3.65	(1.61)	3.27	(1.44)	0.11	N 58° E	J, H, P, S	217	41

表 14 竪穴建物内柱穴等一覧表 (1)

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		上端規模 (m)		下端規模 (m)		深さ (m)	遺構属性分類				出土遺物
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		平面形	底面形	断面形	埋土	
SI01-P01	C436	AS20~BS1			0.40	0.36	0.15	0.15	0.14	C 1	C 1	a	I	—
SI01-P02	C433	BS1		SI01-P06	0.59	0.58	0.37	0.32	0.18	A 1	A 1	b	I	H
SI01-P03	C431	BS1			0.36	0.29	0.23	0.19	0.07	A 2	A 2	a	I	—
SI01-P04	C439	BS1			0.34	0.31	0.24	0.20	0.09	C 1	C 2	a	I	H, P
SI01-P05	C435	BS1	SI01-カマド		1.00	0.46	0.66	0.29	0.11	C 2	C 2	b	I	H
SI01-P06	C442	BS1	SI01-P02		(0.35)	0.35	(0.30)	0.19	0.13	C —	C —	a	I	—
SI01-P07	C437	BS1		SI02	0.32	0.30	0.17	0.17	0.16	A 1	A 1	b	I	—
SI01-P08	C432	BS1			0.32	0.29	0.15	0.15	0.39	A 1	A 1	e	I	—
SI02-P01	C272	AS20		SI02-P04	0.89	0.54	0.60	0.39	0.04	C 2	C 2	a	I	—
SI02-P02	C274	AS20~BT1			0.43	0.36	0.16	0.12	0.08	A 1	A 2	a	I	—
SI02-P03	C268	AT20			0.55	0.54	0.36	0.35	0.13	A 1	A 1	b	I	—
SI02-P04	C420	AS20	SI02-P01		0.61	0.59	0.33	0.40	0.10	A 1	A 1	a	I	—
SI02-P05	C422	AT20			0.67	0.54	0.53	0.38	0.07	C 2	C 2	a	I	—











表 20 竪穴建物内炉・カマド一覧表

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	遺構の重複		検出規模(m)		出土遺物	挿図番号	図版番号
			新	旧	長軸長	短軸長			
SI01-カマド	C434	BS1		SI01-P05	0.75	0.55	H,P	130	26
SI02-カマド	C273	AS20			0.86	0.53	H,P	132	26
SI03-カマド	C313	EA3			1.02	0.64	H,P	134	26
SI04-カマド	C351	EB4~EB5			0.67	0.62	—	136	26
SI05-カマド	C400	EB3		SI05-P04	1.00	0.86	—	138	—
SI06-カマド	C394	EC3		SZ02	1.05	0.80	H	140	27
SI07-カマド	C441	EC3~EC4		SZ02	1.25	0.84	H,P	142	27
SI08-カマド	C460	EC4		SZ02	0.92	(0.66)	H,P	144	28
SI09-カマド	C307	ED4~ED5			0.69	0.52	H,P	147	28
SI10-カマド	S101	BT8			0.36	0.28	—	148	—
SI11-カマド	S195	EA8			0.80	0.40	H,P	151	28
SI12-カマド	S226	EB7			1.04	0.50	H	153	28・29
SI14-カマド	S305	EC6~ED6			1.54	0.80	H,P	159	29・30
SI15-カマド	S341	EC8		SI13, SI15-P06	1.27	1.10	H,P,S	162	31
SI16-カマド	S246	EC9	SB02・03整地層		1.50	0.86	H,P	165	32
SI17-カマド	S205	EC11		SI17-P17, SI17-P19, SI18-P02	0.12	1.08	P,K	169	32
SI18-カマド	S144	EC12	SI17	SI18-P26, SI18-P28	1.11	0.84	H,P	172	33
SI19-カマド	S270	EE7	SI19-P04	SI19-P06, SI19-P07, SI19-P08	2.06	1.20	H,P	176	33
SI20-カマド	S135	EE9		SI20-P24	1.43	0.73	H,I	180	33
SI21-カマド	S122	EE10			1.06	0.56	H	183	33・34
SI23-カマド	S547	EE12	SI28		1.30	0.47	H,P	188	34
SI25-カマド	C367	EG9	SB04-P01		1.16	1.08	H,P,K	193	35
SI26-カマド	C290	EH9		SZ10, SI25, SI26-壁際溝1	1.20	0.98	H,P,K	197	35
SI29-カマド	C515	BP8			1.38	0.86	—	205	36
SI31-炉	C575	BK6			(1.00)	1.00	—	106	22
SI34-カマド	C122	EK6	SB09-P05, SI34-壁際溝	SI34, SI35	(0.35)	(0.33)	—	209	38
SI37-カマド	S449	EM5		SI37, SK669, SI37-P09	—	—	—	214	39
SI38-炉	S485	E03			(0.90)	(0.83)	—	109	23
SI39-カマド	S453	EN4		SI39	0.85	0.61	—	217	41

表 21 掘立柱建物・礎石建物一覧表

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		規模 (m)		長軸方位	挿図番号	図版番号		
			新	旧	長軸長 (桁行)	短軸長 (梁行)					
SB01	—	EA2~EA3	SI03		3.00	1.35	N	88°	W	218・219	41・42
SB02	—	EC9~EC10		SK121	4.94	1.65	N	83°	E	220・221	42・43
SB03	—	EC9~EC10		SK122, SD07	4.30	2.90	N	85°	E	222・223	43・44
SB04	C001	EF8~E110	SK224	SZ10, SZ11, SI125, SI126, SI27	10.50	7.30	N	88°	E	224~230	45・46
SB05	—	DF19~D123			1.46	2.08	N	83°	E	237	—
SB06	—	EH1~E12	SK485, SK506, SK505		1.86	2.46	N	12°	W	238	—
SB07	—	EJ1~EK2		SK536	4.92	1.42	N	86°	W	239	47
SB08	—	E03~EP3	SP61	SK730, SK738, SK787, SK795	5.18	3.26	N	1°	W	240	46・47
SB09	—	EK5~EM6	SK585, SK618,	SI3, SI34, SI34-壁際溝, SI35, SP34, SP72, SK575, SK578, SK580, SK606, SK614, SK616, SK617, SK630, SK631, SK636, SK640, SK815, SK817	7.36	6.78	N	65°	E	241・242	47

表 22 掘立柱建物柱穴一覧表(1)

遺構番号	調査時 遺構番号	検出グリッド	遺構の重複		上端規模(m)		下端規模(m)		深さ (m)	遺構属性分類				出土 遺物
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		平面形	底面形	断面形	埋土	
SB01-P01	C406	EA2			0.46	0.37	0.17	0.28	0.13	A	A	b	I	—
SB01-P02	C404	EA2			0.42	0.37	0.18	0.15	0.08	A	A	a	I	P
SB01-P03	C403	EA3			0.56	0.42	0.29	0.33	0.25	A	A	b	I	—
SB01-P04	C417	EA3			0.43	0.42	0.22	0.23	0.13	A	A	b	I	—
SB01-P05	C414	EA2	SI03		0.53	(0.46)	0.19	(0.29)	0.17	A	A	g	I	—
SB02-P01	S262	EC10			0.38	0.25	0.20	0.04	0.46	A	A	b	I	—
SB02-P02	S154	EC9~EC10			0.47	0.34	0.16	0.20	0.38	A	A	b	VI	—
SB02-P03	S156	EC9			0.42	0.39	0.17	0.15	0.47	A	A	b	I	—
SB02-P04	S260	EC9~EC10			0.41	0.36	0.29	0.21	0.03	A	A	a	I	—
SB02-P05	S259	EC9		SK121	0.41	0.38	0.23	0.26	0.29	A	A	b	I	—
SB03-P01	S149	EC10			0.68	0.64	0.19	0.20	0.52	A	A	e	VI	P
SB03-P02	S150	EC10			0.72	0.68	0.22	0.26	0.37	A	A	e	VI	P
SB03-P03	S151	EC9~EC10			0.60	0.49	0.32	0.19	0.28	A	A	b	VI	—
SB03-P04	S152	EC9		SK122	0.78	0.58	0.13	0.18	0.23	A	A	b	VI	P
SB03-P05	S179	EC10			0.85	0.80	0.17	0.16	0.42	A	A	e	VI	—
SB03-P06	S248	EC10		SD07	0.79	0.90	0.47	0.53	0.26	A	A	b	VII	—
SB03-P07	S306	EC10		SD07	0.80	0.70	0.22	0.19	0.59	A	A	e	VI	—
SB05-P01	S049	S049			0.37	0.29	0.27	0.22	0.29	A	A	b	III	—
SB05-P02	S026	S026			0.32	0.30	0.18	0.16	0.46	A	A	a	III	—
SB05-P03	S027	S027			0.35	0.33	0.25	0.23	0.32	A	A	a	IV	—
SB05-P04	S029	S029			0.40	0.31	0.31	0.25	0.33	A	A	b	I	C



表 25 柵一覽表

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		規模 (m)	長軸方位	挿図番号	図版番号
			新	旧				
SA01	—	DG19~EH1	SK476, SK487	SK475	7.18	N 72° W	244	—
SA02	—	E14~EJ6	SK236		3.16	N 88° W	245	—
SA03	—	EJ5~EJ6	SK689		2.28	N 87° W	246	—
SA04	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SA05	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SA06	—	EN2~EN3, EK6~EM6	SK689	SK703, SK807	3.36	N 88° W	247	—

表 26 柵柱穴一覽表

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	遺構の重複		上端規模 (m)		下端規模 (m)		深さ (m)	遺構属性分類				出土遺物
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		平面形	底面形	断面形	埋土	
SA01-P01	S504	DG19		SK475	0.63	0.43	0.44	0.27	0.29	C	C	a	VI	—
SA01-P02	S524	DG20	SK476		0.30	0.28	0.16	0.11	0.33	C	C	c	VI	C, D, F, H, I, K, L, P, S, T
SA01-P03	S061	DH20			0.37	0.30	0.18	0.09	0.37	A	A	c	IV	Y, H, P, K
SA01-P04	S468	EH1	SK487		0.40	0.29	0.11	0.09	0.41	A	A	D	VI	—
SA02-P01	C344	E15~EJ5			1.08	0.70	0.24	0.21	0.42	B	B	VI	j	—
SA02-P02	C336	EJ5			0.59	0.57	0.17	0.14	0.42	A	A	e	I	—
SA02-P03	C335	EJ5~EJ6			0.58	0.51	0.31	0.26	0.35	A	A	e	I	—
SA02-P04	C345	EJ6	SK236		0.46	0.45	0.14	0.14	0.36	A	A	e	II	K, I
SA03-P01	C343	EJ5			0.88	0.54	0.21	0.17	0.41	A	A	e	I	—
SA03-P02	C361	EJ5			0.37	0.35	0.15	0.15	0.25	B	A	d	I	—
SA03-P03	C326	EJ6			0.37	0.33	0.21	0.20	0.24	A	A	d	I	—
SA06-P01	S235	EN2	SK689		0.75	0.61	0.43	0.32	0.43	A	A	a	I	J
SA06-P02	S245	EN3		SK703	0.70	0.52	0.37	0.29	0.49	A	A	c	E	H, P, R, S
SA06-P03	S248	EN3		SK807	0.46	0.40	0.30	0.21	0.49	A	A	a	E	—

表 27 焼土・炉跡一覽表

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	遺構の重複		上端規模 (m)		下端規模 (m)		深さ (m)	被熱範囲 (m)			出土遺物	挿図番号	図版番号
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		長軸長	短軸長	厚さ			
SL01	S360	EC7~ED7		SI15, SK109	0.96	0.92	0.41	0.62	0.22	1.03	0.93	0.08	H, P	155	—
SL02	S550	EM4			1.73	0.66	1.60	0.51	0.19	0.58	0.24	0.03	J, H, S, C	111	24
SL03	S272	EN5			1.47	0.50	0.93	0.34	0.21	0.68	0.19	0.02	J, R	112	24
SL04	S533	E02~EP3	SK730		0.40	0.32	0.32	0.30	0.10	—	—	—	—	—	—

表 28 遺物集積一覽表

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		遺物散布範囲 (m)		出土遺物	挿図番号	図版番号
			新	旧	長軸長	短軸長			
SU01	S307	ED13~EE13		SZ09, SK143, SK144, SK145	1.30	0.88	H, F, P, K, I	248	—

表 29 集石遺構一覽表

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		遺物散布範囲 (m)		出土遺物	挿図番号	図版番号
			新	旧	長軸長	短軸長			
SS01	S086	EE8~EE9		SI20	1.51	1.09	—	250	—
SS02	S539	EG6	SK184	SK195	0.76	0.55	—	250	—

表 30 単独柱穴一覧表

遺構番号	調査時番号	検出グリッド	重複関係		上端規模(m)		下端規模(m)		深さ(m)	出土 遺物	挿図 番号	図版 番号
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長				
SP01	C087	EB2			0.72	0.71	0.40	0.50	0.41	H		
SP02	S075	EA6	SZ01		0.56	0.50	0.37	0.35	0.40			
SP03	S237	BT12			0.60	0.50	0.32	0.25	0.55			
SP04	S058	BT12			0.64	0.50	0.40	0.32	0.42			
SP05	S476	ED6	SI14		0.40	0.36	0.26	0.30	0.29			
SP06	S429	ED6~ED7			0.40	0.34	0.18	0.17	0.30			
SP07	S408	EE10~EE11			0.42	0.31	0.15	0.13	0.28			
SP08	S229	EE11		SK163	0.70	0.70	0.45	0.45	0.65			
SP09	S346	EE12		SZ09, SK149	0.85	0.60	0.20	0.15	0.40			
SP10	S348	EE12			0.40	0.35	0.20	0.20	0.40			
SP11	S365	EE12		SI24	0.38	0.35	0.22	0.20	0.20			
SP12	S534	EE12		SI24	0.45	0.42	0.15	0.14	0.52			
SP13	S367	EE12		SI23	0.48	0.45	0.38	0.30	0.55			
SP14	S535	EE12		SI23	0.47	0.46	0.27	0.26	0.55			
SP15	S527	EE13	SZ09		0.90	0.73	0.60	0.55	0.38			
SP16	S489	EF11			0.45	0.38	0.22	0.15	0.36			
SP17	A049	BI12			0.45	0.29	0.43	0.16	0.45			
SP18	A037	BK13			0.39	0.13	0.38	0.11	0.29			
SP19	A038	BK13			0.58	0.20	0.57	0.14	0.34			
SP20	A039	BK13			0.28	0.23	0.27	0.22	0.42			
SP21	B054	BR16		SZ49	0.33	0.18	0.29	0.10	0.67			
SP22	C524	BS7			0.75	0.62	0.27	0.28	0.47			
SP23	C531	BM5			0.25	0.20	0.15	0.12	0.36			
SP24	B121	BS11			0.26	0.11	0.26	0.08	0.16			
SP25	S028	DG20			0.25	0.24	0.19	0.17	0.26			
SP26	C338	EI5			0.41	0.35	0.18	0.18	0.39			
SP27	C337	EJ5			0.32	0.30	0.20	0.17	0.28			
SP28	C327	EJ6			0.26	0.19	0.15	0.13	0.14	P, K		
SP29	C334	EJ5~EJ6			0.38	0.38	0.12	0.12	0.21		251	
SP30	S132	EK1			0.36	0.33	0.22	0.21			251	
SP31	S484	EK1~EL1	SK571		0.32	0.32	0.20	0.15	0.26	R		
SP32	S586	EK3~EL3			0.55	0.53	0.24	0.22	0.49			
SP33	S143	EK5~EL5			0.24	0.20	0.15	0.11	0.20			
SP34	C013	EK6	SB09-P03	SI36	0.56	0.30	0.14	0.11	0.23			
SP35	S395	DL20			0.44	0.39	0.19	0.16	0.50			
SP36	S162	EL2			0.75	0.68	0.35	0.33	0.61			
SP37	S516	EL1~EL2	SK589		0.32	0.29	0.14	0.12	0.34			
SP38	S494	EL3			0.34	0.33	0.18	0.16	0.31	K, R		
SP39	S178	EL4		SK599, SK601	0.63	0.62	0.45	0.39	0.66	H, K, S		
SP40	S185	EL5			0.41	0.36	0.25	0.23	0.49	H, P	251	
SP41	C210	EL6	SI34		0.39	0.38	0.21	0.21	0.26			
SP42	C191	EL6			0.70	(0.30)	0.33	(0.24)				
SP43	S204	EM3			0.34	0.33	0.21	0.16	0.37			
SP44	S559	EM3	SK652		0.56	(0.38)	0.38	0.24	0.42			
SP45	S508	DI20	SD32		0.36	0.27	0.16	0.08	0.33			
SP46	S243	EN2			0.32	0.32	0.25	0.22	0.39	K		
SP47	S398	EN2			0.35	0.33	0.20	0.19	0.12			
SP48	S238	EN2		SK688	0.70	0.47	0.23	0.20	0.49			
SP49	S244	EN2			0.30	0.27	0.13	0.13	0.26			
SP50	S253	EN3			0.24	0.24	0.15	0.15	0.24			
SP51	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—			
SP52	S267	EN4			0.34	0.26	0.13	0.13	0.32			
SP53	S287	E02			0.33	0.27	0.20	0.11	0.24			
SP54	S289	E02			0.31	0.31	0.20	0.12	0.32		251	
SP55	S309	E02		SK722	0.37	0.33	0.18	0.12	0.49	J, S	251	
SP56	S428	E02			0.20	0.18	0.15	0.08	0.18			
SP57	S429	E02			0.23	0.17	0.14	0.07	0.31			
SP58	S312	E02~EP2			0.29	0.25	0.18	0.13	0.28			
SP59	S301	E03			0.28	0.22	0.15	0.13	0.22			
SP60	S446	E03	SK745	SK725, SK726	0.55	(0.37)	0.16	0.13	0.37		251	
SP61	S331	E03~EP3		SB08-P07	0.43	0.37	0.20	0.17	0.40	P, T		
SP62	S378	E03~EP3	ST08		0.30	0.23	0.14	0.11	0.22			
SP63	S336	E04		SK751	0.25	0.20	0.15	0.12	0.47			
SP64	S358	EP2			0.21	0.17	0.10	0.09	0.17			
SP65	S356	EP2			0.45	0.39	0.13	0.10	0.29			
SP66	S373	EP2			0.35	0.28	0.20	0.16	0.36		251	
SP67	S432	EP2			0.38	0.22	0.12	0.08	0.21			
SP68	S380	EP3	ST08		0.28	0.23	0.17	0.12	0.27			
SP69	S386	EP3			0.31	0.23	0.15	0.12	0.28			
SP70	S437	EM5		SI37, SK806	0.68	0.61	0.47	0.45	0.43	J, H, S, R		
SP71	S455	DH19~DH20	SK811		0.42	0.33	0.17	0.13	0.44	H, P, K		
SP72	C124	EK6	SB09-P05	SI34, SP73	0.46	0.41	0.24	0.23	0.38	H, P		
SP73	C160	EK6	SI34, SP72	SK814	0.73	0.48	0.43	0.19	0.52			

表 31 溝状遺構一覧表

遺構番号	調査時 番号	検出グリッド	重複関係		上端規模(m)		下端規模(m)		深さ (m)	遺構属性分類		出土 遺物	挿図 番号	図版 番号
			新	旧	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		断面 形	埋土			
SD01	C079	EA2			1.17	0.37	1.03	0.18	0.07	a	I	—	—	—
SD02	C418	EA2	SI03		(1.76)	0.38	(0.63)	0.36	0.04	a	I	—	—	—
SD03	C110	EE4~EF5		SZ02, SK056, SK057	(6.41)	2.48	(5.92)	1.44	1.56	g	VII	P, S	—	—
SD04	C381	EE4~EF5	SK063		(4.43)	2.00	(4.15)	1.51	0.31	e	VII	H, P	252	—
SD05	S238	BT12~BT13			1.60	0.62	1.20	0.40	0.15	b	II	—	—	—
SD06	S487	EC8~BC7		SK114	3.40	0.56	3.25	0.39	0.16	a	III	H, P	—	—
SD07	S147	EC10~ED10	SB03-P06, SB03-P07, SK130		(3.14)	1.29	(3.09)	1.08	0.28	g	III	P	—	—
SD08	S533	EE6	SK183		(3.12)	1.14	(3.00)	0.08	0.34	a	VII	—	—	—
SD09	S507	EE7~EE8	SK180	SD10, SK181	(4.05)	(1.02)	(3.74)	(0.71)	0.24	g	IV	—	—	—
SD10	S092	EE7~EF8	SD09, SK180		(3.35)	(0.94)	(2.98)	(0.69)	0.34	g	I	H, P	253	—
SD11	S445	EF10~EF11	SI22		2.20	0.71	2.00	0.48	0.10	a	I	P	—	—
SD12	C219	EF7~EH8		SI25, SB04-基壇 SD13, SD14, SK209, SK210, SK211, SK212	8.94	3.18	7.74	1.94	0.44	b	III	H, F, P, K	254	—
SD13	C223	EG7~EH7	SD12, SK214, SK278		(1.86)	0.20	(1.70)	0.15	0.09	a	I	F, P	—	—
SD14	C226	EH7	SD12, SK215		3.70	1.12	3.05	0.92	0.28	a	III	P, S	—	—
SD15	C150	EI7			1.87	0.20	1.67	0.14	0.01	a	I	—	—	—
SD16	C132	EI7~EI8			4.35	0.24	4.05	0.14	0.06	b	I	—	—	—
SD17	C145	EJ7			0.94	0.18	0.80	0.14	0.02	a	I	—	—	—
SD18	A046	BJ10		SZ44 - 主体部, SK305, SK306	2.52	0.33	2.38	0.20	0.17	b	I	—	—	—
SD19	B039	BM19~BN19	SZ21 - 周溝	SZ20 - 周溝	(5.27)	1.54	(4.92)	1.21	0.28	c	VII	—	—	—
SD20	A098	B011	SZ29 - 周溝	SZ32 - 周溝内土坑, SZ41 - 周溝, SK330, SK346	16.90	1.90	17.50	0.90	0.60	f	VII	—	—	—
SD21	A121	BS12	SZ48 - 周溝, SK356	SK351	(4.00)	(2.30)	(2.80)	(0.60)	0.40	f	VII	—	—	—
SD22	C527	BMS~BN8	SZ23 - 周溝		(3.54)	0.68	(3.30)	0.54	0.26	c	I	—	—	—
SD23	C554	BN11			—	0.47	(1.15)	0.28	0.11	a	I	—	—	—
SD24	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SD25	S036	DB17~DB18 DC17			(3.15)	(1.65)	(2.93)	0.51	0.12	e	I	J, H, P	—	—
SD26	S001	DB18~DC18			2.60	1.13	2.34	0.97	0.09	a	I	—	—	—
SD27	S002	DC18			(4.40)	0.96	(4.32)	0.84	0.04	b	VII	—	—	—
SD28	S003	DC18~DC19 DD18			4.52	1.08	4.36	0.96	0.12	b	VII	—	—	—
SD29	S019	DE19~DE20	SK455, SK456		2.92	0.60	2.72	0.49	0.06	a	I	—	—	—
SD30	S008	DE19			2.86	0.86	2.72	0.73	0.07	a	I	—	—	—
SD31	S057	DH19~DH20	SK484	SK486	0.30	—	0.18	—	0.16	e	I	H, P	—	—
SD32	S080	DI19~DI20 E11 EJ1~EJ2	SK506	SK503, SK513, SK512, SK508, SP45, S B06-P03, SK535, SK509	(13.48)	2.30	(13.06)	0.58	0.24	c・e	III	H, P, K, T , S, R	255	—
SD33	S071	DH20	SK506		0.48	0.22	—	—	0.11	a	I	H, P, K	—	—
SD34	S546	E11	SK509		(1.17)	0.47	(1.00)	0.32	0.05	e	VII	H, P, K, S	—	—
SD35	C330	EJ5~EJ6		SK548	(6.16)	0.40	(6.10)	0.28	0.04	e	I	—	—	—
SD36	S173	EL4~EL5	SD37	SK604	2.42	0.30	2.09	0.16	0.15	c	I	H	—	—
SD37	S174	EL4		SD36	(2.09)	0.23	(2.04)	0.10	0.05	a	I	—	—	—
SD38	C028	EL6		SK805	(0.98)	0.19	(0.89)	0.09	0.04	a	I	—	—	—
SD39	C032	EL6~EM6	SK816	SD40, SD40, SK675	—	0.59	(3.06)	0.32	0.08	—	—	—	—	—
SD40	S199	EM5~EM6	SI37, SD39	SB09-P12, SK674	(0.79)	0.64	(0.78)	0.39	0.10	a	I	J	—	—
SD41	S570	EN5~EN6	SK707		(1.24)	0.12	(1.20)	0.06	(0.07)	a	VII	—	—	—























表 43 土器観察表(1)

掲載 番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図 番号	図版 番号
1	SZ01-周溝1	c	須恵器蓋	口径(11.6)	やや粗	良好	にぶい橙色(5YR7/4)	内外面回転テ、天井部外面回転テラスリ	在地		12	—
2	SZ01-墳丘EB6, EC6	1・2 II	須恵器長頸壺	口径10.1	やや粗	良好	淡黄色(2.5Y8/4)	内外面回転テ	在地	体部外面櫛波状文、外面煤付着	12	66
3	SZ01-周溝1 EB7	d II	須恵器壺	底径(10.1)	密	良好	にぶい黄褐色(10YR7/2)	内外面回転テ、底部外面下部静止テラスリ		底部内面自然釉付着	12	—
4	SZ01-周溝1	2	須恵器甕	—	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	外面格子状テラス目、内面当て具痕			13	—
5	SZ01-墳丘	1	土師器長胴甕	口径(15.0)	粗	良好	灰黄褐色(10YR6/2)	外面ツ目(7本/8mm)、口縁部内面テ、頸部内面：指テ、体部内面板テ			13	60
8	SZ02-周溝ED4	a IIIa	須恵器甕	—	密	良好	灰オリーブ色(5Y6/2)	内外面回転テ		頸部外面櫛状工具による連続刺突及び2条沈線	14	—
9	SZ03-墳丘	e	弥生土器鉢	口径(9.1)	密	良好	灰黄褐色～明黄褐色(10YR6/2～5YR7/6)	内外面テ、体部内面上部指テ		口縁部外面沈線	15	59
10	SZ03-周溝2	4	須恵器甕	—	やや粗	不良	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面平行テラス目、内面テ及びアテ具痕		外面横位2条沈線	15	—
11	SZ05-周溝	b	弥生土器高坏	—	密	良好	褐灰色～橙色(10YR6/1～7.5YR6/6)	外面テ、内面不明		外面に赤彩	19	59
12	SZ05-周溝	c	弥生土器高坏	—	密	良好	にぶい橙色(7.5YR7/4)	内外面テ		外面朱彩	19	59
13	SZ05-周溝	b	弥生土器高坏	—	密	良好	橙色～にぶい黄褐色(5YR7/8～10YR7/2)	内外面テ		内外面朱彩	19	59
14	SZ05-周溝	a	弥生土器壺	口径(10.0) 器高13.8	密	良好	浅黄褐色～赤黒色(7.5YR8/3～2.5YR2/1)	外面ツ目、口縁部～頸部内面ツ目、体部内面テ		丸底	19	59
15	SZ06-墳丘EB8	1 II	須恵器坏蓋	口径(11.2) 器高(3.7)	やや粗	良好	にぶい橙色(5YR6/4)	内外面回転テ、頂部外面回転テラスリ			21	—
16	SZ06-墳丘	1	須恵器広口壺	口径7.8 底径5.8 器高5.0	密	良好	灰白色(5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転テラスリ後板で調整、体部外面下部回転テラスリ	美濃須衛	ミニチュア	21	10
17	SZ06-周溝	a・b・1	須恵器壺	—	密	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3)	内外面回転テ、体部外面下部回転テラスリ		体部外面上部自然釉付着	21	—
18	SZ07-主体部	b	縄文土器深鉢	—	密	良好	褐灰色(7.5YR4/1)	外面テ、内面貝殻条痕		口縁部内外線具割刺突、外面沈線文	23	59
19	SZ07-墳丘	c	須恵器坏蓋	口径(10.4) 器高(3.4)	密	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転テ			23	—
20	SZ07-墳丘EC13	a II	須恵器蓋	口径(12.2)	密	不良	灰白色(10YR8/1)	内外面回転テ、頂部外面回転テラスリ			23	—
21	SZ08-主体部	1・c	弥生土器壺	—	密	良好	橙色(2.5YR6/8)	外面ツ目及びツキ、内面ツ目			25	—
22	SZ08-周溝1	2	須恵器短頸壺	口径7.0 底径4.2 器高5.2	密	良好	灰白色(2.5Y8/1)	内外面回転テ、底部外面回転テラスリ			25	—
23	SZ08-主体部EC7, EC9	3 II	須恵器甕	—	密	良好	灰白色(10Y8/2)	外面平行テラス目、内面板状工具による当て具テ消し		外面自然釉付着	25	—
25	SZ09-周溝	c	須恵器蓋	口径(14.6)	やや粗	良好	灰黄色(2.5Y6/2)	内外面回転テ			26	—
26	SZ09-周溝	d	須恵器坏身	口径(9.7) 器高3.6	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面回転テラスリ	美濃須衛		26	—
27	SZ09-周溝	e	須恵器高坏	脚径(11.5)	やや粗	良好	黄灰色(2.5Y6/1)	内外面回転テ			26	—
28	SZ09-周溝	c	須恵器広口壺	口径(11.4)	密	不良	灰白色(5Y8/1)	内外面回転テ			26	—
29	SZ09-周溝	g	土師器甕	—	粗	良好	にぶい黄褐色～明黄褐色(10YR7/2～10YR7/6)	外面ツ目、内面板テ		内面に縦位の沈線	26	—
31	SZ11-周溝2	d	縄文土器深鉢	—	密	良好	橙色(5YR7/6)	内外面テ	船元1式	波状口縁	29	59
32	SZ11-周溝2	d	縄文土器深鉢	—	密	良好	灰黄褐色(10YR4/2)	内外面テ	中期後半	外面列点文・沈線文	29	59
33	SZ11-周溝2	c	須恵器坏蓋	脚径(15.0)	やや粗	良好	灰白色(5Y8/2)	内外面回転テ			29	—
34	SZ11-周溝2	底面直上	須恵器無蓋高坏	口径(17.0)	密	良好	灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転テ			29	—
35	SZ11-周溝2 SB04-基壇	c 1	須恵器横瓶	—	密	良好	にぶい黄褐色～褐灰色(10YR7/2～10YR5/1)	内外面回転テ、外面ツ目		外面自然釉付着	29	—
37	SZ12 SZ12-主体部	1 1	縄文土器深鉢	口径(12.6)	粗	良好	明褐色(7.5YR5/6)	口縁部～体部外面単節縄文、口縁部～体部内面テ		半隆起線による区画文、垂下文	31	55
38	SZ12	e	縄文土器浅鉢	口径7.0 底径6.6 器高4.2	やや粗	良好	黒色(10YR2/1)	内外面テ		沈線やヘラ状工具による連続刻み、半截竹管状工具による押し沈線	31	51
40	SZ13-周溝	底・c・1	弥生土器有段口縁壺	口径(9.0)	密	良好	橙色(7.5YR7/6)	不明	弥生末～古墳初頭	口縁部内外面及び体部外面朱彩、口縁部外面擬凹線文	33	11・51
41	SZ13-周溝	底	弥生土器高坏	口径(20.5) 脚径(10.2) 器高(15.9)	やや粗	良好	黄褐色(10YR7/6)	口縁部～頸部内外面及び脚部内面ツキ、体部内外面ツキ	弥生末～古墳初頭	杯部の内外面及び脚部外面に赤彩	33	11・51
42	SZ15-周溝	1・m・j	弥生土器鉢	口径(14.3)	密	良好	にぶい黄褐色(10YR7/2)	内外面テ			36	57

表 44 土器観察表 (2)

掲載 番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図 番号	図版 番号
43	SZ15-周溝	—	須恵器 甕	—	蜜	不良	浅黄橙色 (10YR8/3)	体部外面平行ナリ、体部内面 同心円当て具痕後ナリ			36	—
44	SZ15-周溝 BM7 BM8	I I・II II	須恵器 甕	口径(15.0)	蜜	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	体部外面平行ナリ、口縁部 ～頸部内外面回転ナリ、体部 内面同心円当て具痕	美濃須 衛		36	58
46	SZ16-周溝	5	須恵器 蓋	—	蜜	不良	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内外面回転ナリ			39	—
47	SZ16-周溝	底面直上	弥生土器 不明	口径(8.0)	やや粗	良好	橙色 (5YR6/6)	不明			39	—
48	SZ16-周溝	底面直上	弥生土器 鉢	—	蜜	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	不明		横位榭描文、ヘラ状工具 による連続刻み	39	57
49	SZ16-周溝 BL9	1・c I	弥生土器 鉢	口径(12.0)	蜜	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内外面ナリ		体部外面黒斑	39	52
50	SZ16-周溝	g	弥生土器 壺	底径2.4	蜜	良好	灰白色 (10YR8/2)	不明			39	57
51	SZ16 BM9	I II	弥生土器 有段口縁鉢	口径(23.9)	やや粗	良好	灰黄褐色 (10YR6/2)	坏部外面ナリ、脚部外面不 明、坏部内面不明、脚部内面ナリ		脚部三方透かし	39	52・ 57
52	SZ16 SZ16-周溝	1 e	弥生土器 高環	口径(25.0) 脚径(13.0) 器高(19.6)	やや粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	脚部外面不明、坏部内外面ミ カキ、脚部内面ナリ		脚部三方透かし	39	52
54	SZ17-周溝	a	灰釉陶器 碗	底径(5.7)	蜜	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	底部外面回転糸切後一部ナ リ、内外面回転ナリ		底部内面及び高台摩耗	41	58
55	SZ19-周溝	1	弥生土器 高環カ	—	やや粗	良好	灰白色 (10YR8/2)	不明			45	—
56	SZ19-周溝	b	弥生土器 高環カ	—	やや粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	不明			45	—
57	SZ19-周溝	b	弥生土器 裝飾器台	—	蜜	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面不明、内面ナリ			45	57
58	SZ20	a	弥生土器 壺カ鉢	脚径(6.3)	蜜	良好	灰白色 (10YR8/2)	外面不明、内面ナリ		脚台部	47	—
59	SZ23-周溝	g	弥生土器 不明	—	やや粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	不明			53	—
60	SZ23-周溝	f	弥生土器 不明	—	やや粗	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	不明			53	—
61	SZ23-周溝 BM8	1 II	須恵器 甕	口径(18.4)	蜜	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	口縁部内外面回転ナリ、体部 外面の叩き目不明瞭、体部 内面当て具痕		口縁部～頸部内面及び 体部外面自然袖付着	53	58
62	SZ23 SZ23-周溝 SZ15 BN7, BM8 BN10	1・a・d 1・2 1 I・II II	須恵器 短頸壺	口径(8.8) 底径11.2 器高18.5	蜜	良好	灰黄色 (2.5Y6/2)	体部外面下半及び底部外面 回転ハカズリ、内外面回転ナリ	在地	体部上半外面及び体部 下半一部に自然袖付着	53	51
64	SZ24-周溝	i・底	弥生土器 甕	口径(13.0)	やや粗	良好	橙色 (7.5YR7/6)	体部外面不明、口縁部内外 面ナリ、体部内面指ナリ		外面煤付着	56	14・ 57
65	SZ24-周溝	i	弥生土器 甕	底径4.0	やや粗	良好	褐灰色 (7.5YR6/1)	底部外面及び体部内外面ナ リ、底部内面ナリ指ナリ		体部外面煤付着	56	14・ 57
66	SZ24-主体部	底	弥生土器 甕	—	やや粗	良好	黄褐色 (10YR8/6)	不明			56	—
67	SZ24-主体部	2	弥生土器 甕	—	蜜	良好	橙色 (7.5YR7/6)	不明		横位榭描文、同様の工具 による連続刻み	56	57
68	SZ24-周溝	j・底	弥生土器 甕	口径20.0 底径5.0 器高28.0	やや粗	良好	橙色 (7.5YR6/6)	口縁部～体部上半外面ハ 目、底部外面布目状圧痕、内 面不明	在地	内面コゲ付着、体部と頸 部外面の境に横位の榭 描文、連続刺突	56	14・ 51
69	SZ24-周溝	底	弥生土器 鉢	口径(15.6)	蜜	良好	褐灰色 (10YR5/1)	口縁部内外面ナリ、体部外面 ハ目、内面指ナリ後ナリ		口縁部外面煤付着	56	14・ 52
70	SZ24-周溝	底	弥生土器 鉢	口径(17.2)	蜜	良好	橙色 (7.5YR7/6)	口縁部内外面ナリ、体部外面 不明、体部内面指ナリ		体部外面煤付着、横位榭 描文、連続刺突	56	14・ 57
71	SZ24-周溝	e・i・k・ 底	弥生土器 鉢	底径3.0	蜜	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面不明、体部内面ナリ、底 部内面ナリ指ナリ		外面煤付着、底部外面摩 耗	56	14・ 52
72	SZ24-主体部	6	弥生土器 壺	—	蜜	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	不明		体部外面黒斑、体部外面 上半に赤彩	56	—
73	SZ24-周溝	g	弥生土器 壺	底径(5.4)	蜜	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	底部外面ナリカ、体部外面ミ カキ、底部内面指ナリ			56	—
74	SZ24-周溝	底	弥生土器 器台	口径16.4 脚径(12.6) 器高13.5	蜜	不良	浅黄褐色 (10YR8/4)	脚部外面ミカキ、坏部内外 面不明、脚部内面ナリ		脚部三方透かし	56	53
75	SZ24	I	須恵器 坏	底径(7.0)	蜜	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	底部外面ハ切り未調整、内 外面回転ナリ		底部外面摩耗	56	—
76	SZ24-周溝 BM7	I II	須恵器 甕	口径(25.2)	蜜	不良	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内外面回転ナリ			56	58
78	SZ26-周溝	j	縄文土器 深鉢	底径(6.2)	やや粗	良好	橙色(7.5YR6/6) 黒褐色(7.5YR3/1)	体部外面縄文カ、底部内外 面及び体部内面ナリ			59	55
79	SZ28-周溝	8	弥生土器 壺	口径(12.2)	蜜	良好	黄褐色 (10YR8/6)	体部外面ミカキ、口縁部内外 面ミカキ、体部内面指ナリ後ナリ			62	15・ 57
80	SZ28	1	土師器 甕	—	やや粗	良好	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	体部外面ハ目、体部内面不 明			62	—

表45 土器観察表(3)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ(cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
81	SZ28-周溝	1	土師器甕	底径(8.0)	やや粗	良好	灰黄色(2.5Y6/2)	外面7条目(7条/1cm)、内面ナ			62	—
82	SZ28	b・e	須惠器蓋	口径(18.8)	蜜	不良	浅黄褐色(7.5YR8/3)	天井部外面回転ヘラスリ、内外面回転ナ			62	—
83	SZ29-周溝	p	弥生土器鉢	—	蜜	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3)	体部外面上半ナ、体部外面下半7条目、内面不明		体部外面煤付着、横位揃描文、連続刻み	65	57
84	SZ29-周溝	19・i・j・k	弥生土器高坏	口径(22.0) 脚径(12.4) 器高(15.4)	蜜	良好	にぶい黄褐色(10YR7/4)	脚部外面ナ、坏部内外面不明、脚部内面不明	法仏式～月影式	坏部外面に黒斑、脚部三方透かし	65	53・57
85	SZ29-周溝	c	弥生土器器台	口径(17.0) 脚径(12.0) 器高10.4	蜜	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3)	脚部外面ナ、坏部内外面不明、脚部内面不明		脚部四方透かし	65	53
86	SZ32-周溝	e	弥生土器蓋	口径(9.3) 底径2.0 器高14.1	蜜	良好	浅黄褐色(10YR8/4)	口縁部内外面及び体部外面ナ、体部内面上半指ナ、体部内面下半及び底部内面ナ			72	52
87	SZ32	d	弥生土器蓋	底径(2.0)	蜜	良好	浅黄褐色(10YR8/4)	外面ナ、内面不明		外面黒斑	72	57
88	SZ32-主体部	2・3・4	弥生土器高坏	口径(21.8)	蜜	良好	褐灰色(10YR6/1)	杯部内外面及び脚部外面不明、脚部内面ナ			72	57
89	SZ32-主体部	1・5・4	弥生土器高坏器台	脚径(8.6)	やや粗	良好	灰白色(2.5Y8/2)	不明			72	—
90	SZ32-主体部	3・4	弥生土器高坏器台	脚径(10.0)	蜜	良好	にぶい黄褐色(10YR7/2)	外面不明、内面ナ			72	—
91	SZ33-周溝	j	土師器甕	口径(11.0)	蜜	良好	黄褐色(10YR8/6)	口縁部～体部外面ナ、口縁部～体部内面ナ			74	57
92	SZ37-周溝	底面直上	弥生土器蓋	—	蜜	良好	橙色(7.5YR7/6)	外面ナ、内面ナ		外面の剥離面にハケ状の痕跡が残る	81	—
93	SZ38-周溝	12	弥生土器台付装飾壺	口径7.6 脚径8.7 器高24.0	蜜	良好	浅黄褐色(10YR8/4)	口縁部から脚部外面不明、体部及び脚部内面ナ		外面全体に赤彩、脚部接地部外周に凹線	83	18・54
94	SZ38-主体部	1	弥生土器蓋	口径6.2 器高4.6	蜜	良好	浅黄褐色(10YR8/4)	天井部外面ナ、受部内外面及び天井内面ナ		93の蓋と考えられる	83	18・54
96	SZ41-周溝BQ10	36 I・II	須惠器鉢	口径(13.0) 底径7.2 器高9.5	蜜	良好	黄灰色(2.5Y6/1)	底部外面静止ヘラスリ、内外面回転ナ	美濃須衛カ	底部外面ヘラ記号	89	54
97	SZ42 BR10	1 II	須惠器広口壺	口径(14.8)	蜜	不良	灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナ			91	—
98	SZ42 BR10	1 II	灰軸陶器皿	口径(12.6) 底径6.4 器高2.5	蜜	良好	灰黄色(2.5Y6/2)	底部外面回転系切り後ナ、内外面回転ナ		内面自然釉付着	91	58
99	SZ44-周溝	g	弥生土器器台	口径(17.6) 脚径8.7 器高10.7	蜜	良好	橙色(5YR6/6)	脚部外面及び坏部内外面ナ、脚部内面ナ	弥生末～古墳初頭	坏部外面黒斑、内外面とも赤彩の可能性あり	95	53
101	SZ46-周溝	a	須惠器坏	口径10.8 底径4.2 器高2.9	蜜	良好	褐灰色(10YR5/1)	底部外面ヘラ切り後ナ、内外面回転ナ		内外面にタール状の付着物	97	54
102	SZ48-周溝	1・5	弥生土器蓋	口径6.4	蜜	良好	橙色(7.5YR7/6)	口縁部～体部外面ナ、口縁部及び体部内面下半ナ、体部内面上半指ナ			100	—
103	SZ48-周溝	1	灰軸陶器碗	底径(9.8)	蜜	良好	にぶい黄褐色(10YR7/2)	底部外面回転系切り、内面回転ナ			100	—
104	SZ49-周溝 SZ51-周溝	c d	弥生土器台付装飾壺	口径6.2	蜜	良好	にぶい黄褐色(10YR7/4)	外面ナ、内面ナ、内面に成形時のしぼり痕	弥生末～古墳初頭	口縁部外面上半に斜位の線状痕(工具不明)	101	57
105	SZ51	c	弥生土器蓋	口径7.4 器高3.4	密	良好	浅黄色(7.5YR8/6)	外面及び内面の一部ナ、天井部内面未調整		口縁部外面に斜位の連続沈線、赤彩	105	53
106	SZ51-周溝BS16	不明 IIIb	弥生土器鉢	—	蜜	良好	橙色(7.5YR7/6)	不明		外部の一部黒斑	105	57
107	SZ51-周溝	1	弥生土器鉢	—	蜜	良好	橙色(7.5YR6/6)	外面ナ、内面ナ			105	57
108	SZ51-周溝	1	弥生土器高坏	—	蜜	良好	にぶい黄褐色(10YR7/4)	外面ナ、内面ナ			105	57
109	SZ51-周溝	底	弥生土器高坏器台	脚径(11.2)	蜜	良好	黄褐色(10YR8/6)	不明		三方透かし	105	57
110	SI31-P2	a	縄文土器深鉢	—	やや粗	良好	橙色(7.5YR6/6)	外面縄文ナ、内面ナ		半隆起線文、竹管状工具による連続刺突	107	55
111	SI31	d	縄文土器深鉢	—	やや粗	良好	橙色(7.5YR6/6)	外面縄文ナ、内面ナ		半隆起線間による区画文、連続刻み	107	55
112	SI31 SZ12-SZ14tr	4 n	縄文土器深鉢	—	蜜	良好	灰褐色(7.5YR6/2)	内外面ナ		半載竹管状工具による平行沈線文	107	55
113	SI31 SI31-P4	4 f	縄文土器深鉢	底径(10.5)	蜜	良好	にぶい黄褐色(10YR7/4)	体部外面縄文(単節カ)、底部外面網代状圧痕、体部内面ナ			107	55
116	SI38	a	縄文土器深鉢	—	やや粗	不良	にぶい黄褐色(10YR5/3)	口縁部外面縄文(RLR)、口縁部内面ナ	中期後葉		110	74
117	SI38	a	縄文土器深鉢	—	やや粗	不良	にぶい黄褐色(10YR4/3)	口縁部外面縄文(RL)、口縁部内面ナ			110	74
119	SI38-P08	a	縄文土器深鉢	—	やや粗	良好	にぶい黄褐色(10YR5/3)	口縁部内外面ナ、体部内面ナ	北陸系、中期前葉	三角印刻・沈線文	110	74

表 46 土器観察表 (4)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
120	SI38-P08	1	縄文土器 深鉢	-	粗	不良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	体部外面縄文(LR)後 <sup>ナ</sup> 、 体部内面 <sup>ナ</sup>	中期	外面に煤付着	110	74
121	SL02	1	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	橙色 (7.5YR6/6)	体部外面縹系文、体部内面 <sup>ナ</sup>	早期前葉		111	74
122	SL02	1	縄文土器 深鉢	-	粗	不良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	体部外面縹系文、体部内面 <sup>ナ</sup>	早期前葉	外面に煤付着	111	74
123	SL02	3	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	灰褐色 (7.5YR4/2)	体部外面縄文か、体部内面 <sup>ナ</sup>			111	74
125	SL03	c	縄文土器 深鉢	-	やや粗	良好	灰黄褐色 (10YR4/2)	体部外面押型文、体部内面 <sup>ナ</sup>		外面に煤付着、ネガティブ押型文	112	74
126	SL03	d	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口縁部～体部外面LR縄文、 口縁部～体部内面 <sup>ナ</sup>	早期		112	74
127	SK111	3	縄文土器 深鉢	-	やや粗	良好	灰黄褐色～浅黄褐色 (10YR6/2～10YR8/3)	内外面 <sup>ナ</sup>	中期中葉 古府式	外面円形隆帯文	113	59
128	SK111	2	縄文土器 深鉢	-	粗	良好	橙色 (5YR6/6)	外面縄文、内面 <sup>ナ</sup>	中期後半	外面横位隆帯に沿って 押引文	113	59
129	SK110 SK111	- 4	縄文土器 深鉢	口径(32.0)	粗	良好	橙色 (5YR6/6)	外面縄文、内面 <sup>ナ</sup>	中期岩田 式		113	59
130	SK133	2	縄文土器 深鉢	口径12.8 底径4.0 器高15.1	粗	良好	明黄褐色 (10YR7/6)	外面縹系文、内面 <sup>ナ</sup>	中期	煤付着	114	59
131	SK376	a	縄文土器 深鉢	口径(28.0)	やや粗	良好	橙色 (7.5Y7/6)	口縁端部内外面指 <sup>ナ</sup> 、内 外面 <sup>ナ</sup>		外面煤付着	115	55
132	SK376	3	縄文土器 深鉢	-	やや粗	良好	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	内外面 <sup>ナ</sup> (突帯の上下に 明瞭な <sup>ナ</sup> )		突帯上に棒状工具による 連続押圧	115	55
135	SK445	1	弥生土器 有段口縁甕	-	密	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	外面 <sup>ナ</sup> 、内面 <sup>ナ</sup> 目(7mm/6 条)・ <sup>ナ</sup>		口縁部外面に横位擬凹 線文	117	57
136	SK598	b	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	灰黄褐色(10YR4/2)	口縁部外面縹系文(LR)、 口縁部内面 <sup>ナ</sup>	中期後葉		117	74
138	SK658	a	縄文土器 深鉢	-	やや粗	良好	浅黄褐色(10YR8/4)	内外面 <sup>ナ</sup> 、体部外面沈線	中期後葉	タテ区画、斜沈線	117	-
139	EM6	III	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	黒褐色(10YR3/1)	体部外面楕円文、体部内面 <sup>ナ</sup>	早期前葉	ネガティブ楕円文	118	79
140	BK6	II	縄文土器 深鉢	-	密	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	内外面 <sup>ナ</sup>	早期後葉	波状口縁、口唇部連続刻 み、外面に波状文	118	55
141	攪乱	-	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	明黄褐色(10YR6/6)	体部外面縄文(LR)、体部内 面 <sup>ナ</sup>	前期か	外面に煤付着	118	79
142	攪乱(EL3)	-	縄文土器 深鉢	-	やや粗	良好	にぶい赤褐色(5YR4/4)	口縁部外面縄文(RL)、口縁 部内面 <sup>ナ</sup>	中期		118	79
143	EL6	IIIb	縄文土器 深鉢	-	密	良好	黒褐色(2.5YR3/2)	内外面 <sup>ナ</sup> 、体部外面蓮華 文	中期		118	79
144	EL6	IIIb	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	にぶい黄褐色(10YR6/4)	内外面 <sup>ナ</sup> ・口縁部外面縄 文(LR)	中期後葉	単節LR縄文	118	79
145	東壁(EN6)	攪乱	縄文土器 深鉢	-	やや粗	良好	黒褐色(10YR3/1)	体部外面沈線、体部内面 <sup>ナ</sup> <sup>ナ</sup>	中期後葉	隆帯区画内縦位沈線	118	79
146	BK9	IIIb	縄文土器 深鉢か	-	やや粗	良好	橙色 (7.5YR6/6)	内外面 <sup>ナ</sup>	中期後葉	外面部分的に煤付着	118	55
147	攪乱(EN6)	a	縄文土器 深鉢	-	粗	不良	橙色(7.5YR7/6)	内外面 <sup>ナ</sup> 、体部外面竹管 刺突	中期後葉		118	79
148	EK6	IIIb	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	橙色(7.5YR6/6)	体部外面縄文(LR)、体部内 面 <sup>ナ</sup>	中期		118	79
149	東壁(EN6)	9	縄文土器 深鉢	-	やや粗	不良	橙色(5YR6/6)	内外面 <sup>ナ</sup> ・体部外面縄文 (LR)	中期	内面に煤付着、底部近く	118	79
150	EK1	IIIb	縄文土器 深鉢	-	粗	不良	灰黄色(2.5Y6/2)	体部内外面 <sup>ナ</sup>		無文	118	79
151	東壁(EN6)	9	縄文土器 深鉢	底径(7.8)	粗	不良	にぶい橙色(7.5YR7/4)	底部外面網代痕 <sup>ナ</sup> 消し、 底部内面 <sup>ナ</sup>	中期		118	79
152	EL6	I	縄文土器 深鉢	-	密	良好	にぶい黄褐色(10YR7/4)	体部外面縄文(RL)、体部内 面 <sup>ナ</sup>	中期		118	79
153	攪乱(EL3)	-	縄文土器 浅鉢	-	やや粗	良好	にぶい赤褐色(5YR4/4)	口縁部外面縄文(RL)、口縁 部内面 <sup>ナ</sup> ・工具痕	早期		118	79
154	BI8	IIIa	縄文土器 深鉢	-	密	良好	橙色 (7.5Y7/6)	内外面 <sup>ナ</sup>	後期	斜位の連続短沈線文	118	55
171	BN19	II	弥生土器 台付裝飾壺	-	密	良好	灰白色 (10YR8/2)	外面不明、内面指 <sup>ナ</sup> ・その 他不明		突帯上に横位の凹線文	121	57
172	ED7	II	弥生土器 裝飾壺脚部	脚径(9.8)	密	良好	灰白色～褐灰色 (10YR8/2～10YR6/1)	外面 <sup>ナ</sup> か、内面 <sup>ナ</sup>		内外面朱彩、内面煤付着	121	-
173	BS15, BT15	II	弥生土器 高杯	口径13.6 脚径9.2 器高10.2	密	良好	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	内外面横位 <sup>ナ</sup> ・脚部内面 <sup>ナ</sup>		脚部にゆがみ	121	54
174	EA19	III	弥生土器 高杯	-	密	良好	浅黄褐色 (10YR8/4)	外面不明、内面 <sup>ナ</sup>		脚部三方透し	121	57
175	ST02	a・1	須恵器 横瓶	口径10.4	密	良好	灰褐色 (7.5YR6/2)	口頸部内外面回転 <sup>ナ</sup> 、体 部外面格子状 <sup>ナ</sup> ・目及び <sup>ナ</sup> 目、内面当て具痕			122	-
176	ST03	a	土師器 甕	底径(8.0)	粗	良好	灰黄褐色～浅黄褐色 (10YR5/2～10YR8/3)	外面 <sup>ナ</sup> 、内面 <sup>ナ</sup> 目			123	-

表 47 土器観察表 (5)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
178	ST04	e	土師器鉢	口径(18.6) 底径15.2 器高7.5	やや粗	良好	橙色 (7.5YR7/6)	内外面ナテ後々目(6本/7mm)、底部外面木葉痕ナテ消し、底部内面板ナテ		底部外面煤付着、金属器写しか	124	59
179	ST09	1	弥生土器甕	底径3.6	やや粗	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	底部外面及び体部内外面ナテ、底部内面指ナテ		体部外面煤付着	127	57
180	SI01-カマド	c	土師器甕	口径(14.6)	粗	良好	灰白色～橙色 (10YR7/1～2.5YR6/8)	口頸部外面ナテ、体部外面々目(8～10本/20mm)、口頸部内面々目及び指ナテ、体部内面指ナテ及びナテ			130	61
181	SI01-カマド	a	土師器甕	口径(15.0)	粗	良好	橙色 (7.5YR7/6～5YR6/8)	外面々目(8本/10mm)、体部内面々目及び指ナテ			130	61
182	SI01	a	土師器甕か瓶	—	粗	良好	橙色 (5YR6/8)	把手外面指ナテ、体部内面ナテ及び指ナテ		把手	130	61
183	SI01 SI01-P04	a 1	土師器甕	底径(6.1)	粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	体部外面々目及びナテ、指ナテ、内面ナテ		底部外面に木葉痕	130	—
184	SI01	e	須恵器坏蓋	口径(16.0)	やや粗	良好	灰色 (5Y5/1)	内外面回転ナテ	美濃須衛		130	—
185	SI01	c	須恵器坏蓋	口径(12.0)	密	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内外面回転ナテ	美濃須衛		130	—
186	SI01	b	須恵器甕	—	密	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	頸部内外面ナテ、体部外面々々目、頸部内面接合部指ナテ、体部内面当具痕	美濃須衛		130	—
187	SI02-カマド	1	土師器長胴甕	口径(13.2) 底径(7.8) 器高(16.8)	粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	外面々目(8本/12mm)、体部内面コホ目後ナテ及び指ナテ、底面内面々目		内面及び外面の一部に炭素吸着	132	26・60
188	SI02-カマド	1	須恵器坏蓋	口径(11.4)	密	良好	灰白色 (5Y7/1)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ヘラナテ	美濃須衛		132	26
189	SI03	i	土師器甕	口径(18.0)	粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	不明			134	61
190	SI03-P08	d	土師器甕	—	粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	体部外面摩擦減により調整不明、体部内面コホ目後ナテ及び指ナテ			134	—
191	SI03	n	須恵器坏	口径12.2 底径7.8 器高3.9	密	良好	灰色 (5Y6/1)	内外面回転ナテ、底部外面回転ヘラ切り	美濃須衛		134	65
192	SI03	f	須恵器蓋	口径(16.0)	やや粗	良好	灰オリーブ色 (5Y6/2)	内外面回転ナテ	美濃須衛		135	—
193	SI03	a・n	須恵器蓋	口径(15.6) 器高(3.9)	やや粗	良好	灰黄色 (2.5Y6/2)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ヘラナテ	在地		135	—
194	SI03	g	須恵器横瓶	—	密	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	外面平行タタ目、内面当て具痕ナテ消し	美濃須衛		135	—
197	SI04	g	土師器甕	口径13.0 器高(19.4)	粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	外面々目(8本/13mm)、口縁部内外面々目、体部内面指ナテ及びナテ		丸底、底部外面摩擦	137	60
198	SI04	e	土師器甕	口径(20.0)	やや粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	頸部外面摩擦減不明、体部内面コホ目(5本)		内面煤付着、底部外面摩擦	137	—
199	SI04	a	須恵器蓋	—	やや粗	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転ナテ、頂部回転ヘラナテ	美濃須衛	内面線刻	137	—
200	SI04	e・f	須恵器甕	—	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/4)	外面格子状タタ目内面当て具痕	美濃須衛	外面自然釉付着	137	—
202	SI05	1	土師器甕	口径(15.8)	粗	良好	黄灰色～橙色 (2.5Y5/1～5YR6/6)	外面ナテ、内面々目ナテ消し			139	61
203	SI05	1	土師器甕	口径(17.0)	粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	体部外面々目、口縁部～頸部内面々目			139	61
204	SI05	1	土師器長胴甕	—	粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	体部外面々目(10本/9mm)、体部内面ナテ		頸部と体部外面の境に沈線状の段	139	—
205	SI05	d・e	須恵器坏	口径(20.0) 底径(15.8) 器高6.0	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転ナテ	美濃須衛	内面煤付着	139	—
206	SI05	c	須恵器坏	口径(17.2)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ナテ	美濃須衛		139	—
207	SI05	1	須恵器甕	—	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	外面平行タタ目、及びタタ目、内面当て具痕	美濃須衛		139	—
208	SI06	d・e	土師器長胴甕	口径(16.6)	やや粗	良好	明赤褐色 (2.5YR5/8)	外面々目、体部内面コホ目及び指ナテ		内外面煤付着	141	61
209	SI06	h	土師器長胴甕	口径(17.0)	粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面々目(7本/10mm)、口頸部内面々目、体部内面指ナテ		頸部と体部外面の境に沈線状の段	141	61
210	SI06 EC4	b・d・h IIIa	須恵器坏	口径(15.6) 底径(11.6) 器高(4.1)	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転ナテ、底部外面回転ヘラ切り	美濃須衛		141	—
211	SI06	j	須恵器蓋	口径(10.8)	やや粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ヘラナテ			141	—
212	SI06	a	須恵器蓋	口径(16.0)	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転ナテ	美濃須衛		141	—
213	SI07	f	土師器甕	口径(17.0)	やや粗	良好	褐灰色～灰白色 (10YR6/1～10YR8/2)	外面々目、口縁部～頸部内面々目、体部内面指ナテ		頸部と体部外面の境に沈線状の段	143	61
214	SI07-カマド	c	土師器甕	口径(14.4)	粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	外面々目(6本/12mm)、内面々目		内面炭素吸着	143	61

表 48 土器観察表 (6)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
215	SI07-カマド	a	土師器甕	—	やや粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	体部外面の目、体部内面の目及びけ		頸部と体部外面の境に沈線状の段	143	—
216	SI07	c	須恵器杯	口径11.4 底径6.7 器高3.7	密	良好	不明	内外面回転け、底部外面回転け切り	美濃須衛		143	—
217	SI06 SI07-カマド	e f	須恵器甕	—	密	良好	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	外面平行な目、内面当て具痕	美濃須衛		143	—
218	SI08-カマド	a	須恵器杯	口径(20.2)	密	不良	灰白色～淡橙色 (2.5Y8/2～5YR8/3)	内外面回転け			145	—
219	SI08	e	須恵器杯	口径(13.0)	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	内外面回転け			145	—
220	SI08	d	須恵器甕	—	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転け	猿投	頸部外面櫛状工具による連続刺突及び沈線	145	—
221	SI09-カマド	d	土師器甕	口径(15.0)	やや粗	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面の目、口縁部～頸部内面コケ目			147	—
222	SI09-P02	1	土師器瓶	—	粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	把手外面指け、体部内面指け		把手	147	61
223	SI09	a・b	土師器高杯	脚径(16.6)	やや粗	良好	黄橙色 (10YR8/6)	外面指け、内面指け			147	61
224	SI09	f	須恵器杯	口径(14.0) 底径(8.0) 器高3.4	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面回転け切り	美濃須衛		147	—
225	SI06 SI07 SI09	f e・h b・c	須恵器蓋	口径13.6 器高3.5	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、頂部外面回転けカスリ	美濃須衛	天井部内面摩耗	147	65
226	SI03 SI09	a e	須恵器甕	口径(25.0)	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転け	猿投	頸部外面櫛状工具による連続刺突	147	61
227	SI09	a	須恵器甕	—	密	良好	灰色～オリーブ黄色 (5Y5/1～5Y6/3)	外面平行な目、内面当て具痕消し	猿投		147	—
228	SI09	c	須恵器甕	—	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	外面平行な目、内面当て具痕	美濃須衛		147	—
229	SI09	c	須恵器平瓶	—	密	良好	黄灰色～淡黄色 (2.5Y6/1～2.5Y8/4)	内外面回転け、把手外面指け	美濃須衛 か	把手残存、外面自然袖付着	147	—
233	SI10	f	土師器甕	口径(16.2)	粗	良好	黄橙色 (10YR8/6)	内外面指け			149	61
234	SI10	d～f・k・l	土師器甕	口径(17.0)	粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	外面不明、内面の目(6本/8mm)			149	—
235	SI10	d	須恵器杯	口径11.7 底径8.1 器高3.7	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	内外面回転け、底部外面回転け切り後指け	美濃須衛	底部内面に爪痕及び「×」字状の線刻	149	69
236	SI10	b・e	須恵器杯	口径(14.8)	やや粗	不良	オリーブ黄色 (5Y6/3)	内外面回転け、頂部外面回転け切り	在地		149	—
237	SI10	c	須恵器碗	底径6.0	やや粗	良好	浅黄色 (5Y7/3)	内外面回転け、底部外面回転け切り後指け	猿投	金属器写	149	—
238	SI10	a	須恵器蓋	口径(12.0)	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	内外面回転け、頂部外面回転けカスリ	在地		149	—
239	SI10	c～e	須恵器蓋	口径15.2 器高3.7	やや粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転け、頂部外面回転けカスリ	在地	坏蓋つまみあり	149	65
240	SI10 BT7, EA7	b・c II	須恵器甕	—	密	良好	灰白色 (5Y7/2)	頸部内外面回転け、体部外面格子状の目、内面指け	美濃須衛		149	28・67
241	SI10	b	須恵器甕	口径(29.0)	やや粗	良好	浅黄色 (5Y7/3)	内外面回転け	猿投		149	—
242	SI10	c	須恵器甕	口径(18.0)	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け	美濃須衛		149	—
243	SI10	5	須恵器甕	—	密	良好	オリーブ黄色 (5Y6/3)	外面平行な目、内面当て具痕消し	猿投	外面自然袖付着	149	—
244	SI10	5	須恵器横瓶	—	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	外面の目、指け	在地		149	—
246	SI11-P06	1	土師器長胴甕	口径(13.2)	粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	外面の目(摩擦により調整不明瞭)、口縁部～頸部内面の目、体部内面板指け			151	61
247	SI11-P06	1	土師器甕	口径(7.8) 底径4.4 器高9.4	やや粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	頸部外面指け、体部外面の目、体部内面指け、底面内面指け		外面煤付着、底部外面木葉痕	151	—
248	SI11	b	須恵器杯	底径6.4	密	不良	灰白色 (5Y8/1)	内外面回転け、底部外面回転け切り後指け	美濃須衛		151	—
249	SI11	c	須恵器杯	底径(9.0)	やや粗	良好	灰オリーブ色 (7.5Y6/2)	内外面回転け、底部外面回転けカスリ	猿投		151	—
250	SI11-P06	1	須恵器杯	底径(7.0)	やや粗	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転け、底部外面回転け切り	在地		151	—
251	SI11-カマド	2	須恵器甕	—	密	良好	にぶい黄橙 (10YR7/3)	外面格子状の目、内面当て具痕	美濃須衛		151	—
252	SI12	d・e	土師器長胴甕	口径(14.0)	やや粗	良好	にぶい黄褐色～暗褐色 (10YR5/3～10YR3/3)	口縁部外面指け、体部外面の目、口縁部内面の目、体部内面指け及び指け		外面煤付着、内面コケ	153	61
253	SI12-カマド	2	土師器甕	底径6.0	粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	体部外面上部指け、底部外面指け、内面指け		外面炭素吸着	153	—

表 49 土器観察表 (7)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
254	SI12	d	須恵器 環	口径(13.6) 底径(10.4) 器高3.5	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面 回転ヘラケスリ	美濃須衛		153	—
255	SI12	c・d	須恵器 環	口径(15.0) 底径(11.0) 器高3.5	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面 回転ヘラケスリ	猿投		153	—
256	SI12	c	須恵器 蓋	口径(15.0)	密	良好	灰白色 (7.5Y7/1)	内外面回転テ	美濃須衛	外面自然釉付着	153	—
258	SI13-P14	a	土師器 甕	口径(16.0)	やや粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	口縁部内外面ヘケ目(5本 /11mm)、頸部内外面指サエ			155	61
259	SI13-P14	a	須恵器 環	底径(6.0)	密	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転テ、底部外面 回転ヘラケスリ	美濃須衛		155	—
260	SI01	4	須恵器 環	口径(16.2)	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転テ	美濃須衛		155	—
261	SI13-P03 ED7	I II	須恵器 甕	口径(31.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ	猿投	沈線及び縦位の連続ヘ ラ刻み、内面自然釉付着	155	—
262	SI13	8	縄文土器 深鉢	—	やや粗	良好	黄灰色 (2.5Y5/1)	外面縄文、内面テ	中期後葉	外面2条の縦位沈線	155	59
263	SI14	e・g	土師器 把手付甕	口径(13.4) 底径9.0 器高19.2	粗	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	把手外面指サエ、体部外面ハ ケ目、頸部内面コホケ目後指サ エ、体部内面テ		把手付き、頸部と体部外 面の境に明瞭な段	160	60
264	SI14 ED6	b II	須恵器 環	口径(14.0) 底径(10.2) 器高3.6	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面 回転ヘラ切り後回転テ	美濃須衛		160	65
265	SI14-カマド SI14 SI14-P1	3 d・g g	須恵器 蓋	口径(16.0) 器高3.3	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ、頂部外面 回転ヘラケスリ	美濃須衛	内外面二次焼成痕 内面「×」字状線刻	160	69
266	SI14	a	須恵器 鉄鉢形土器	口径(10.0)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ	美濃須衛		160	—
267	SI15-カマド	1	土師器 甕	口径(15.6)	粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	口縁部テ、頸部～体部外 面ヘケ目、口縁部～頸部内面 テ、体部内面ヘケ目			163	64
268	SI15	b	須恵器 蓋	口径(15.0)	やや粗	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転テ、頂部外面 回転ヘラケスリ、	在地		163	61
269	SI15-カマド	2	須恵器 蓋	口径(17.6)	やや粗	良好	灰白色 (5Y8/1)	内外面回転テ	在地		163	—
270	SI15	b	須恵器 短頸壺	口径(10.8)	密	良好	淡黄色 (5Y8/3)	内外面回転テ	美濃須衛		163	—
271	SI15 SI15-カマド EE8	d c・1・2 II	須恵器 鉢	口径(26.7) 底径(18.6) 器高19.5	やや粗	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転テ、体部外面 下部回転ヘラケスリ、把手部外 面指サエ	美濃須衛	把手付、底部外面摩耗	163	—
272	SI16	4	土師器 甕	口径(15.0)	粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/2～10YR7/4)	外面ヘケ目(7本/11mm)、内面 ヘケ目		外面煤付着	166	67
273	SI16-カマド SI16-P07	1・3 1	須恵器 環	口径(14.6) 底径(10.2) 器高4.2	密	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転テ、底部外面 回転ヘラ切り(板目痕)	美濃須衛		166	61
274	SI16 EC7	4 II	須恵器 蓋	口径(13.0) 器高(3.0)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	内外面回転テ	在地	底部内面摩耗(墨痕)	166	—
275	SI16	c	須恵器 蓋	口径16.0 器高3.5	密	良好	灰色 (5Y5/1)	内外面回転テ、頂部外面 回転ヘラケスリ	在地		166	—
276	SI16-カマド ED9	c・2・3 II	須恵器 甕	—	やや粗	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	外面格子状ケ目、内面当 て具痕	猿投		166	65
277	SI17-カマド	3	須恵器 環	口径(12.6)	やや粗	良好	灰オリーブ (5Y6/2)	内外面回転テ	在地		169	—
278	SI17-カマド	a	須恵器 環	口径(18.4)	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転テ	在地		169	—
279	SI17	4	須恵器 環	底径(7.4)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面 回転ヘラ切り		加工円盤か	169	—
280	SI17-P16	a	須恵器 環	口径15.0 底径10.9 器高4.3	やや粗	良好	灰白色 (7.5Y7/1)	内外面回転テ、底部外面 回転ヘラケスリ	在地		169	—
281	SI17-カマド	1	須恵器 環	底径(13.7)	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面 回転ヘラ切り	在地		169	65
282	SI17 SI17-カマド	e・f 4	須恵器 蓋	口径15.2 器高3.5	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転テ、頂部外面 回転ヘラケスリ	美濃須衛		169	—
283	SI17 SI18	a・e	須恵器 蓋	口径(15.0) 器高3.1	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ	美濃須衛	天井部内面摩耗、外面自 然釉付着	169	65
284	SI17	4	須恵器 甕	—	密	良好	灰白色 (5Y7/2)	外面格子状ケ目及びケ 目、内面当て具痕			169	64
285	SI17	a～c・e	須恵器 短頸壺	口径(10.8)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ	猿投	口縁部内外面及び体部 外面自然釉付着	169	—
286	SI17 SI18 EC11	b・d a・c II	須恵器 埴瓶	底径(7.6)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面 回転テ、体部内面中央閉 塞痕	美濃須衛		169	33
287	SI17-SI18上 面堆積土	g	須恵器 蓋	口径13.4 器高3.5	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転テ、頂部外面 回転ヘラケスリ	在地	頂部内面摩耗	170	—

表 50 土器観察表 (8)

掲載 番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図 番号	図版 番号
288	SI17・SI18上 面堆積土	d	須恵器 蓋	口径15.8 器高3.7	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ケテ、頂部外面 回転ヘラズリ	美濃須衛	頂部内面摩擦 自然袖付着	170	65
289	SI17・SI18上 面堆積土	b 3	須恵器 蓋	口径15.6 器高3.1	密	良好	浅黄色 (5Y7/3)	内外面回転ケテ、頂部外面 回転ヘラズリ	在地		170	—
290	SI17・SI18上 面堆積土	o	須恵器 高坏	口径(15.4) 脚径(11.8) 器高10.8	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転ケテ、坏部底面 内面ケテ、脚部内面上部回 転ヘラズリ	美濃須衛		170	—
291	SI17・SI18上 面堆積土 SI21 EC9, EE10	d e・f II	須恵器 甕	—	密	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	頸部内外面回転ケテ、体部 外面格子状ケテ目、体部内 面当て具痕	美濃須衛		170	64
292	SI17・SI18上 面堆積土	c	須恵器 壺	底径8.4	密	良好	浅黄褐色～黒褐色 (10YR8/4～2.5Y3/1)	内外面回転ケテ、底部外面 回転ヘラ切り	在地	底部内面焼成時の付着 物	170	—
293	SI17・SI18上 面堆積土	b II	須恵器 壺	—	やや 粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	外面不明、内面回転ケテ	在地	体部外面「大」字状線 刻	170	69
294	SI18	f	土師器 甕	口径(16.2)	粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	外面摩擦により調整不明、 内面ケ目			174	—
295	SI18	g	土師器 甕	口径(13.4)	粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	外面ケ目、口縁部～頸部 内面ケ目、体部内面指ケテ			174	61
296	SI18-P27	a	須恵器 坏	底径(10.0)	やや 粗	不良	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	内外面回転ケテ			174	—
297	SI18	a	須恵器 坏	口径(16.8) 底径(12.0) 器高3.7	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	内外面回転ケテ、底部外面 回転ヘラズリ	美濃須衛		174	—
298	SI18-P27	2	須恵器 蓋	口径(14.0)	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転ケテ、頂部外面 回転ヘラズリ	在地		174	—
299	SI18-P27	2	須恵器 蓋	口径(17.0)	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転ケテ	在地		174	—
300	SI19-カマド	a	土師器 甕	口径(15.1)	粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	不明			177	—
301	SI19-カマド	a	土師器 長胴甕	—	粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	外面ケ目、内面ケ目(10本 /19mm)		外面煤付着、内面炭素吸 着	177	61
302	SI19	c	須恵器 坏身	口径(10.0) 底径(8.1) 器高2.9	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ケテ、底部外面 回転ヘラ切り	美濃須衛	外面自然袖付着	177	—
303	SI19	b	須恵器 坏	口径10.8 底径8.0 器高4.3	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ケテ、底部外面 回転ヘラ切り	美濃須衛	内外面自然袖付着	177	—
304	SI19	c	須恵器 鉢	口径(11.8) 底径(7.4) 器高3.2	密	良好	橙色 (5YR6/6)	内外面回転ケテ、底部外面 回転ヘラ切り	在地		177	—
305	SI19	c	須恵器 蓋	口径(8.4)	密	良好	淡黄色 (5Y8/3)	内外面回転ケテ、頂部外面 回転ヘラズリ	美濃須衛	外面自然袖付着	177	—
306	SI19 SI19-カマド	a・c・d・f 1・2・a	須恵器 蓋	口径17.1 器高3.7	密	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	内外面回転ケテ、頂部外面 回転ヘラズリ	美濃須衛		177	—
307	SI19-カマド SI14 EC7, ED6, ED7 , EE7, EF5	b・1 a a・b・e II	須恵器 甕	口径(19.7) 底径(7.0) 器高33.0	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	口縁部～頸部内外面回転ケ テ、体部外面格子状ケテ目 体部内面指ケテ、当て具痕	美濃須衛		177	—
308	SI14 SI19	c・f・2 a・b・2	須恵器 香炉	口径(14.0) 底径(9.4) 器高8.6	やや 粗	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転ケテ	美濃須衛		177	67
309	SI20	e	土師器 甕	口径(11.4)	粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	外面ケ目、内面ケ目、頸部 ～体部内面指ケテ		外面煤付着	181	64
310	SI20-カマド	b・3	土師器 甕	口径(15.4)	粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	口縁部内外面ケテ、頸部外 面ケ目、頸部内面ケ目		外面煤付着	181	61
311	SI20-カマド	3	土師器 甕	口径(16.8)	粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	外面ケテ、口縁部内面ケテ、 頸部内面ケ目		内外面煤付着	181	61
312	SI20-カマド	b	土師器 甕	口径(15.0)	粗	良好	にぶい黄褐色～褐色 (10YR4/3～5YR4/6)	外面ケテ、内面ケ目			181	—
313	SI20	2	土師器 甕	口径(7.0)	粗	良好	明赤褐色 (5YR5/8)	外面不明、体部内面指ケテ		口縁部内面煤付着、ミニ チュア	181	—
314	SI20	d	須恵器 坏	底径8.2	密	良好	淡黄色～黄灰色 (2.5Y8/4～2.5Y6/1)	内外面回転ケテ、底部外面 回転ヘラ切り	美濃須衛	内面煤付着	181	—
315	SI20	b	須恵器 坏	底径(10.4)	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転ケテ、底部外面 回転ヘラズリ	美濃須衛		181	—
316	SI20	8	須恵器 甕	—	密	良好	灰白色～灰色 (5Y8/1～5Y5/1)	外面格子状ケテ目、内面当 て具痕	美濃須衛		181	—
318	SI21	15	土師器 甕	口径(19.0)	粗	良好	浅黄褐色 (10YR8/4)	外面ケ目、口縁部内面ケ 目、体部内面上部指ケテ		内面煤付着、頸部と体部 の外面の境に明瞭な段	184	—
319	SI21	f	土師器 甕	—	やや 粗	良好	浅黄褐色 (10YR8/3)	外面ケ目、口縁部内面ケ目 (7本/10mm)、体部内面上部 指ケテ		頸部と体部外面の境に 沈線状の段	184	—
320	SI21-カマド	-	土師器 甕	口径(14.4)	粗	良好	浅黄褐色 (10YR8/4)	外面ケ目、内面ケ目、体部 内面上部指ケテ		外面煤付着	184	62

表 51 土器観察表 (9)

掲載 番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図 番号	図版 番号
321	SI21	a	土師器 甕	口径(16.2)	粗	良好	にぶい橙 (7.5YR7/3)	口縁部外面ナテ、頸部外面ハケ目(8本/14mm)、口縁端部内面ナテ、頸部外面ハケ目			184	62
322	SI21 EE10 EG7	b II IIIa	土師器 高坏	口径(15.8)	密	良好	橙色 (5YR6/6)	坏部外面回転ナテ、坏部内面回転ナテ、脚部外面ナテ、脚部内面ホリ痕		坏部内面暗文	184	62
323	SI21	f・7	須恵器 坏	口径(11.8) 底径(6.4) 器高4.1	やや粗	良好	灰色 (5Y6/1)	内外面回転ナテ、底部外面回転ハケ切り	在地		184	—
324	SI21	f	須恵器 坏	口径(20.4) 底径(14.0) 器高5.3	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ナテ、底部外面ナテ	美濃須衛		184	—
325	SI21	f	須恵器 坏	口径(12.6) 底径(7.0) 器高3.6	密	不良	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転ナテ、底部外面回転ハケ切り	在地		184	—
326	SI21	b	須恵器 蓋	口径(13.8)	やや粗	良好	灰白色 (7.5Y8/2)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ハケナシ	在地		184	65
327	SI21	b・h・22	須恵器 蓋	口径(15.4) 器高2.6	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ハケナシ	美濃須衛	外面自然釉付着	184	—
328	SI21	b	須恵器 甕	口径(17.8)	密	良好	淡黄色 (5Y8/3)	口縁部～頸部内外面回転ナテ、体部外面格子状クサ目、体部内面当て具痕	美濃須衛		184	—
329	SI21 EE10	e II	須恵器 壺	口径(10.9)	密	良好	灰色 (10Y4/1)	内外面回転ナテ	在地		184	—
330	SI21 EE10	d・7 II	須恵器 長頸壺	—	やや粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転ナテ、体部外面下部回転ハケナシ	美濃須衛	体部外面横位2条沈線、外面自然釉付着	184	66
331	SI21 EC9	d・f II	須恵器 短頸壺	口径(11.4)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転ナテ	美濃須衛	外面自然釉付着	184	66
332	SI21 EE10	15 II	須恵器 壺	底径8.4	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転ナテ、底部外面回転ハケ切り後ナシ	美濃須衛	底部外面「=」字状線刻	184	69
333	SI22	b	土師器 甕	口径(15.0)	粗	良好	明黄褐色 (10YR7/6)	口縁部外面ハケ目後指ナシ、体部外面ハケ目、内面指ナシ			186	62
334	SI22	a	須恵器 蓋	口径(13.0)	やや粗	良好	灰白色 (5Y8/1)	内外面回転ナテ	美濃須衛		186	—
335	SI22	c	須恵器 蓋	口径(17.4) 器高2.7	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ハケナシ、	美濃須衛	頂部内面摩耗、墨痕 外面自然釉付着	186	—
336	SI22	a	須恵器 壺	底径5.0	密	良好	灰白色 (5Y7/1)	内外面回転ナテ、体部～底部外面回転ハケナシ	猿投	体部～底部外面摩耗	186	—
337	SI23	8	土師器 長胴甕	口径(14.3) 底径6.0 器高32.6	粗	良好	浅黄褐色 (10YR8/4)	外面ハケ目(8本/8mm)及び指ナシ、口頸部内面ナテ、体部内面ハケ目(8本/8mm)		外面煤付着	189	60
338	SI23	g	土師器 甕	—	やや粗	良好	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	外面ハケ目(9mmに6本)、口頸部内面ハケ目、体部内面上部指ナシ			189	—
339	SI23	e	土師器 甕	—	密	良好	にぶい橙色 (5YR6/4)	把手外面ナテ後指ナシ、体部内面ナテ		把手、接合部から中央付近の裏面に煤付着	189	62
340	SI23	8	須恵器 坏	口径10.5 底径5.8 器高4.1	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ハケナシ	在地		189	62
341	SI23	g	須恵器 坏	底径(10.4)	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転ナテ、底部外面回転ハケナシ			189	65
342	SI23 EE11	c II	須恵器 坏	口径(9.4) 底径6.2 器高3.5	密	良好	灰色 (5Y6/1)	内外面回転ナテ、底部外面回転ハケナシ		金属器模か	189	—
343	SI23 EE12	a・c II	須恵器 蓋	口径(12.2) 器高2.6	密	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	内外面回転ナテ		外面自然釉付着	189	—
344	SI23-カマド SI23	a 8	須恵器 蓋	口径(15.6) 器高2.8	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ハケナシ、頂部内面ナテ	在地		189	—
345	SI23	d	須恵器 蓋	口径(15.4)	密	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	内外面回転ナテ		金属器の写し	189	—
346	SI23 SI28	g f	須恵器 甕	—	密	良好	灰白色 (5Y8/1)	外面平行クサ目、内面当て具痕			189	64
347	SI23	e	須恵器 壺	—	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ナテ		自然釉付着	189	—
348	SI23	12	須恵器 盤	底径(8.8)	密	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	内外面回転ナテ、底部外面糸切り	美濃須衛か	盤部内面底部自然釉付着(重ね焼き痕)	189	60
349	SI24	b	土師器 甕	—	やや粗	良好	にぶい赤褐色～にぶい黄褐色(5YR5/3～10YR7/4)	内外面ハケ目(7本/10mm)、体部内面下部ナテ			190	—
350	SI24	g	須恵器 高坏	脚径10.8	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	内外面回転ナテ、内面上部ホリ痕	美濃須衛		190	64
352	SI25-カマド	1	土師器 甕	口径(18.0)	やや粗	良好	赤褐色 (2.5YR4/6)	口縁部内外面ナテ、体部外面ハケ目、頸部内面ハケ目、体部内面ナテ			193	—
353	SI25	b	土師器 甕	口径(18.0)	粗	良好	浅黄褐色 (10YR8/3)	口縁端部内外面ナテ、口縁部～頸部外面ハケ目(6本/12mm)、頸部内面ハケ目		口縁端部内外面煤付着	193	62
354	SI25-カマド	a	土師器 甕	—	やや粗	良好	黄褐色 (10YR8/6)	外面ハケ目(6本/7mm)、内面板ナテ			193	62

表 52 土器観察表 (10)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
355	SI25	e	須恵器 坏身	口径(15.0)	やや粗	良好	オリーブ灰色 (2.5Y6/1)	内外面回転け			193	62
356	SI25	c	須恵器 坏	底径(10.6)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面 回転け後切り	美濃須衛		193	—
357	SI25 EG8	b IIIa	須恵器 坏	口径(13.6) 底径(10.2) 器高3.3	やや粗	良好	灰白色 (5Y7/1)	内外面回転け、底部外面 回転け後ナズリ	美濃須衛		193	—
358	SI25	d	須恵器 坏	口径(15.5) 底径(12.0)	やや粗	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転け			193	—
359	SI25	b・d	須恵器 坏	口径(10.8) 底径(8.4)	密	良好	淡黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転け、底部外面 回転け後切り			194	—
360	SI25 SI26	b c	須恵器 坏	口径(10.4) 底径(6.8) 器高4.1	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け、底部外面 回転け後切り	美濃須衛		194	—
361	SI25-P01 SI25 SI25-カマド	I d 2	須恵器 蓋	口径12.6 器高3.2	やや粗	良好	灰オリーブ色 (5Y5/2)	内外面回転け、頂部外面 回転け後ナズリ			194	—
362	SI25-カマド	1	須恵器 蓋	口径12.4 器高2.5	やや粗	良好	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	内外面回転け、頂部外面 回転け後ナズリ			194	65
363	SI25	a	須恵器 蓋	口径(17.0)	やや粗	良好	灰黄色 (2.5Y6/2)	内外面回転け			194	—
364	SI25	e	須恵器 甗	口径(24.4)	密	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内外面回転け			194	—
365	SI25 SK223 EH10	e 1 IIIa	須恵器 甗	—	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	外面格子状クワ目、内面当 て具根(無文)及びけ	猿投		194	—
366	SI25 SI25-カマド	f a	須恵器 甗	—	密	良好	淡黄色 (2.5Y7/3)	外面格子状クワ目、内面器 具痕け消し			194	—
367	SI25	b	須恵器 蓋	底径8.8	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	体部内外面回転け、底部 外面回転け後切り	美濃須衛		194	—
368	SI25	c	須恵器 壺	底径(7.0)	やや粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	体部内外面回転け、体部 外面下部格子状クワ目、底 部外面回転け後切り	在地	外面自然袖付着	194	—
369	SI25	a	須恵器 壺か	—	やや粗	良好	黄灰色 (2.5Y4/1)	内外面回転け		外面自然袖付着	194	—
375	SI25	b	灰釉陶器 小碗	口径(14.0)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転け	猿投か美 濃須衛	灰釉(灰白色:2.5Y 7/1)	194	—
376	SI26	k	土師器 甗	口径(15.4)	粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面クワ目(7本/9mm)、内面ハ クワ目(7本/9mm)			198	—
377	SI26	j	土師器 甗	口径(16.0)	粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面クワ目、内面クワ目			198	62
378	SI26	j	土師器 甗	口径(15.0)	やや粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	口縁端部外面け、頸部外 面クワ目、内面クワ目			198	62
379	SI26	4	土師器 甗	口径(16.2)	やや粗	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面クワ目(9本/10mm)、内面 クワ目		外面煤付着	198	62
380	SI26	4	土師器 甗	口径(20.0)	粗	良好	淡黄橙色 (10YR8/4)	外面クワ目、内面クワ目		頸部と体部外面の境に 明瞭な段	198	62
381	SI26	d	土師器 碗か	底径(6.6)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	外面回転け、底部外面回 転糸切り、内面不明			198	62
382	SI26	h	土師器 甗	—	やや粗	良好	灰白色 (10YR8/1)	把手外面け及び指サエ、体 部外面クワ目、体部内面け		把手	198	—
383	SI26	f	須恵器 坏	底径(6.8)	やや粗	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転け、底部外面 回転け後切り	美濃須衛	底部外面「×」字状線 刻	198	62
384	SI26	c・i	須恵器 坏	底径(7.0)	やや粗	良好	灰白色 (10Y7/2)	内外面回転け、底部外面 回転け後切り	美濃須衛	底部外面「×」字状線 刻	198	69
385	SI26	g	須恵器 坏	口径(11.6) 底径(6.4) 器高3.5	やや粗	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転け、底部外面 回転け後切り	美濃須衛	自然袖付着	198	—
386	SI26	4	須恵器 坏	口径(13.0)	密	良好	淡黄色 (5Y7/3)	内外面回転け	美濃須衛	内外面漆付着	198	—
387	SI26	4	須恵器 蓋	口径(12.4)	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、頂部外面 回転け後ナズリ	美濃須衛		198	—
388	SI26	1・2	須恵器 蓋	口径(15.8)	密	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転け、頂部外面 回転け後ナズリ	美濃須衛	頂部内面摩耗、墨痕	198	—
389	SI26	2	須恵器 高坏	脚径(8.6)	密	良好	灰白色 (7.5Y7/1)	内外面回転け	美濃須衛		198	—
390	SI26	h	須恵器 甗	口径(16.0)	密	不良	淡黄色 (2.5Y8/3)	口縁部～頸部内外面回転 け、体部外面平行クワ目、体 部内面不明			198	—
391	SI26	f	須恵器 甗	口径(19.8)	密	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転け、体部内面 当て具痕	美濃須衛		198	—
392	SI26	4	須恵器 甗	—	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転け、体部外面 平行クワ目、内面当て具	在地	頸部接合痕残存	198	—
393	SI26	g・4	須恵器 甗	口径(24.0)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け	北陸か		198	—
394	SI26	f	須恵器 鉄鉢形土器	口径(14.6)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転け			198	—

表 53 土器観察表 (11)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
407	SI27	f	土師器甕	口径(20.0)	粗	良好	灰白色 (10YR8/2)	口縁外部面ナテ、頸部外面ハケ目、内面ハケ目			201	—
408	SI27	f・g	須恵器坏	底径(5.0)	密	良好	黄灰色 (2.5Y5/1)	内外面回転ナテ、底部外面回転ハケ切り後ハケ目			201	62
409	SI27	h	須恵器坏蓋	口径(11.6) 器高3.2	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ナテ、頂部外面回転ハケ切り	美濃須衛	内面「卍」字状線刻 外面自然釉付着	201	69
410	SI27	j	須恵器高坏	脚径(7.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転ナテ	美濃須衛		201	65
411	SI27	g	須恵器甕	—	密	良好	淡黄色 (5Y8/3)	外面平行ハケ目、内面当て具痕	美濃須衛		201	—
413	SI28	b	ワカ土師器碗か皿	底径5.6	密	不良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内外面回転ナテ、底部外面回転糸切り		内外面漆付着	203	72
414	SI28	d	ワカ土師器碗か皿	底径6.0	密	不良	灰白色～黒色 (2.5Y8/2～2.5Y2/1)	内外面回転ナテ、底部外面回転糸切り			203	—
415	SI28	5	ワカ土師器碗か皿	底径(5.1)	密	不良	灰白色～黒褐色 (2.5Y8/2～2.5Y3/1)	内外面回転ナテ、底部外面回転糸切りか			203	—
416	SI28	e	ワカ土師器碗	底径(7.2)	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転ナテ			203	—
417	SI28	e	灰釉陶器小碗	口径(12.0) 底径(6.4) 器高3.7	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転ナテ、底部外面回転糸切り			203	—
420	SI29 SZ41-周溝	g e	須恵器横瓶	—	蜜	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	外面平行叩き、内面同心円状当て具痕ナテ消し			205	58
421	SI30	a	土師器甕	—	やや粗	良好	灰白色 (10YR8/2)	頸部外面ナテ、体部外面ハケ目、内面不明		内面にコゲ付着	207	—
422	SI30-P01	3	土師器瓶	口径(25.0)	やや粗	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	不明		内面一部煤付着	207	55
423	SI30 SI30-P01	a 3	須恵器坏	口径(14.0) 底径(8.0) 器高4.2	蜜	不良	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	底部外面回転ハケナリ、内外面回転ナテ		底部内面摩耗	207	54
424	SI30-P01	3	須恵器甕	—	密	良好	灰白色 (2.5Y7/2)	外面叩き目ナテ消しか、内面当て具痕ナテ消し		外面に焼成時の付着物	207	—
425	SI30-P01	3	須恵器甕	—	蜜	不良	灰黄色 (2.5Y7/2)	外面格子状ハケ痕、内面不明			207	—
426	SI30 SI30-P01	a 3	須恵器甕	—	蜜	不良	灰白色 (10YR8/2)	外面格子状ハケ痕、内面不明			207	—
427	SI30	3	須恵器甕	—	蜜	不良	浅黄橙色 (7.5Y8/3)	外面平行ハケ痕、内面不明			207	—
429	SI34-壁際溝	c	須恵器高坏	—	密	良好	灰色(7.5Y6/1)	内外面回転ナテ	美濃須衛	7世紀後葉(Ⅲ期後半)	209	76
430	SI36 SI33	a 1	縄文土器深鉢	—	やや粗	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	体部外面縄文(RL)、体部内面ナテ	中期後葉	外面に煤付着	212	—
431	SI36	a	縄文土器深鉢	—	やや粗	不良	にぶい黄褐色(10YR5/3)	内外面ナテ、口縁部外面縄文(RL)			212	—
433	SI37	b	縄文土器深鉢	—	密	不良	橙色(7.5YR6/6)	体部外面山形文、体部内面ナテ	早期前葉	山形文	215	—
434	SI37	d	縄文土器深鉢	—	やや粗	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3)	内外面ナテ、体部外面沈線文	諸磯式系	内面に煤付着、沈線文	215	—
435	SI37	a	縄文土器深鉢	底径(14.2)	やや粗	良好	にぶい黄褐色(10YR5/3)	内外面ナテ、底部外面キザミ	前期後葉		215	—
436	SI37	2	縄文土器深鉢	—	やや粗	不良	明褐色(7.5YR5/6)	内外面縄文(LR)、体部内面ナテ		外面に煤付着	215	—
437	SI37	c	縄文土器深鉢	—	密	良好	褐灰色(10YR5/1)	体部外面縄文(LR)、体部内面ナテ・ユビオチエ	前期後葉		215	—
438	SI37	a	縄文土器浅鉢	—	やや粗	良好	橙色(7.5YR6/6)	内外面ナテ、口縁部外面沈線・穿孔	前期後葉	列孔文浅鉢	215	58
439	SI37	b	縄文土器深鉢	—	やや粗	良好	にぶい黄褐色(10YR6/3)	内外面ナテ、体部外面沈線	新保・新崎式		215	—
440	SI37	1	縄文土器深鉢	—	やや粗	不良	明赤褐色(5YR5/6)	内外面ナテ、口縁部外面沈線	中期後葉		215	—
441	SI37	b	弥生土器有段口縁甕	口径(15.8)	やや粗	良好	明赤褐色(5YR5/6)	口縁部外面疑横線・ナテ、口縁部内面ナテ	月影式	外面に煤付着	215	—
442	SI37	c・d	弥生土器甕	口径(9.4)	やや粗	不良	褐灰色(10YR5/1)	内外面ナテ			215	76
443	SI37	c	弥生土器鉢か高坏	口径(12.0)	やや粗	不良	灰黄褐色(10YR6/2)	内外面ナテ			215	76
444	SI37	a	土師器甕	口径(17.8)	粗	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3)	内外面ハケ目、口縁部外面ナテ			215	76
445	SI37	2	土師器甕	口径(17.4)	やや粗	不良	橙色(7.5YR6/6)	口縁部外面摩滅により調整不明、体部外面・口縁部から体部内面ハケ目			215	76
446	SI37	d	土師器蓋か	底径(9.2)	やや粗	不良	浅黄褐色(10YR8/4)	内外面ナテ、体部内面ハケ目			215	76
447	SI37	c・d	土師器鉢	底径(6.4)	粗	不良	灰黄褐色(10YR5/2)	内外面ナテ、底部内面ユビオチエ		外面に煤付着	215	76
448	SI37	2	土師器坏	口径(24.0)	密	良好	橙色(5YR6/6)	内外面カギキ、体部内面暗文			215	76

表 54 土器観察表 (12)

掲載 番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿 番 号	図 版 番 号
449	SI37-カマド	b	須惠器 坏	口径(12.0) 底径(6.6) 器高3.8	密	良好	灰色(7.5Y5/1)	内外面回転け、底部外面 回転へかきり	美濃須衛	8世紀前葉 (IV期第1小期)	215	39・ 74
450	SI37	a	須惠器 坏蓋	口径(10.4) 器高3.5	密	良好	灰黄色(2.5Y6/2)	内外面回転け、天井部回 転へかきり	美濃須衛	7世紀後半 (III期後半)	215	76
451	SI37-P04	1	須惠器 坏蓋	口径(17.0)	密	良好	灰白色(5Y8/1)	内外面回転け	美濃須衛	内面に漆状の付着物、8世 紀前葉 (IV期第1小期)	215	76
452	SI37	d	須惠器 甕	—	密	良好	灰黄色(2.5Y6/2)	体部外面同心円当て具痕、 体部内面平行け痕・格子 状け痕		外面に煤付着	215	76
453	SI37 SK669	c 1	須惠器 甕	—	密	不良	灰白色(7.5YR8/2)	体部外面同心円当て具痕、 体部内面平行け痕			215	76
454	SI37	a	須惠器 甕	口径(28.0)	密	良好	灰白色(5Y7/2)	内外面回転け			215	76
462	SI39	1	縄文土器 深鉢	—	密	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	体部外面貝殻条痕、体部内 面け	早期	胎土に繊維混じる	217	—
463	SI39	1	土師器 甕	—	密	不良	灰黄褐色(10YR5/2)	体部外面け目(9mm/8条)、 体部内面け		外面に煤付着	217	76
464	SI39-カマド	a	土師器 蓋か甕	—	密	良好	明黄褐色(10YR6/6)	体部外面け目(2.0cm/6 条)、体部内面け		内外面に煤付着	217	76
465	SI39	1	土師器 壺	—	やや 粗	不良	灰黄色(2.5Y7/2)	内外面け		内外面に煤付着	217	—
466	SI39	a	須惠器 坏身	口径9.6 底径5.4 器高3.3	密	良好	灰色(N4/0)	内外面回転け、外面底部 回転へかきり	猿投 I17窯式	外面に自然袖付着、7世紀 後半	217	41・ 74
467	SB01-整地層	a	須惠器 坏	底径(9.4)	やや 粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	内外面回転け、底部外面 回転へ切り後け			219	—
468	SB01-整地層	a	須惠器 坏蓋	口径(14.4)	やや 粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転け、頂部回転 へかきり			219	—
469	SB01-P02	6	須惠器 甕	—	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	外面平行け目、内面当て 具痕け消し	猿投	内面摩耗	219	—
471	SB02・03-整 地層 EC9	1 II	須惠器 坏	口径14.7 底径8.3 器高3.8	やや 粗	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転け、底部外面 回転へ切り	在地		221	—
472	SB02・03-整 地層 EC9, EC10	a・b II	須惠器 坏	口径(15.4) 底径(12.8) 器高4.3	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面 回転へかきり	美濃須衛		221	—
473	SB02・03-整 地層	e	須惠器 蓋	口径16.6 器高3.9	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、頂部外面 回転へかきり	美濃須衛		221	—
474	SB02・03-整 地層	3	須惠器 高坏	脚径(10.0)	密	良好	灰白色 (5Y7/2)	内外面回転け	猿投		221	—
475	SB02・03-整 地層 SI14-カマド EC6, ED6	d a II	須惠器 短頸壺	口径(10.6) 底径(9.3) 器高12.2	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転け、体部外面 下部回転へかきり、底部外面 回転へ切り後け	美濃須衛		221	66
476	SB02・03-整 地層	d	須惠器 小壺	口径(4.8) 底径(5.8) 器高6.3	やや 粗	良好	灰白色 (7.5Y8/1)	内外面回転け、底部外面へ かきり	美濃須衛	底部外面線刻	221	66
477	SB03-P01	3	須惠器 坏	口径(14.1)	密	良好	灰白色 (5Y7/1)	内外面回転け	在地		223	—
478	SB03-P01	1	須惠器 坏蓋	口径(16.0)	密	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	内外面回転け、頂部外面 回転へかきり	美濃須衛	外面自然有付着	223	—
479	SB04-P02	d	須惠器 蓋	口径(10.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け		内面自然袖付着	231	—
480	SB04-P02	d	須惠器 平瓶	—	密	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	内外面回転け		外面自然袖付着、体部上 半に閉塞痕	231	—
482	SB04-P03	a	灰釉陶器 碗	口径(12.8)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け			231	—
484	SB04-P06 ED6, EF7, EG7	b II	須惠器 甕	—	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	頸部内外面回転け、体部 外面け目、当て具痕		外面自然袖付着	231	—
485	SB04-P08	1	須惠器 蓋	口径(13.2)	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転け	美濃須衛		231	—
486	SB04-P09	a	須惠器 短頸壺	口径(9.8)	密	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	内外面回転け	美濃須衛 か		231	—
487	SB04-P11 EH9	1 II	須惠器 坏	口径(15.0)	やや 粗	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転け			231	—
488	SB04-P13 E16	a IIIa	須惠器 甕	—	密	良好	黄褐色 (2.5Y5/3)	内外面回転け、内面回転 け及びけ目			231	—
489	SB04-P15 EG11	1・2 IIIa	須惠器 甕	口径(10.2)	やや 粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転け		口縁部外面煤付着 口縁部内面自然袖付着	231	64
490	SB04-P23	1	土師器 皿	底径(4.4)	密	良好	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転け、底部外面 回転へ切り		内外面漆付着	231	72
491	SB04-雨落溝	a	須惠器 甕	—	密	良好	灰色 (7.5Y6/1)	外面け目、内面当て具痕 け消し			231	—
493	SB04-基壇	1	土師器 皿	口径9.6 底径6.2 器高2.1	密	不良	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面 回転へ切り		底部外面を除く内外面漆 付着	232	68・ 72

表 55 土器観察表 (13)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
494	SB04-基壇	1	ワカ土師器皿	底径(4.4)	密	不良	黄灰色 (2.5Y6/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内面漆付着	232	72
495	SB04-基壇	1	須恵器横瓶	—	やや粗	良好	にぶい黄橙～褐灰色 (10YR7/2～10YR5/1)	外面斜目、内面回転テ		外面自然袖付着	232	—
496	SB04-基壇	1	灰釉陶器小碗	口径(10.8) 底径6.2 器高3.5	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内面漆付着	232	—
504	E19	IIIa	須恵器坏身	口径(8.8)	密	良好	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内外面回転テ		SB04周辺出土遺物	232	—
505	EH7	IIIa	須恵器脚台盤	口径(15.0)	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内面自然袖付着(重ね焼き痕)	232	—
506	EG7	IIIa	須恵器壺	—	密	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転テ		SB04周辺出土遺物	232	—
507	EG9 EH7	II II・IIIa	須恵器多口瓶	口径11.3 底径14.1 器高29.7	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ、子口頸部接合部分内外面ハケテ、底部外面回転糸切り後テ	在地か	子口頸部、口径7.2cm須恵器質	233	63
508	EG9	IIIa	須恵器多口瓶	子口頸部 口径6.0	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	体部外面上半回転テ、体部外面下半回転ハケテ、内面回転テ		子口縁部、体部外面上半に2条の沈線、体部内外面及び断面漆付着	233	63・73
509	EG7	IIIa	灰釉陶器多口瓶	口径(5.8)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ、接合部内外面ハケテ		子口頸部	233	63
510	EH10	IIIa	ワカ土師器碗	底径(5.0)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		仏具写しか、体部外面1条の横位沈線	233	59
511	EG9	IIIa	灰釉陶器小碗	口径11.1 底径6.1 器高3.2	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り後テ		内外面自然袖付着(重ね焼き痕)	233	—
553	SB06-P04	1	灰釉陶器碗	底径(6.1)	密	良好	灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転テ	美濃須衛H72窯式	無釉、底部内面摩耗、内面に自然袖付着	238	77
555	SB09-P03	g	縄文土器深鉢	—	やや粗	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	内外面テ、体部外面条線	中期後葉	底部近く	243	—
556	SB09-P03	2	土師器碗	口径(12.2)	密	不良	浅黄橙色(10YR8/3)	口縁部～体部外面ハケ、口縁部～体部内面ハケ			243	77
557	SB09-P03	a	灰釉陶器皿	底径(7.0)	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転テ	美濃須衛H72窯式	無釉、底部内面摩耗、底部内面に墨書	243	71
559	SB09-P05	2	縄文土器深鉢	—	密	良好	橙色(5YR6/6)	内外面テ、体部外面沈線	中期後葉		243	—
561	SB09-P15	1	縄文土器深鉢	底径(6.6)	やや粗	不良	にぶい黄褐色(10YR5/4)	体部外面ハケ、指持テ、底部外面テ、内面テ	中期後葉～後期		243	—
562	SA06-P02	3	須恵器壺	—	密	良好	暗灰黄色(2.5Y5/2)	体部外面平行斜線、体部内面テ			247	77
564	SU01	a・c・1	灰釉陶器碗	口径(12.9)	密	良好	灰白色(2.5Y8/2)	内外面回転テ			249	—
565	SU01	1	灰釉陶器碗	口径(12.8) 底径6.6 器高3.6	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		底部内面摩耗	249	—
566	SU01	1	灰釉陶器碗	口径(15.2) 底径(7.8) 器高4.2	密	良好	灰白色(2.5Y8/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		底部内面摩耗、底部墨書「万真」か	249	68・70
567	SU01	2	灰釉陶器碗	口径(16.0) 底径(7.4) 器高4.3	密	良好	淡黄色(2.5Y8/4)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		高台端部に板目痕、底部内面摩耗	249	—
568	SU01 EE13	2 I・II	灰釉陶器碗	口径(15.6) 底径7.6 器高4.7	密	良好	浅黄色(2.5Y7/4)	内外面回転テ、底部外面回転ハケテ		底部内面摩耗	249	68
569	SU01	b・1	灰釉陶器碗	口径15.3 底径7.0 器高4.9	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面回転ハケテ		胎土に径1mm以下の長石を含む	249	—
570	SU01	1	灰釉陶器碗	口径(15.6)	やや粗	不良	灰白色(10YR8/2)	内外面回転テ		内面漆付着	249	72
571	SU01	2	灰釉陶器碗	口径(13.2)	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転テ		内外面自然袖付着	249	—
572	SU01	2	灰釉陶器碗	口径(15.2)	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転テ		口縁部内外面煤付着(灯明か)	249	—
573	SU01	a	灰釉陶器碗	底径(7.2)	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		底部内面摩耗	249	—
574	SU01	1	灰釉陶器碗	底径6.6	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		底部内面摩耗	249	—
575	SU01	1	灰釉陶器碗	底径5.9	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		底部内面摩耗	249	—
576	SU01	1	灰釉陶器碗	底径6.4	密	良好	淡黄色(2.5Y8/4)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り後テ			249	—
577	SU01	2	灰釉陶器碗	底径(7.8)	密	良好	浅黄色(2.5Y7/4)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		底部内面摩耗	249	—
578	SU01	2	灰釉陶器碗	底径6.4	密	不良	灰白色(10YR8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切りか		底部内面漆付着	249	72
579	SU01	1	灰釉陶器碗	底径6.6	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面回転ハケテ			249	—

表 56 土器観察表 (14)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
580	SU01	1	灰釉陶器碗	底径7.7	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け、底部外面回転へがスリ			249	—
581	SU01	1・2	灰釉陶器碗	口径(14.0)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け			249	—
582	SU01	1	灰釉陶器折縁皿	口径14.3 底径7.3 器高2.4	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	内外面回転け、底部外面回転糸切り		底部内面焼きぶくれ	249	—
583	SU01	2	コト土師器皿	口径11.6 底径5.6 器高2.8	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転け、底部外面回転へが切り		口縁部内面の一部に煤付着(灯明皿か)	249	68
584	SU01	1	コト土師器皿	底径4.8	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転け		内外面漆付着、底面外面回転糸切痕、板状圧痕	249	72
585	SU01	b	コト土師器皿	底径(5.0)	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転け、底部外面回転糸切り			249	—
586	SU01	1	コト土師器碗	底径(9.2)	密	不良	灰白色 (10YR8/1)	内外面回転け			249	—
587	SU01	1	コト土師器碗	底径(7.4)	密	不良	灰白色 (10YR8/2~10YR7/1)	内外面回転け			249	—
588	SU01	1	コト土師器碗	底径7.4	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転け			249	—
590	SK143	1	灰釉陶器碗	底径(6.5)	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面け、内面回転け			249	—
591	SK144	1	須恵器蓋	口径(14.6)	やや粗	良好	灰白色 (7.5Y7/2)	内外面回転け	在地		249	—
592	SP29	e	灰釉陶器碗	底径(7.0)	密	良好	灰白色(5YR7/1)	内外面回転け	美濃須衛 H72窯式	無釉、底部内面摩耗	251	77
594	SP55	c	縄文土器深鉢	—	やや粗	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	内外面け、口縁部外面爪形文、体部外面沈線・刺突	北陸系、中期中葉		251	—
595	SP55	a	縄文土器深鉢	—	粗	不良	灰黄褐色(10YR4/2)	口縁部外面沈線、口縁部内面け	北陸系、中期		251	—
597	SD04	g	土師器鉄鉢形土器	口径(15.2)	やや粗	良好	明黄褐色(10YR7/6)	外面へが目(幅11mm-8本)、内面け		金属器写しか	252	—
598	SD04	a	須恵器鉄鉢形土器	口径(17.7)	密	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転け	猿投		252	—
599	SD10	c	須恵器環	口径(10.2) 底径(7.8) 器高3.4	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面静止へがスリ	美濃須衛		253	—
600	SD10	b	須恵器碗	底径5.0	密	良好	灰色(5Y6/1)	内外面回転け、底部外面回転へが切り	猿投か		253	69
601	SD12	b	コト土師器碗	底径(5.4)	密	不良	灰白色(10YR8/2)	内外面回転け、底部外面回転糸切り		内面漆付着	254	72
602	SD12	a	コト土師器碗	底径(6.8)	密	不良	灰白色~灰色(2.5Y8/2~5Y4/1)	内外面回転け、底部外面回転へが切り			254	—
603	SD12	c・f	灰釉陶器碗	口径(14.0) 底径(7.6) 器高3.9	密	良好	浅黄色(2.5Y7/4)	内外面回転け、底部外面回転糸切り			254	—
604	SD32 SK511	a c	須恵器碗	底径(8.6)	密	良好	灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転け、体部外面回転へがスリ	美濃須衛 010窯式	重ね焼痕	255	77
605	SD32	e	緑釉陶器碗	—	密	良好	灰色(5Y6/1)	内外面回転け		緑釉:7.5Y5/3オリープ色	255	77
607	SK009	d・f	須恵器環	口径(18.8) 底径(13.0) 器高4.0	密	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	内外面回転け、底部外面回転へがスリ	美濃須衛	底部内面摩耗 外面自然釉付着	256	—
608	SK009	l	須恵器蓋	口径(15.8)	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転け	美濃須衛	外面自然釉付着	256	—
609	SK009	q	須恵器長頸壺	口径(17.0)	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転け	美濃須衛	口縁部~頸部外面及び口縁部内面自然釉付着	256	—
610	SK009	d・n	須恵器甕	口径(33.8)	密	良好	灰色(N6/0)	内外面回転け、頸部外面一部平行へが目残存	猿投か		256	—
613	SK064	a	須恵器平瓶	口径5.1 底径6.6 器高8.1	密	良好	灰白色(2.5Y8/2)	口縁部内外面回転け、体部内外面回転け後、下半外面回転へがスリ、底部外面回転へが切り後け	猿投	外面自然釉付着、把手剥離	257	49・66
614	SK064	d	須恵器平瓶	底径7.4	密	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	口縁部内外面回転け、体部内外面回転け後、下半外面回転へがスリ、底部外面回転へが切り後け	猿投	外面自然釉付着、把手剥がれ	257	49・66
615	SK139	不明	灰釉陶器碗	底径7.6	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転け、底部外面回転へが切り		底部内面摩耗墨痕(転用碗)	258	—
616	SK139	d	灰釉陶器碗	底径7.4	密	良好	灰白色(5Y8/2)	内外面回転け、底部外面回転へがスリ			258	—
617	SK173	1	灰釉陶器輪花碗	口径(15.0)	密	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転け		内外面自然釉付着	258	—
618	SK180	b	須恵器環	口径14.6 底径10.9 器高4.4	密	不良	灰色(5Y6/1)	内外面回転け、底部外面回転へが切り			259	—
619	SK180 EF8	b II	須恵器甕	口径(28.0)	密	良好	灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転け	美濃須衛	内面自然釉付着、頸部外面櫛描波状文	259	—

表 57 土器観察表 (15)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
620	SK182	2	須恵器 甕	口径(31.0)	密	良好	灰黄褐色 (10YR6/2)	内外面回転テ		頸部外面櫛描波状文	260	64
621	SK182	2	須恵器 甕	—	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y7/4)	体部外面格子状残目、体部内面下部当て具痕	猿投		260	—
622	SK182	2	須恵器 碗	口径(5.0)	密	良好	淡黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内外面漆付着	260	72
623	SK183	d	須恵器 無蓋高坏	口径(15.6)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ	美濃須衛 か		261	—
624	SK183	h	須恵器 短頸壺	口径(7.7)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ	美濃須衛		261	—
625	SK183	c・g	須恵器 皿	口径(12.8) 底径(6.0) 器高2.7	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内外面漆付着	261	72
626	SK183	e	灰釉陶器 碗	口径12.8 底径6.7 器高4.0	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内面自然釉付着	261	68
627	SK183	d	灰釉陶器 皿	口径(11.8) 底径(6.0) 器高2.3	密	良好	淡黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		底部内面摩耗 口縁端部内面漆付着	261	68
629	SK184	1	須恵器 盤	口径14.0 底径7.4 器高2.5	密	良好	灰白色 (7.5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り後テ	猿投		263	—
630	SK184	b	須恵器 鉄鉢形土器	口径(21.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	口縁部～体部外面上部、体部外面下部回転削り、内面回転テ	美濃須衛 か		263	—
631	SK184	1	須恵器 碗	口径(10.6) 底径(5.0) 器高3.6	密	不良	橙色 (7.5YR7/6)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り			263	68
632	SK184	1	須恵器 碗	口径(5.8)	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		底部内面摩耗(転用硯か)、底部外面墨書	263	70
633	SK184	1	須恵器 皿	口径(10.8) 底径(5.2) 器高2.9	密	不良	灰白色～褐灰色 (10YR8/2～10YR4/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内外面漆付着	263	72
634	SK184	1	須恵器 皿	口径(14.8) 底径(7.2) 器高3.8	密	不良	灰黄褐色～黒色 (10YR5/2～10Y2/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り後テ		内外面煤付着	263	72
635	SK184	1	須恵器 皿	口径10.4 底径5.0 器高2.4	やや粗	良好	灰白色～淡黄色 (2.5Y8/2～8/4)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り			263	68
636	SK184	1	須恵器 皿	口径(11.4) 底径5.2 器高2.1	密	不良	浅黄褐色 (10YR8/3)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り			263	—
637	SK184	1	須恵器 皿	口径(12.0)	密	不良	灰黄褐色 (10YR6/2)	内外面回転テ		内外綿漆付着	263	72
638	SK184	1	須恵器 皿	口径5.0	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ		外面漆付着、内面の一部に炭素吸着	263	72
639	SK184	1	須恵器 皿	口径6.2	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り			263	—
640	SK184	1	灰釉陶器 碗	口径15.6 底径8.0 器高4.4	密	良好	浅黄褐色と灰黄色 (10YR8/3と2.5Y7/2)	内外面回転テ、底部内面ヘラズリ		底部内面摩耗	263	68
641	SK184	1	灰釉陶器 碗	口径(7.6)	密	不良	明黄褐色 (10YR7/6)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り			263	—
642	SK184	1	灰釉陶器 碗	口径(12.8) 底径6.8 器高3.8	密	良好	浅黄褐色 (10YR8/3)	外面回転テ、底部外面回転糸切り			263	—
643	SK184	1	灰釉陶器 碗	口径6.3	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内面自然釉付着(重ね焼き痕)	263	—
644	SK184	1	灰釉陶器 碗	口径(12.8) 底径(6.8) 器高4.3	密	良好	灰白色～黄灰色 (2.5Y8/2～2.5Y4/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内外面漆付着	263	73
645	SK184	1	灰釉陶器 碗	口径(14.7) 底径(6.8) 器高4.5	密	良好	淡黄色～黄灰色 (2.5Y8/3～2.5Y4/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		部分的に黒褐色に変色、内外面二次焼成痕	263	73
646	SK184	1	灰釉陶器 碗	口径(13.0)	密	良好	黄灰色 (2.5Y5/1)	内外面回転テ		内外面漆付着	263	72
647	SK184	1	灰釉陶器 皿	口径(14.0) 底径(6.0) 器高3.1	密	良好	灰白色 (10YR8/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り、底部内面回転糸切り		底面外面に朱墨痕(転用硯)、内面自然釉付着	263	73
651	SK185 SK239 EE7, EF8	h～k a II	須恵器 平瓶	口径11.0	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面テ及び指テ		外面自然釉付着	264	—
652	SK184 SK185	2 1	須恵器 碗	口径(12.9) 底径5.2 器高3.0	やや粗	不良	黒色 (10YR2/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内外面炭素吸着(黒色土器)	264	72
653	SK185	f	須恵器 皿	口径5.4	密	不良	黒褐色 (2.5Y3/1)	内外面回転テ、底部外面回転糸切り		内外面煤付着	264	72

表 58 土器観察表 (16)

掲載 番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図 番号	図版 番号
654	SK185	f	㊦土師器 皿	底径5.2	密	不良	黒褐色 (2.5Y3/1)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り		内外面及び断面に炭素 吸着	264	72
655	SK185	f・2	灰釉陶器 碗	底径7.0	密	不良	灰白色～黄灰色 (10YR8/2～2.5Y4/1)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り			264	—
656	SK185	f	灰釉陶器 碗	底径(6.6)	密	良好	灰白色～淡黄色 (2.5Y7/1～2.5Y8/3)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り		内外面漆付着	264	72
657	SK185	f	灰釉陶器 碗	底径(6.0)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ		内外面漆付着	264	72
658	SK185	f	灰釉陶器 碗	口径(13.0) 底径6.4 器形3.4	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り		内面自然釉付着、灰釉 (オリープ灰色:2.5GY 6/1)	264	—
659	SK185	f	灰釉陶器 小碗	口径(10.8) 底径(6.1) 器形3.7	密	良好	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り		高台端部に板目痕、灰釉	264	68
660	SK185	f	灰釉陶器 皿	口径14.6 底径7.2 器形3.1	密	良好	灰白色 (7.5Y8/1)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り			264	68
663	SK186	m	土師器 不明(暗文)	—	密	良好	橙色 (5YR6/6)	内外面テ		内面暗文	266	69
664	SK186	h・k	土師器 甕	口径(18.0)	粗	良好	橙色 (7.5YR7/6)	口縁部外面テ及び指サエ、 口縁部内面、体部外面ツ 目、体部内面テ及び指サエ			266	—
665	SK186	h	須恵器 坏	口径(13.5) 底径(8.1) 器高3.6	やや 粗	良好	灰白色～灰黄色 (2.5Y8/1～2.5Y7/2)	内外面回転テ、頂部外面 回転糸切り	在地	体部外面線刻	266	70
666	SK064 SK183 SK184 SK185 SK186 EF5, E16	a d・g・j l e～g・7 f II	須恵器 甕	—	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	頸部内外面回転テ、体部 外面平行ツ目、体部内面 当て具痕	美濃須衛	内外面自然釉付着 美濃須衛	266	—
667	SK186 EF5	h・g・7 II	須恵器 広口壺	底径(9.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り	美濃須衛		266	—
668	SK186	a・b・1	須恵器 壺	底径(11.0)	やや 粗	良好	浅黄色 (7.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り後テ			266	—
669	SK183 SK186	e・1 6	須恵器 長頸壺	底径(5.4)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り後テ	美濃須衛	外面自然釉付着、高台割 がれ	266	—
670	SK186 EF6	c II	須恵器 提瓶	—	やや 粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ	美濃須衛	外面自然釉付着、把手割 がれ	266	—
671	SK186	m	㊦土師器 皿	底径(5.0)	密	不良	黄灰色 (2.5Y4/1)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り			266	72
672	SK186	f	灰釉陶器 碗	底径(8.0)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転テ			266	—
673	SK194	1	灰釉陶器 壺	—	密	良好	灰白色 (5Y8/1)	内外面回転テ		外面自然釉付着	267	—
674	SK200 EG7	a II	須恵器 器台	口径(16.2) 脚径(10.4) 器高7.0	やや 粗	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	内外面回転テ			267	—
675	SK200	a	㊦土師器 碗	底径(5.0)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り			267	72
676	SK200	a	㊦土師器 碗	底径(5.0)	密	不良	黒褐色 (2.5Y3/1)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り		内外面及び断面に炭素 吸着	267	72
677	SK200	a	灰釉陶器 碗	底径(6.0)	密	良好	黄灰色 (2.5Y7/2)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り		底部内面摩耗	267	—
679	SK201	b	㊦土師器 碗	底径(5.2)	密	不良	灰黄褐色 (10YR6/2)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り		内外面漆付着	268	72
680	SK201	a	㊦土師器 碗	底径5.0	密	不良	灰白色～灰黄褐色 (10YR8/1～10YR5/2)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り		内面漆付着	268	72
681	SK201	2	灰釉陶器 碗	口径(12.6) 底径(6.2) 器高4.8	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り			268	—
682	SK201	3	灰釉陶器 碗	底径(6.6)	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り			268	—
685	SK204	a	須恵器 高坏	口径(15.4)	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ			269	—
686	SK204 SK183 ED6, ED7, EC6 EF6 EF7	b・e g II IIIa	須恵器 甕	口径(23.0) 器高(40.4)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	口縁部～頸部内外面回転 テ、体部外面格子状ツ 目、体部内面当て具痕		自然釉付着、丸底	269	67
687	SK204	a・e	須恵器 壺	底径(6.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転テ		底部外面摩耗 外面「又」字状の線刻	269	—
688	SK207 EC7, EC8, ED7 EE7, EF6	a II	須恵器 甕	口径(31.6)	やや 粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	口縁部内外面回転テ	狭投		269	—
689	SK207	a	灰釉陶器 碗	底径(6.8)	密	不良	黒褐色～黄灰色 (2.5Y3/1～2.5Y6/1)	内外面回転テ、底部外面 回転糸切り			269	—

表 59 土器観察表 (17)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
690	SK208	a	須恵器 甕	口径(36.8)	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	内外面回転け	美濃須衛		270	—
692	SK209	a	須恵器 長頸壺	口径(10.8)	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転け		口縁端部外面自然釉付着	271	—
693	SK209 SD12	d a	須恵器 壺	底径(10.4)	やや粗	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		K281と接合	271	—
694	SK209 EJ6	e II	須恵器 壺	底径(13.4)	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け、底部外面未調整(藁・モミガラ痕)			271	—
695	SK209	a	ワカ土師器 碗	口径(17.0)	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転け		内外面煤付着	271	72
696	SK209	e	ワカ土師器 碗	底径(5.6)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け		全体的に被熱し摩滅	271	—
697	SK209	d	ワカ土師器 碗	底径(5.2)	密	不良	浅黄褐色 (10YR8/3)	内外面回転け、底部外面不明		高台剥離、内外面漆付着	271	72
698	SK209	d	ワカ土師器 碗	底径(5.0)	密	不良	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		内外面漆付着	271	72
699	SK209	a	灰釉陶器 碗	口径(12.8)	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転け		灰釉(黄灰色: 2.5Y 5/1)	271	—
700	SK209	c	灰釉陶器 碗	底径(7.0)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け、底部外面回転け後スリ		底部内面摩耗	271	—
701	SK209	c	灰釉陶器 皿	底径6.8	密	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		墨書「大」	271	70
704	SK211	d・e・h	須恵器 甕	—	密	不良	灰白色～淡褐色 (2.5Y8/2～5YR8/3)	頸部内外面回転け、体部外面平行タタ目、体部内面当て具痕			271	—
707	SK232 ST25	a・c e	須恵器 环蓋	口径10.7 器形3.6	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	内外面回転け、頂部外面回転け後切り	美濃須衛		272	—
708	SK232	b	須恵器 横瓶	—	やや粗	良好	黄灰色～にぶい黄色 (2.5Y4/1～2.5Y6/3)	体部内外面回転け後、体部外面タタ目	在地		272	—
709	SK233	a	土師器 甕	口径(15.0)	粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	外面タタ目(8本/20mm)、内面タタ目			273	62
710	SK239	c	須恵器 环	底径(6.5)	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転け(内面工具痕)、底部外面回転け後スリ	猿投	底部外面摩耗、外面「又」字状の線刻	274	70
711	SK239	h	ワカ土師器 碗	口径9.7 底径5.3 器高2.0	密	不良	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	内外面回転け、底部外面回転け後切り			274	68
712	SK239	g	ワカ土師器 碗	底径(5.0)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		底部内外面漆付着	274	72
713	SK239	f	ワカ土師器 碗	底径5.1	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		内外面漆付着	274	72
714	SK239	l・e	ワカ土師器 皿	口径(14.2) 底径(6.7) 器高2.5	密	良好	浅黄褐色 (10YR8/3)	内外面回転け、底部内面回転け後スリ			274	68
715	SK239	a	灰釉陶器 碗	口径(12.9) 底径(6.0) 器高3.4	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		灰釉(灰白色: 2.5Y 7/1)	274	—
716	SK239	h	灰釉陶器 碗	底径(6.0)	密	良好	黄灰色 (2.5Y6/1)	内外面回転け、底部外面回転け後切り	猿投か美濃	内面自然釉付着、灰釉(灰白色: 2.5Y 7/1)	274	—
717	SK239	e	灰釉陶器 碗	底径(7.2)	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転け、底部外面回転け後スリ	猿投か美濃	底部内面重ね焼き痕	274	—
718	SK239	h	灰釉陶器 碗	底径(6.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け、底部外面回転け後スリ後切り	猿投か美濃	灰釉(にぶい黄褐色: 10YR 6/3)	274	—
719	SK239	a	灰釉陶器 碗	底径(7.0)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		底部内面摩耗し朱墨痕(転用硯)	274	73
720	SK239	a	灰釉陶器 碗	—	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		内面朱墨痕(転用硯)、内面自然釉付着	274	—
721	SK239	g	灰釉陶器 輪花碗	口径(12.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	内外面回転け	猿投か美濃	灰釉(灰白色: 2.5Y 8/1)	274	—
722	SK239	g	灰釉陶器 皿	口径(12.4) 底径(5.4) 器高2.2	密	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転け	猿投か美濃	内面自然釉付着、高台疊付に粗穀と思われる圧痕	274	—
723	SK239	e	灰釉陶器 段皿	口径(13.0)	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転け	猿投か美濃	底部内面重ね焼き痕、内面自然釉付着	274	—
724	SK239	a	灰釉陶器 折縁皿	口径(11.0)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転け	猿投か美濃	灰釉(オリーブ色: 7.5Y 6/3)	274	—
755	SK243	a	灰釉陶器 碗	底径(7.2)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面回転け後切り			277	—
758	SK262	c	ワカ土師器 碗	底径5.0	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		内面煤付着	278	72
759	SK262	b・c	ワカ土師器 碗	底径(6.0)	密	不良	黒褐色 (2.5Y3/1)	内外面回転け、底部外面回転け後切り			278	—
760	SK262	c	ワカ土師器 碗	底径(6.0)	密	不良	灰白色 (10YR8/1)	内外面回転け、底部外面回転け後切り		外面煤及び漆付着	278	—
761	SK262	a	灰釉陶器 碗	口径15.0 底径8.0 器高4.4	密	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転け、底部外面回転け後スリ	猿投か美濃	自然釉付着(重ね焼き痕)、灰釉(灰白色: 2.5Y 8/1)	278	68

表 60 土器観察表 (18)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
762	SK262	c	灰釉陶器碗	口径(14.2) 底径(6.8) 器高4.6	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け、底部外面回転糸切り			278	—
763	SK262	b	灰釉陶器碗	口径(13.2) 底径(6.2) 器高3.1	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	内外面回転け、底部外面回転糸切り		口縁端部内外面漆付着	278	—
764	SK262	c	灰釉陶器碗	口径(15.0)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	内外面回転け		内面煤付着	278	72
765	SK262	a	灰釉陶器多口瓶	口径5.5	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転け		子口頸部	278	63
767	SK405	7・m	弥生土器装飾壺か	—	蜜	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	外面不明、頸部内面指刺、体部内面け		外面剥離	279	57
768	SK405	o	土師器甕	—	蜜	良好	橙色 (7.5YR7/6)	外面板け、ハケ目、頸部内面指刺、体部内面け			279	55
769	SK438 BS13 BT14	底 I II	須恵器碗	口径(14.2) 底径(6.4)	密	良好	灰色 (7.5Y5/1)	口縁部内外面回転け、底部外面回転糸切り後け	在地		280	58
770	SK485	b	須恵器坏	底径(8.5)	密	良好	灰白色(5Y7/1)	内外面回転け	美濃須衛	IV期第3小期か	281	77
771	SK485	a	須恵器碗	—	密	良好	灰白色(5Y7/2)	内外面回転け	美濃須衛	体部外面に墨書判読不能	281	71
772	SK485	b	須恵器盤	口径13.6 底径7.4 器高3.0	密	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	内外面回転け		底部内面摩耗、内外面に自然袖付着、底部外面に墨書「大令」	281	74
773	SK485	b	須恵器盤	口径(14.4) 底径(7.4) 器高(3.1)	密	良好	灰色(5Y4/1)	内外面回転け	K90窯式～053窯式併行		281	74
774	SK485	b	須恵器甕	底径(20.0)	密	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	体部外面平行カク痕、底部内外面回転け			281	77
775	SK485	a	灰釉陶器碗	底径(6.8)	密	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転け	美濃須衛053窯式併行	底部外面に墨書「万」、高台基部に板状の圧着痕	281	71
776	SK485	a	灰釉陶器碗	底径(8.2)	密	良好	灰色(N5)	内外面回転け、体部外面回転ハケスリ	010窯式併行	内面に自然袖付着、重ね焼痕	281	77
777	SK485	1	灰釉陶器皿	口径(14.7) 底径7.4 器高2.4	密	良好	灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転け	東濃光ヶ丘1号窯式	灰釉:7.5Y7/2灰白色、底部内面摩耗、底部内面に自然袖付着、底部外面に墨書「令」	281	71
778	SK485	1	灰釉陶器皿	口径(19.2) 底径(9.0) 器高3.3	密	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	内外面回転け	在地053窯式併行	灰釉:5Y8/3淡黄色、底部内面摩耗、内面に自然袖付着、灰釉漬けがけ	281	77
779	SK506	1	須恵器碗	底径(8.6)	密	良好	暗灰黄色(2.5Y5/2)	内外面回転け、底部外面回転ハケスリ	010窯式か	底部内面摩耗、内面に自然袖付着	282	77
780	SK506	b	灰釉陶器碗	口径14.0 底径7.6 器高4.5	密	不良	黄灰色(2.5Y6/2)	内外面回転け	美濃須衛053窯式併行	灰釉:2.5Y7/3淡黄色、底部内面摩耗、内面に墨付着	282	75
781	SK511	b	灰釉陶器碗	口径(17.0) 底径7.4 器高4.9	密	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	内外面回転け	美濃須衛053窯式併行	底部内面摩耗、内外面に自然袖付着、底部外面に墨書「万富」	283	71・75
782	SK511	a b	灰釉陶器碗	口径(13.6) 底径(8.2) 器高4.1	密	不良	にぶい黄色(2.5Y6/3)	内外面回転け	在地H72窯式併行	無釉、底部外面に記号と思われる墨書、判読不能	283	71・75
783	SK511	b c	灰釉陶器碗	口径13.0 底径6.5 器高4.1	密	良好	灰白色(2.5YR7/1)	内外面回転け	東濃虎浜山1号窯式	無釉、内面に自然袖付着	283	75
784	SK511	a b	灰釉陶器碗	口径(15.4) 底径(7.4) 器高5.2	密	良好	灰白色(2.5YR7/1)	内外面回転け	美濃須衛	無釉、底部内面摩耗、内外面に自然袖付着、底部外面に墨書「寺」か	283	71・75
785	SK511	a b d	灰釉陶器碗	口径(14.0) 底径(7.6) 器高4.5	密	良好	灰白色(5Y7/1)	内外面回転け	美濃須衛053窯式併行	無釉、内外面に自然袖付着	283	75
786	SK511	a	灰釉陶器碗	底径(6.2)	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転け、底部外面板目圧痕	美濃須衛H72窯式併行	無釉、底部内面摩耗、高台下部に植物圧痕	283	77
787	SK511	d 1	灰釉陶器碗	底径5.6	密	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	内外面回転け	東濃光ヶ丘1号窯式	灰釉:2.5Y8/3淡黄色、底部内面摩耗、外面に墨痕、内面に自然袖付着	283	77
788	SK511	1	灰釉陶器皿	底径(6.4)	密	良好	灰白色(5Y7/2)	内外面回転け	美濃須衛H72窯式併行	底部内面摩耗、内面に墨付着、転用硯か	283	77
791	SK514	a	灰釉陶器皿	口径13.0 底径7.0 器高2.4	密	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	内外面回転け	在地、H72窯式併行	無釉、内外面に自然袖付着	284	75
792	SK516	1	灰釉陶器碗	口径15.8 底径(8.2) 器高4.3	密	良好	灰白色(2.5YR7/1)	内外面回転け	美濃須衛053窯式併行	底部内面摩耗、底部外面に墨書「益」	284	71・75
793	SK517	1	土師器碗	底径4.9	密	不良	浅黄橙色(7.5YR8/4)	内外面回転け、底部外面回転糸切り痕			285	50

表 61 土器観察表 (19)

掲載 番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図 番号	図版 番号
794	SK517	1	ワカ土師器 碗	底径5.2	密	不良	浅黄橙色(7.5YR8/3)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗	285	50
795	SK517	1	ワカ土師器 碗	底径5.0	密	不良	灰白色(10YR8/2)	底部外面回転系切痕、底部 内面回転痕		底部内面摩耗	285	50
796	SK517	1	ワカ土師器 碗	底径5.2	やや 粗	不良	灰白色(2.5Y8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕			285	50
797	SK517	1	ワカ土師器 碗	底径4.8	密	不良	浅黄橙色(10YR8/3)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕			285	50
798	SK517	1	ワカ土師器 碗	底径5.2	密	不良	浅黄橙色(10YR8/3)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、内外面に 煤付着	285	50
799	SK517	1	ワカ土師器 碗	底径4.8	密	不良	灰白色(2.5Y8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕			285	50
800	SK517	1	ワカ土師器 碗	底径5.5	密	不良	灰白色(7.5YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗	285	50
801	SK517	1	ワカ土師器 碗	底径(6.0)	密	不良	灰白色(10YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		内外面に煤付着	285	50
802	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(11.5) 底径(5.2) 器高2.7	密	不良	灰白色(10YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、内外面に 煤付着	285	50
803	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(12.5) 底径5.8 器高2.6	密	良好	灰白色(2.5Y8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、内外面に 煤付着	285	50
804	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(12.6) 底径(5.0) 器高2.8	密	不良	浅黄橙色(10YR8/3)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、内外面に 煤付着	285	50
805	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(11.8) 底径4.4 器高2.9	密	不良	浅黄橙色(10YR8/3)	口縁部～体部外面摩滅不 明、口縁部～底部内面回転 痕、底部外面回転系切痕		底部内面摩耗	285	50
806	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径12.0 底径5.0 器高2.9	密	不良	灰白色(10YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		内外面に煤付着	285	50・ 74
807	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(12.4) 底径(5.4) 器高2.7	やや 粗	不良	灰白色(10YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		口縁部内外面に煤付着	285	50
808	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(13.1) 底径(5.2) 器高2.7	密	不良	灰白色(10YR8/2)	口縁部～体部外面摩滅不 明、口縁部～底部内面回転 痕、底部外面回転系切痕		底部内面摩耗、内外面に 煤付着	285	50
809	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(12.4) 底径5.2 器高2.8	密	不良	灰白色(7.5YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、内外面に 煤付着	285	50
810	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(12.9) 底径5.8 器高3.2	密	不良	灰白色(10YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、内外面に 煤付着	285	50・ 74
811	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(13.2) 底径5.6 器高2.7	密	不良	淡黄色(2.5Y8/3)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、口縁部内 外面に煤付着	285	50
812	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(12.4) 底径4.6 器高2.7	密	良好	灰白色(7.5YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、内外面に 煤付着	285	50
813	SK517	1	ワカ土師器 碗	口径(15.6) 底径6.4 器高3.7	密	良好	灰白色(10YR8/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕		底部内面摩耗、内面に煤 付着	285	50
814	SK517 排土	1 -	灰釉陶器 碗	口径(12.4) 底径6.6 器高3.9	密	良好	灰白色(5Y8/1)	内外面回転痕	東濃 大原2号 窯式	無釉、底部内面摩耗、底部 外面に墨書「寺」	285	71
815	SK517	1	灰釉陶器 碗	口径12.3 底径6.2 器高3.7	密	不良	灰黄色(2.5YR7/2)	内外面回転痕、底部外面 回転系切痕	美濃須衛 H72窯式併 行	無釉、底部内面摩耗、底部 内面に墨痕(転用碗)、高 台基部に植物の圧痕あり	285	75
816	SK517	1	灰釉陶器 碗	口径13.5 底径6.7 器高4.1	密	良好	灰白色(5Y8/2)	内外面回転痕	美濃須衛 053窯式併 行	無釉	285	75
817	SK517	1	灰釉陶器 碗	口径(16.0)	密	良好	灰黄色(2.5YR7/2)	内外面回転痕	美濃須衛 H72窯式併 行	無釉、内外面に自然釉、外 面に煤付着	285	78
818	SK517	1	灰釉陶器 碗	底径7.0	密	不良	浅黄橙色(10YR8/3)	内外面回転痕	在地、H72 窯式併行	無釉	285	78
819	SK517	1	灰釉陶器 皿	底径(7.6)	密	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	底部外面回転系切痕、底部 内面回転痕	美濃須衛 H72窯式併 行	無釉	285	78
821	SK557	1	須恵器 盤	底径(7.5)	密	良好	灰色(7.5Y5/1)	内外面回転痕	美濃須衛	V期第1小期か、重ね焼痕	286	78
822	SK589	a	灰釉陶器 碗	口径(12.0) 底径(5.6) 器高3.5	密	良好	黄灰色(2.5Y7/2)	内外面回転痕	美濃須衛 H72窯式併 行	無釉、底部内面摩耗	286	78
825	SK644	1	ワカ土師器 皿	口径(13.0) 底径(5.8) 器高2.3	やや 粗	不良	灰白色(2.5Y8/2)	内外面回転痕、底部外面回転 系切痕		口縁部内外面に煤付着	287	78

表 62 土器観察表 (20)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
826	SK650	2	縄文土器 深鉢	—	やや粗	不良	褐色 (7.5YR4/3)	体部外面縄文(LR)・沈線、 体部内面ナテ	中期後葉		287	—
827	SK659	a	須恵器 坏身	口径(9.0)	密	良好	灰色(5Y6/1)	内外面回転ナテ	美濃須衛	III期前半併行	288	50・78
828	SK659	a・1・3	須恵器 横瓶	—	やや粗	良好	灰黄色(2.5Y6/2)	体部外面平行ナテ痕、体部 内面同心円当て具痕			288	50・67
829	SK669	a	須恵器 甕	—	密	良好	灰黄色(2.5Y6/2)	体部外面平行ナテ痕、体部 内面同心円当て具痕		外面に自然袖付着	289	78
832	SK708	1	縄文土器 深鉢	—	やや粗	不良	にぶい黄橙色(10YR7/2)	内外面ナテ、体部外面爪形 文・沈線	北陸系、中 期中葉		290	—
833	SK759	h	縄文土器 深鉢	—	密	良好	にぶい褐色(7.5YR6/3)	内外面ナテ、体部外面山形 文	沢式	押型文、山形文、胎土に 黒鉛含む	290	—
834	SK759	1	縄文土器 深鉢	—	やや粗	良好	灰色(5Y4/1)	体部外面山形文、体部内面 ナテ	早期前葉	押型文、山形文	290	—
835	SK759	h	縄文土器 深鉢	—	やや粗	不良	褐色(7.5YR4/3)	体部外面押型文、体部内面 ナテ	早期前葉	押型文、ポジティブ楕円 文	290	—
836	SK759	j	縄文土器 深鉢	—	やや粗	不良	にぶい黄橙色(10YR6/4)	口縁部内外面縄文(RL)			290	—
839	SK767	a	灰釉陶器 碗	口径12.1 底径7.1 器高4.0	密	良好	灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転ナテ	美濃須衛 053窯式併 行	灰釉:2.5Y6/3にぶい黄 色、底部内面摩耗、灰釉 漬がけ	291	75
841	SK808	a	灰釉陶器 碗	底径(9.0)	密	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	内外面回転ナテ	美濃須衛 H72窯式併 行	灰釉:7.5YR7/3にぶい橙 色、底部内面摩耗、底部 内外面に煤付着	292	78
842	SK808	a	灰釉陶器 碗	底径(8.0)	密	良好	灰白色(10YR8/1)	内外面回転ナテ	美濃須衛 H72窯式併 行	無釉、底部内面摩耗、内 外面に煤がわずかに付 着	292	78
843	SK811	a	須恵器 坏	底径(9.0)	密	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナテ	美濃須衛	IV期第1小期、底部内面 摩耗	292	78
844	EE7	II	土師器 甕	口径(16.0)	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	口縁部外面ナテ、体部外面 ハケ目(8本/14mm)、口縁部～ 体部内面ハケ目(7本/13mm)		外面煤付着	293	—
845	BJ6	II	土師器 甕	口径(14.4)	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	不明			293	55
846	EM7	I	土師器 甕	—	やや粗	不良	にぶい黄橙色(10YR6/4)	体部内外面ナテ			293	79
847	EE11	II	須恵器 坏	口径10.2 底径6.7 器高3.6	密	良好	灰色 (5Y5/1)	内外面回転ナテ、頂部外面 回転ハケ切り後ナテ		頂部内面「×」字状線 刻	293	70
848	EC6	II	須恵器 坏	口径11.4 底径8.8 器高4.3	密	良好	不明	内外面回転ナテ、底部外面 回転ハケ切り			293	—
849	ED10	II	須恵器 坏	底径(15.0)	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転ナテ、底部外面 回転ハケナズリ			293	—
850	ED11	II	須恵器 蓋	口径14.0 器高3.5	密	良好	不明	内外面回転ナテ、頂部外面 回転ハケナズリ			293	—
851	ED13	II	須恵器 蓋	—	やや粗	良好	灰色 (10Y6/1)	内外面回転ナテ、頂部外面 回転ハケナズリ			293	—
852	EE8	II	須恵器 蓋	口径15.7 器高3.2	密	良好	灰黄色 (2.5Y6/2)	内外面回転ナテ、頂部外面 回転ハケナズリ、頂部内面ナテ		外面自然袖付着	293	—
853	ED7	II	須恵器 蓋	口径(15.2)	密	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	内面回転ナテ、頂部外面回 転ハケナズリ		金属器写し	293	—
854	EE7	II	須恵器 脚台盤	口径(15.0) 底径(9.0) 器高3.3	やや粗	良好	灰色 (5Y5/1)	内外面回転ナテ			293	—
855	EF6	II	須恵器 盤	底径7.4	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転ナテ、底部外面 回転ハケ切り			293	—
856	EF7	IIIa	須恵器 盤	底径(13.4)	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	外面回転ナテ、底部外面回 転ハケ切り		底部内面摩耗	293	—
857	ED7	II	須恵器 無蓋高坏	口径(11.8) 脚径(9.0) 器高7.5	密	良好	灰白色 (5Y8/2)	内外面回転ナテ			293	—
858	ED7	II	須恵器 無蓋高坏	口径(11.2) 脚径7.6 器高5.2	密	良好	淡黄色 (5Y8/3)	内外面回転ナテ			293	—
859	EE12	II	須恵器 鉢	口径(10.0) 底径6.4 器高4.9	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	内外面回転ナテ、底部外面 回転ハケ切り		内外面自然袖付着	293	—
860	ED6	II	須恵器 鉢	口径(20.1) 底径(11.6) 器高14.0	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転ナテ、底部外面 指ナテ			293	—
861	EE13	II	須恵器 甕	—	やや粗	良好	灰色～にぶい黄色 (5Y5/1～2.5Y6/3)	内外面回転ナテ、頸部内面 しぼり痕		外面自然袖付着	293	—
862	EC9	II	須恵器 短頸壺	口径6.3	密	良好	浅黄色、灰白色、黒色 (7.5Y7/3, 10YR8/1, 10YR 2/1)	内外面回転ナテ	猿投		294	—
863	EC6, EC7, ED6	II	須恵器 短頸壺	口径(10.0)	密	良好	灰白色 (5Y8/1)	内外面回転ナテ		頸部外面2条沈線	294	—

表 63 土器観察表 (21)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
864	EE13	II	須恵器短頸壺	口径12.8	密	良好	灰白色 (7.5Y7/1)	内外面回転テ、体部外面下部格子状ヲ目	北陸か		294	—
865	EE8, EE11	II	須恵器短頸壺	底径12.0	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ、底部外面テ		底部に内面から打ち欠いた穿孔	294	—
866	EF8	II	須恵器壺	底径(8.4)	密	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	体部内外面回転テ後、体下部～底部外面平行ヲ目、内面当て具	北陸か		294	—
867	BS19	II	須恵器有耳壺	口径(14.2)	蜜	良好	灰白色 (7.5Y7/1)	内外面回転テ		外面自然袖付着	294	58
868	EE10	II	須恵器多口瓶	口径(6.1)	密	良好	浅黄色 (5Y7/3)	内外面回転テ、接合部内外面ヘカズリ		小型口頸部	294	63
869	BT14	II	須恵器甕	口径(12.4)	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	口縁部～頸部内外面回転テ、体部外面格子状ヲ目、体部内面当て具痕	美濃須衛	外面自然袖付着	295	—
870	BT15	I・II	須恵器甕	—	蜜	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	体部外面平行ヲ目、口縁部～頸部内外面回転テ、体部内面当て具痕ヲ消し	在地	内面のナゲ消し痕明瞭	295	58
871	EE8	II	ワカ土師器碗	底径(5.2)	密	不良	灰白色 (10YR8/2)	内外面回転テ、底部外面回転キ切り			295	—
872	EE7	II	ワカ土師器碗	口径(12.8) 底径(6.2) 器高3.0	密	不良	浅黄色 (2.5Y7/4)	内外面回転テ、底部内面回転ヘカズリ		底部内外面墨書「大」	295	70・72
873	BL13	II	灰釉陶器碗	口径(14.0) 底径(7.6) 器高3.4	蜜	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	内外面回転テ		高台に棒状のものによる押圧痕	295	58
874	BS10, BS11, BR11	II	灰釉陶器碗	口径12.2 底径6.4 器高3.7	蜜	良好	灰白色 (7.5Y7/1)	底部外面回転キ切り(テ消し)、口縁部～体部内外面及び底部内面回転テ			295	54
875	試験5tr 攪乱	—	灰釉陶器碗	口径(12.0) 底径(6.2) 器高3.5	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ	美濃須衛 053～H72窯式併行	無釉、底部内面摩耗、底部内外面に墨付着(転用碗)	295	75
876	EF10	II	灰釉陶器碗	底径7.1	密	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	内外面回転テ、底部外面回転ヘカズリ		内外面漆付着	295	72
877	EE5	II	灰釉陶器碗類	底径(9.6)	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	内外面回転テ、底部外面回転ヘカズリ		祭祀品	295	64
878	EF9	IIIa	灰釉陶器碗	口径(11.4) 底径(6.0) 器高3.2	密	良好	灰白色 (5Y7/1)	内外面回転テ、底部外面回転キ切り(板目痕)		底部内面摩耗し朱墨痕あり(転用碗)、内面自然袖付着(重ね焼き痕)	295	73
879	ED7	II	灰釉陶器碗	口径(14.8) 底径6.0 器高3.5	密	良好	明黄褐色 (2.5Y7/6)	内外面回転テ、底部外面回転キ切り		内外面漆付着、焼きひずみ	295	72
880	攪乱	—	灰釉陶器皿	口径(13.6) 底径(7.8) 器高(2.5)	密	不良	浅黄色 (2.5Y3/7)	内外面回転テ	美濃須衛 H72窯式併行	無釉、底部内面摩耗	296	79
881	EN3	IIIa	灰釉陶器皿	底径(6.5)	密	良好	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面回転テ	美濃須衛 H72窯式併行	無釉	296	79
882	EL6	IIIa	灰釉陶器皿	底径(7.4)	密	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	内外面回転テ	美濃須衛 H72窯式併行	無釉、底部内面摩耗、底部外面に墨書、判読不能	296	71
883	断ち割り トレンヂ	c	灰釉陶器長頸壺	口径(15.0)	蜜	良好	灰白色 (7.5Y7/1)	内外面回転テ		内外面灰釉施釉(灰オリープ7.5Y6/2)	296	58
884	BQ15	II	灰釉陶器小瓶	口径(5.0) 底径4.8 器高10.6	蜜	良好	灰白色 (7.5Y7/1)	口縁部～体部内外面回転テ、体部外面下部回転ヘカズリ、底部外面回転キ切り	猿投か	灰釉(灰オリープ色7.5Y5/2)ハケ塗り	296	54
885	EF5	II	灰釉陶器瓶類	—	密	良好	暗黄褐色 (2.5Y5/2)	内外面回転テ		内外面及び断面漆付着	296	73
886	BM8, B010	II	埴埴	口径(4.0) 底径1.6 器高5.1	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	外面手づくね、内面不明		鉄滓状の付着物	296	58
899	SK716	1	須恵器碗	底径(7.6)	密	不良	橙色 (7.5YR8/6)	内外面回転テ		底部内面摩耗	299	78
900	SK716	a	古瀬戸平碗	—	密	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	内外面回転テ	古瀬戸後I期～後II期	灰釉:7.5Y6/3オリープ黄色、体部外面摩耗	299	78
901	SK716	a	古瀬戸天目茶碗	口径(12.0)	密	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	内外面回転テ	古瀬戸後III期	鉄釉:5YR4/3にぶい赤褐色	299	78
902	SK716	f	大窯天目茶碗	底径(4.4)	密	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	内外面回転テ	大窯第4段階前半	鉄釉:7.5Y3/4暗褐色	299	78
903	SK716	f	大窯天目茶碗	口径(12.1)	密	良好	浅黄褐色 (10YR8/3)	内外面回転テ	大窯第4段階前半	鉄釉:5YR4/3にぶい赤褐色	299	78
904	SK716	c	古瀬戸花瓶	底径(8.0)	密	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	内外面回転テ、底部外面回転キ切痕	古瀬戸後III期～後IV期古段階	古瀬戸花瓶皿類、灰釉:10YR7/2にぶい黄褐色	299	78
908	SK724	1	古瀬戸卸目付大皿	口径(30.0) 底径(13.6) 器高(8.4)	密	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	内外面回転テ、体部外面回転ヘカズリ	古瀬戸後IV期古段階	灰釉:5Y7/3浅黄色、底部内面摩耗、内面に墨付着、転用碗か	300	78
909	EG8	II	山茶碗	—	粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	内外面回転テ、底部外面回転キ切り	尾張型第5型式		300	73

表 64 土器観察表 (22)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)	胎土	焼成	色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
910	EI9	IIIa	珠洲かすり鉢	—	粗	良好	褐灰色 (10YR4/1)	内外面回転け*		内面播り目、摩耗	300	73
911	DF17	II	常滑広口壺	口径(36.0)	密	良好	黄灰色(2.5Y4/1)	内外面回転け*	常滑6b型式	内外面に自然釉附着	300	79
912	EI8	IIIa	近世陶器灯明皿	口径(9.6)	密	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	内外面回転け*		灰釉(灰白色：2.5Y2/8)	300	73
913	EG6	II	近世陶器筒状容器蓋	口径6.8器高3.0	密	良好	淡黄色 (2.5Y8/4)	内外面回転け*		内面煤附着、長石釉(灰白色10Y8/1)	300	73

表 65 土製品観察表 (1)

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ (cm)			重さ (g)	胎土	焼成	胎土色調	成形・調整	産地等	備考	挿図番号	図版番号
				長さ	幅	厚さ									
39	SZ12-周溝	I	土偶か	(5.0)	(3.0)	(2.6)	31.7	やや粗	良好	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	脚部内面け*、脚部外面沈線け*、底面未調整		3条の沈線	31	55
230	SI09	a	丸瓦	(6.0)	(7.4)	2.1	121.8	やや粗	不良	灰白色~灰白色 (2.5Y8/1~10YR8/2)	凸面け*、凹面布目状圧痕	在地か		147	80
370	SI25	c	平瓦	(10.1)	(11.5)	(2.2)	221.5	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面格子目状叩き痕、凹面布目状圧痕	在地か		195	80
371	SI25	e	熨斗瓦	(17.5)	(9.3)	(2.8)	372.2	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面け*、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か		195	81
372	SI25	I	螺旋	1.3	1.4	1.3	2.0	やや粗	不良	黄灰色 (2.5Y6/1)	手握ね成形、はがれ痕			195	—
395	SI26	j	丸瓦	(6.2)	(10.5)	2.3	98.4	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	凸面け*、凹面布目状圧痕	在地か		199	80
396	SI26	c	丸瓦	(4.4)	(9.5)	2.1	183.0	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面け*、凹面布目状圧痕、側面へり切り	在地か		199	80
397	SI26	e	熨斗瓦	(6.5)	(12.2)	2.6	283.3	やや粗	良好	黄色 (2.5Y8/6)	凸面け*、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か		199	81
398	SI26	6	熨斗瓦	(6.0)	(5.0)	(2.1)	48.6	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面け*、凹面け*、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か	側縁に沈線状の圧痕	199	81
399	SI26	f	熨斗瓦	(8.8)	(6.5)	(2.3)	134.1	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面け*、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か		199	81
400	SI26	d	熨斗瓦	(5.2)	(8.9)	(2.3)	163.9	やや粗	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	凸面け*、凹面側縁へり切り	在地か	縄目痕	199	81
418	SI28	4	丸瓦	(21.0)	(10.0)	(1.9)	494.6	密	不良	灰白色 (2.5Y7/1)	凸面け*、凹面け*、側面へり切り	在地か		203	82
481	SB04-PO2	a	平瓦	(11.0)	(16.4)	(2.1)	589.4	密	良好	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	凸面格子目状叩き痕(側縁ケズリ)、凹面布目状圧痕(側縁ケズリ)、側面へり切り	在地か		231	80
483	SB04-P05	a	丸瓦	(3.4)	(3.2)	(1.3)	7.2	やや粗	不良	明黄褐色 (10YR7/6)	不明	在地か		231	—
497	SB04-基壇	I	平瓦	(11.0)	(8.6)	(2.4)	246.9	密	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面け*、凹面布目状圧痕、側面へり切り	在地か	赤褐色の付着物	232	80
512	EG9	IIIa	土製品螺旋	1.4	1.4	1.4	2.5	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	手握ね成形、はがれ痕		SB04周辺出土遺物	233	—
513	EG10	IIIa	丸瓦	(27.3)	(12.3)	(2.6)	882.5	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面・凹面調整不明、側面へり切り、玉縁ケズリ出し	在地か	SB04周辺出土遺物	233	—
514	EG7	IIIa	平瓦	(8.7)	(8.4)	(1.7)	156.7	やや粗	良好	暗灰色 (N3)	凸面け*、凹面布目状圧痕	在地か	SB04周辺出土遺物	233	80
515	EH10 EG7, EG9	II IIIa	平瓦	(12.2)	(19.1)	(1.9)	415.8	密	良好	橙色~浅黄褐色 (7.5YR7/6~7.5YR8/4)	凸面格子目状叩き痕、凹面布目状圧痕、側面へり切り	在地か	SB04周辺出土遺物	234	80
516	EI9	I II	平瓦	(12.8)	(12.3)	(1.8)	221.0	密	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	凸面縄目状叩き痕、凹面布目状圧痕	在地か	SB04周辺出土遺物	234	80
517	EG9	IIIa	熨斗瓦	(6.2)	(15.2)	(2.7)	319.9	やや粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	凸面調整不明、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か	SB04周辺出土遺物	234	—
518	EF9, EG9	IIIa	熨斗瓦	37.6	13.2	2.6	1998.3	やや粗	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	凸面格子目状叩き痕け* 消し、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か	SB04周辺出土遺物、縄目痕及び縄掛け痕	234	82
519	EG9	IIIa	熨斗瓦	34.0	12.9	2.5	1487.2	やや粗	良好	灰白色 (10YR8/2)	凸面け*、凹面け*、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か	SB04周辺出土遺物	234	82
520	EG9	IIIa	熨斗瓦	(23.5)	14.5	2.7	1507.7	やや粗	良好	灰白色~浅黄色 (2.5Y7/1~2.5Y7/4)	凸面調整不明、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か	SB04周辺出土遺物	234	82
628	SK183 EG10	d IIIa	丸瓦	(17.2)	(10.0)	2.0	468.2	やや粗	不良	灰色 (5Y5/1)	凸面け*、凹面け*、側面へり切り	在地か		261	82
648	SK184	I	塑像片	(4.4)	(3.7)	(0.7)		粗	良好	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	外面け*、内面剥離			263	—
702	SK209	e	丸瓦	(4.6)	(6.0)	2.2	64.8	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/2)	凸面け*、凹面布目状圧痕	在地か		271	80
725	SK239	b	丸瓦	26.7	10.8	1.8	819.4	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面け*、凹面け*、側面へり切り	在地か		275	82
726	SK239	I	熨斗瓦	34.9	12.1	3.3	1695.1	粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面け*、凹面側縁へり切り、側面へり切り	在地か		275	81

表 66 土製品観察表 (2)

掲載 番号	出土 位置	層位	器種	大きさ (cm)			重さ (g)	胎土	焼成	胎土色調	成形・調整	産地等	備考	挿図 番号	図版 番号
				長さ	幅	厚さ									
727	SK239	b	熨斗瓦	(27.1)	(13.3)	3.0	1312.9	やや粗	良好	灰白色 (10YR8/1~N7/0)	凸面テラ、凹面テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		275	—
728	SK239	1	熨斗瓦	(26.4)	12.0	2.5	1114.9	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面テラ、凹面テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		275	81
729	SK239	d	熨斗瓦	(21.8)	(15.4)	2.8	1260.3	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		275	81
730	SK239	1	熨斗瓦	(20.6)	(12.4)	2.7	819.6	やや粗	良好	浅黄色 (2.5Y7/3)	凸面テラ、凹面テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		275	—
731	SK239	1	熨斗瓦	(19.7)	12.4	2.2	828.6	やや粗	良好	灰白色 5Y (8/1)	凸面テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		276	—
732	SK239	1	熨斗瓦	(16.5)	12.4	2.5	738.1	やや粗	良好	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	凸面タキテラ消し、凹面テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		276	81
733	SK239	1	熨斗瓦	(14.7)	13.0	2.7	799.4	やや粗	良好	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	凸面テラ、凹面布目状圧痕、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		276	81
734	SK239	1	熨斗瓦	(14.1)	11.7	2.4	567.7	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y7/1)	凸面テラ、凹面布目状圧痕、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		276	—
735	SK239	c	熨斗瓦	(10.5)	(13.0)	(2.3)	347.7	やや粗	良好	灰白色~淡黄色 (2.5Y8/1~2.5Y8/3)	凸面テラ、凹面不明、側面ヘラ切り	在地か		276	—
736	SK239	1	熨斗瓦	(13.3)	(11.6)	2.4	360.4	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	凸面テラ、凹面板テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		276	—
737	SK239	1	熨斗瓦	(7.8)	12.7	2.3	327.3	やや粗	良好	灰白色 (2.5Y8/2)	凸面テラ、凹面板テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か		276	—
887	EF9	IIIa	丸瓦	29.7	13.0	2.2	1291.0	やや粗	不良	灰白色 (2.5Y8/1)	凸面テラ、凹面調整不明、側面ヘラ切り、玉縁テラ出し	在地か		296	82
888	EF8, EF9	IIIa	丸瓦	32.3	7.8	2.4	922.3	やや粗	不良	灰黄色 (2.5Y7/2)	凸面テラ、凹面調整不明、側面ヘラ切り、玉縁テラ出し	在地か		296	82
889	EF9	IIIa	軒丸瓦	(5.7)	(10.6)	(2.6)	96.4	やや粗	不良	淡黄色~黄灰色 (2.5Y8/4~2.5Y4/1)	瓦当面不明、瓦当裏面はがれ痕及び指オサエ	在地か	瓦当部	296	82
890	EF9, EG9, EG10	IIIa	熨斗瓦	(28.8)	13.4	2.4	1462.1	やや粗	良好	にぶい黄色~にぶい橙色 (2.5Y6/4~7.5YR6/4)	凸面テラ、凹面側縁ヘラ切り、側面ヘラ切り	在地か	SB04周辺出土遺物	297	82

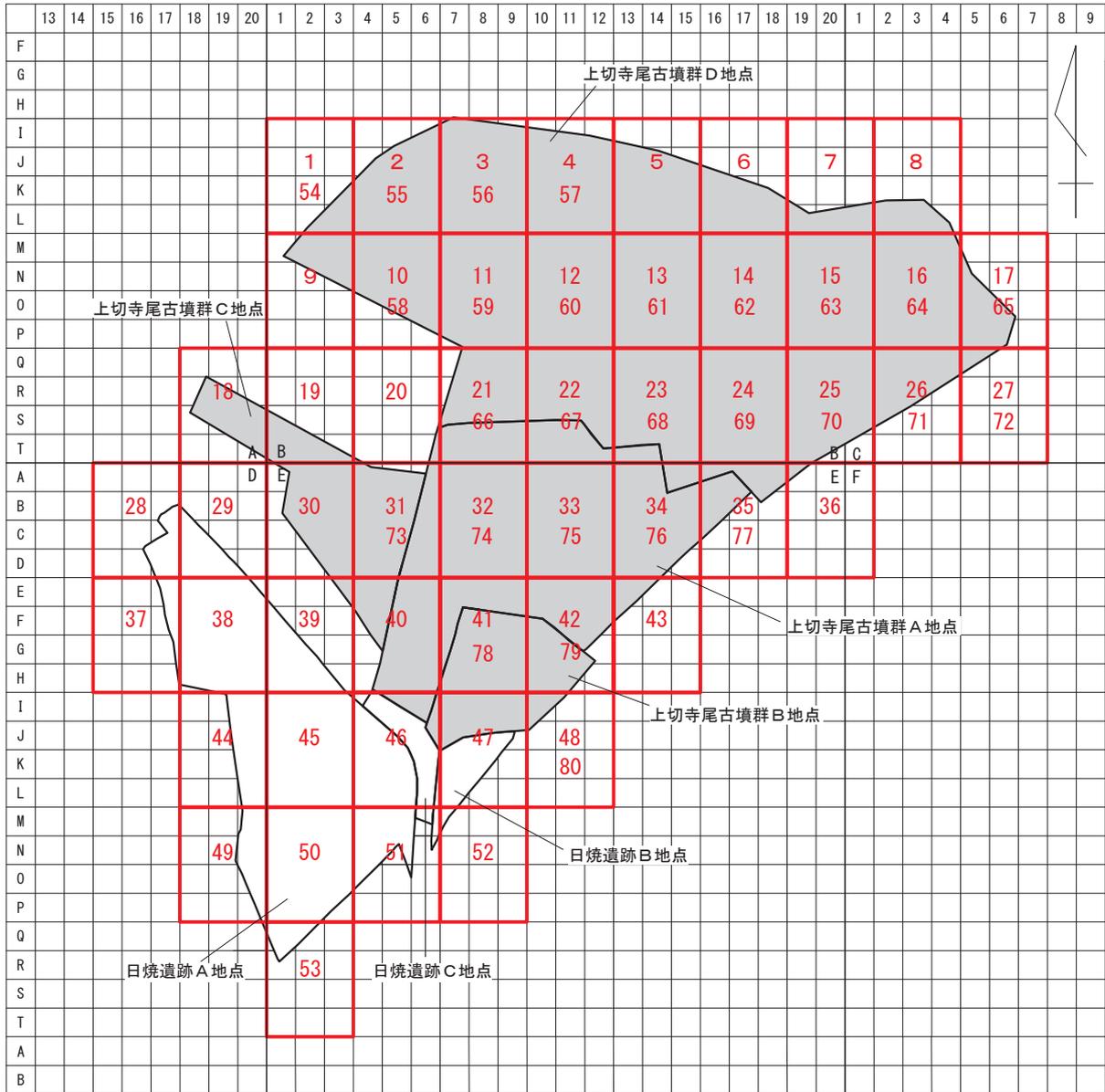
表 67 石器・石製品一覧表 (1)

掲載 番号	出土位置	層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考	挿図 番号	図版 番号
6	SZ01-周溝	b	石錘	9.3	5.8	2.3	192.0	凝灰岩		13	83
7	SZ01-周溝	b	石錘	9.5	5.9	2.5	193.0	安山岩		13	83
24	SZ08-周溝	2	石錘	7.6	6.0	2.2	14.3	安山岩		25	83
30	SZ10-周溝	d	石錘	9.1	5.0	2.6	163.0	緑色片岩		28	83
36	SZ11-墳丘	a	石匙	(6.8)	1.5	0.9	8.0	下呂石	先端欠損	29	83
45	SZ15-周溝	1	砥石	5.1	3.8	0.9	18.8	流紋岩		36	56
53	SZ16	1	スクレイパー	4.2	3.9	0.8	16.1	チャート		39	56
63	SZ23	-	スクレイパー	3.9	2.8	0.9	8.9	チャート		53	56
77	SZ24	-	石匙	(2.2)	(2.0)	(0.8)	3.7	チャート		56	56
95	SZ38-主体部⑤	g	管玉	1.2	0.2	0.2	0.1	緑色凝灰岩	片面穿孔か 孔径0.1cm	83	52
100	SZ44	-	磨石・蔽石	11.4	4.3	2.9	227.0	流紋岩		95	56
114	SI31	-	スクレイパー	8.3	5.3	0.9	32.8	凝灰岩		107	56
115	SI31	-	磨石	(11.3)	(6.9)	(7.3)	655.8	花崗閃緑岩		107	56
118	SI38-P01	d	打製石斧	(8.7)	5.8	(1.1)	54.1	片岩		110	84
124	SL02	2	磨石	(10.3)	(7.1)	(3.5)	372.8	流紋岩		111	84
133	SK382	g	磨石・蔽石	15.4	6.2	4.7	509.1	流紋岩		115	56
134	SK387	1	石鏃	(2.7)	(1.3)	0.45	1.3	下呂石		116	56
137	SK598	e	打欠石錘	8.8	6.1	2.5	193.5	流紋岩		117	84
155	BT11	II	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	下呂石		119	—
156	E16	II	石鏃	2.2	1.5	0.4	1.0	下呂石		119	—
157	BL17	II	スクレイパー	2.3	1.7	0.3	1.5	チャート		119	56
158	EK7	III	スクレイパー	(4.5)	(3.3)	1.0	13.4	チャート		119	85
159	EF8	II	打製石斧	(10.2)	5.5	1.4	10.0	安山岩	基部欠損	119	—
160	BL7	IIb	打製石斧	11.4	6.4	2.8	211.8	砂岩		119	56
161	BL17	II	磨製石斧	(12.2)	7.7	(4.0)	463.7	凝灰岩		119	56
162	B017	II	磨製石斧	(11.4)	(3.2)	3.2	353.7	砂岩		119	56
163	BJ5	IIIb	石核	8.1	3.6	1.5	39.1	下呂石		120	56
164	E110	IIIa	打欠石錘	6.4	5.3	1.6	64.0	安山岩	SB04周辺出土遺物	120	—
165	排土	-	打欠石錘	8.1	6.4	2.5	187.5	流紋岩		120	85
166	EH9	IIIa	RF	(4.1)	1.4	0.5	2.9	チャート	SB04周辺出土遺物	120	—
167	試掘トレンチ	d	MF	5.2	5.1	1.4	29.2	下呂石		120	56
168	BJ6	IIIb	磨石	8.4	7.5	4.2	160.2	流紋岩		120	—
169	CP6	-	磨石	10.7	6.7	10.0	640.1	流紋岩		120	56
170	EM6	II	磨石	(8.0)	6.4	4.1	297.7	砂岩		120	85
177	ST03	a	石匙	(1.8)	(1.7)	(4.5)	1.0	チャート	ツمامミ状の突起のみ残存	123	83
196	SI03	q	石包丁	(11.1)	4.8	0.8	5.3	泥岩	穿孔3箇所 一部欠損	135	83
201	SI04	f	磨石	(15.1)	(8.8)	(3.6)	646.0	安山岩	欠損、被熱	137	83
231	SI09	c	磨石	(7.5)	(6.8)	4.0	342.0	安山岩	欠損、被熱	147	83
245	SI10	b	石鏃	(1.9)	(1.7)	(0.4)	1.0	チャート	先端部及び基部欠損	149	83



表 70 金属製品一覧表（2）

掲載番号	出土位置	層位	製品名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	材質	備考	挿図番号	図版番号
535	EH9	Ⅲa	釘	7.8	1.5	0.6	11.5	鉄	SB4周辺出土遺物	236	87
536	EG11	Ⅲa	釘	6.6	0.9	0.5	6.2	鉄	SB4周辺出土遺物	236	87
537	EG9	Ⅲa	釘	4.4	1.2	0.7	5.8	鉄	SB4周辺出土遺物	236	87
538	EG7	Ⅲa	釘	4.7	0.8	0.7	7.6	鉄	SB4周辺出土遺物	236	87
539	EH9	Ⅲa	釘	4.6	0.8	0.5	3.6	鉄	SB4周辺出土遺物	236	87
540	EH10	Ⅱ	釘	11.2	0.7	0.7	13.7	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
541	EG8	Ⅲa	釘	9.1	0.9	0.6	11.5	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
542	EG10	Ⅲa	釘	3.9	0.7	0.4	2.4	鉄	SB4周辺出土遺物	236	87
543	EH11	Ⅲa	釘	5.1	1.3	0.6	6.2	鉄	SB4周辺出土遺物	236	87
544	EH9	Ⅱ	釘	4.5	0.7	0.6	4.5	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
545	EH11	Ⅲa	釘	5.2	1.0	0.7	4.5	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
546	EH10	Ⅲa	釘	3.3	0.5	0.4	2.0	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
547	EH11	Ⅲa	釘	6.1	0.7	0.5	5.1	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
548	EG9	Ⅲa	釘	6.1	0.5	0.5	3.6	鉄	SB4周辺出土遺物	236	87
549	EH11	Ⅲa	釘	4.8	0.7	0.5	5.0	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
550	EH11	Ⅲa	釘	3.9	0.8	0.6	3.4	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
551	EG9	Ⅲa	釘	3.1	0.5	0.5	1.3	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
552	EH11	Ⅲa	釘	1.8	0.6	0.5	1.1	鉄	SB4周辺出土遺物	236	88
554	SB08-P06	1	銭貨	2.4	2.3	0.2	1.7	銅	開元通寶(初铸年621年)	240	90
563	SA06-P03	b	釘	3.4	0.6	0.5	2.6	鉄		247	90
589	SU01	1	釘	4.0	0.6	0.4	1.2	鉄		249	90
611	SK009	f	釘	6.2	1.1	0.5	4.4	鉄		256	89
612	SK029	a	釘	10.4	1.1	0.8	22.7	鉄		257	90
650	SK184	1	釘	17.2	1.1	0.7	42.3	鉄		263	90
661	SK185	f	釘	4.5	0.5	0.4	4.1	鉄		264	90
662	SK185	f	釘	5.7	0.6	0.4	4.8	鉄		264	90
678	SK200	3	釘	11.2	1.1	0.8	17.7	鉄		267	90
683	SK201	2	釘	11.8	1.3	0.5	15.9	鉄		268	90
684	SK201	1	釘	8.1	0.9	0.5	8.0	鉄		268	90
691	SK208	b	刀子	7.5	1.0	0.4	3.9	鉄		270	90
703	SK209	a	釘	5.1	0.8	0.6	4.0	鉄		271	90
706	SK211	d	釘	4.2	0.6	0.5	1.7	鉄		271	90
739	SK239	d	釘	9.2	1.4	0.7	14.2	鉄		274	89
740	SK239	f	釘	10.9	0.9	0.6	19.0	鉄		274	89
741	SK239	b	釘	6.6	1.1	0.6	2.9	鉄		274	89
742	SK239	f	釘	4.3	1.2	0.4	1.8	鉄		274	89
743	SK239	c	釘	6.9	0.6	0.5	7.1	鉄		274	89
744	SK239	d	釘	4.7	0.7	0.7	4.6	鉄		274	89
745	SK239	a	釘	5.1	1.3	0.4	4.4	鉄		274	89
746	SK239	d	釘	5.0	1.8	0.7	4.8	鉄		274	89
747	SK239	f	釘	8.3	0.8	0.6	9.3	鉄		274	89
748	SK239	d	釘	7.1	0.9	0.5	7.6	鉄		274	89
749	SK239	a	釘	5.7	0.6	0.5	4.9	鉄		274	89
750	SK239	d	釘	3.3	0.5	0.4	1.7	鉄		274	89
751	SK239	c	釘	2.2	0.8	0.5	1.5	鉄		274	89
752	SK239	a	釘	2.4	2.7	0.7	2.7	鉄		274	89
753	SK239	e	釘	2.5	1.2	0.8	2.0	鉄		274	—
754	SK239	e	釘	2.5	1.1	0.7	2.8	鉄		274	89
756	SK243	b	釘	2.0	0.9	0.2	0.7	鉄		277	90
757	SK243	a	釘	3.1	0.8	0.5	2.9	鉄		277	90
824	SK622	I	釘	10.4	1.4	0.8	21.1	鉄		287	89
891	EB7	Ⅱ	耳環	1.7	1.9	0.6	5.6	銅		297	90
892	CM3	Ⅱ	銭貨	2.4	2.4	0.1	2.0	銅	熙寧元寶(初铸年1068年)	297	90
893	EF12	Ⅱ	U字形鍬鋤先	19.6	18.9	1.8	193.8	鉄		297	90
894	EJ8	Ⅲa	環状鉄製品	3.5	3.9	0.4	17.7	鉄		297	87
895	EJ7	Ⅲa	釘	4.1	1.0	0.7	5.5	鉄		297	88
896	EM5	Ⅲa	釘	11.9	1.6	0.7	16.9	鉄		297	87
897	EM5	Ⅲa	釘	10.1	1.5	0.7	17.1	鉄		297	87
898	CO1	Ⅱ	釘	2.8	0.6	0.3	3.1	鉄		297	87
917	CN3	Ⅱ	煙管吸口	4.8	0.9	0.2	3.2	銅		301	90
918	BO12	Ⅱ	銭貨	2.4	2.3	0.1	2.3	銅	寛永通宝	301	90



※54～80は墳丘下面（破線で囲んだ範囲）を示す。

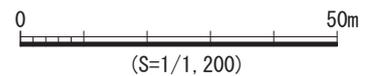


図 302 発掘区全域図 割付図

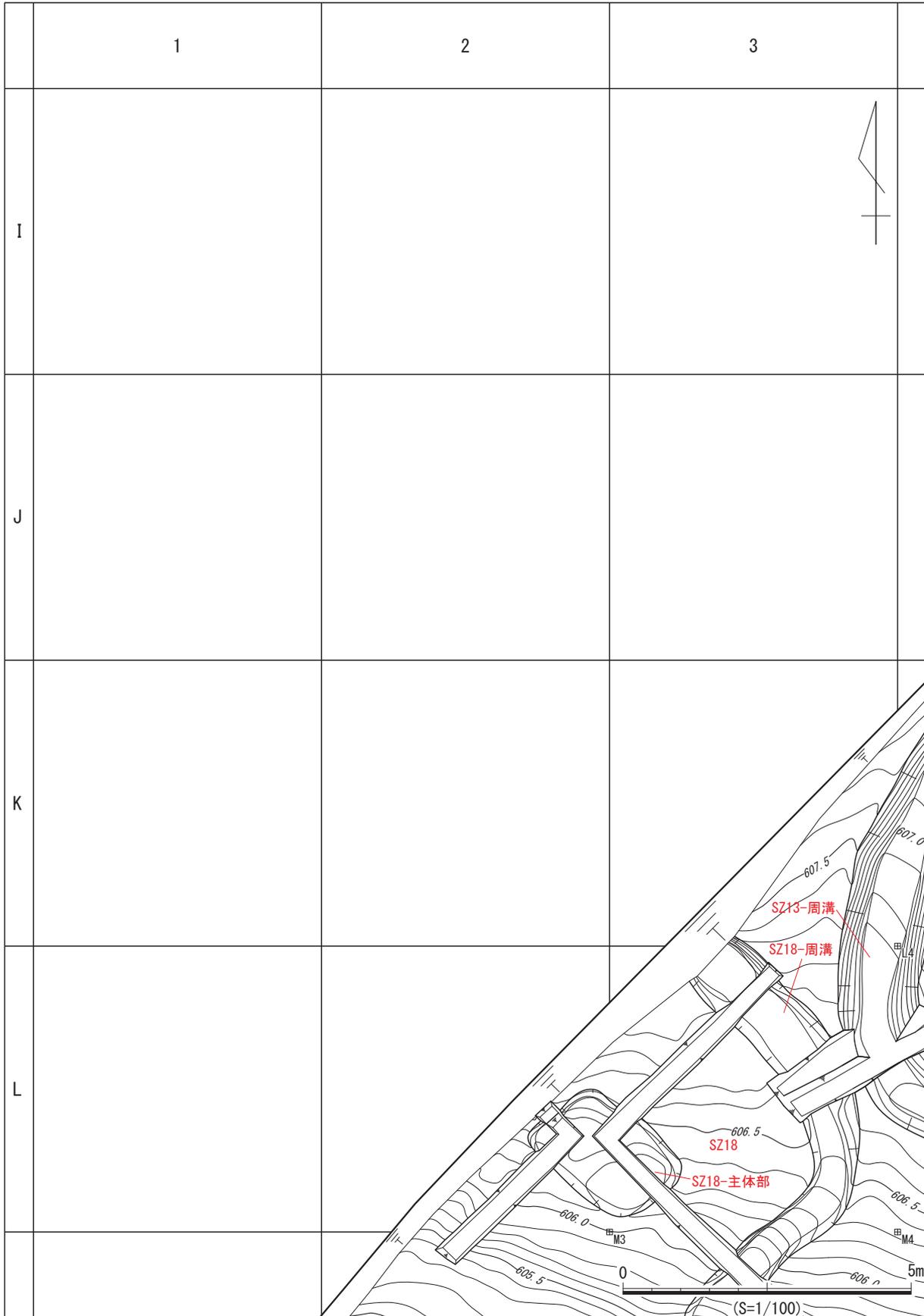


图 303 発掘区全域図 分割図 (1)

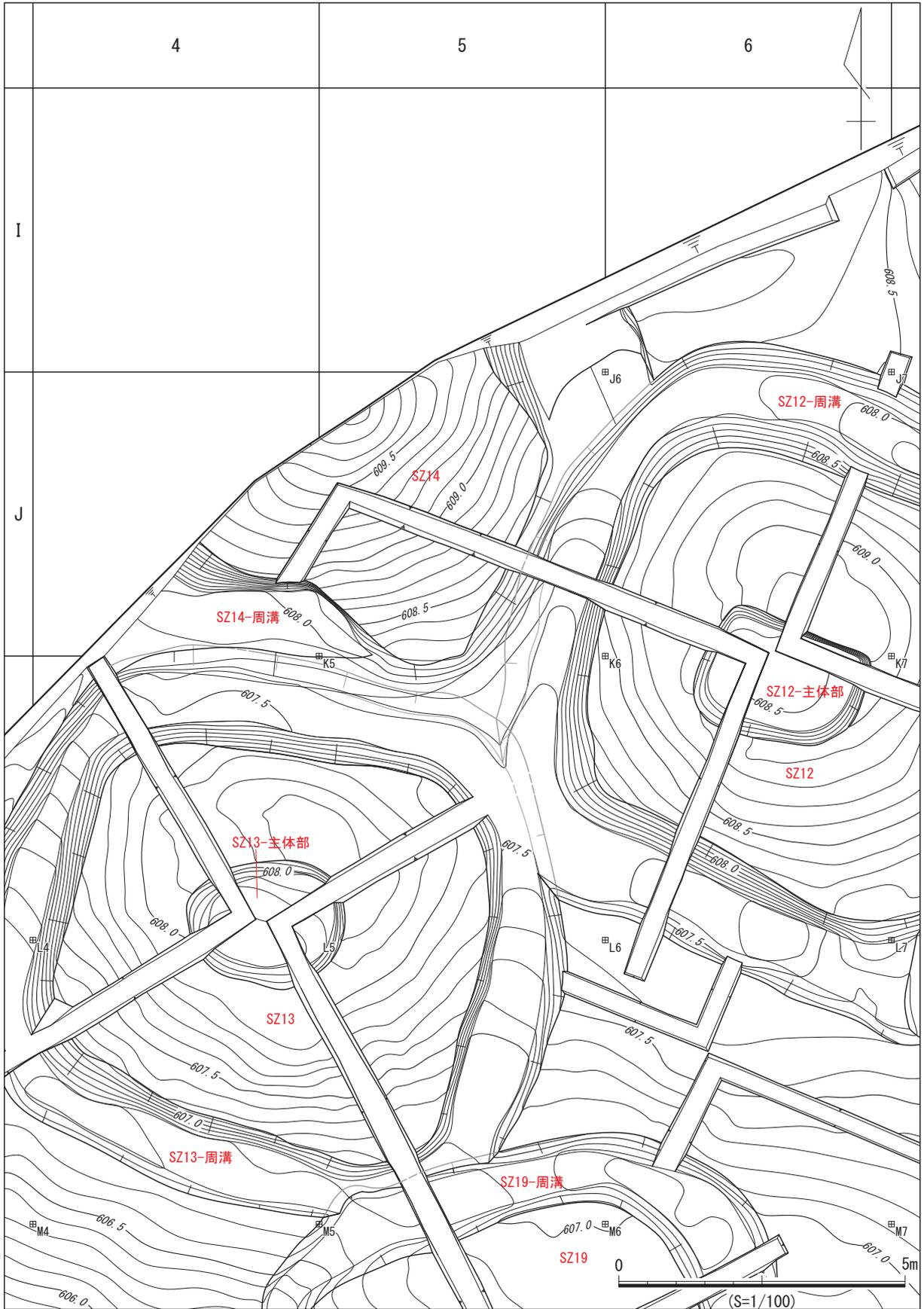


图 304 发掘区全域图 分割图 (2)

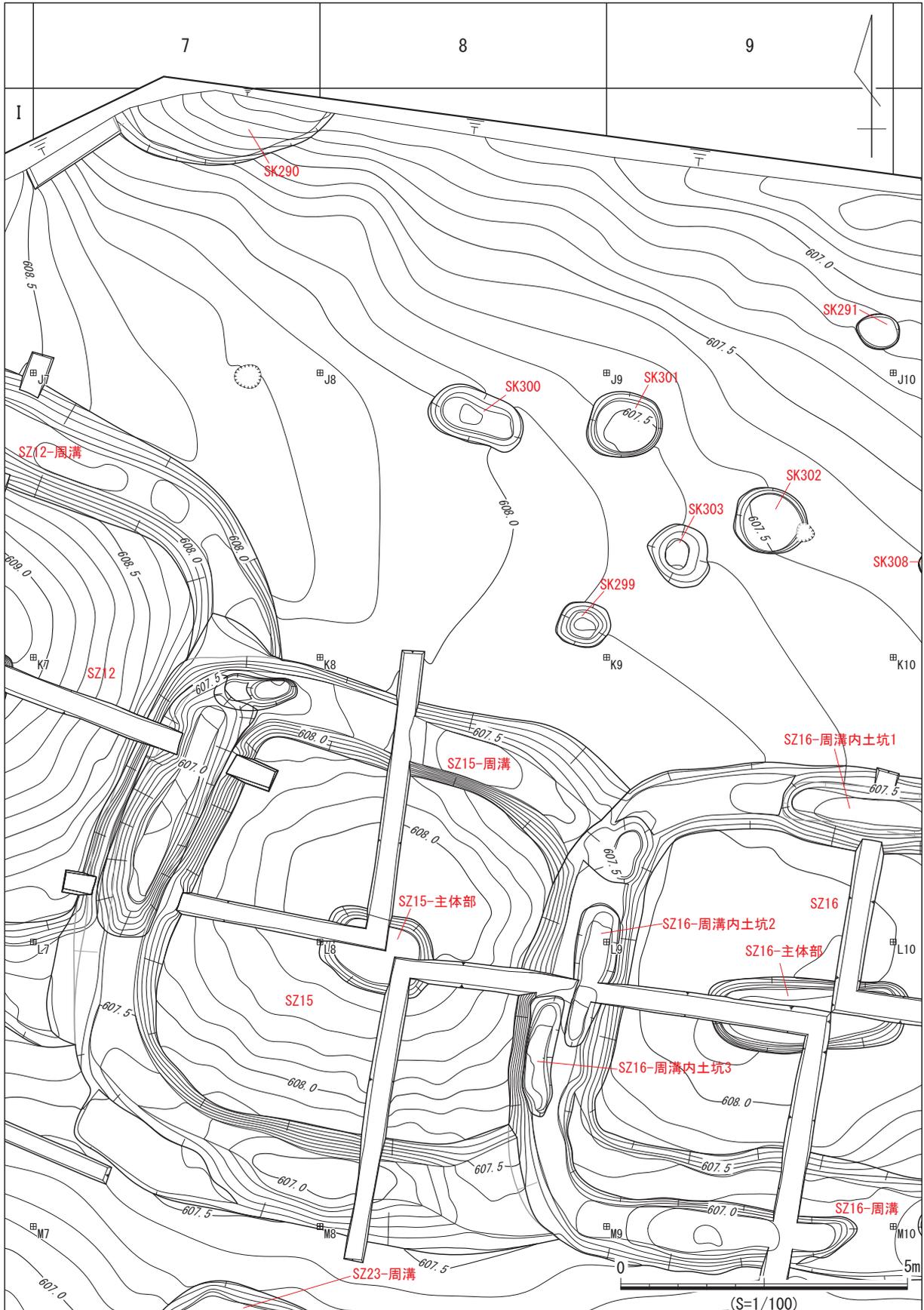


图 305 発掘区全域図 分割図 (3)

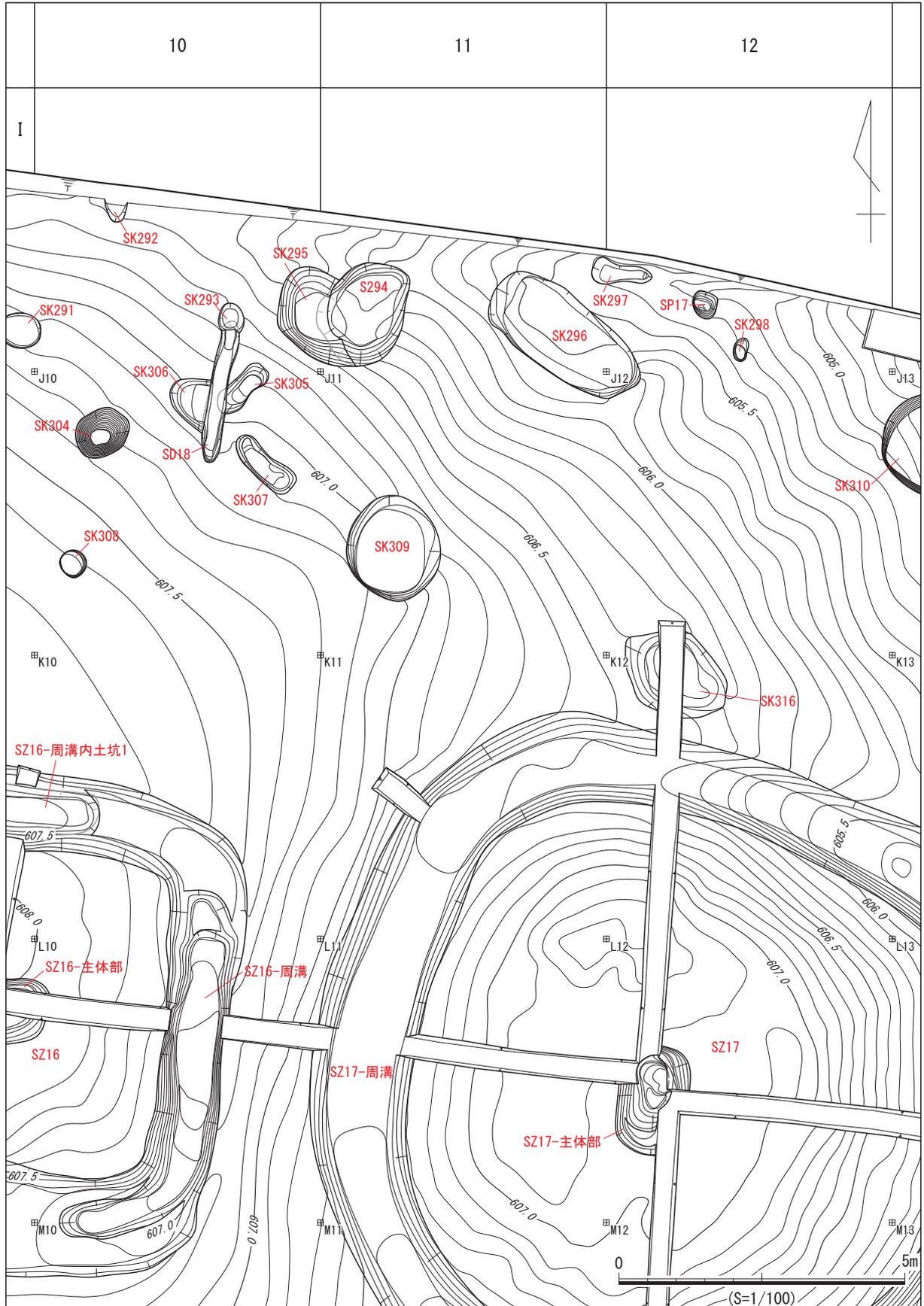


图 306 发掘区全域图 分割图 (4)

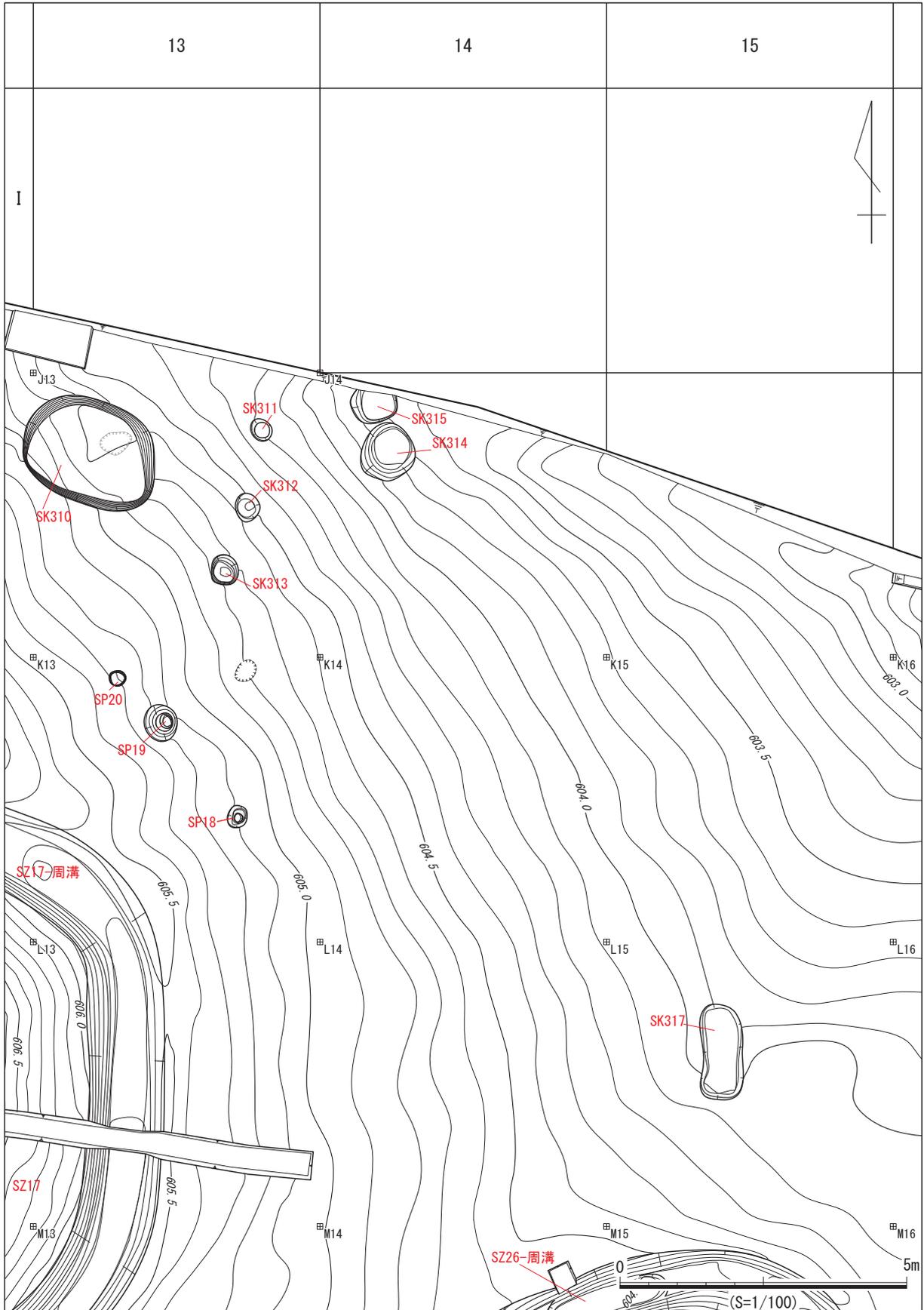


图 307 発掘区全域図 分割図 (5)

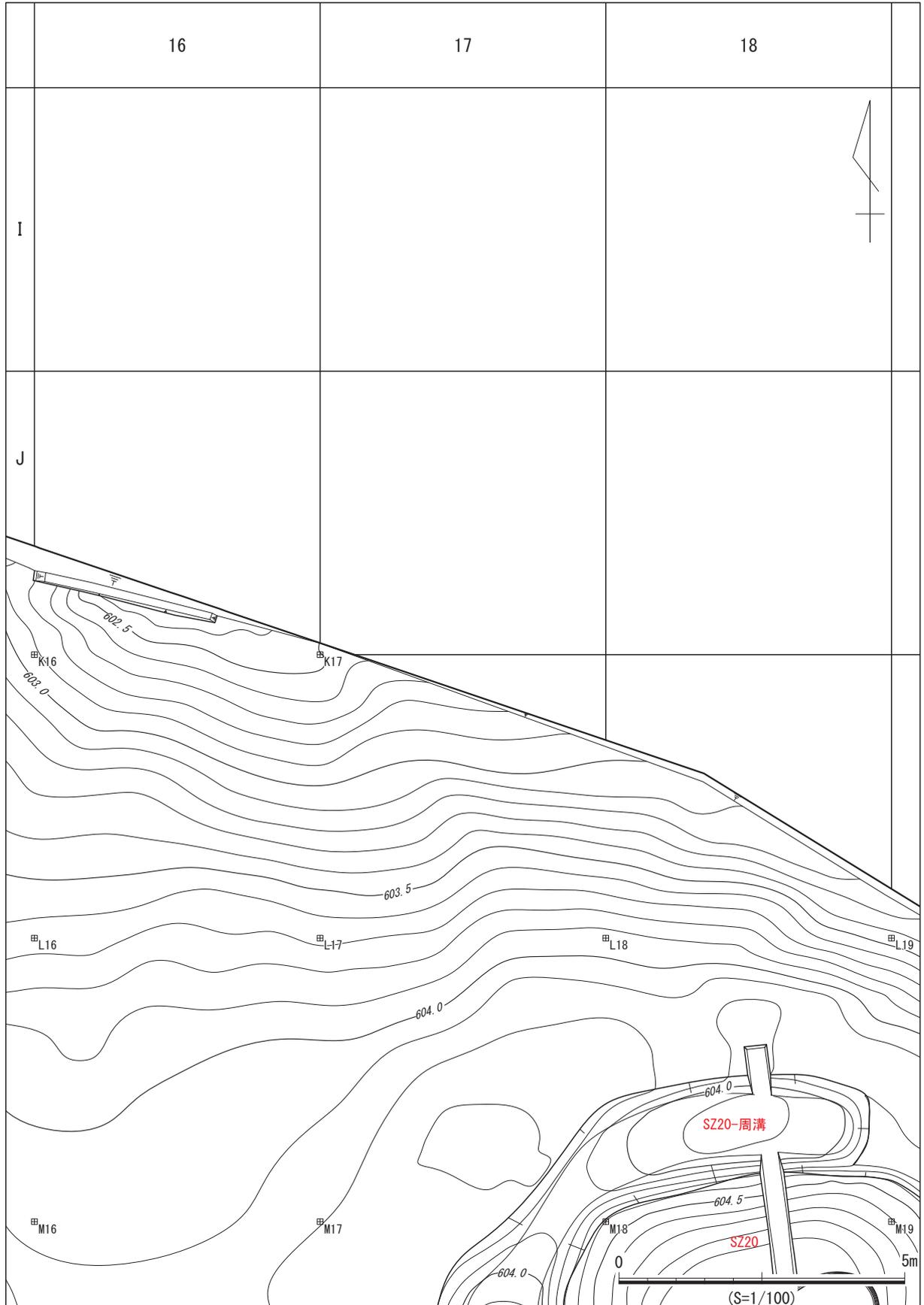


图 308 尧掘区全域图 分割图 (6)

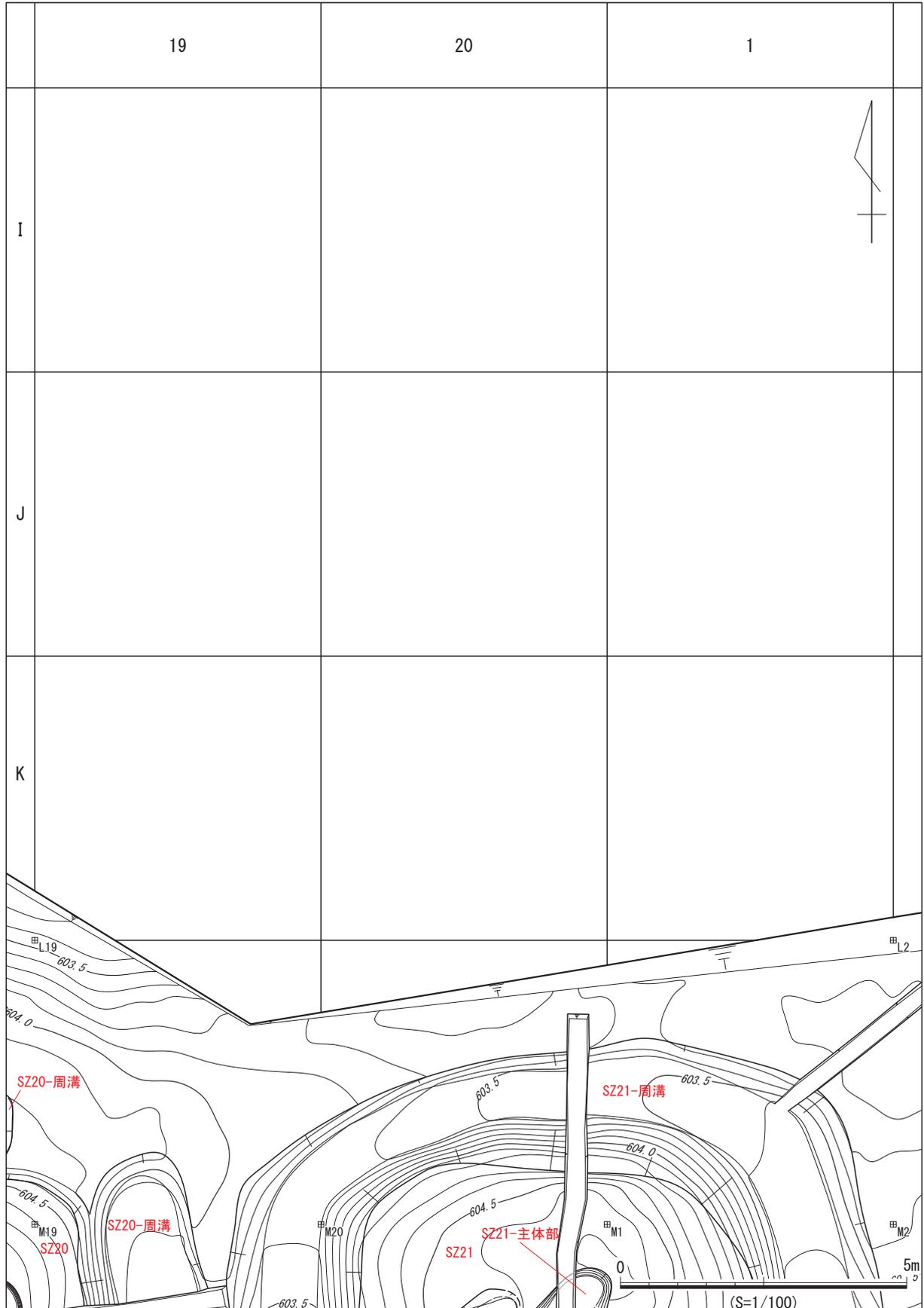


图 309 発掘区全域図 分割図 (7)

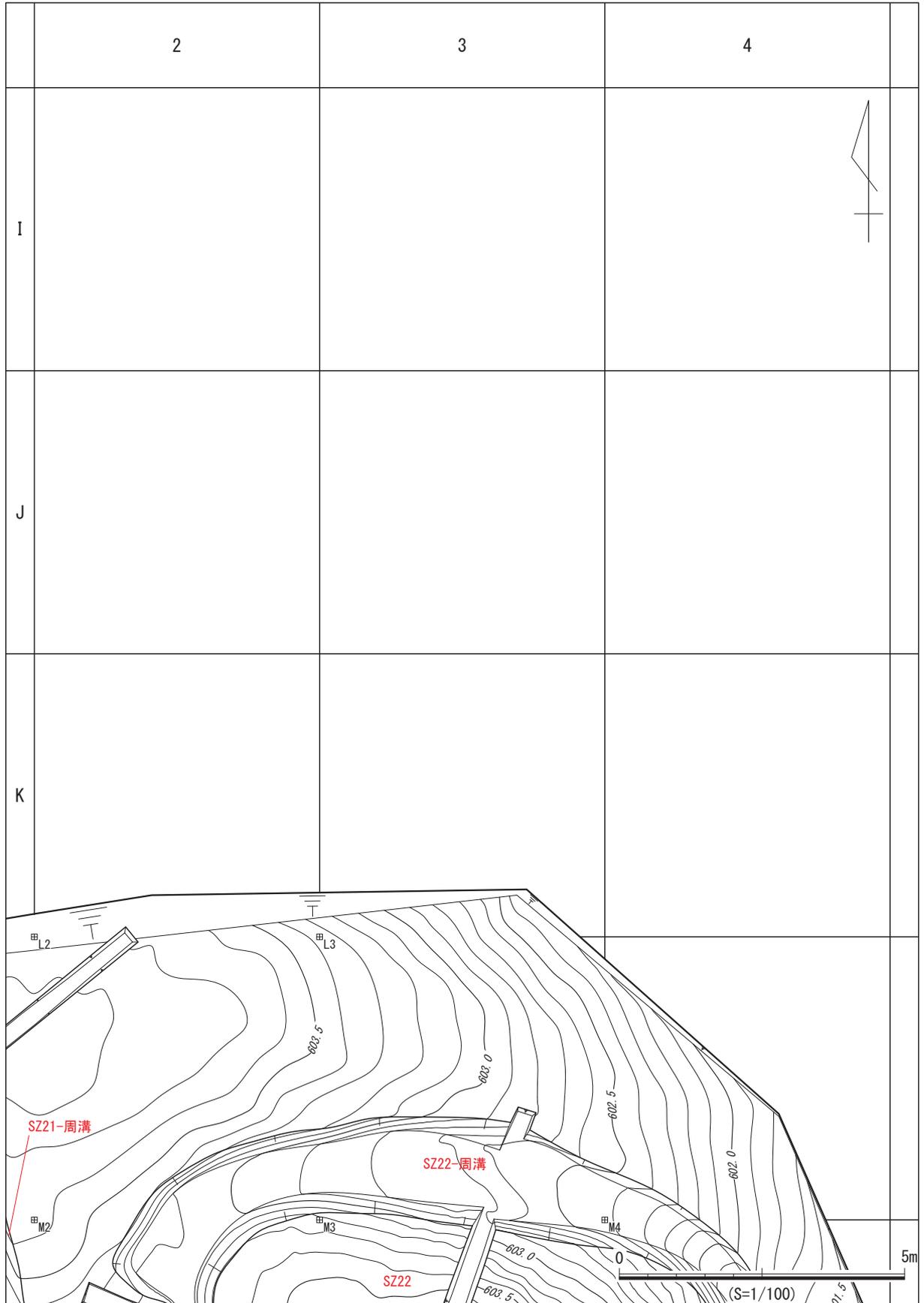


图 310 尧掘区全域图 分割图 (8)



图 311 発掘区全域図 分割図 (9)

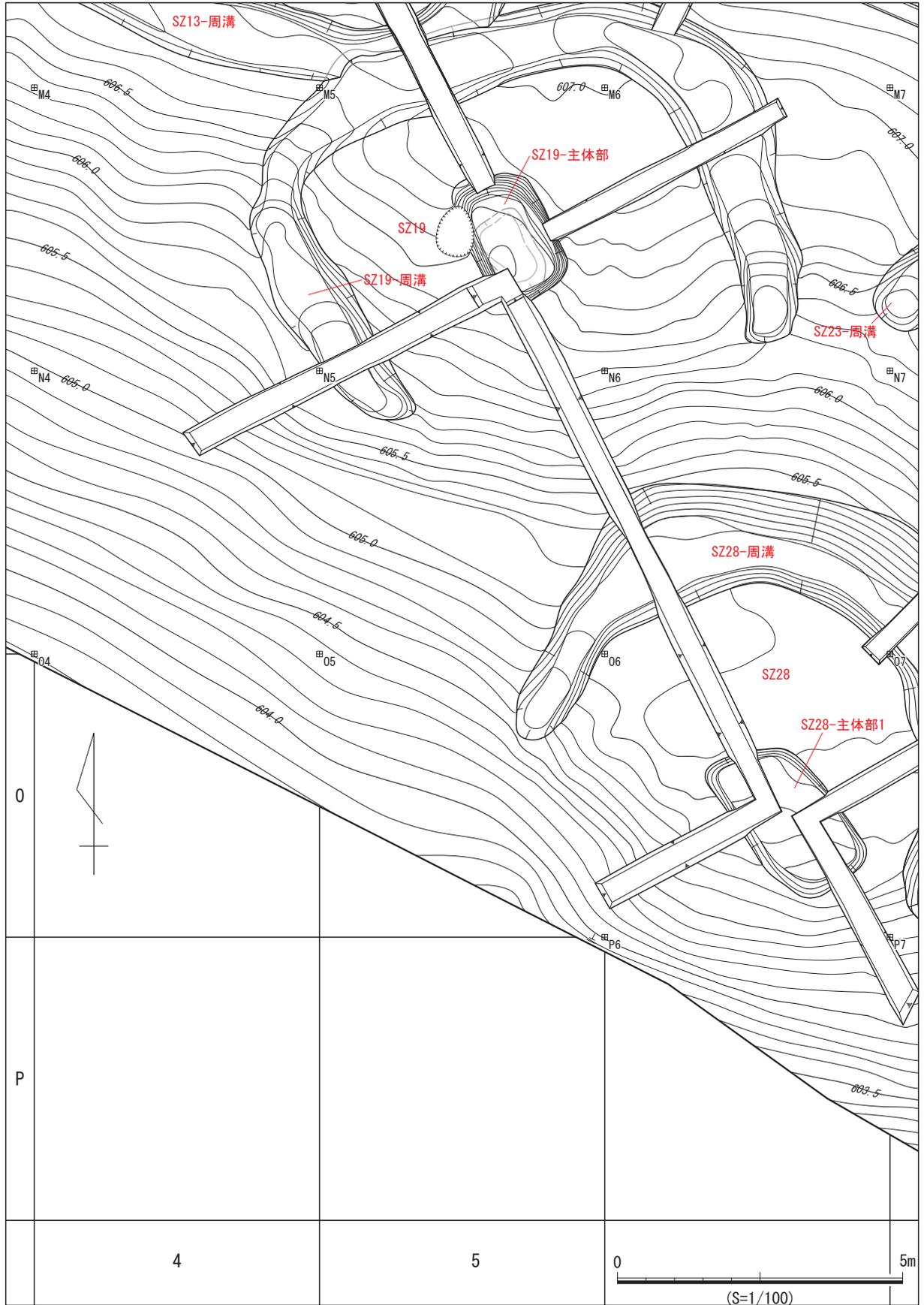


图 312 发掘区全域图 分割图 (10)

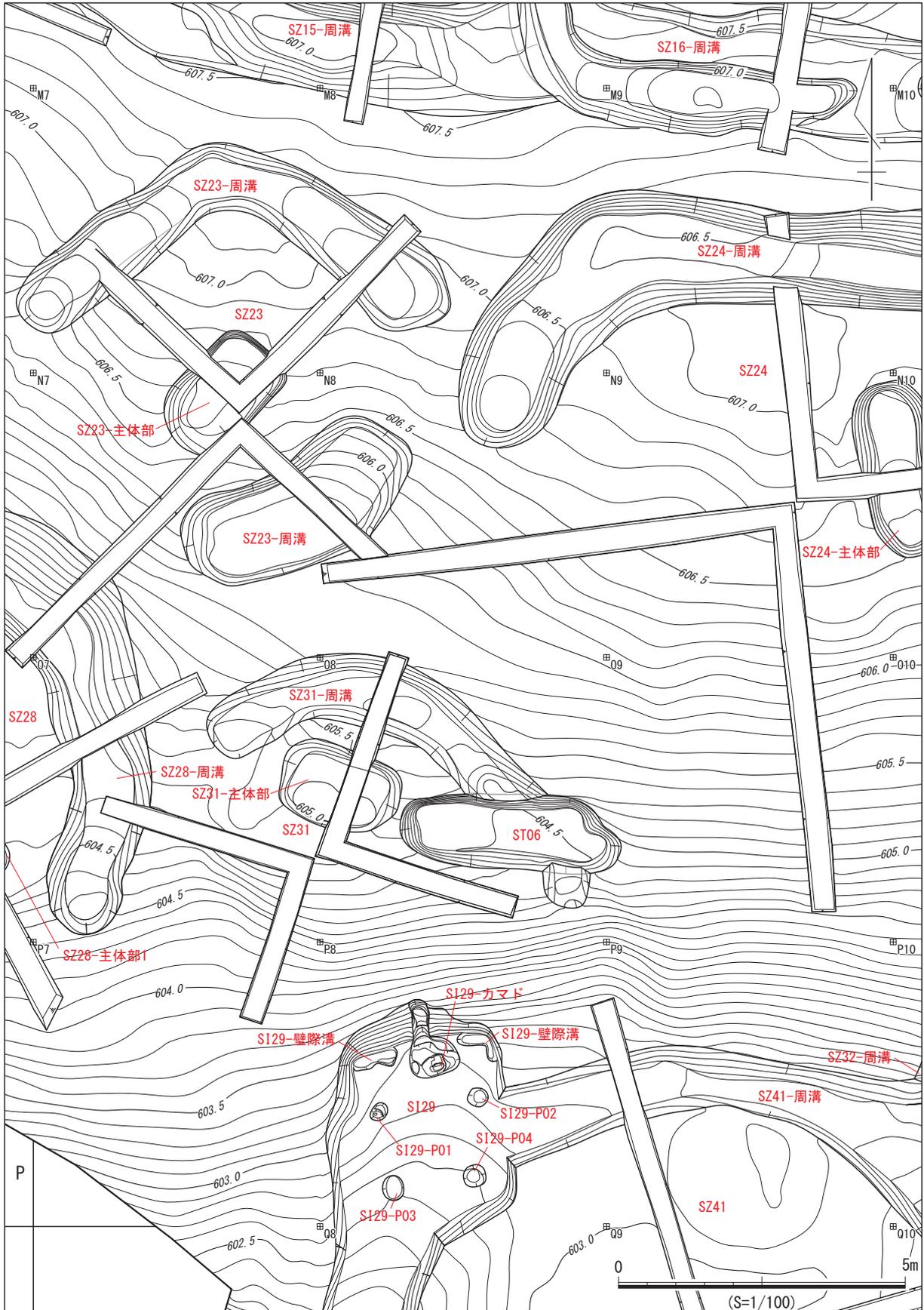


图 313 発掘区全域図 分割図 (11)

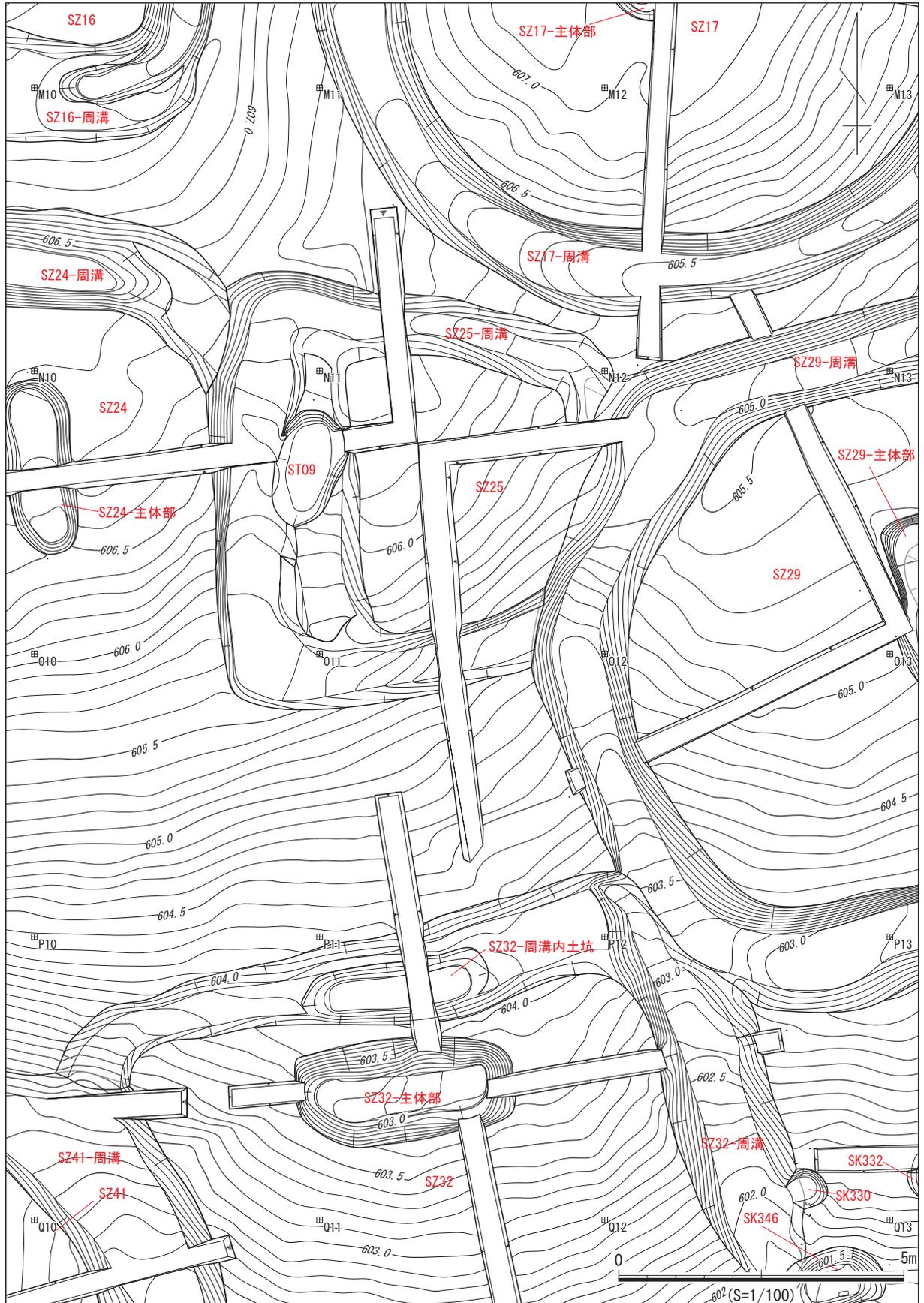


图 314 发掘区全域图 分割图 (12)

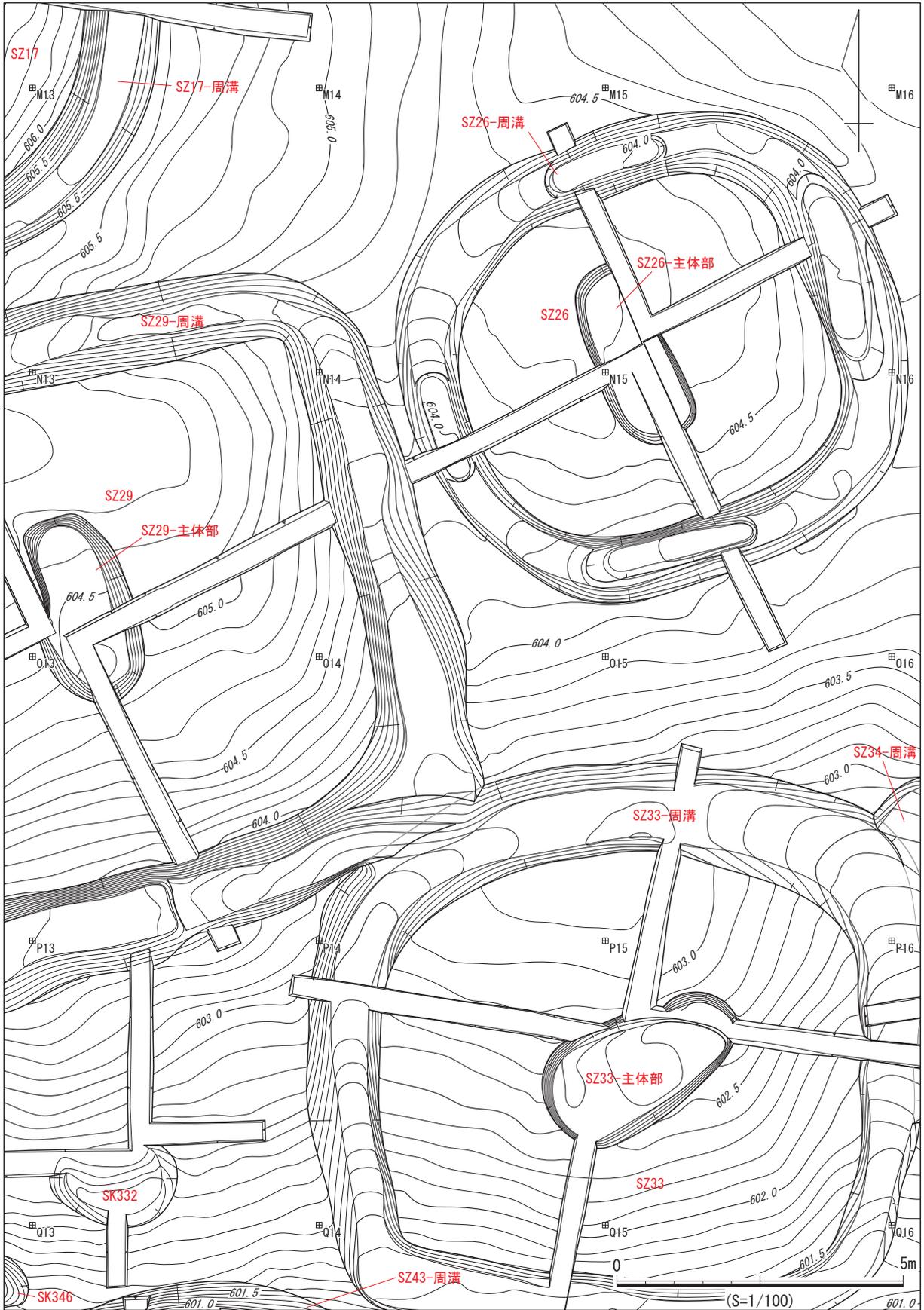


图 315 発掘区全域図 分割図 (13)

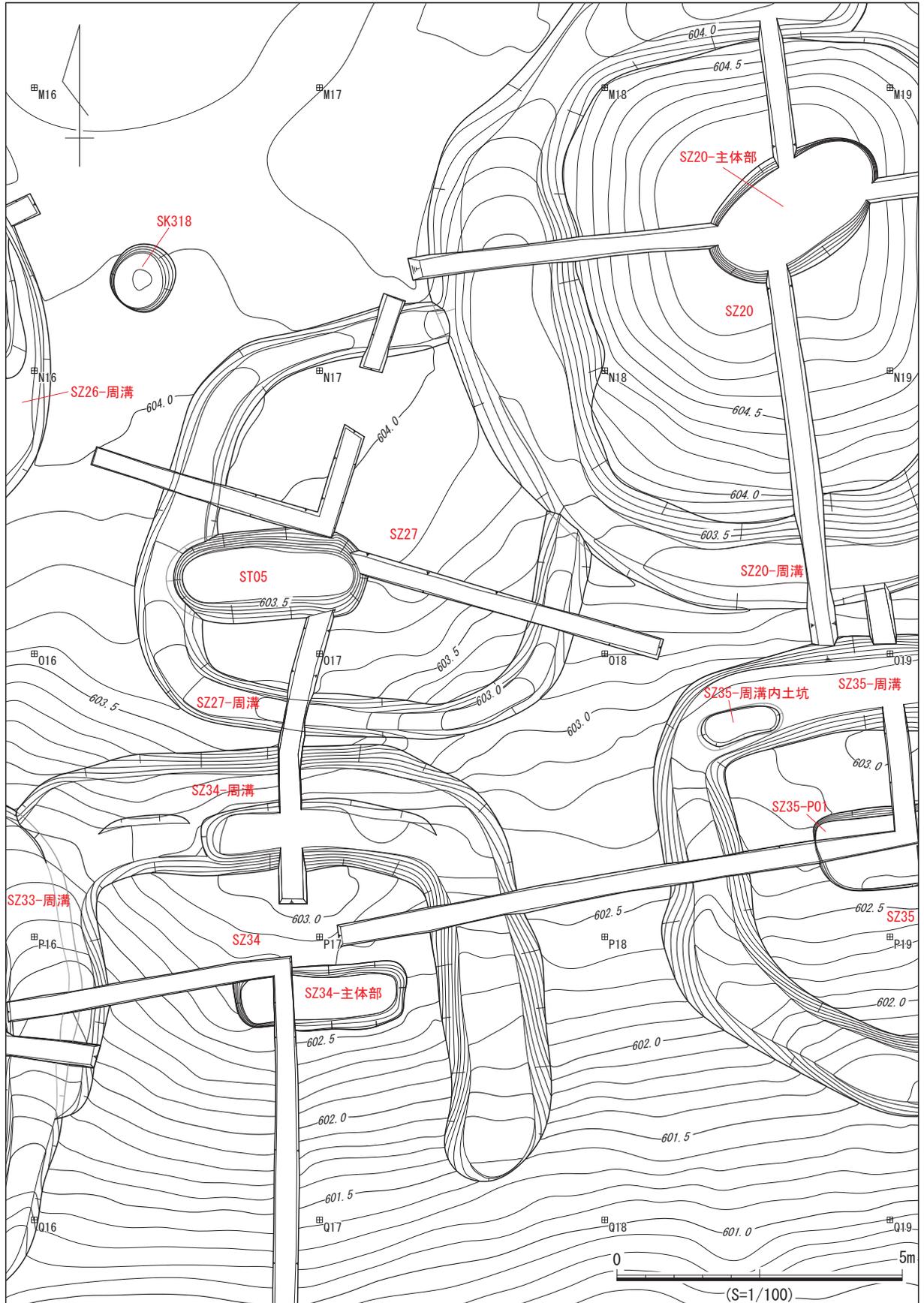


图 316 发掘区全域图 分割图 (14)

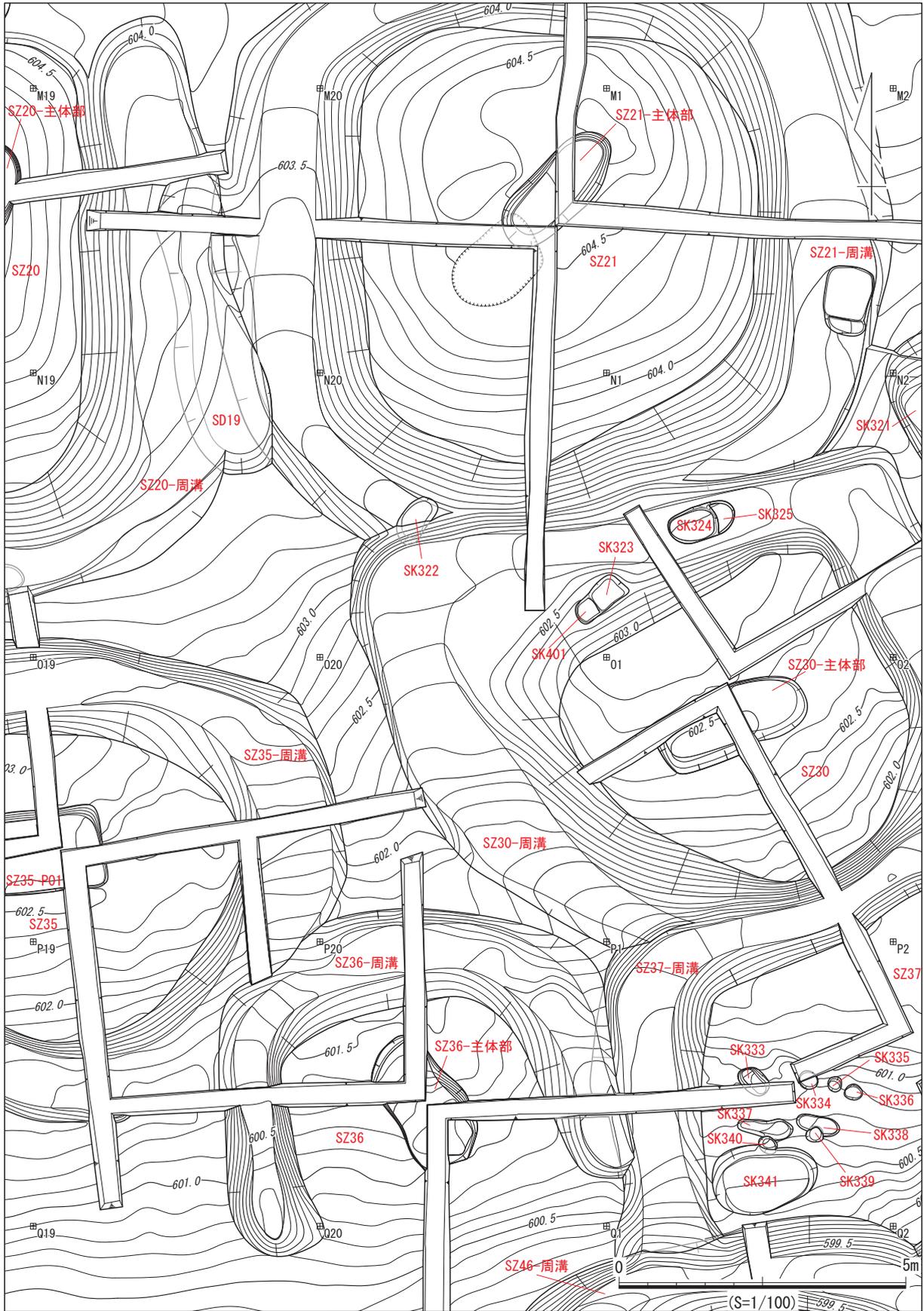


图 317 発掘区全域図 分割図 (15)

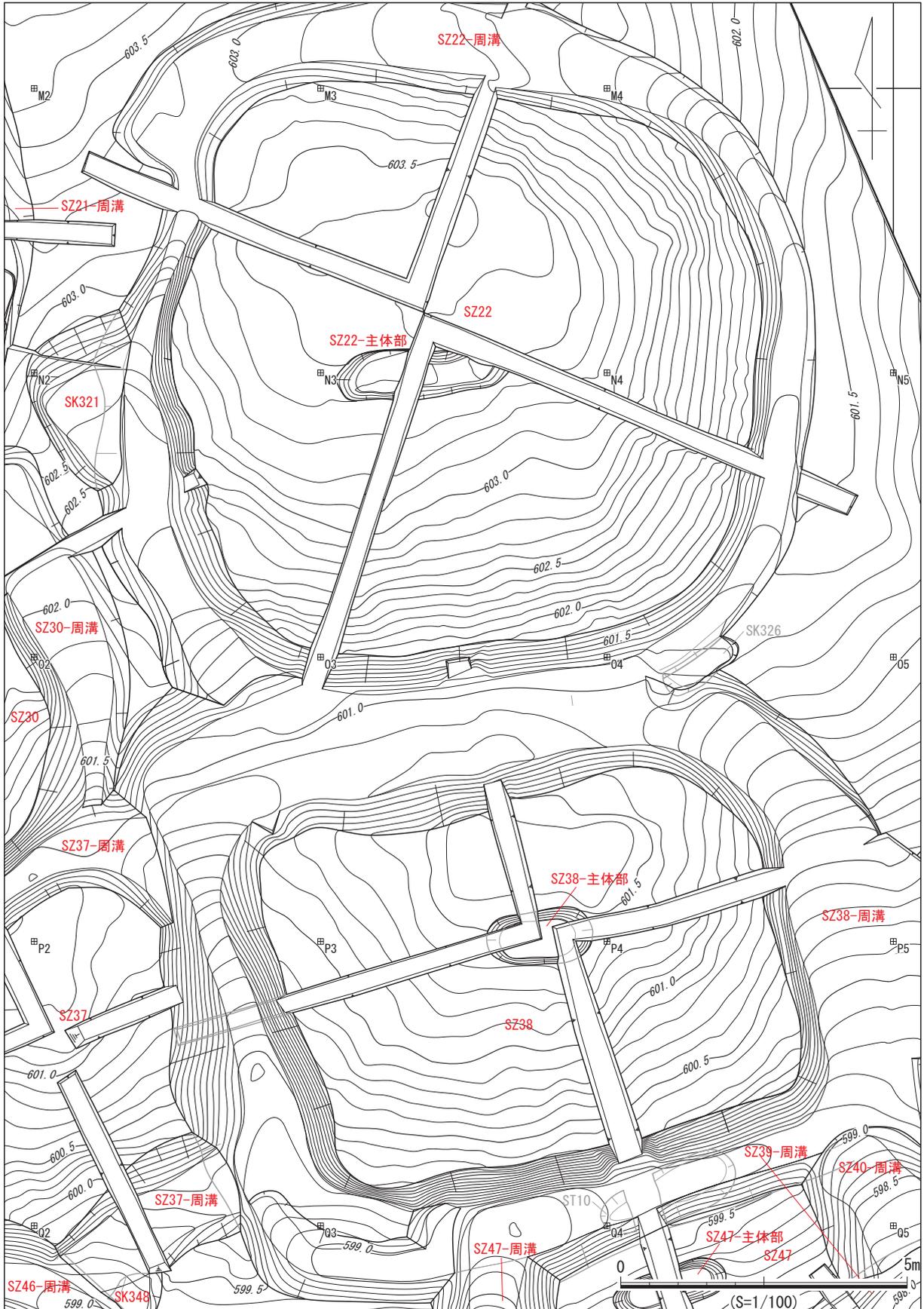


图 318 发掘区全域图 分割图 (16)



图 319 発掘区全域図 分割図 (17)

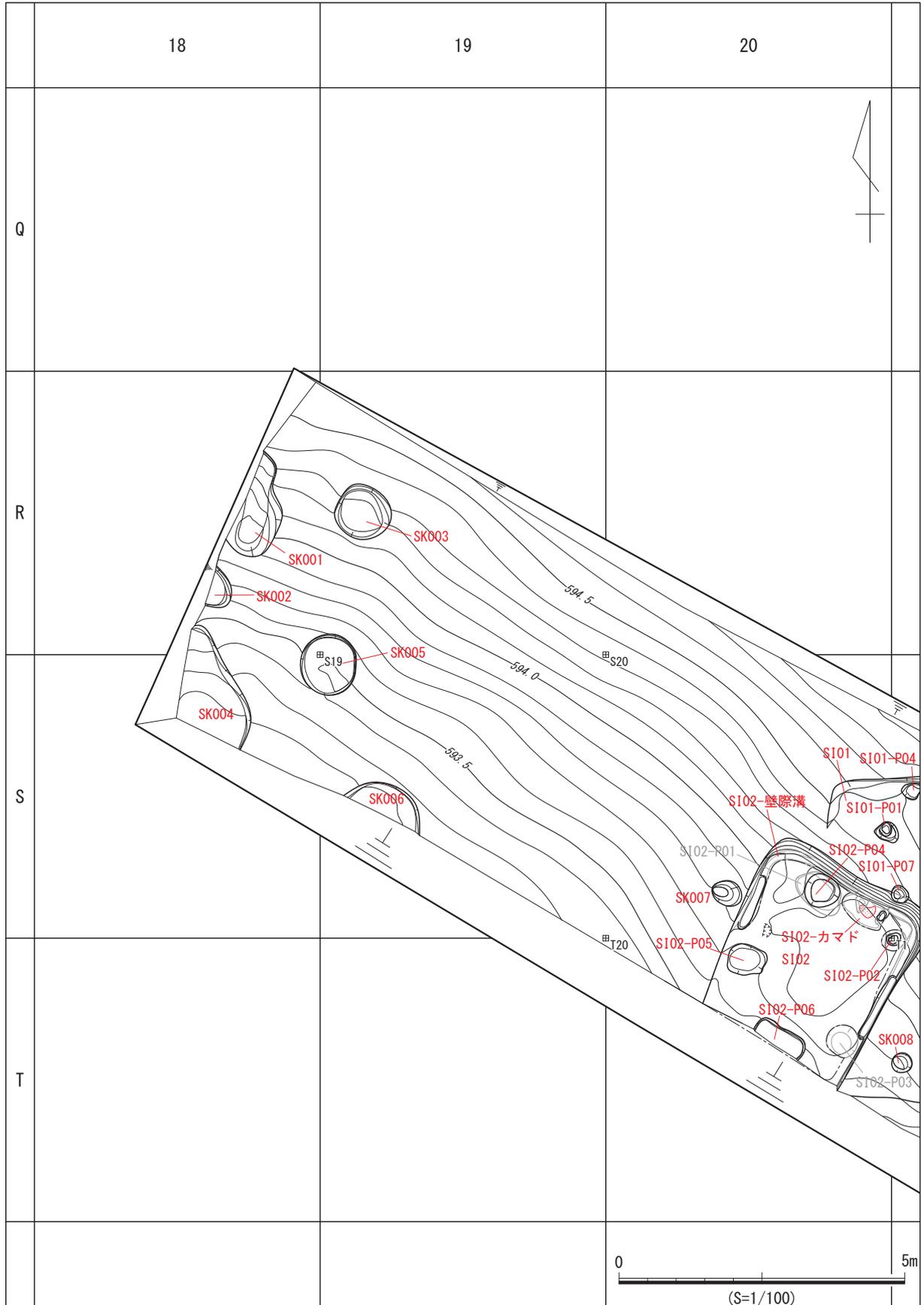


図 320 発掘区全域図 分割図 (18)

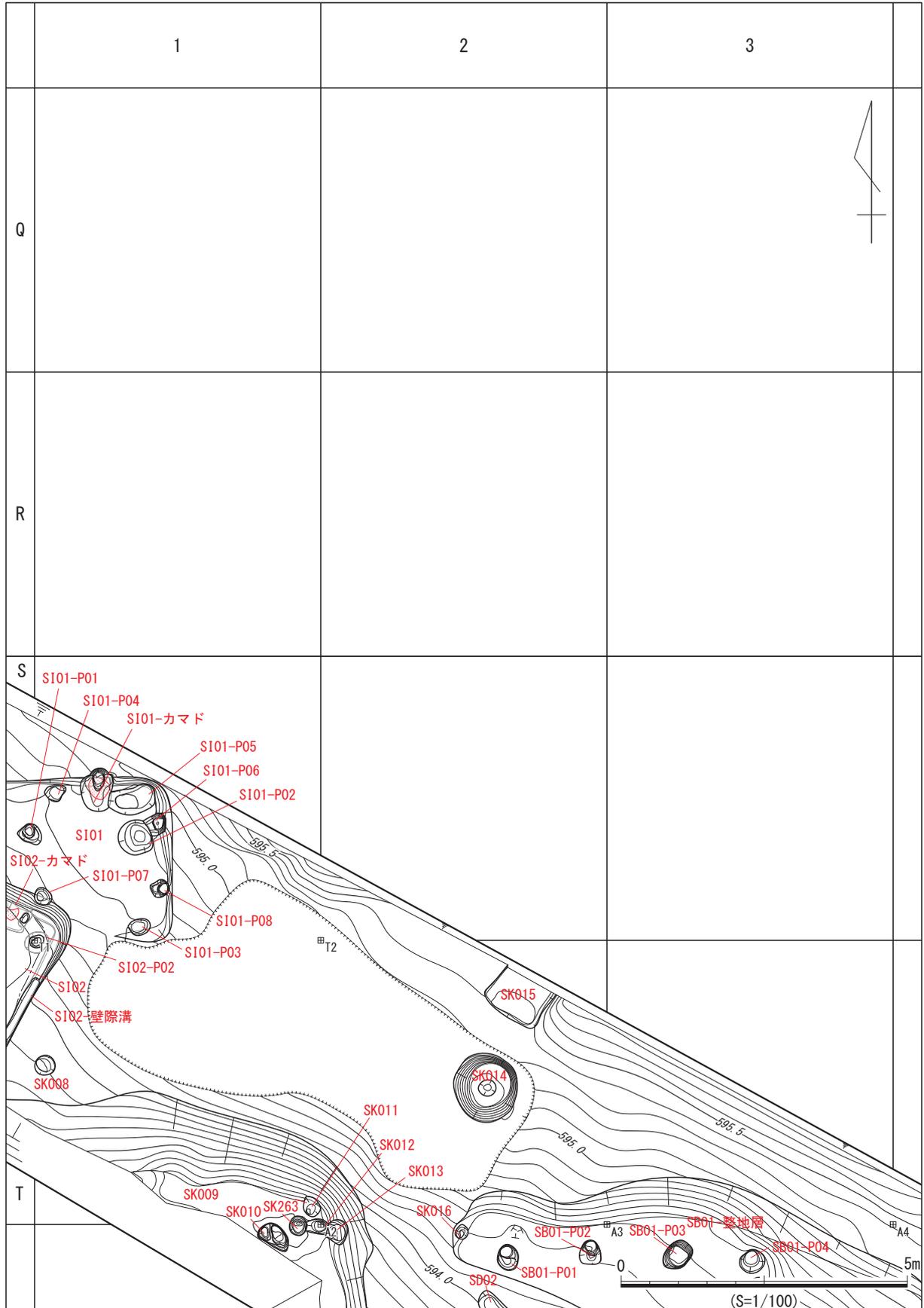


図 321 発掘区全域図 分割図 (19)

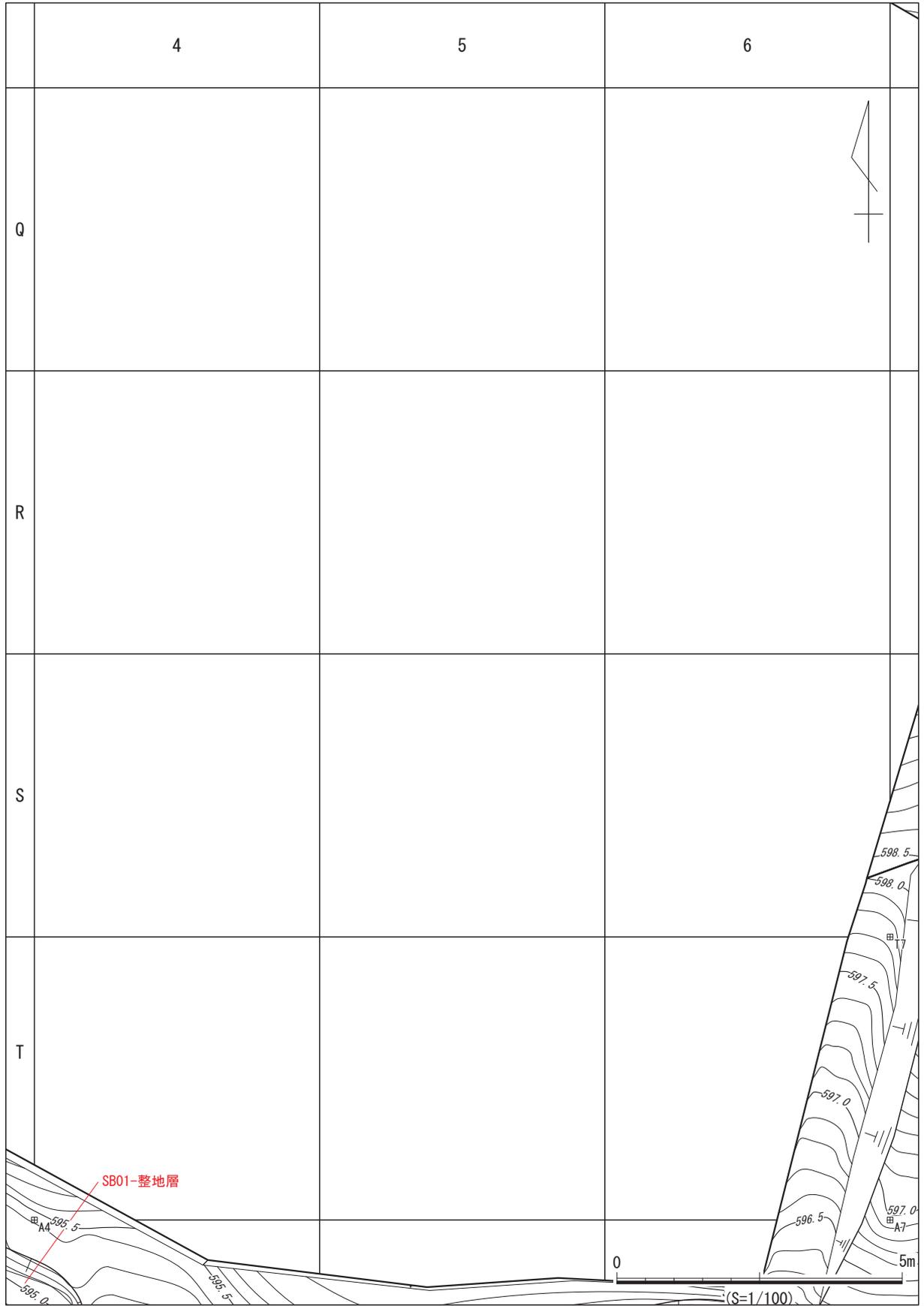


図 322 発掘区全域図 分割図 (20)

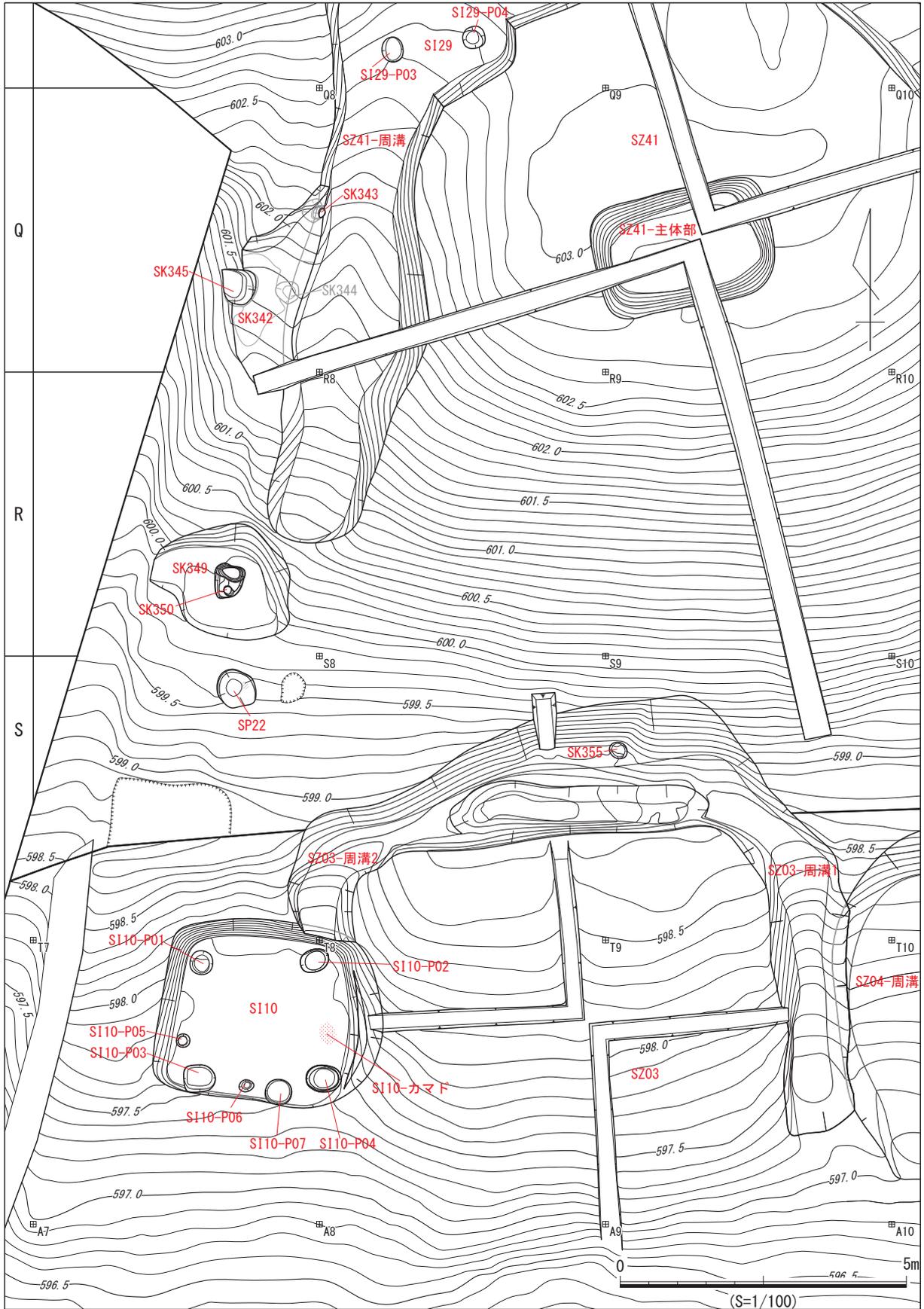


图 323 発掘区全域図 分割図 (21)

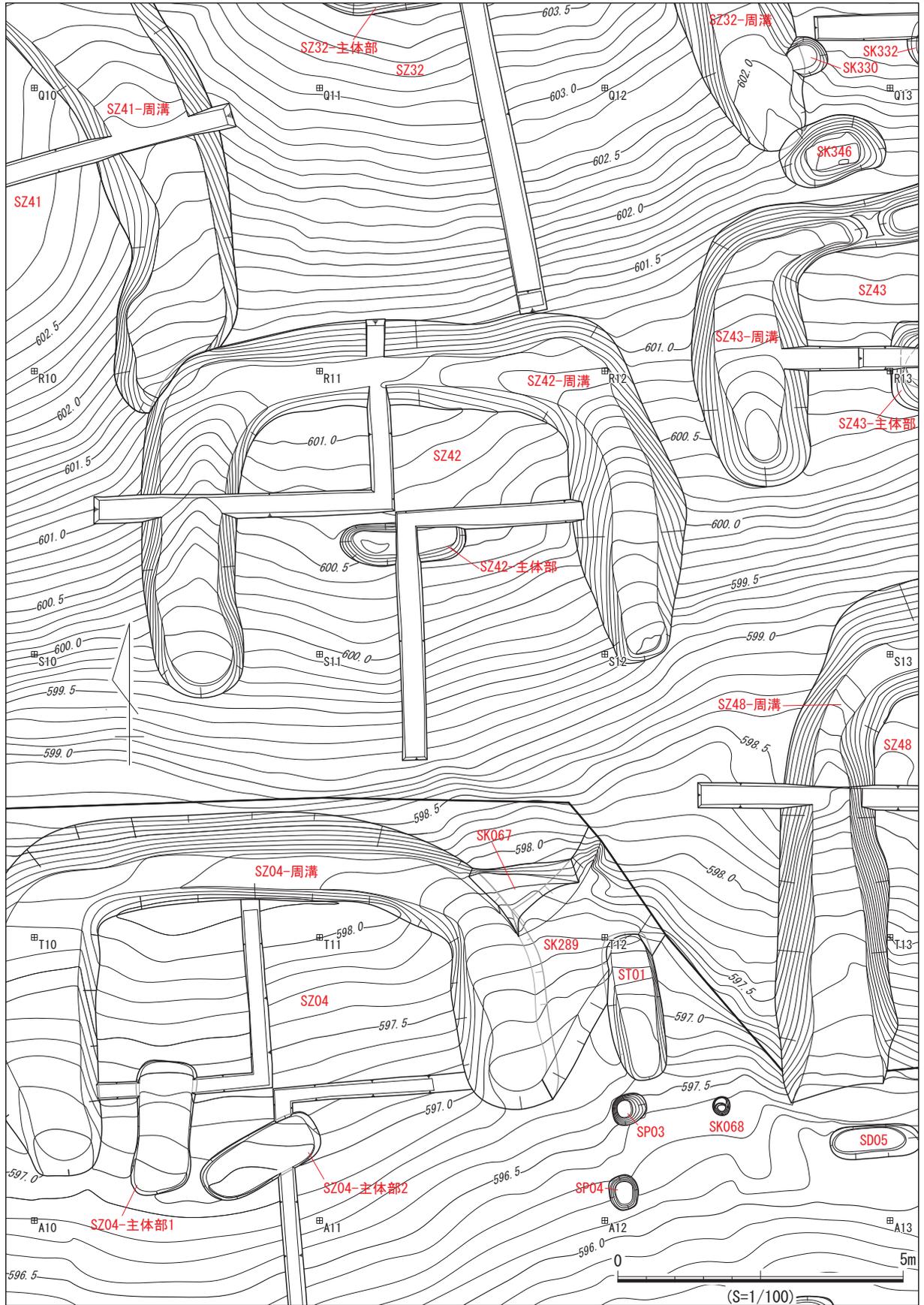


图 324 发掘区全域图 分割图 (22)

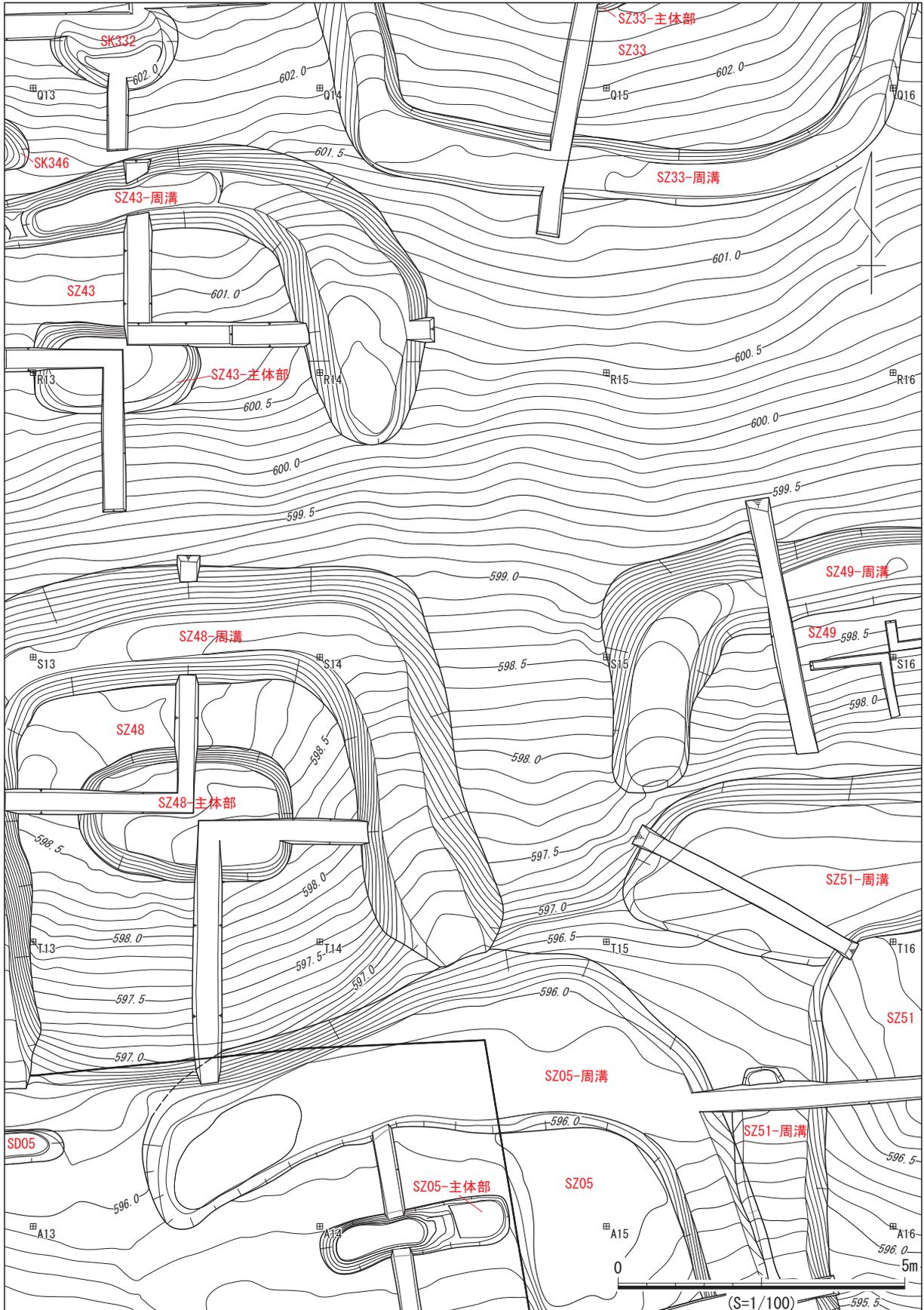


图 325 発掘区全域图 分割图 (23)

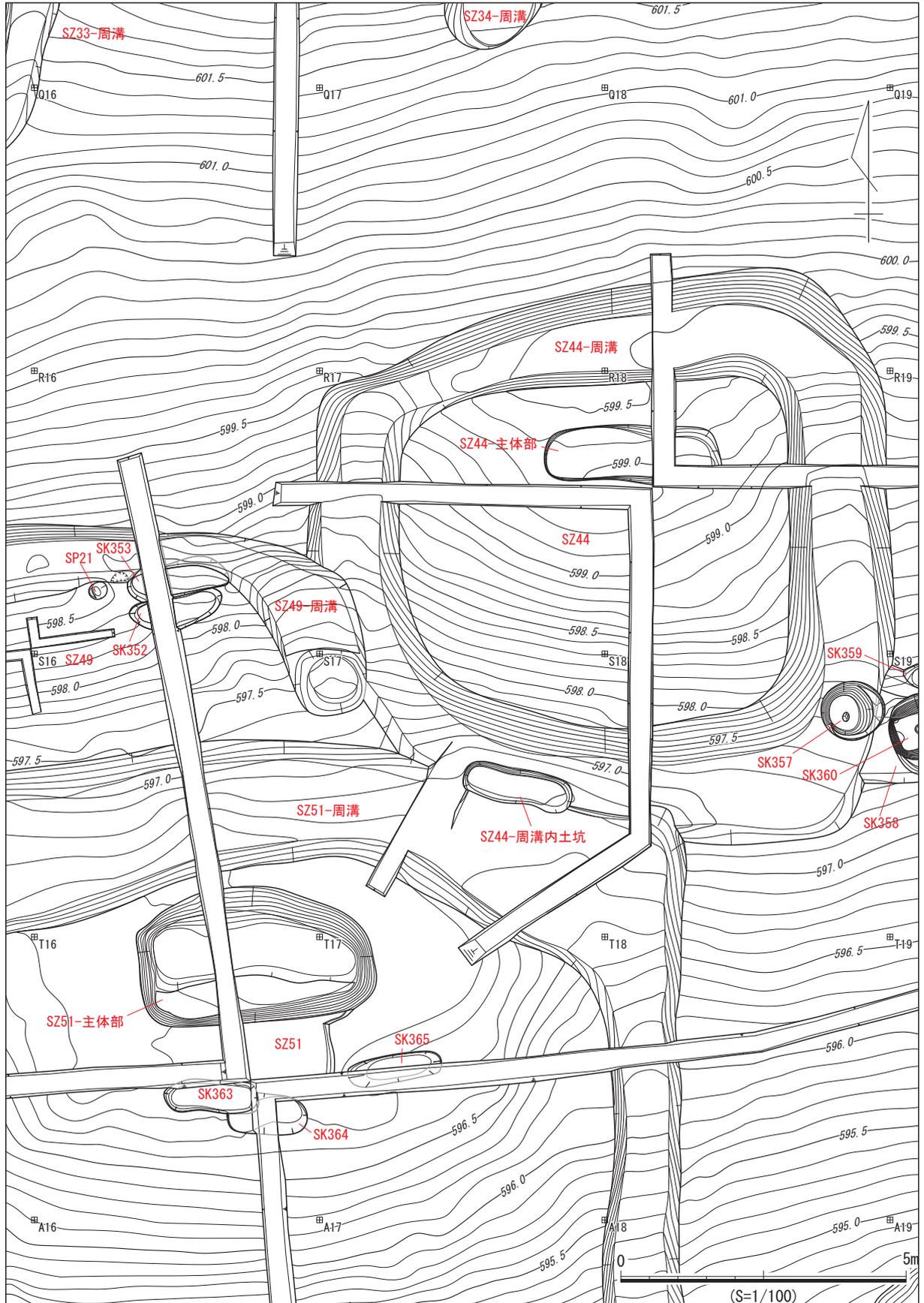


图 326 发掘区全域图 分割图 (24)

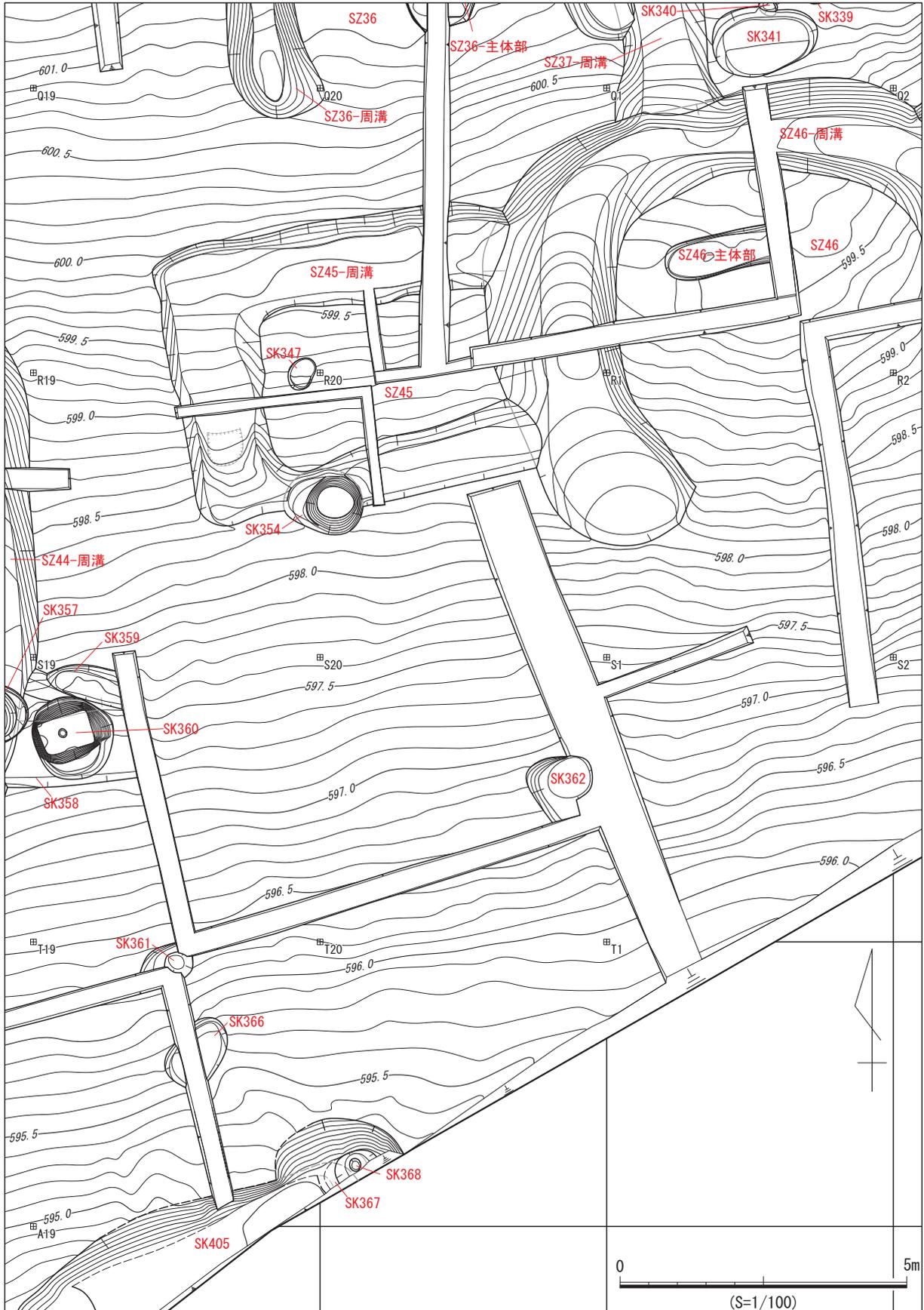


图 327 発掘区全域図 分割図 (25)

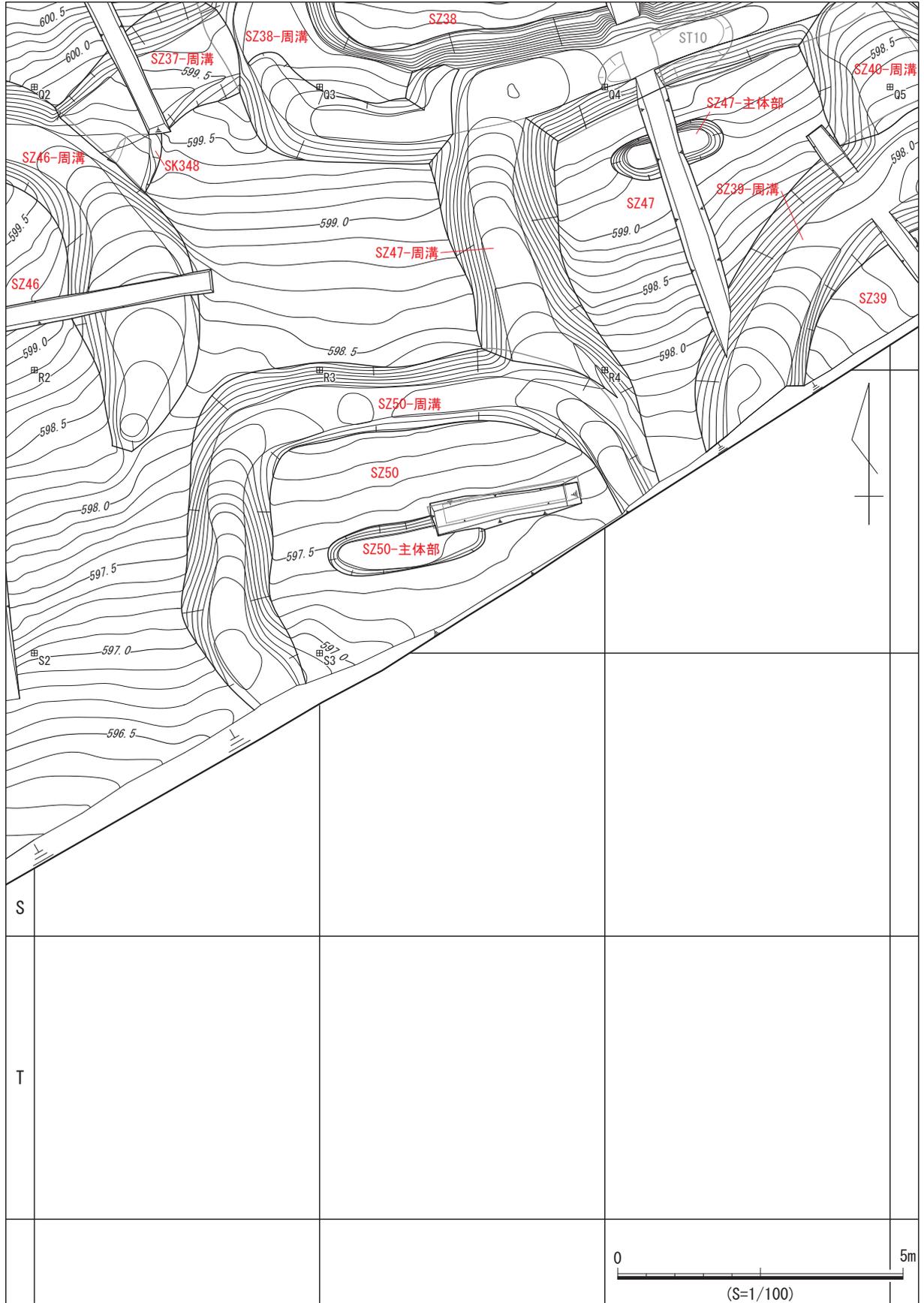


图 328 发掘区全域图 分割图 (26)

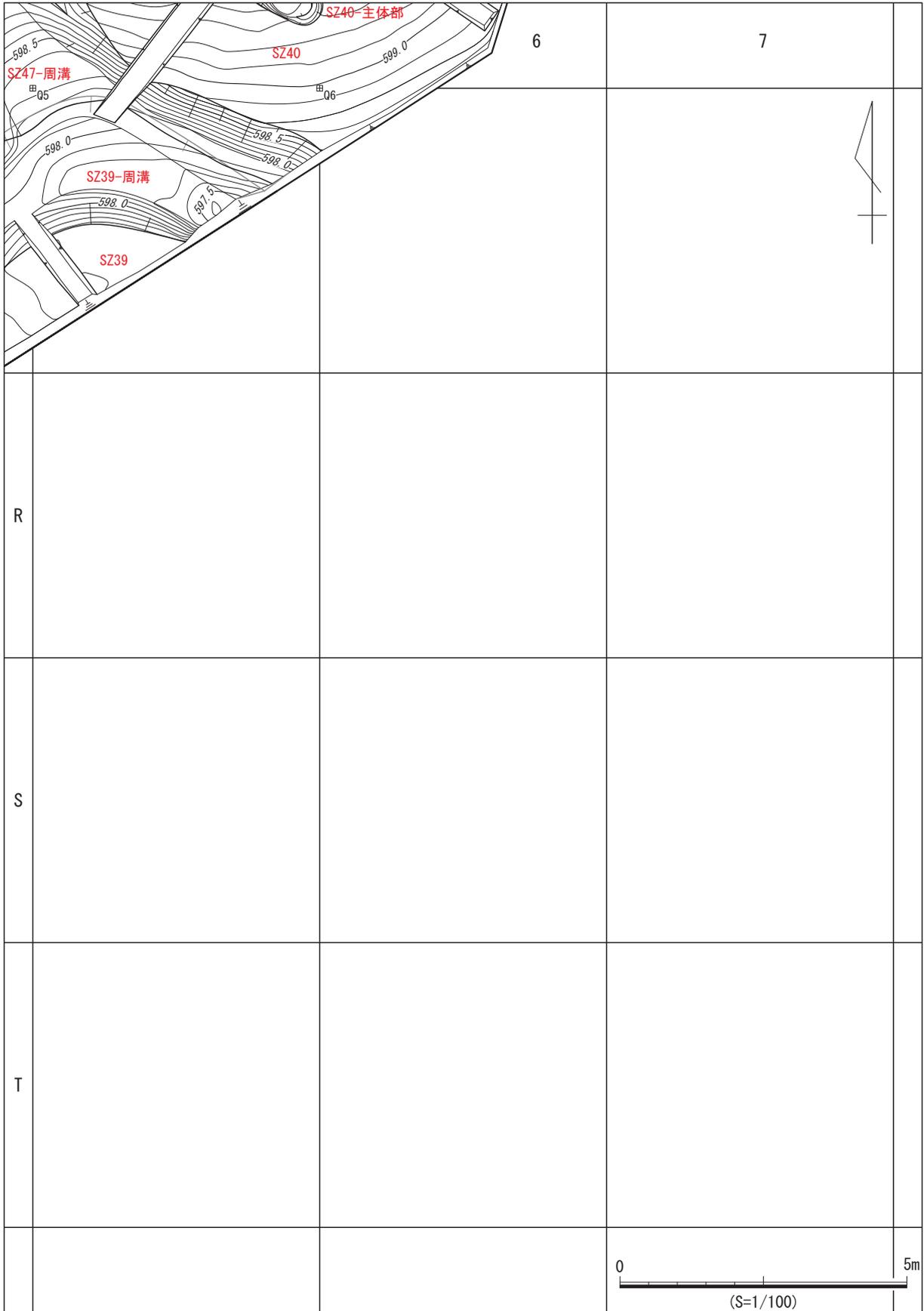


図 329 発掘区全域図 分割図 (27)

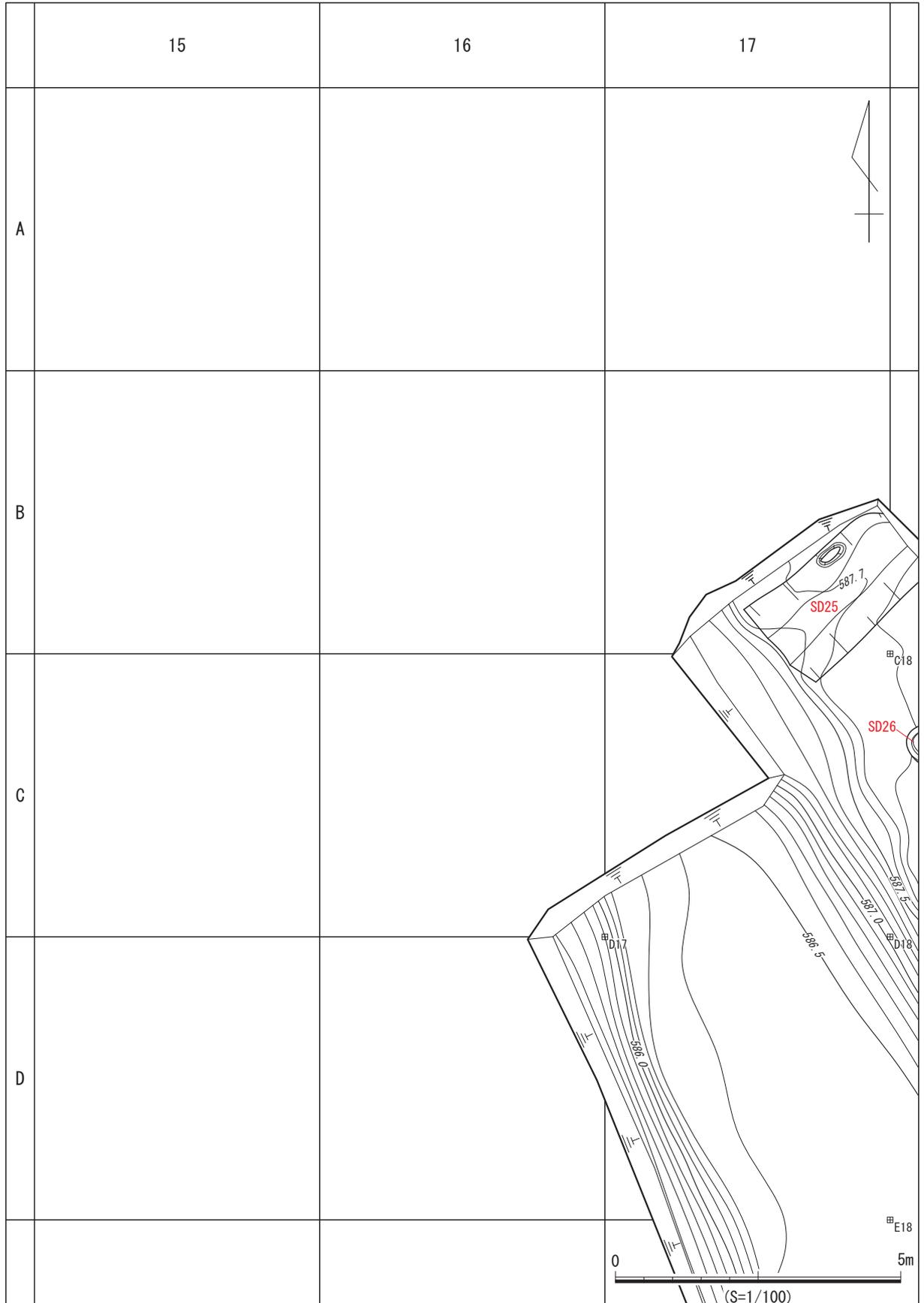


图 330 尧掘区全域图 分割图 (28)

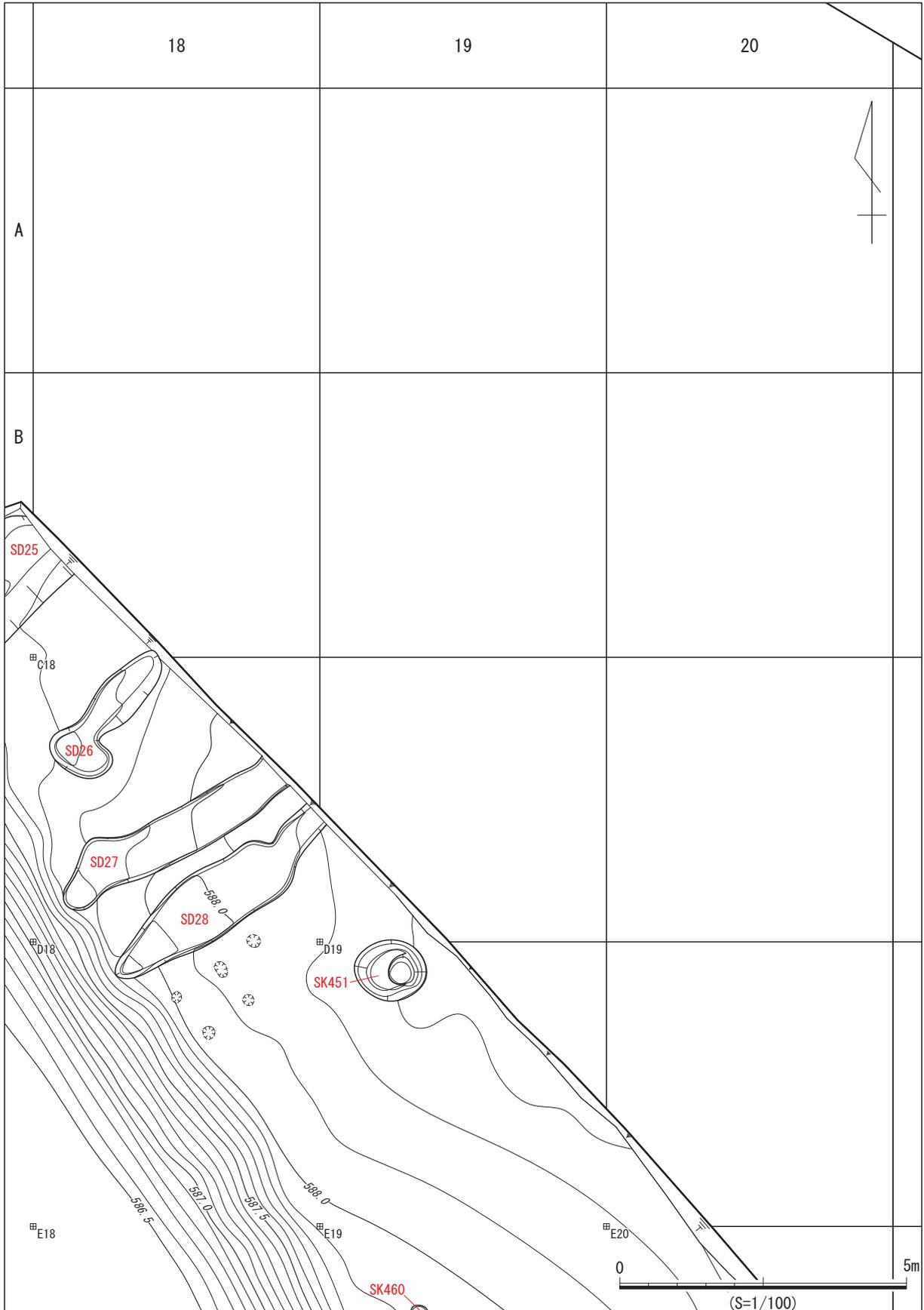


図 331 発掘区全域図 分割図 (29)

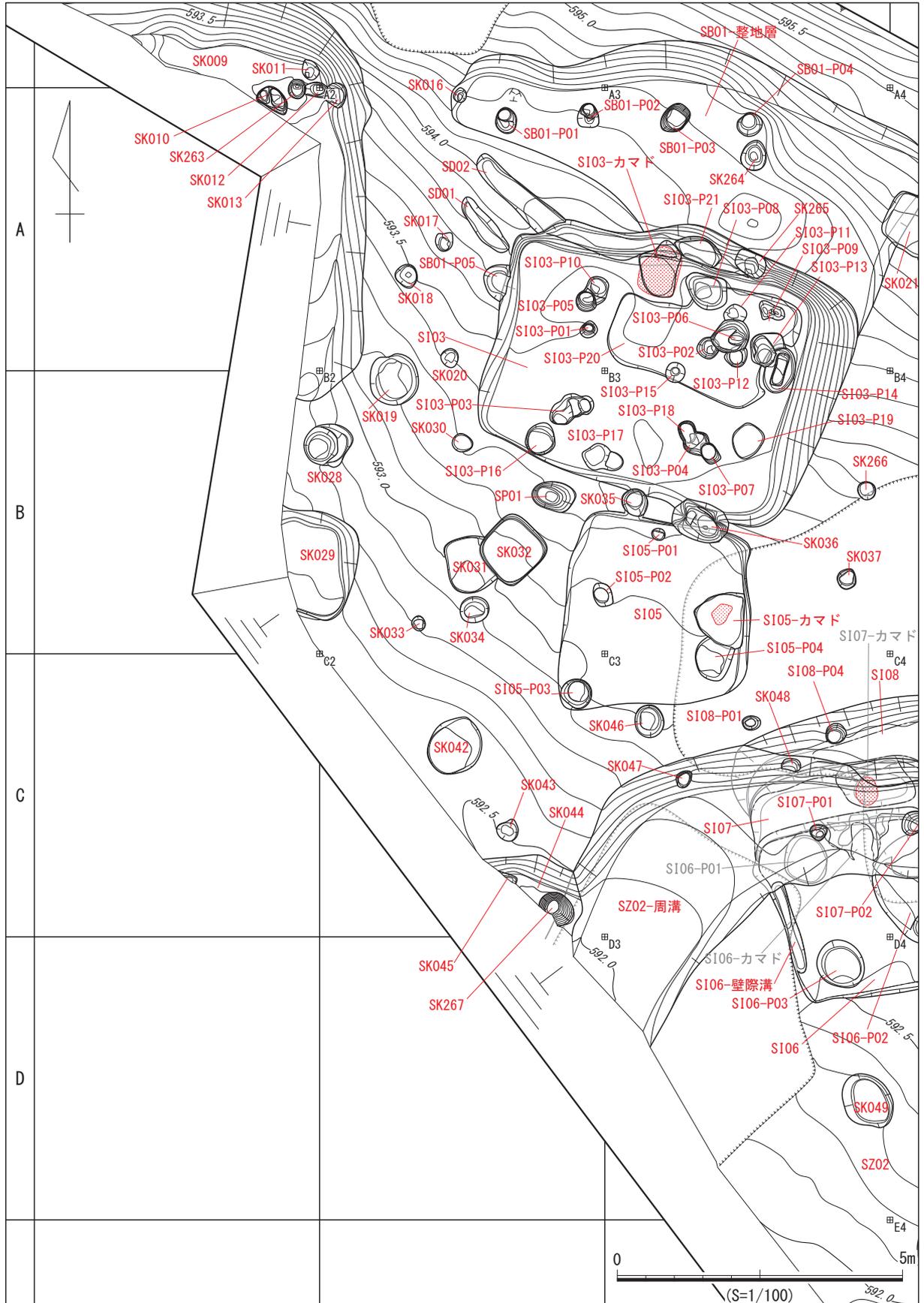


図 332 発掘区全域図 分割図 (30)

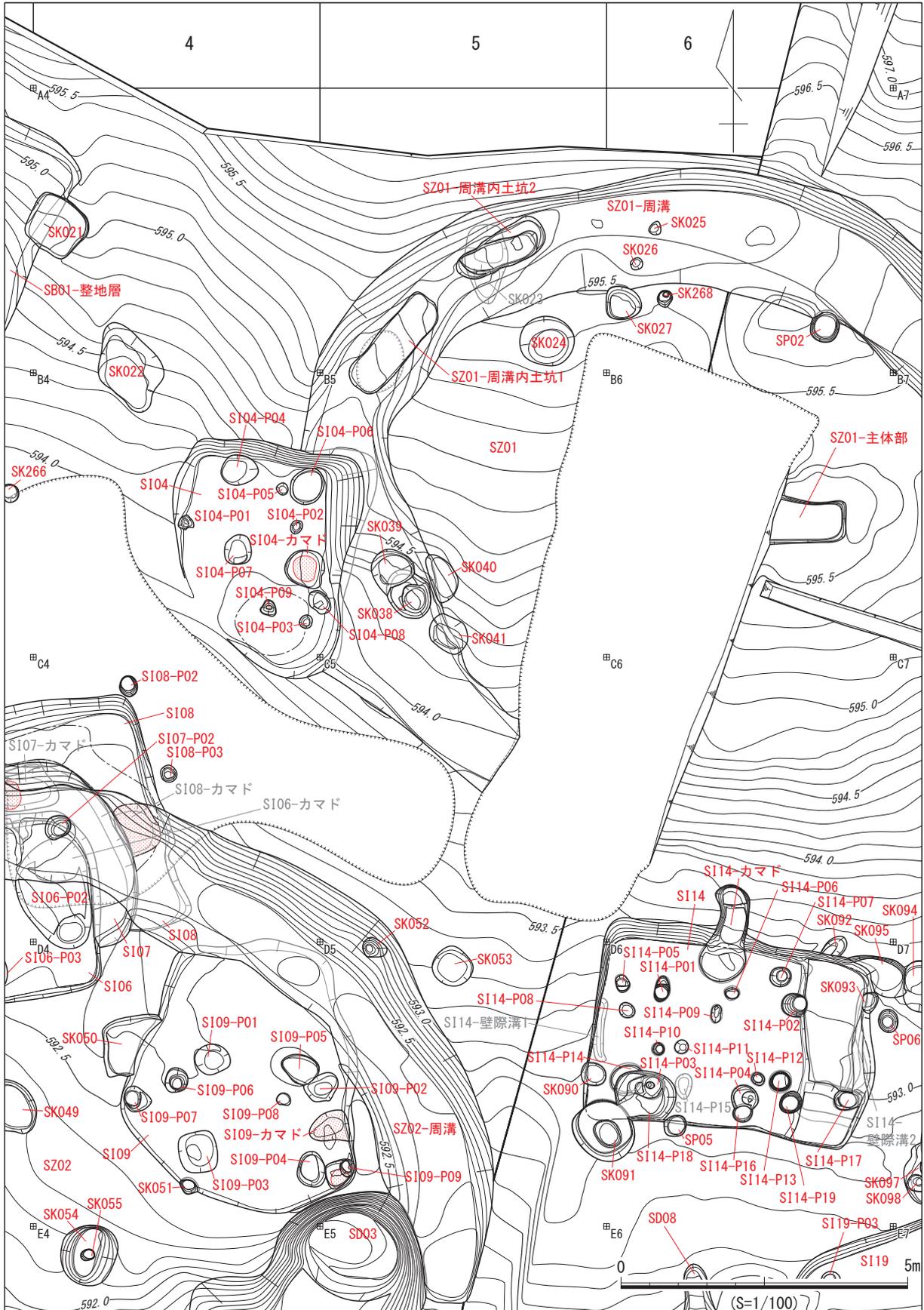


図 333 発掘区全域図 分割図 (31)

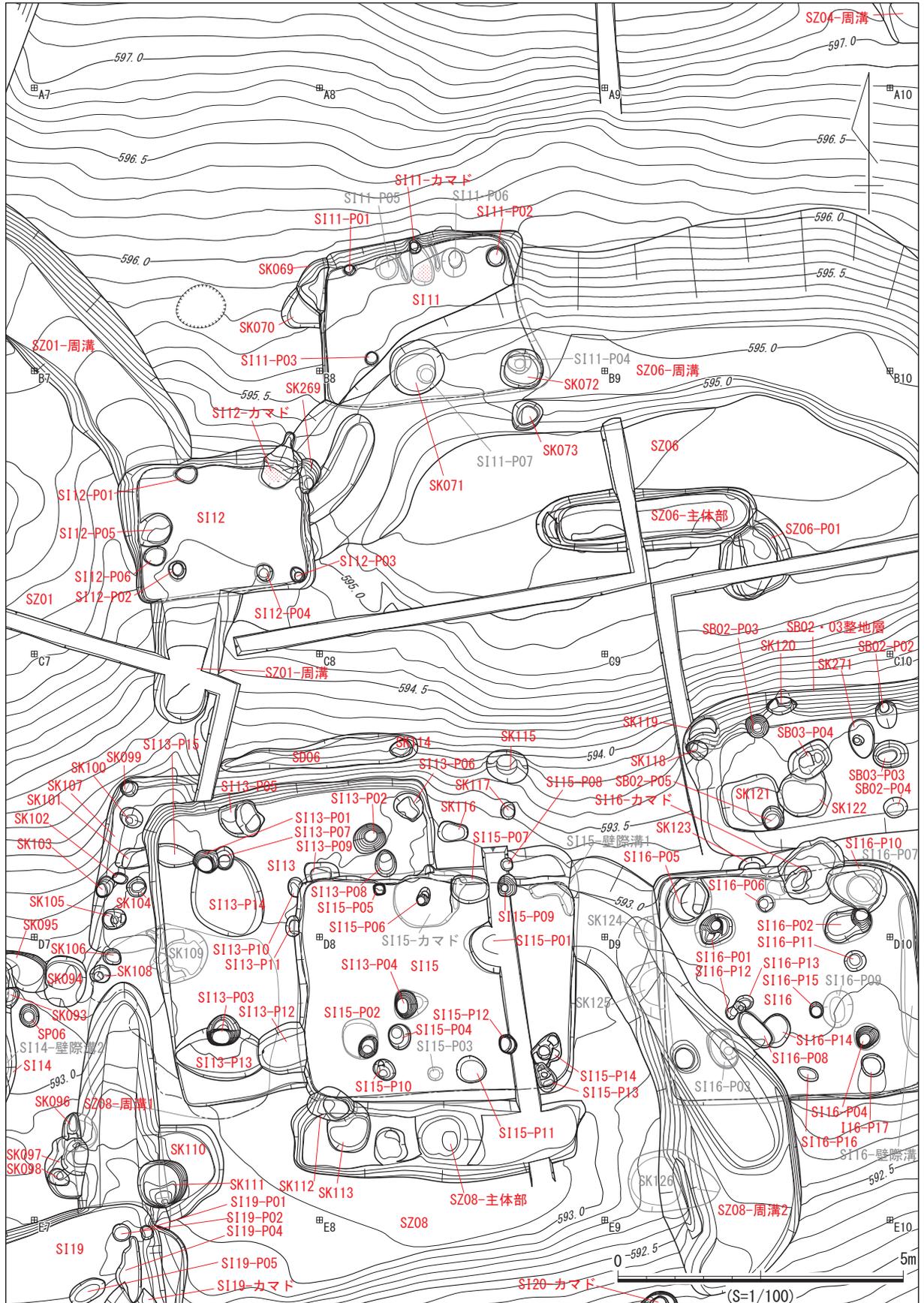


図 334 発掘区全域図 分割図 (32)

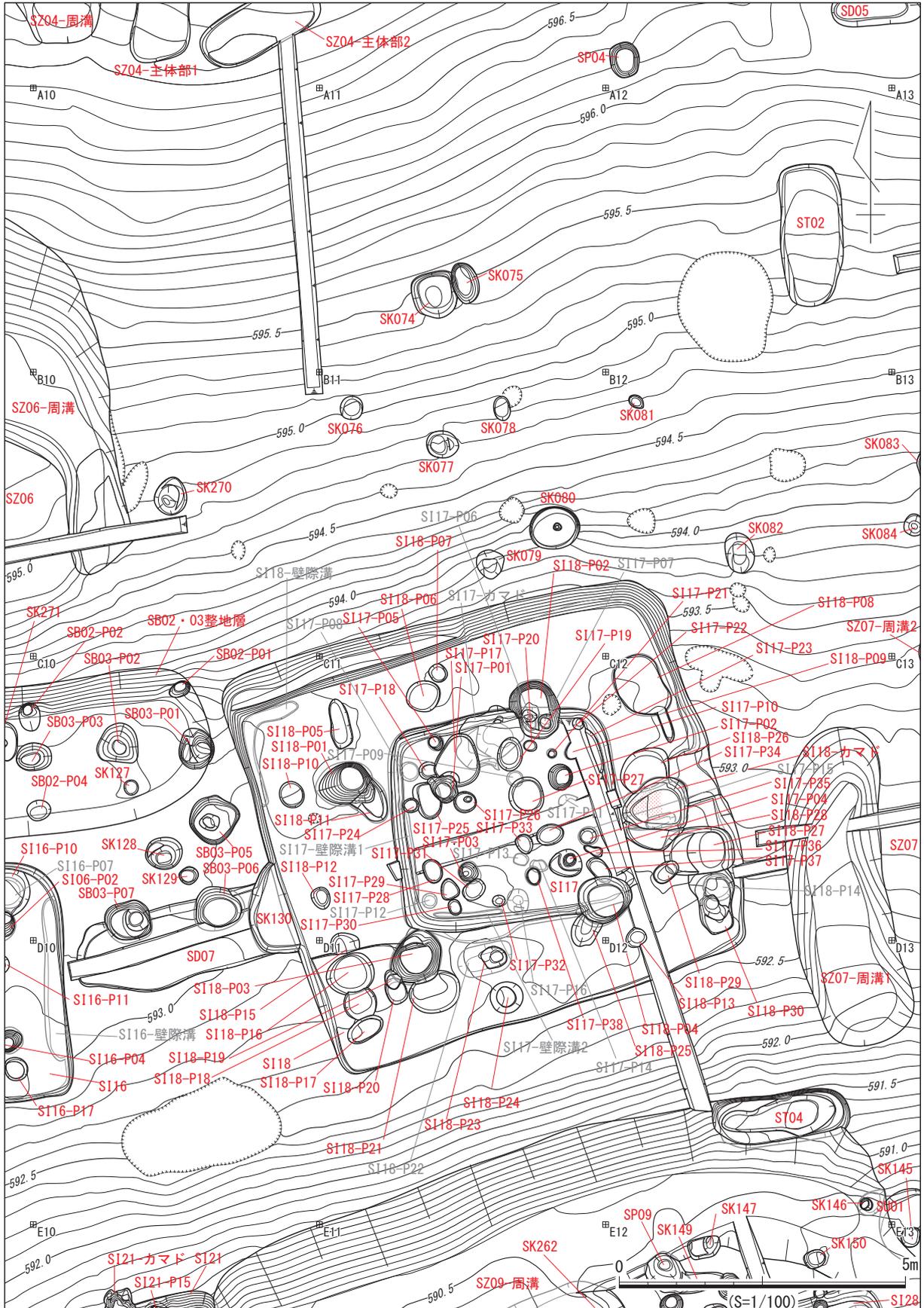


図 335 発掘区全域図 分割図 (33)

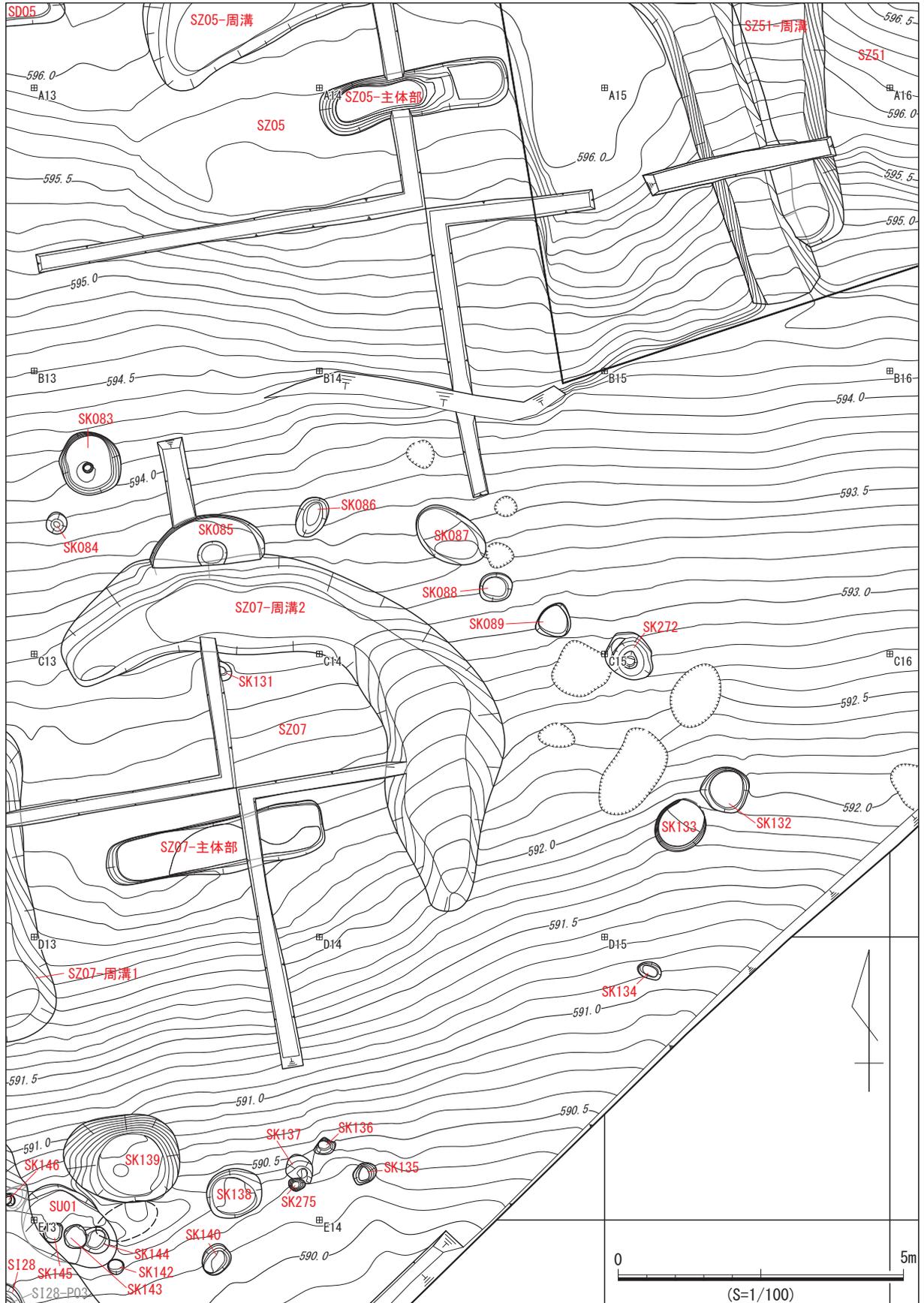


图 336 发掘区全域图 分割图 (34)

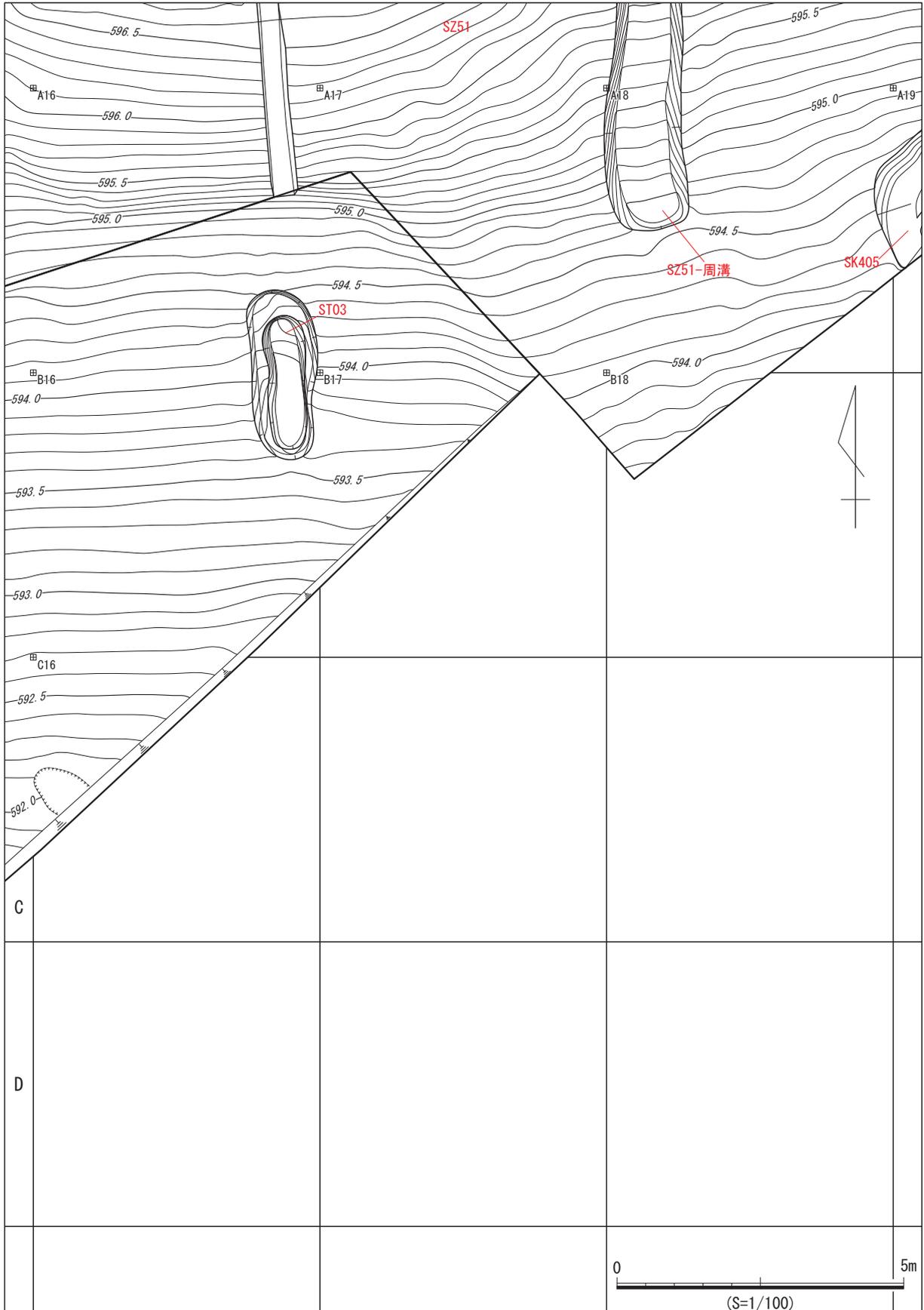


图 337 発掘区全域図 分割図 (35)

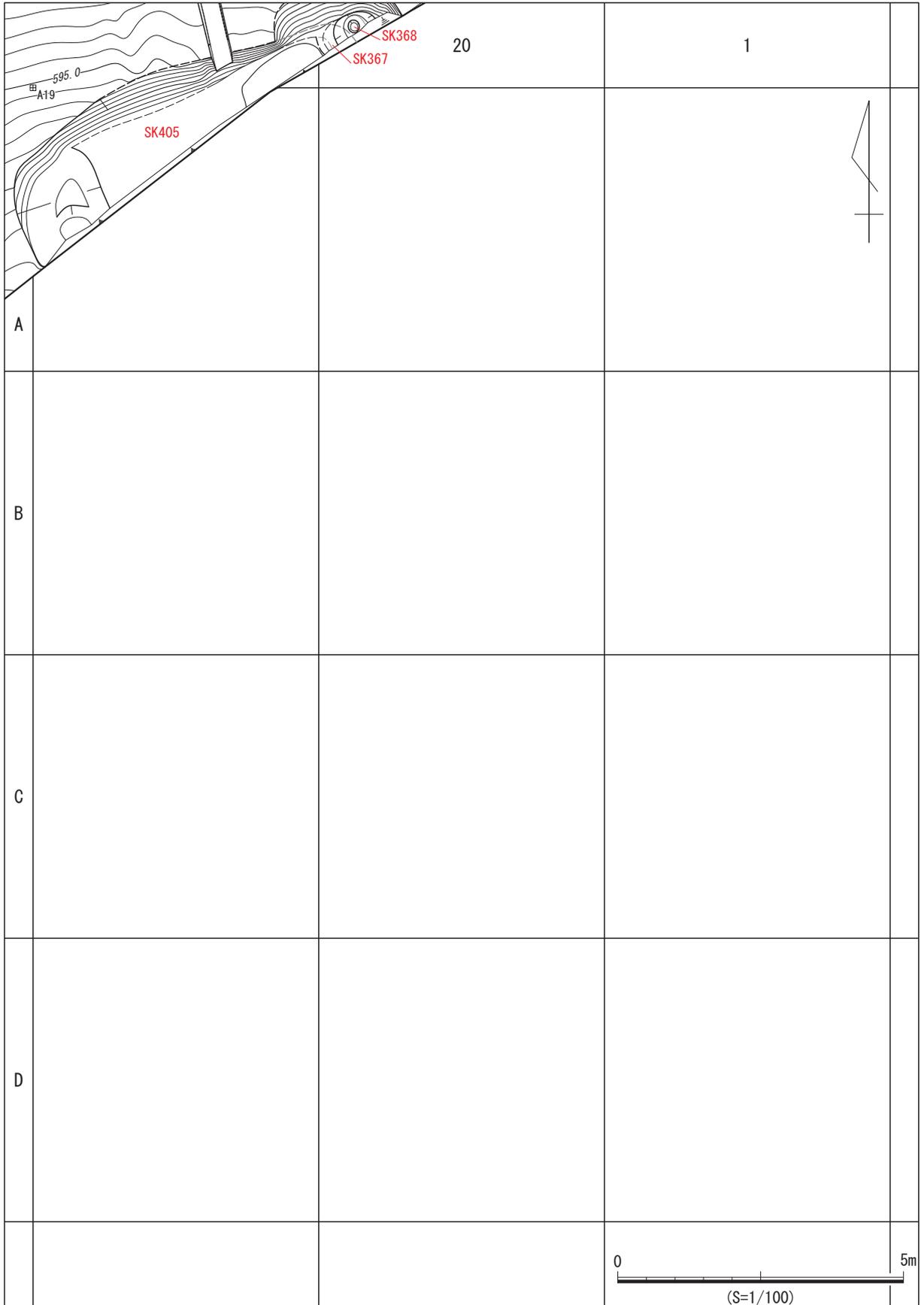


图 338 发掘区全域图 分割图 (36)

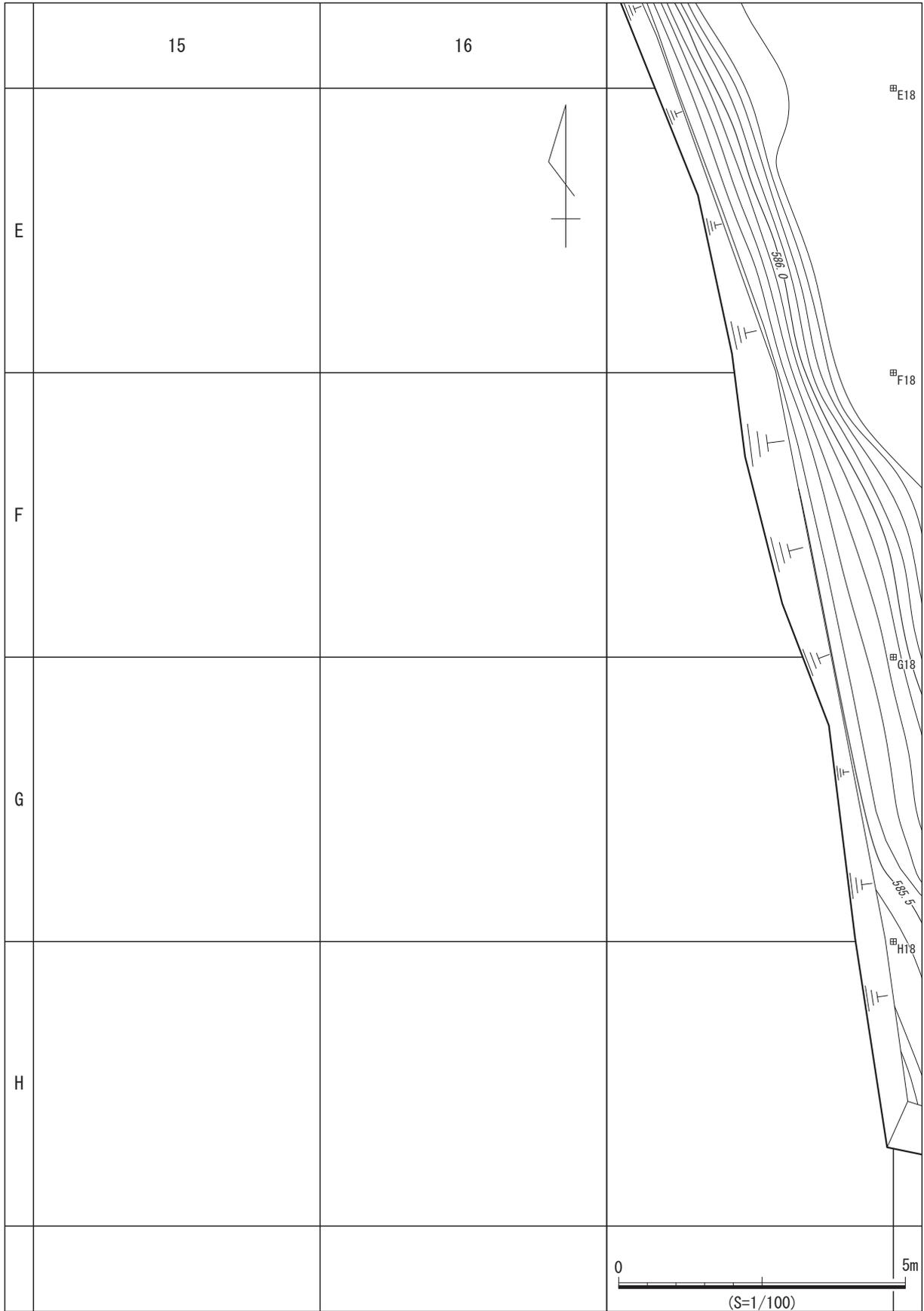


图 339 発掘区全域図 分割図 (37)

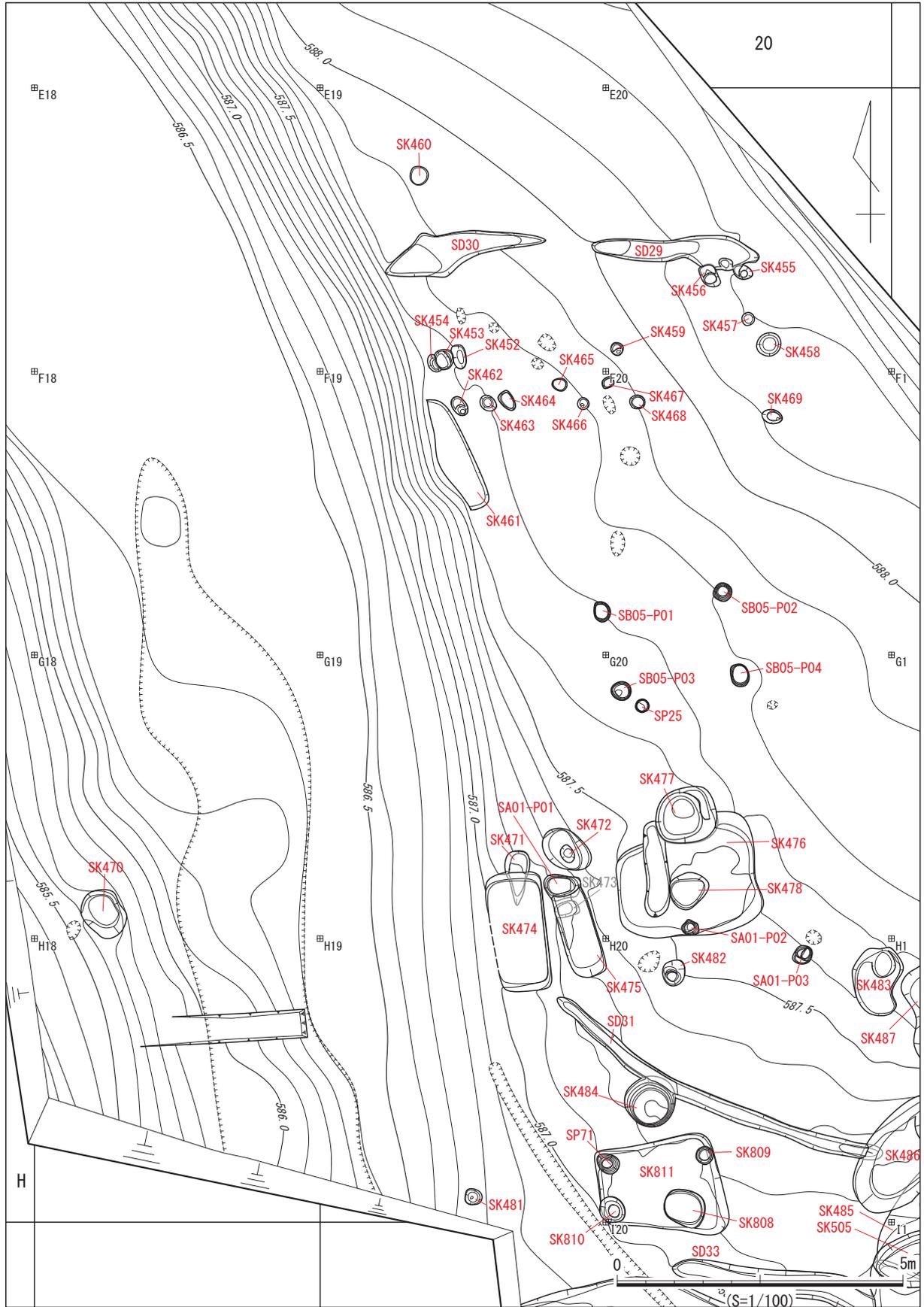


图 340 发掘区全域图 分割图 (38)

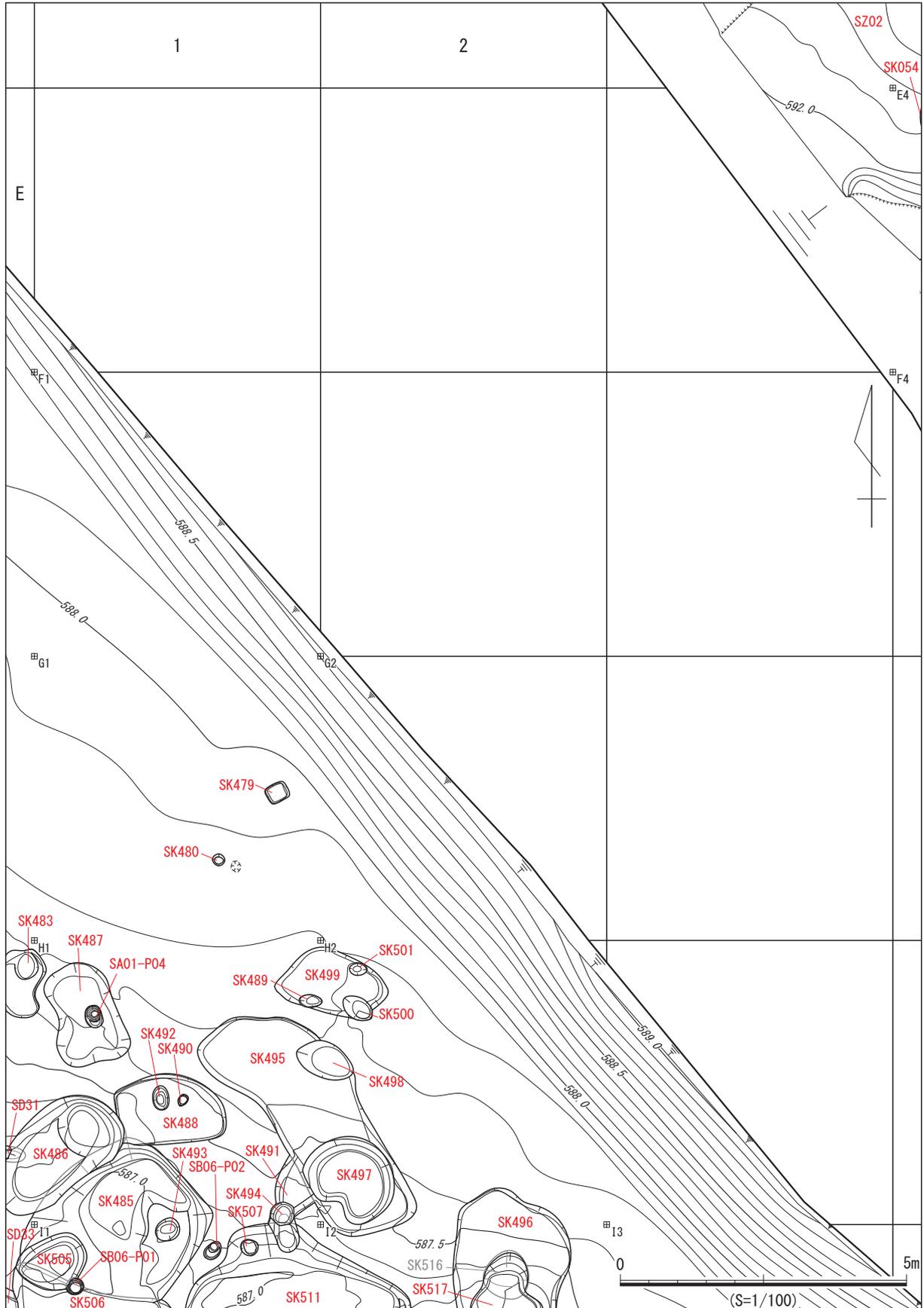


图 341 発掘区全域図 分割図 (39)

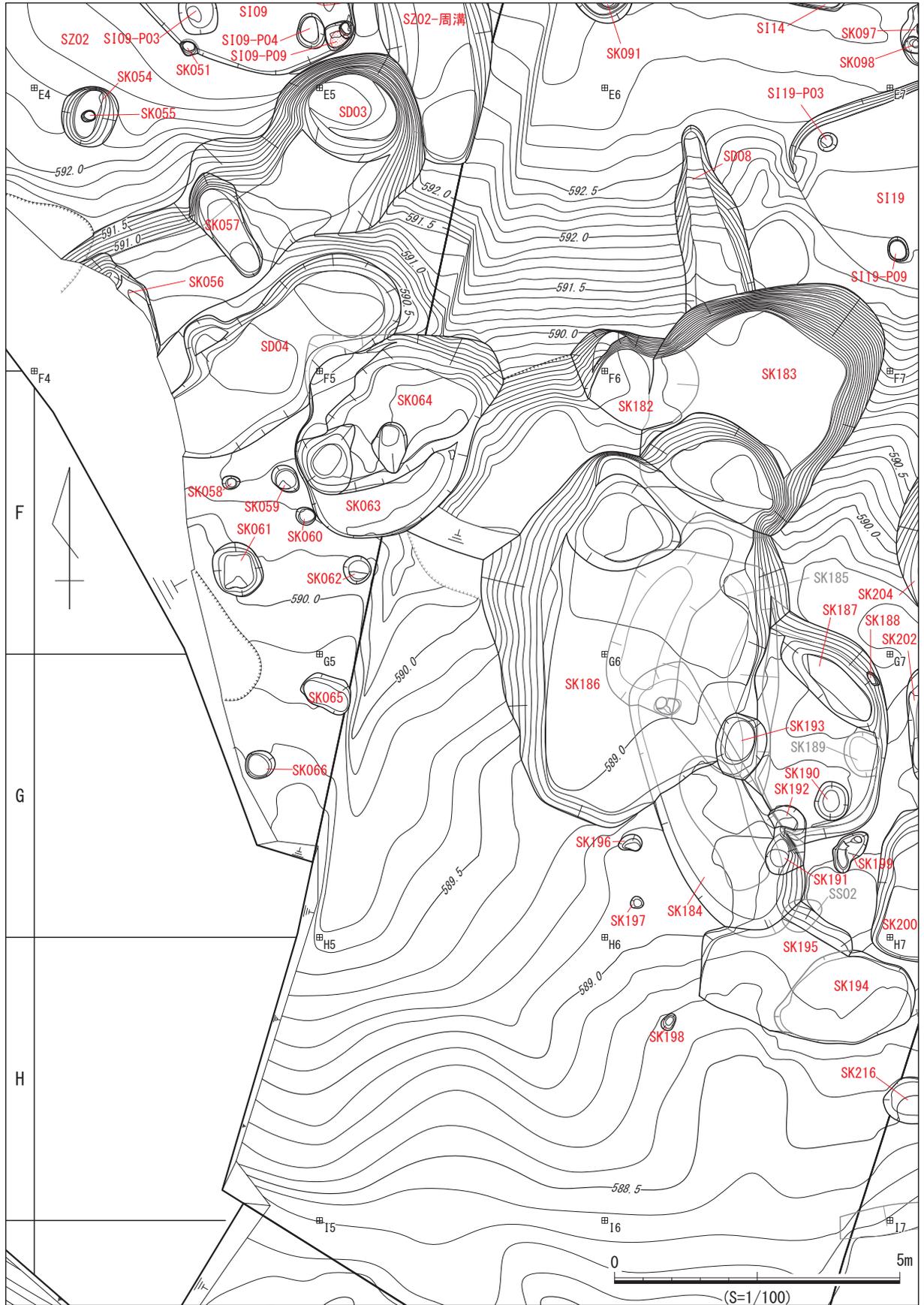


图 342 发掘区全域图 分割图 (40)

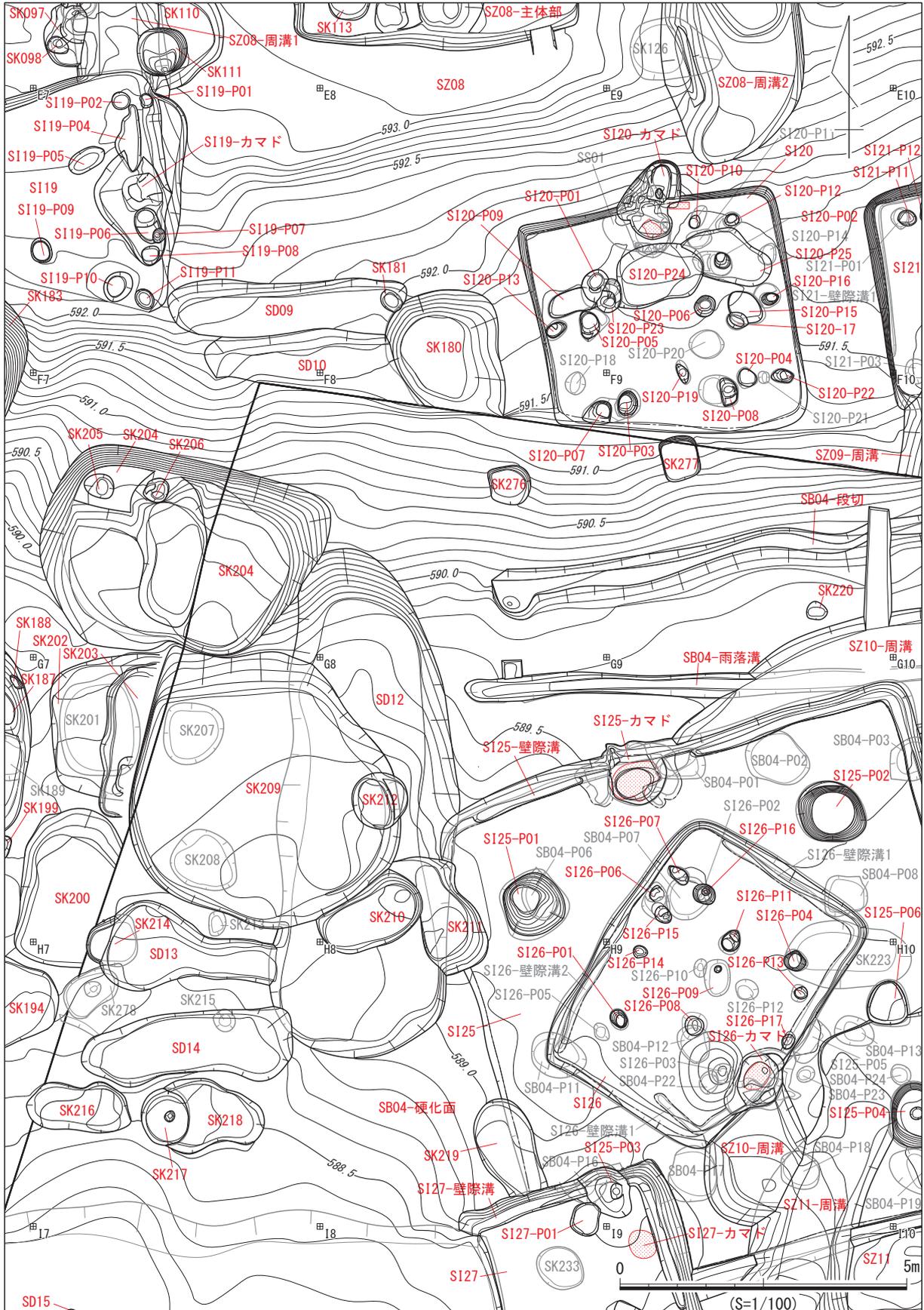


図 343 発掘区全域図 分割図 (41)

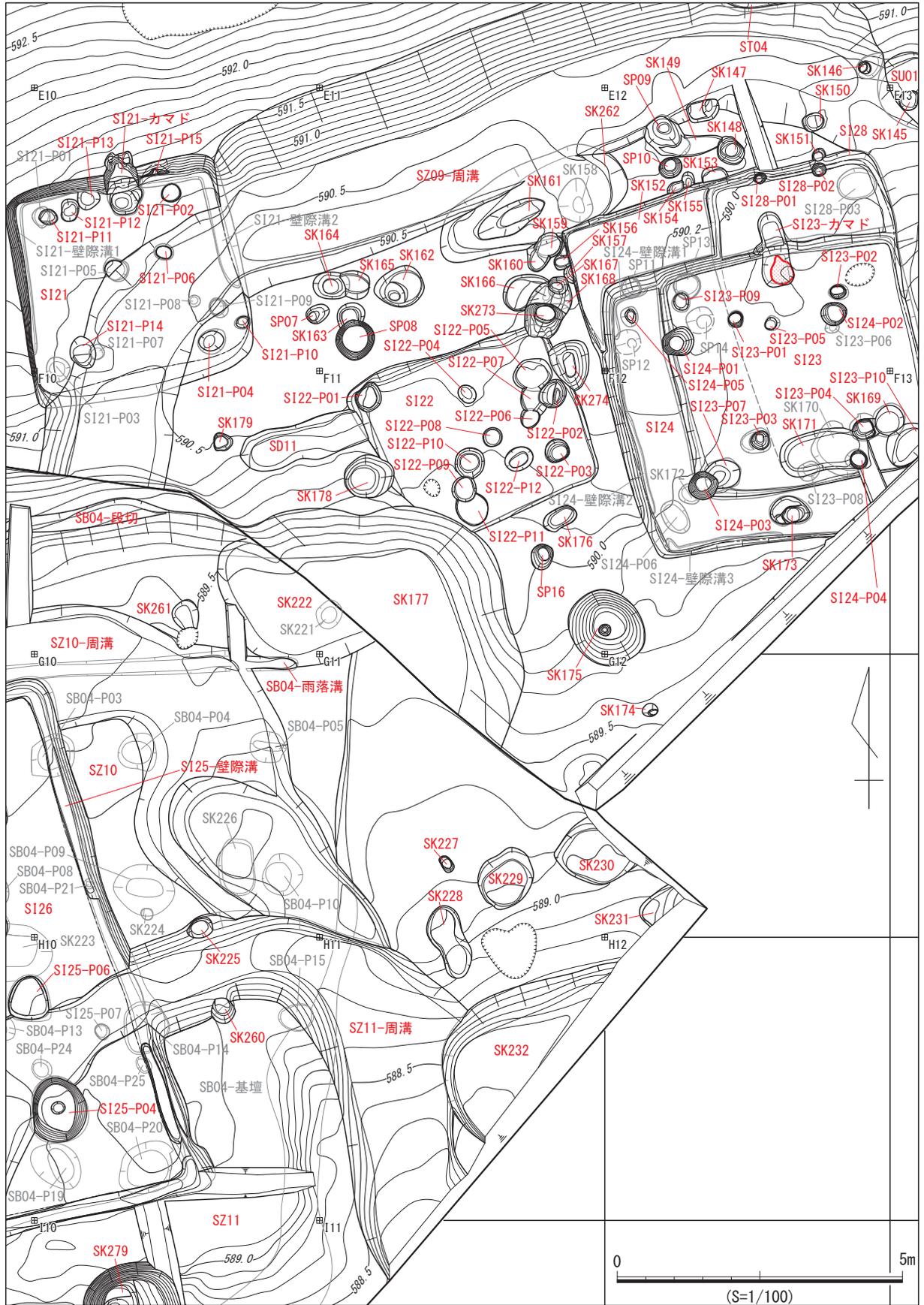


图 344 発掘区全域図 分割図 (42)

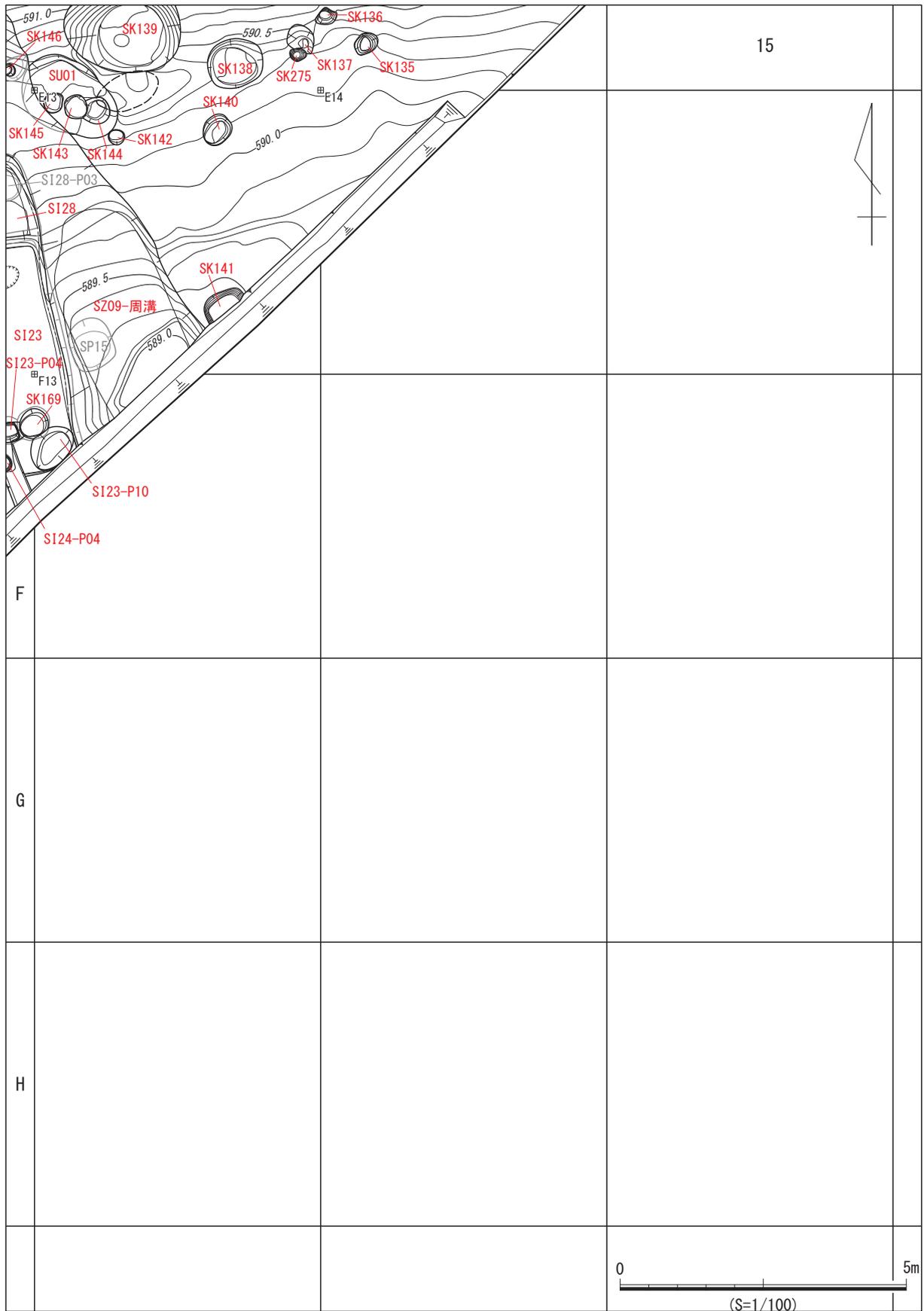


图 345 発掘区全域図 分割図 (43)

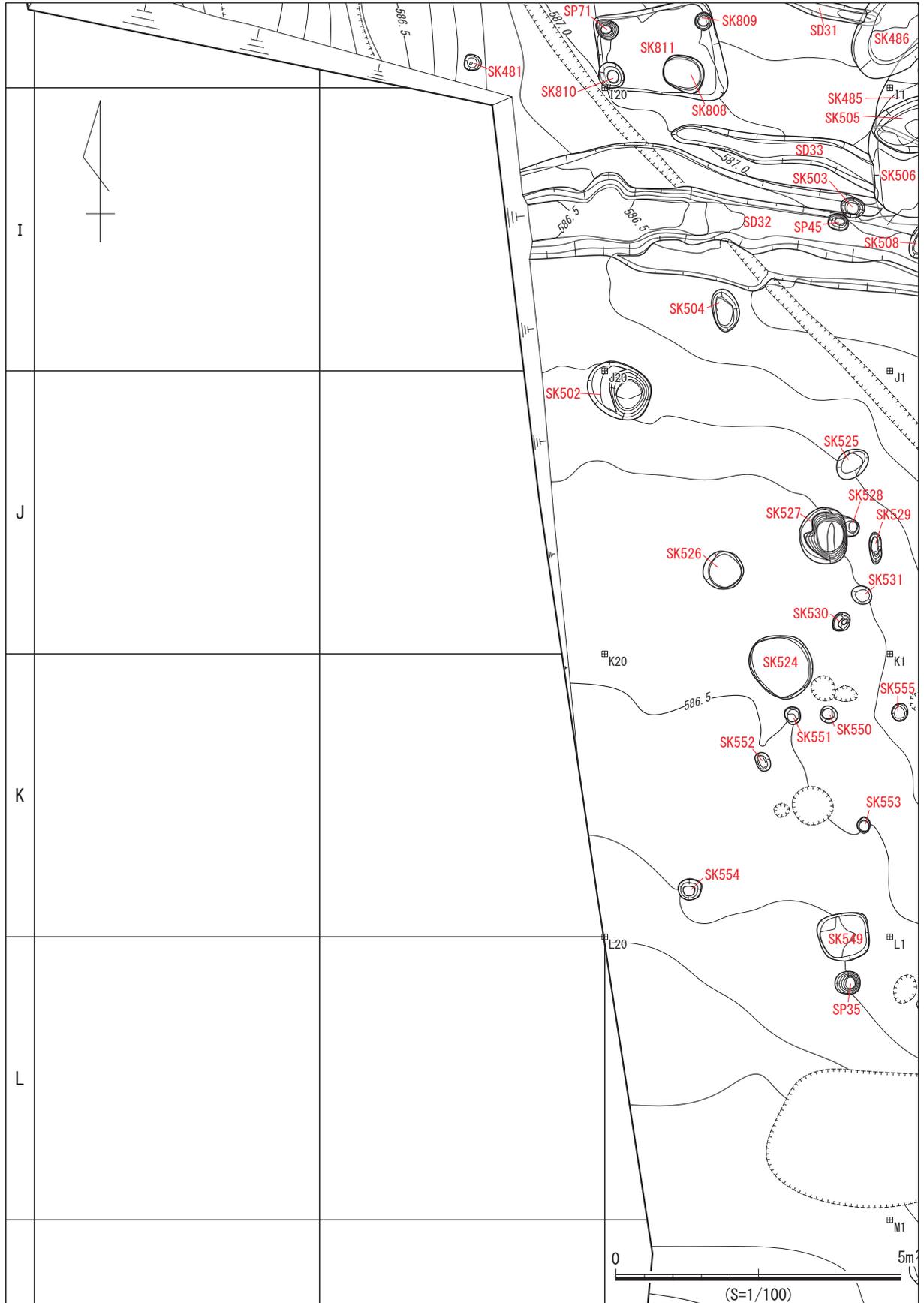


图 346 发掘区全域图 分割图 (44)

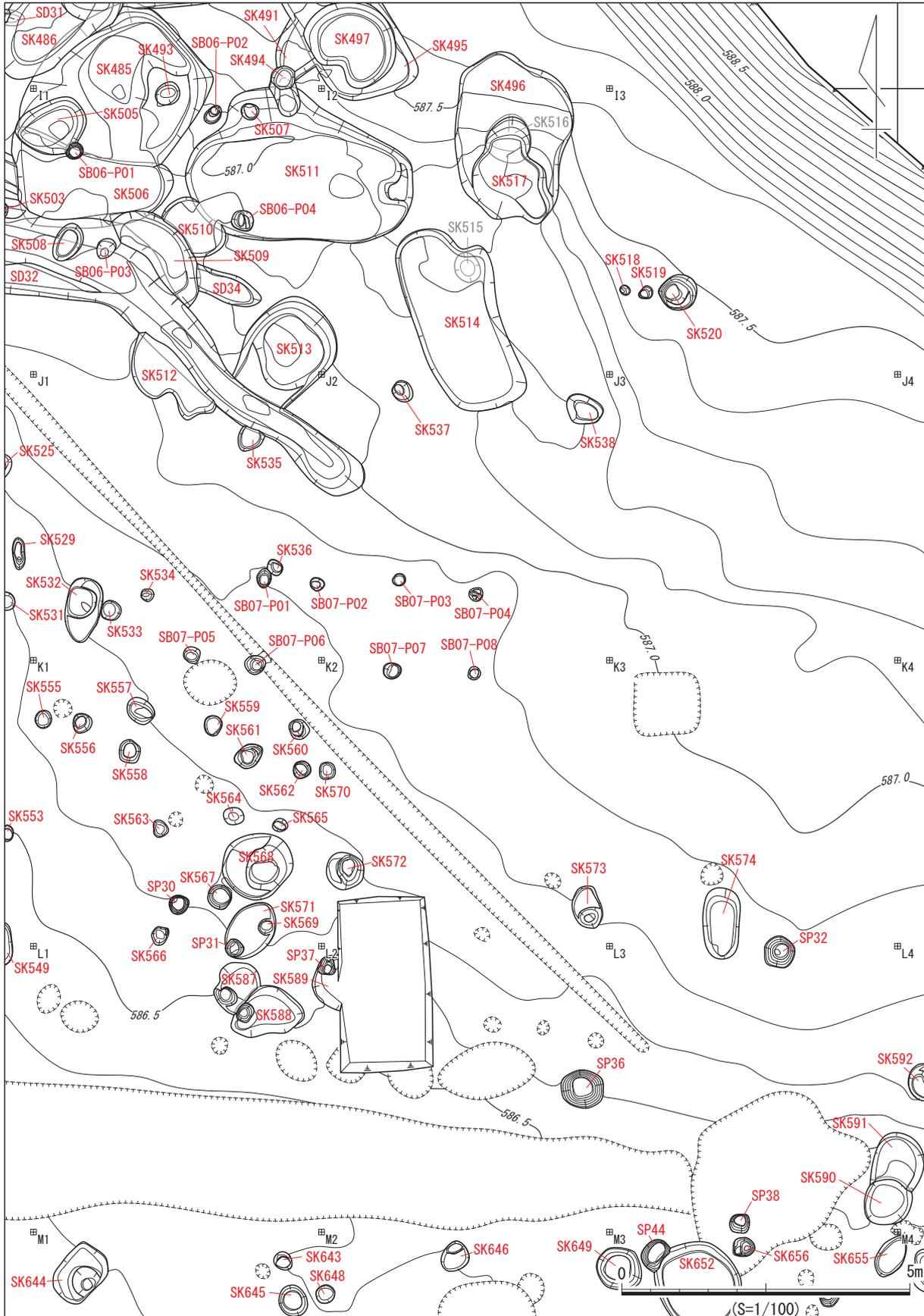


図 347 発掘区全域図 分割図 (45)

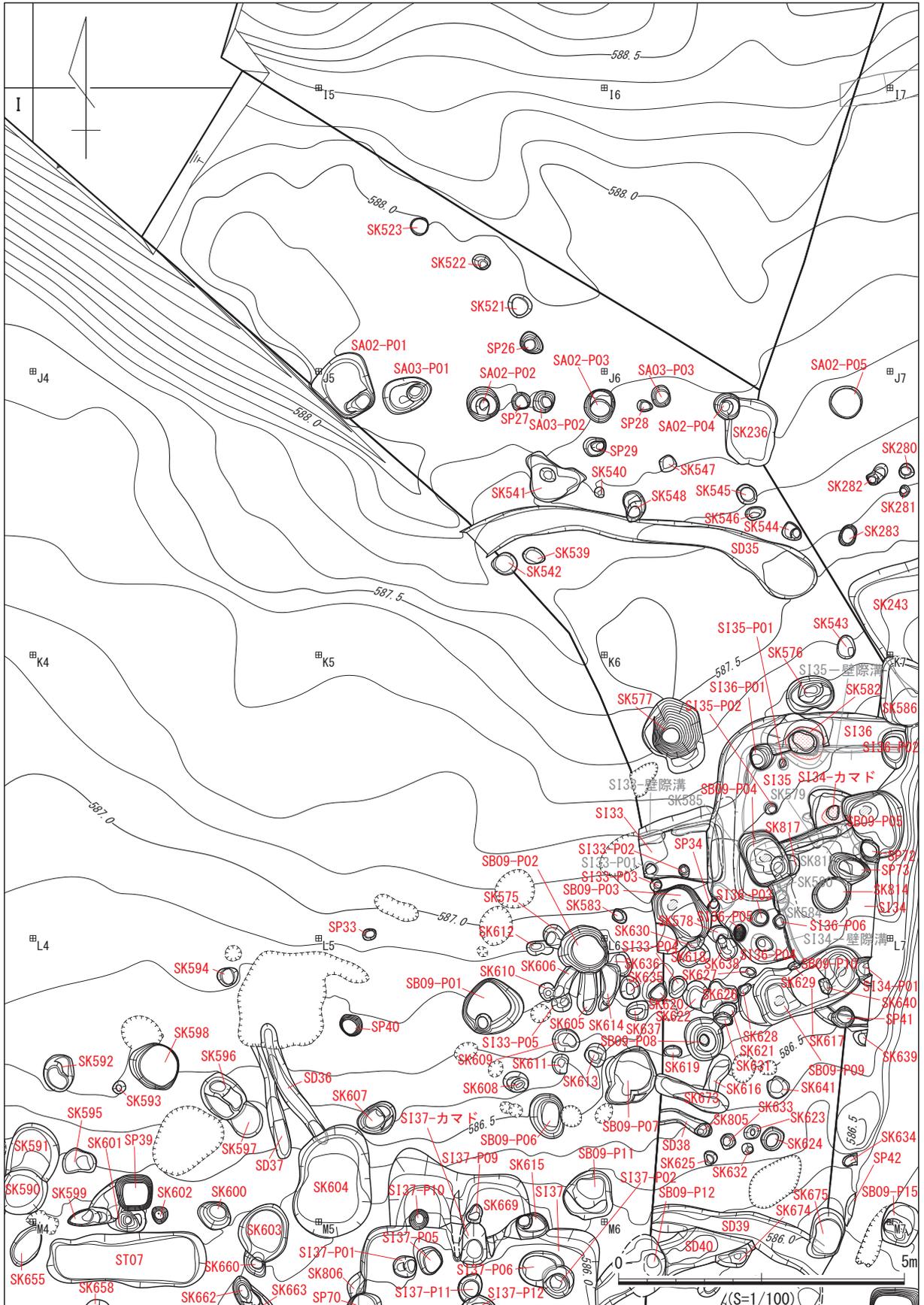


図 348 発掘区全域図 分割図 (46)

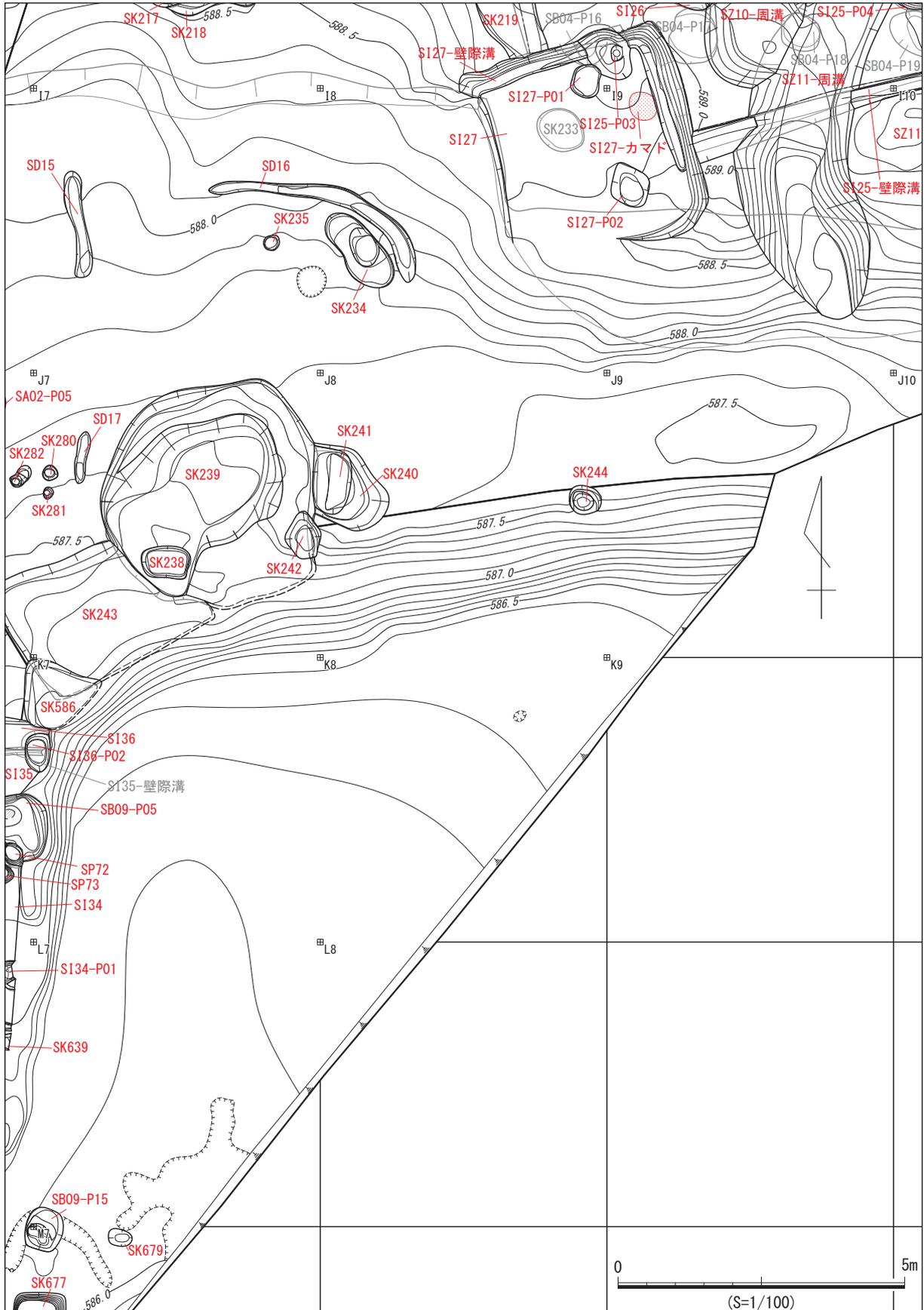


图 349 発掘区全域図 分割図 (47)

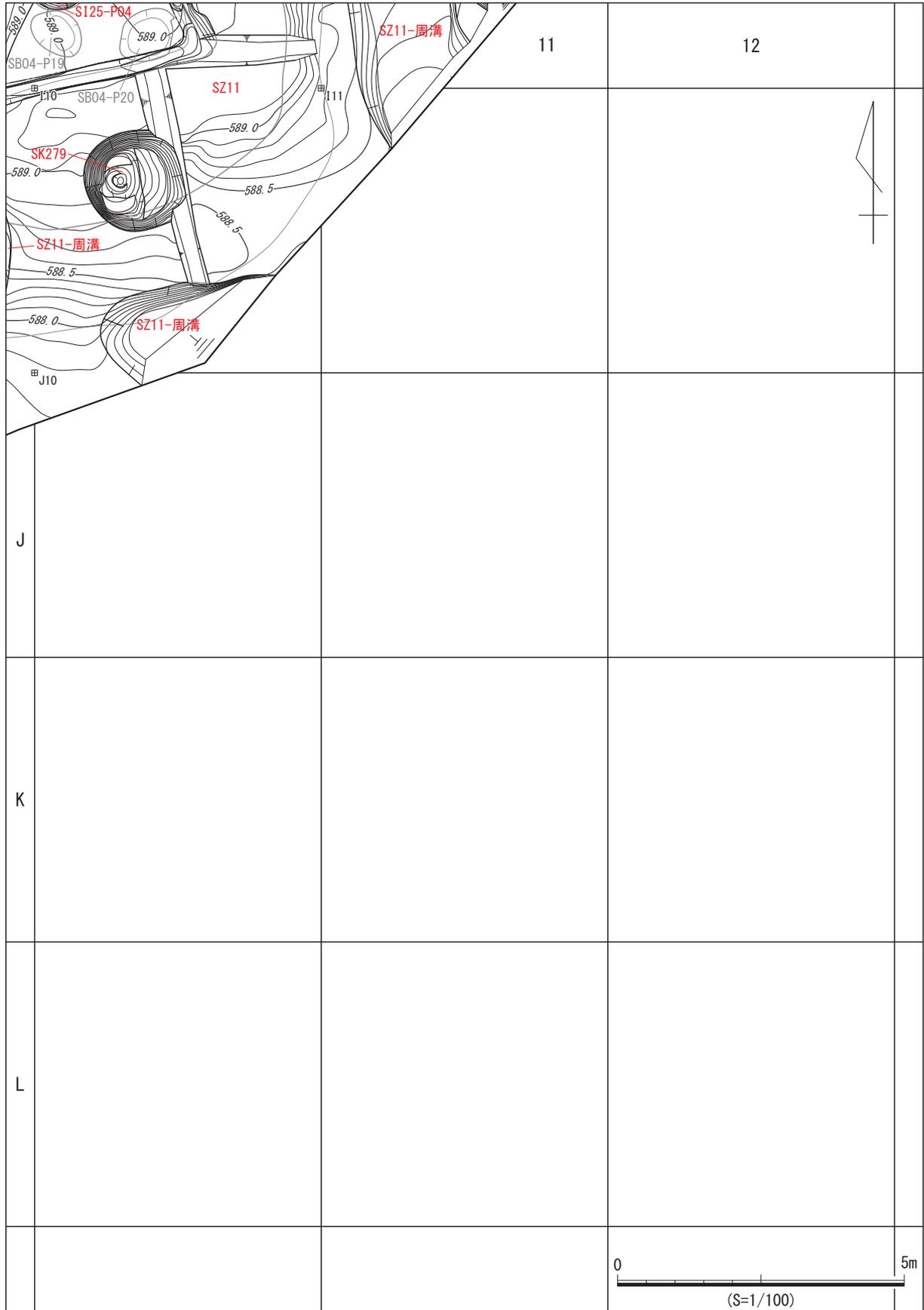


图 350 发掘区全域图 分割图 (48)

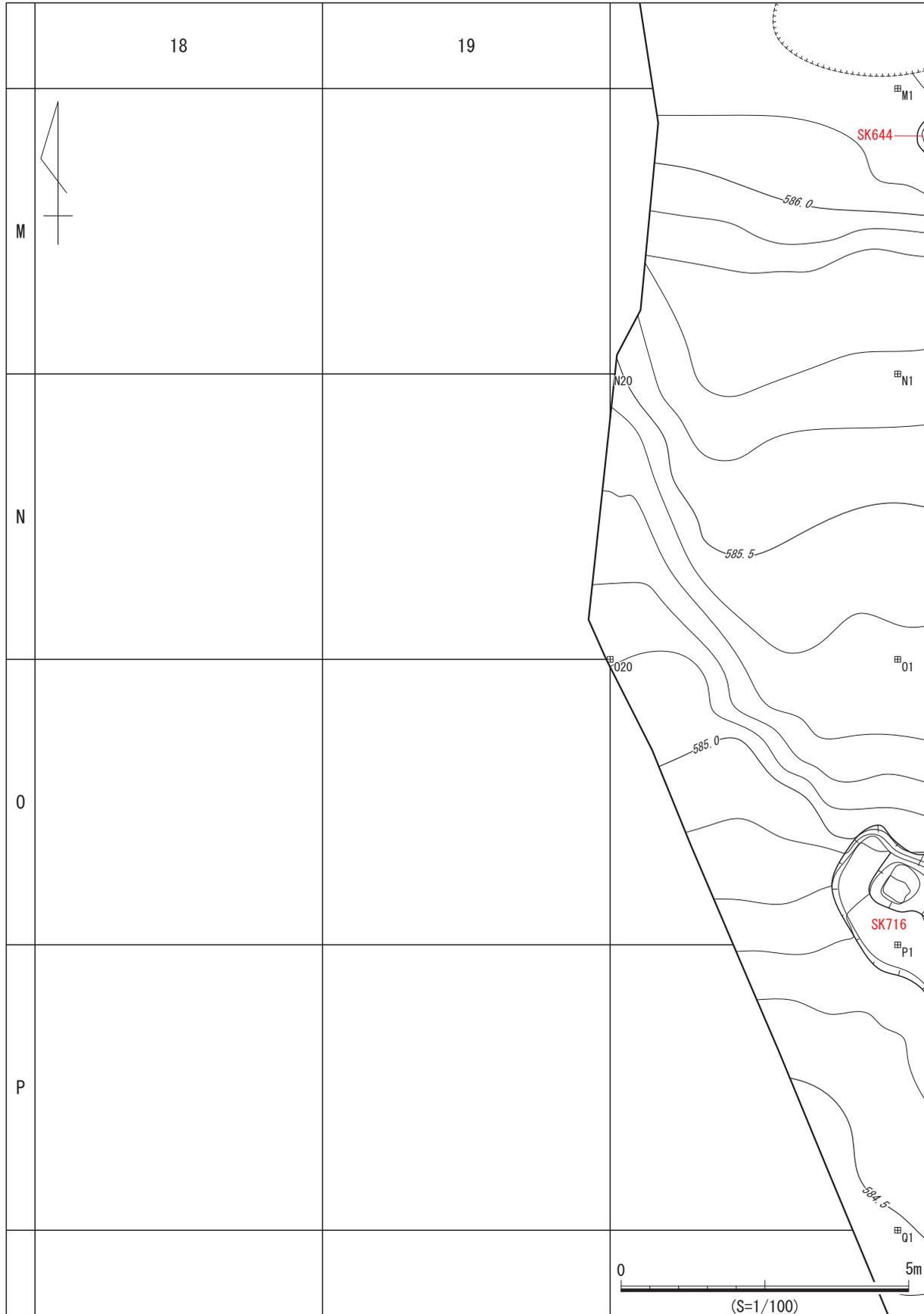


図 351 発掘区全域図 分割図 (49)



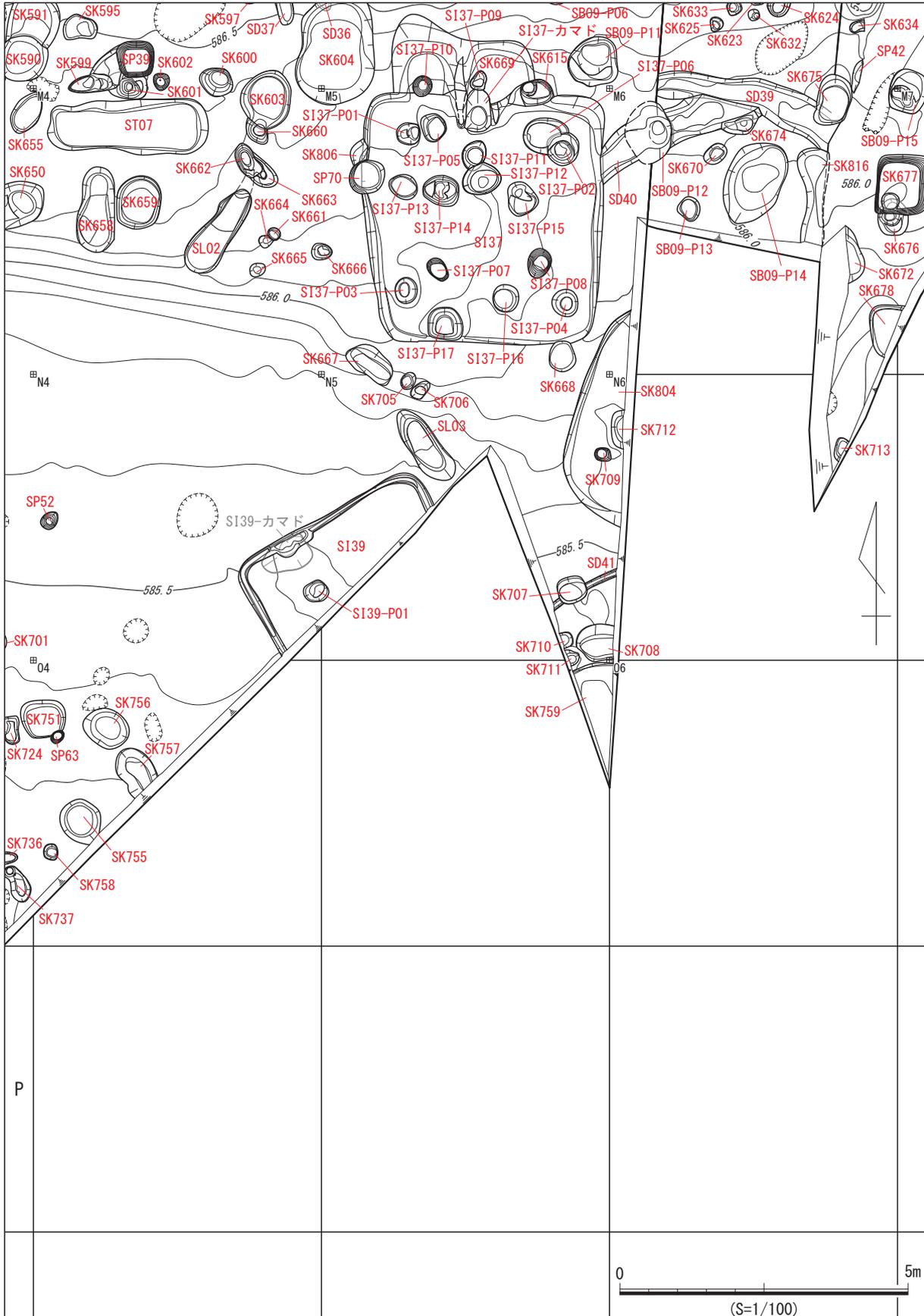


図 353 発掘区全域図 分割図 (51)

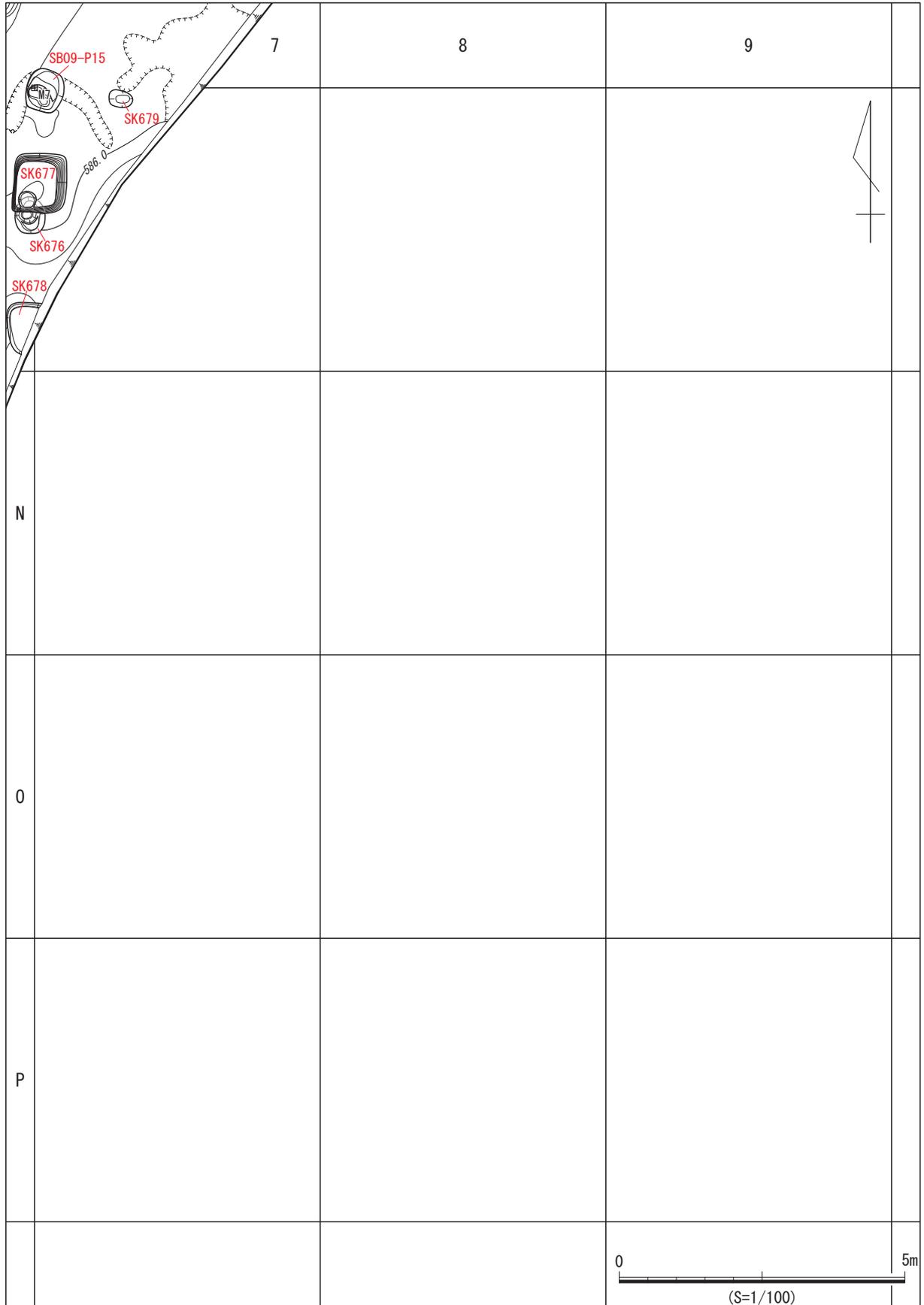


图 354 发掘区全域图 分割图 (52)

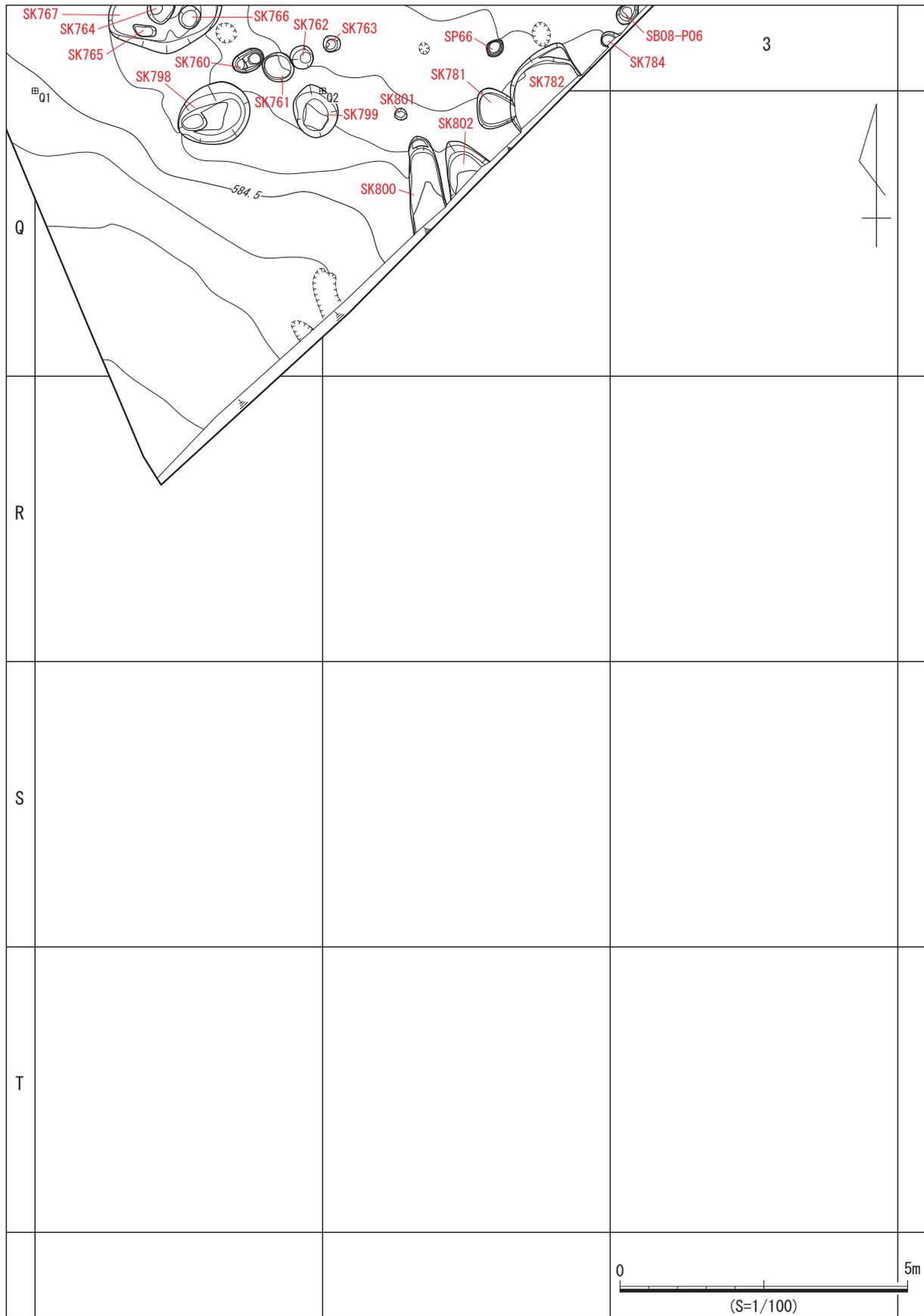


図 355 発掘区全域図 分割図 (53)

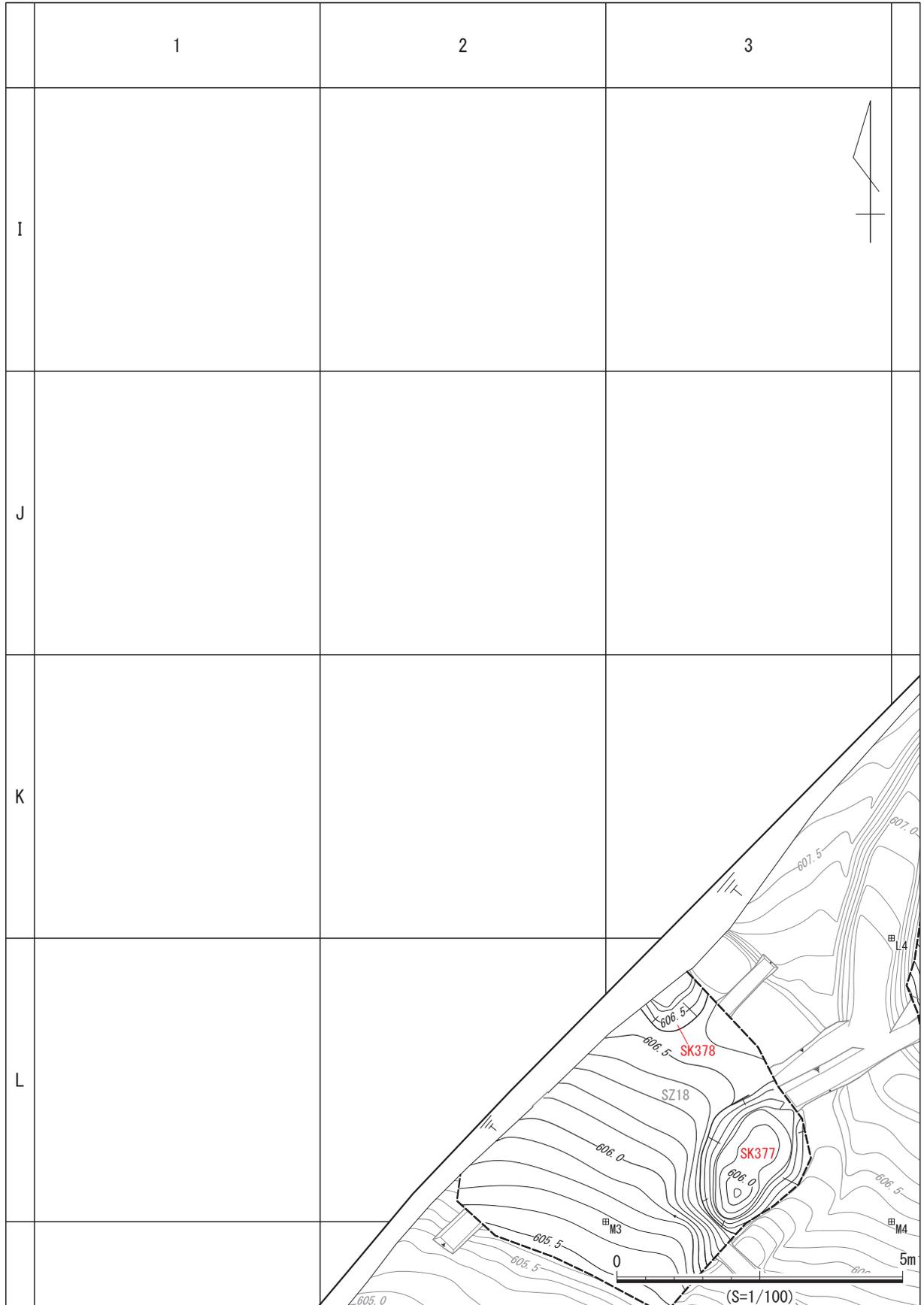


图 356 发掘区全域图 分割图 (54)

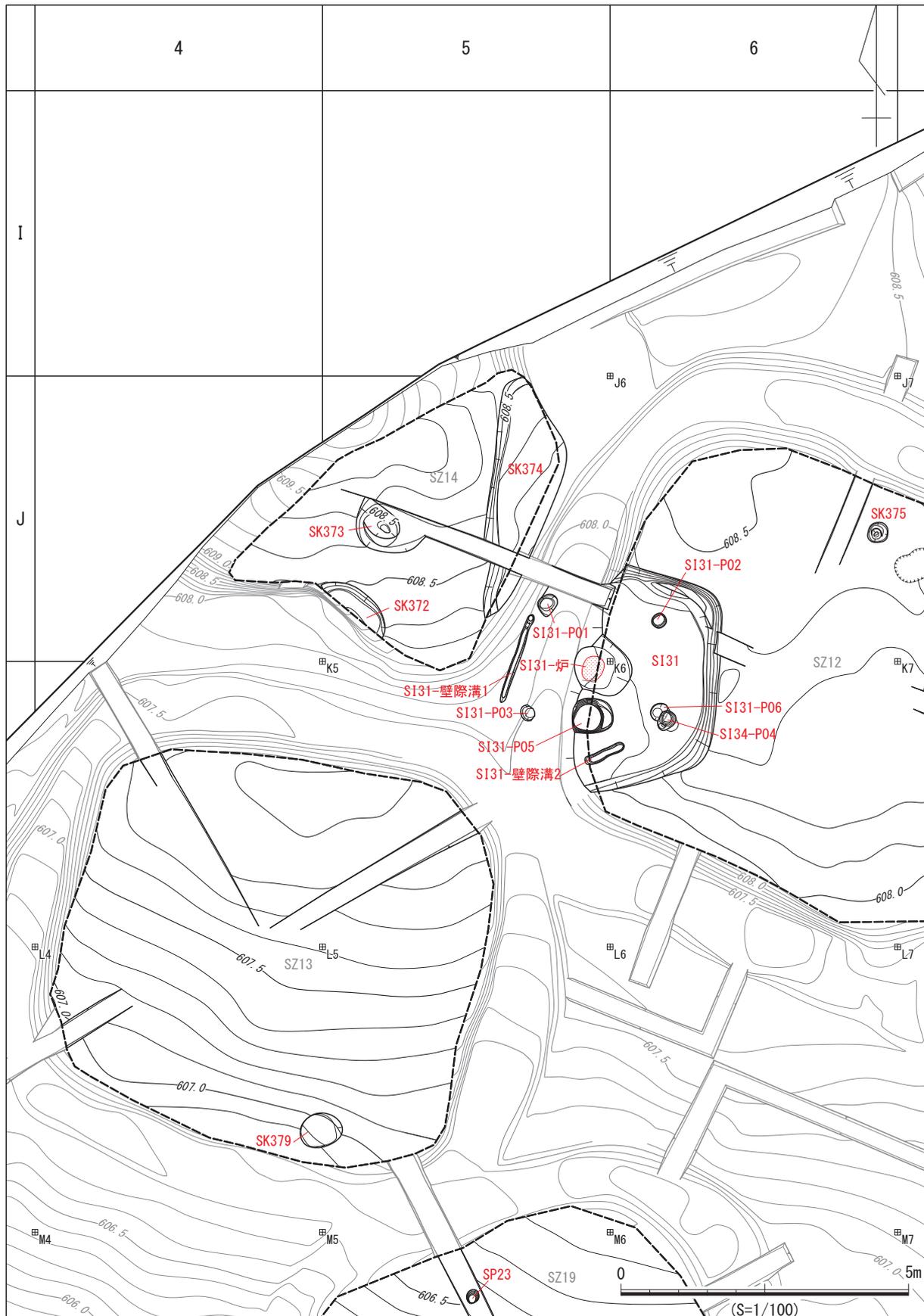


图 357 発掘区全域図 分割図 (55)

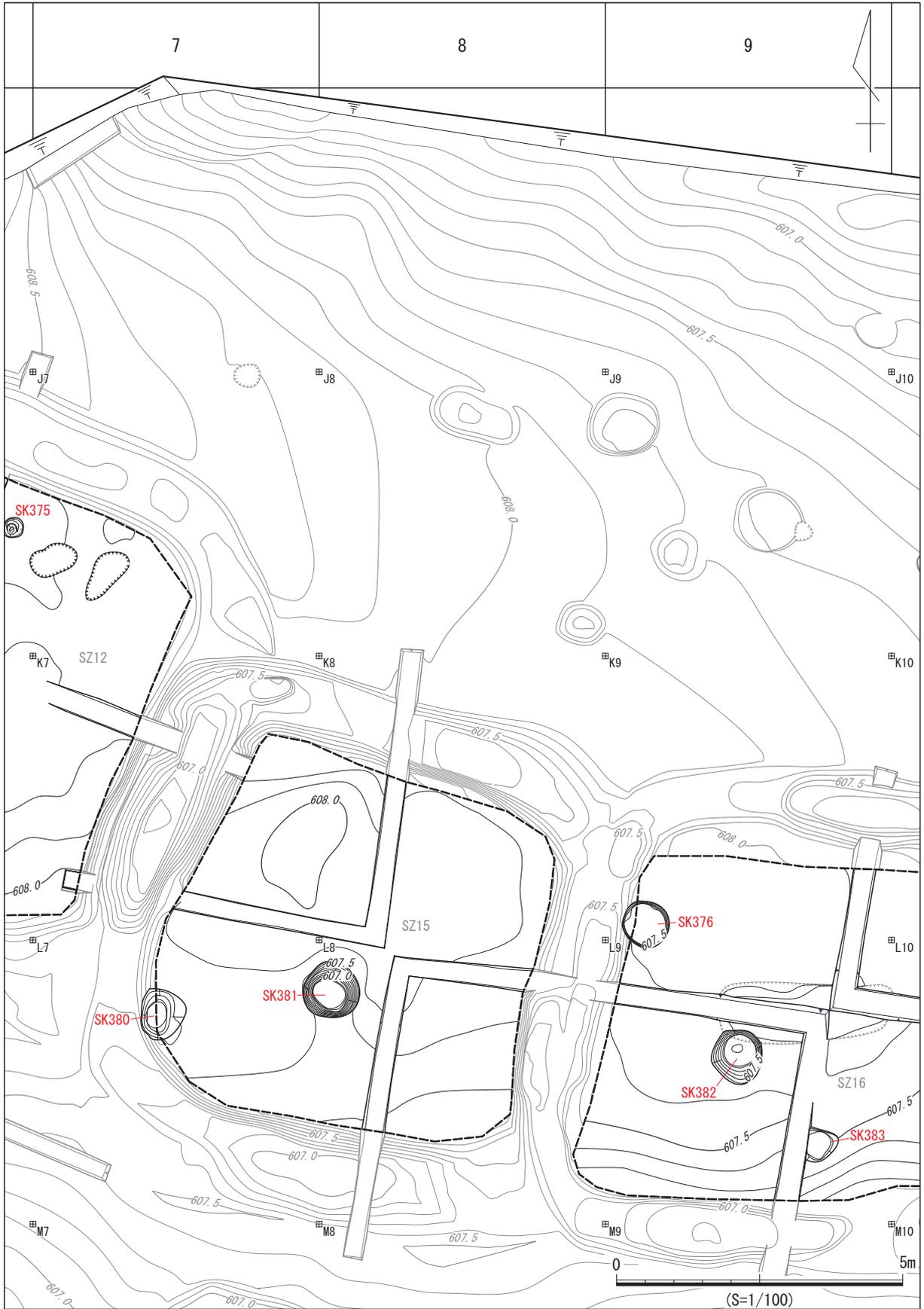


图 358 发掘区全域图 分割图 (56)

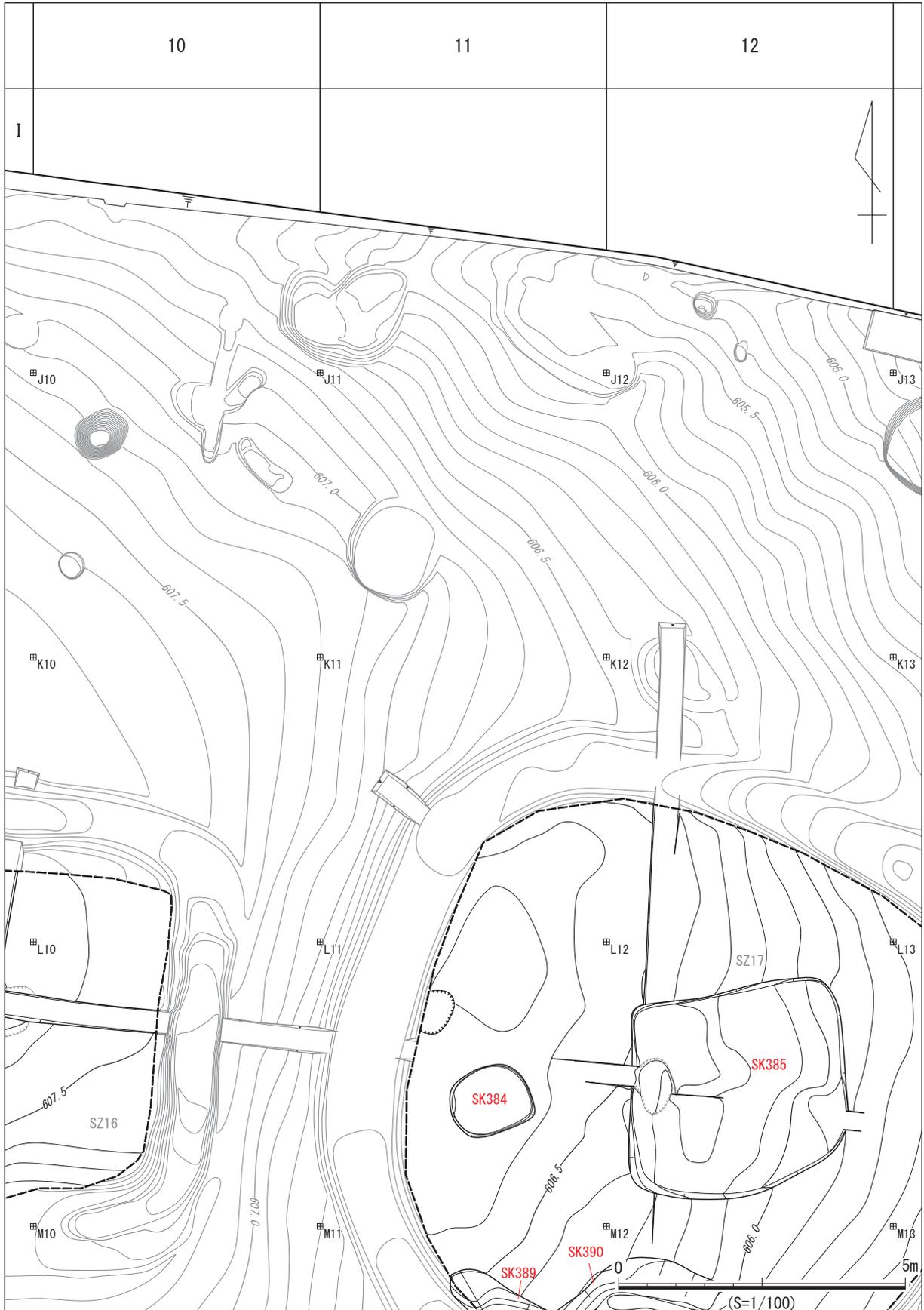


图 359 発掘区全域図 分割図 (57)

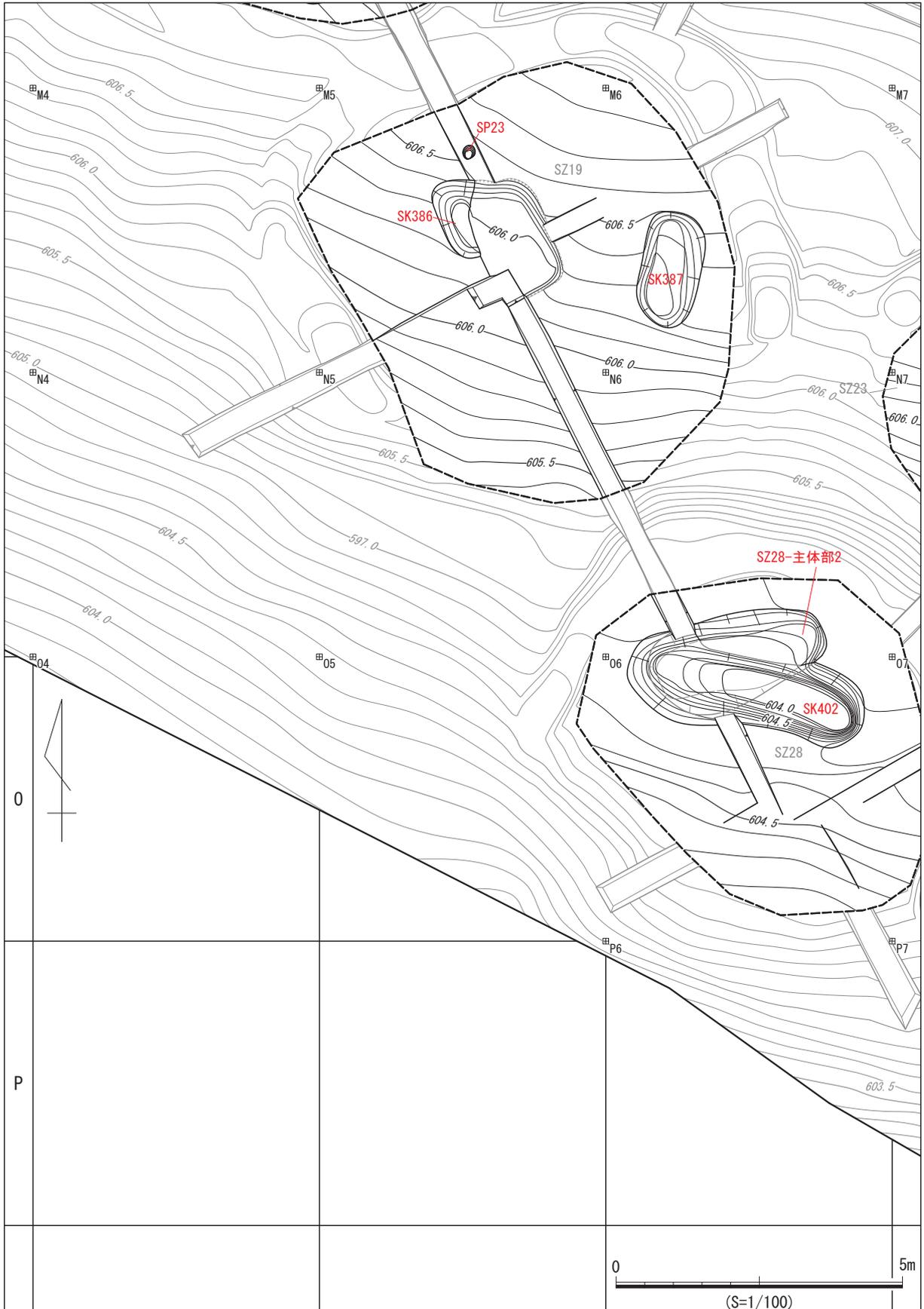


图 360 発掘区全域図 分割図 (58)

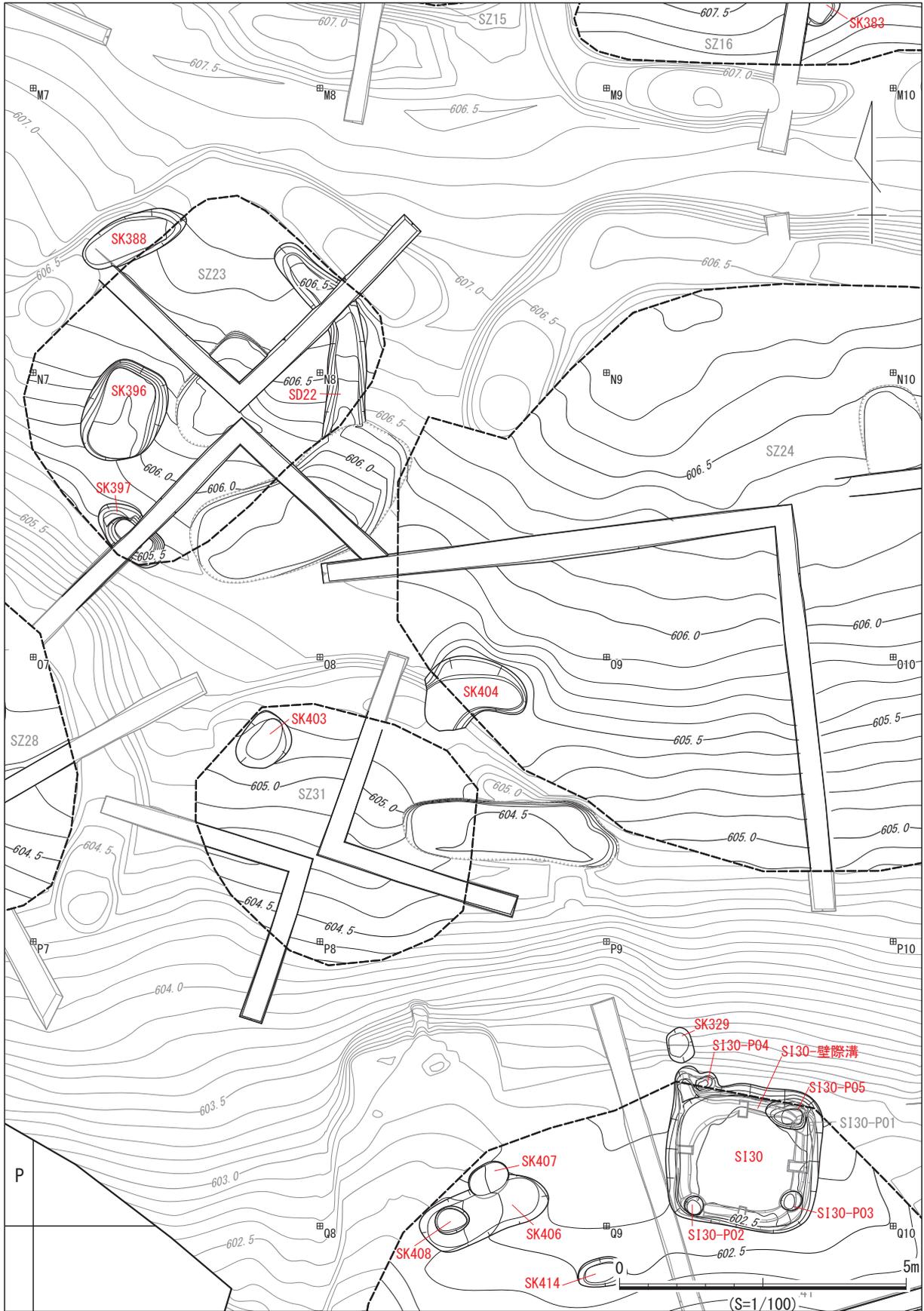


图 361 発掘区全域图 分割图 (59)

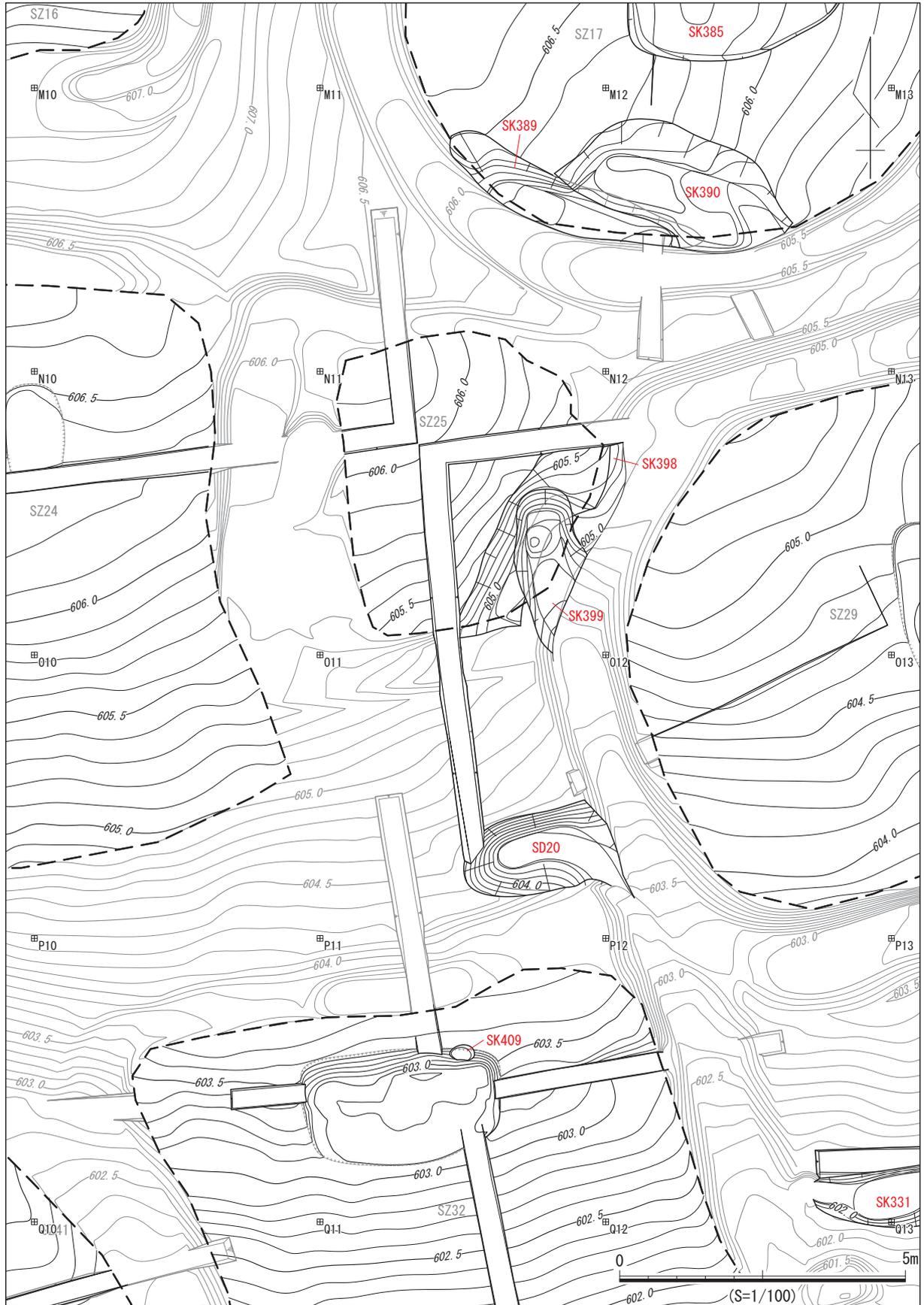


图 362 发掘区全域图 分割图 (60)

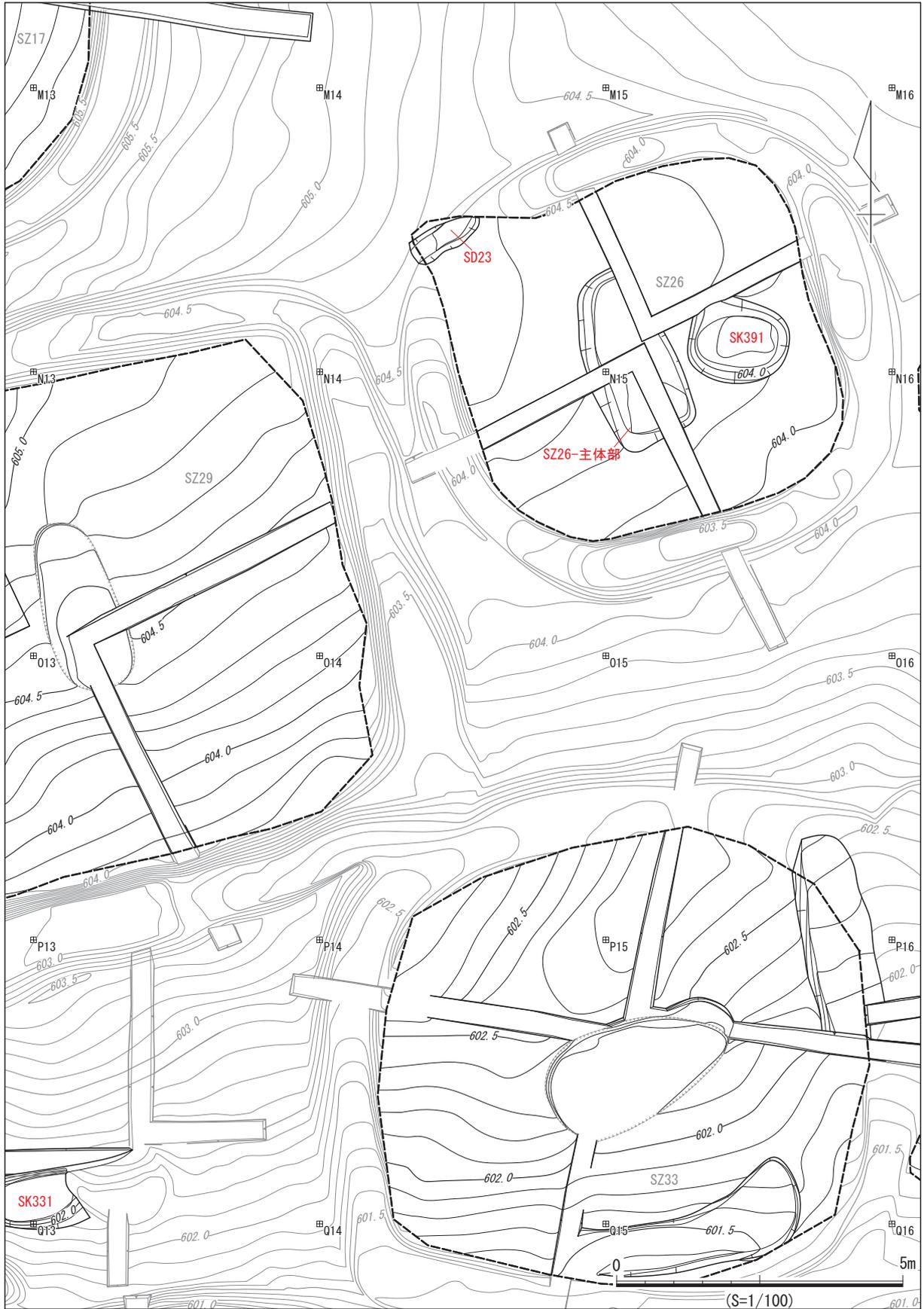


图 363 発掘区全域図 分割図 (61)

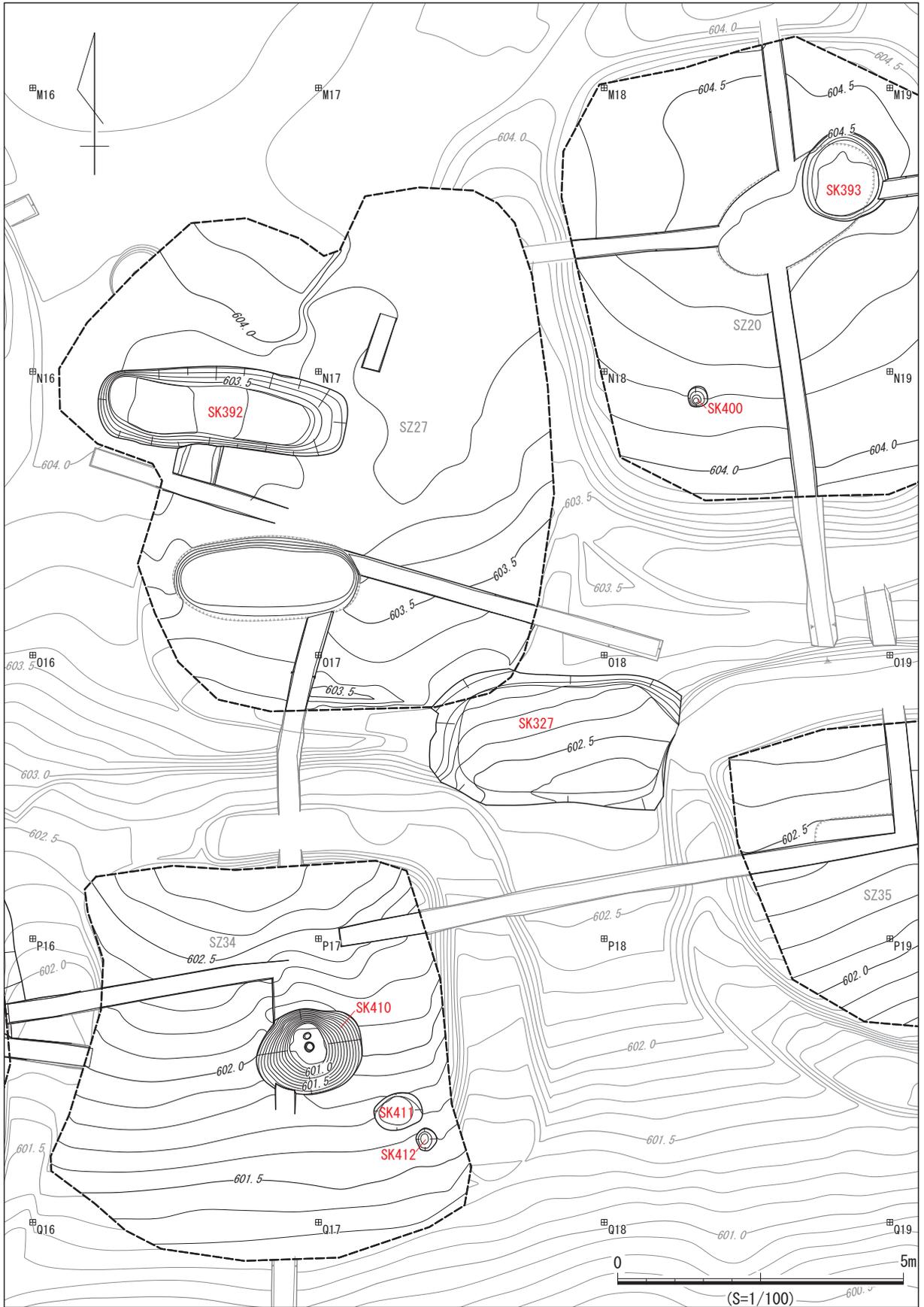


图 364 发掘区全域图 分割图 (62)

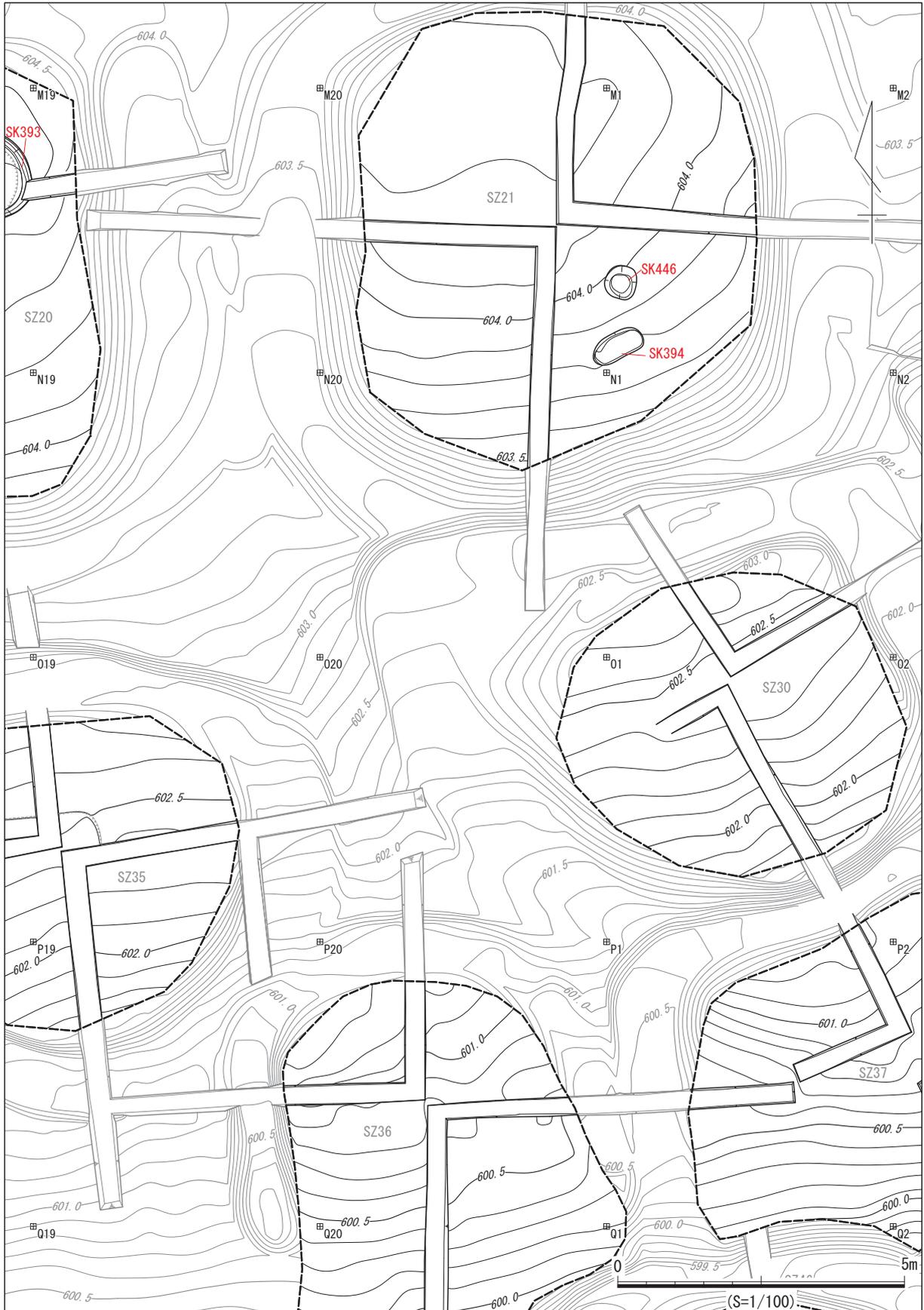


图 365 発掘区全域図 分割図 (63)

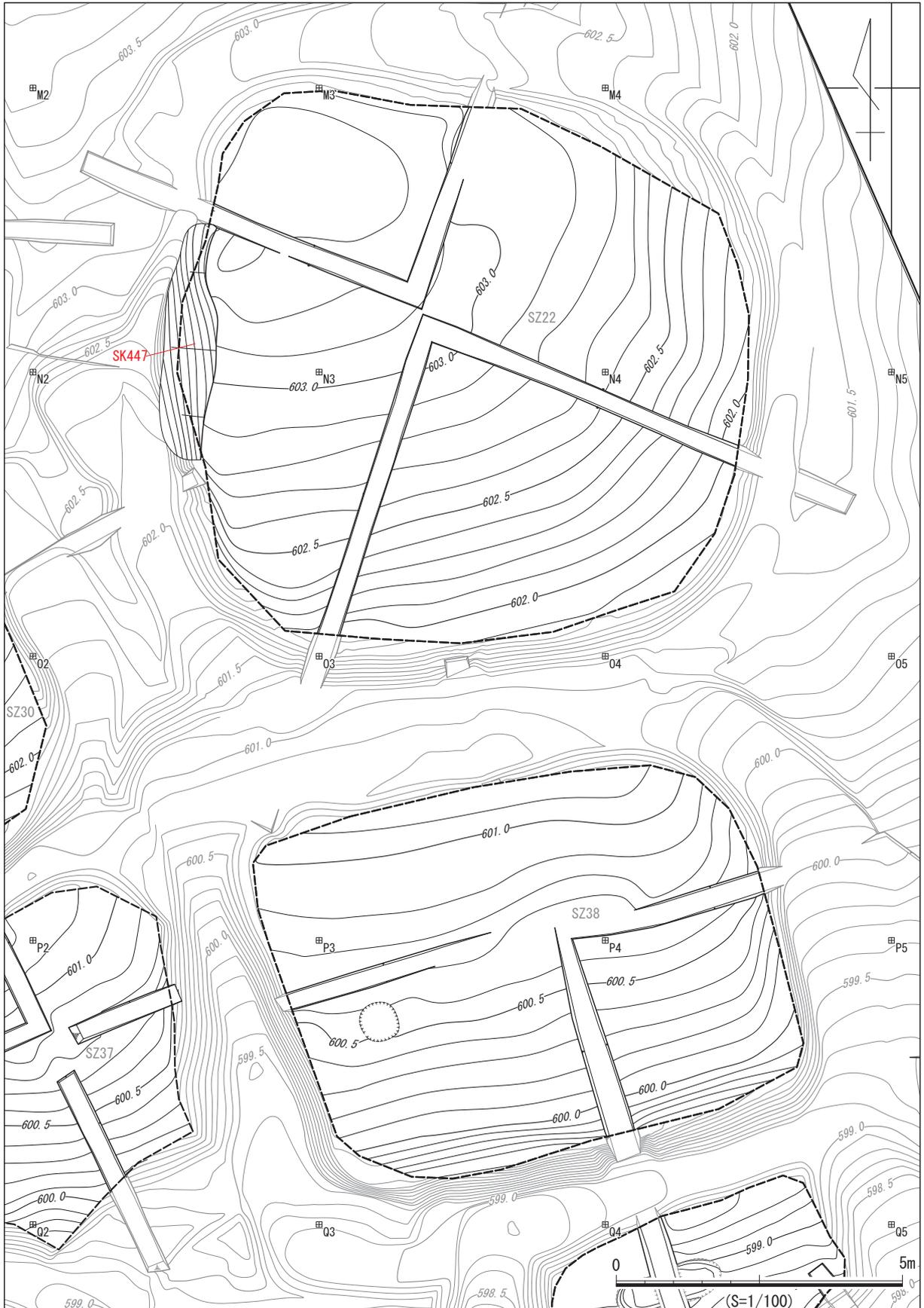


图 366 发掘区全域图 分割图 (64)



图 367 発掘区全域图 分割图 (65)

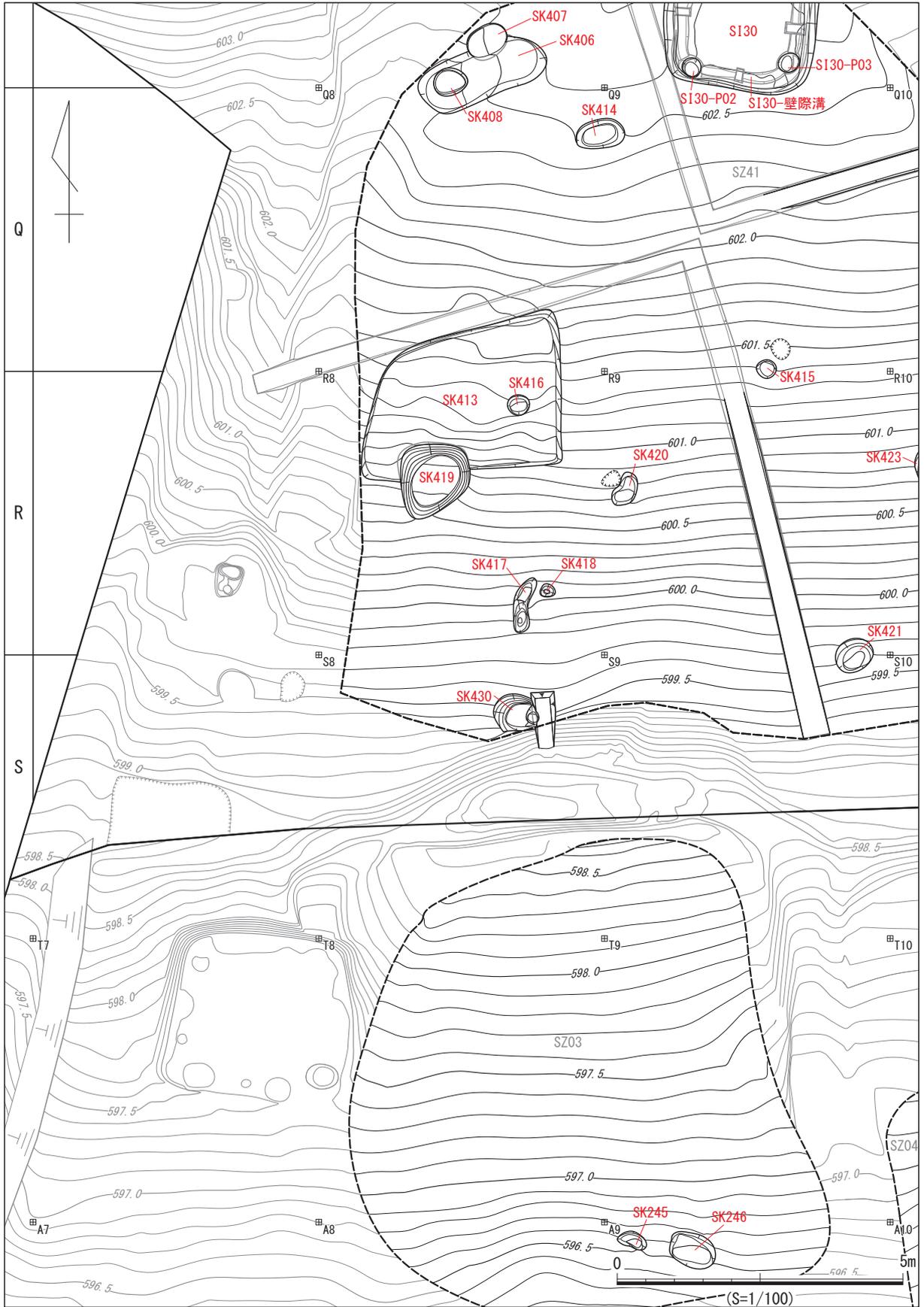


图 368 発掘区全域図 分割図 (66)



图 369 発掘区全域图 分割图 (67)

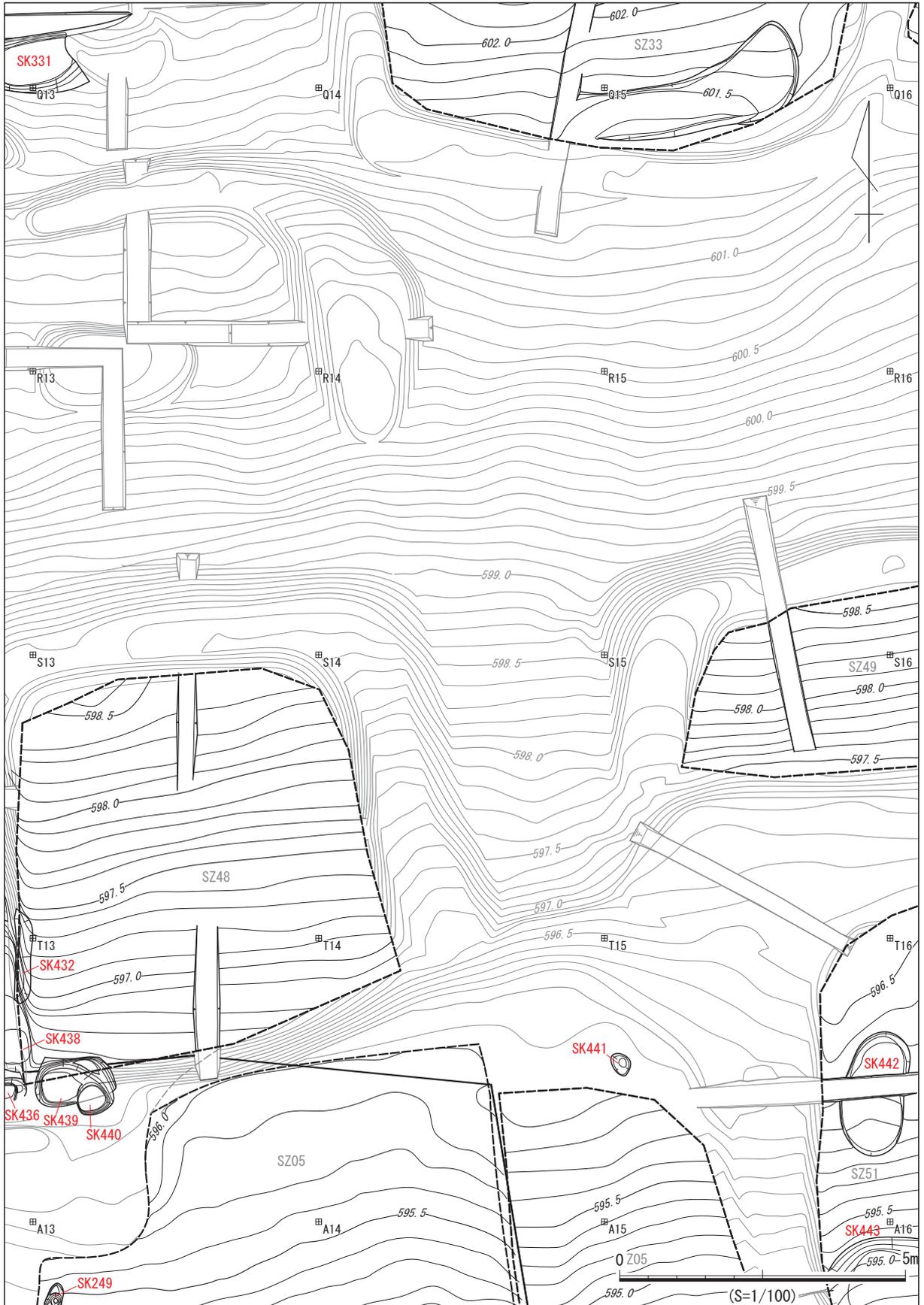


图 370 发掘区全域图 分割图 (68)

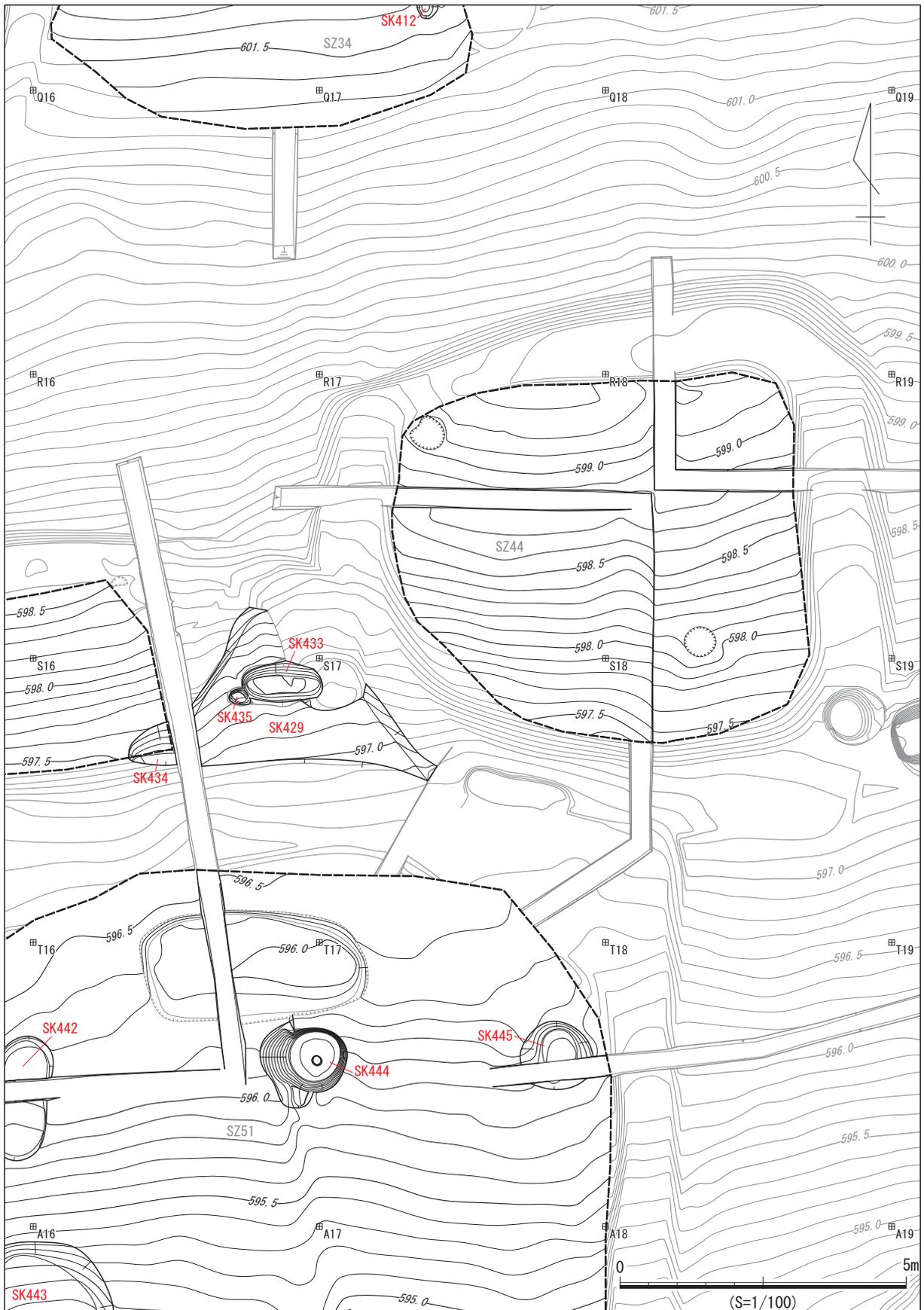


图 371 発掘区全域図 分割図 (69)



图 372 发掘区全域图 分割图 (70)

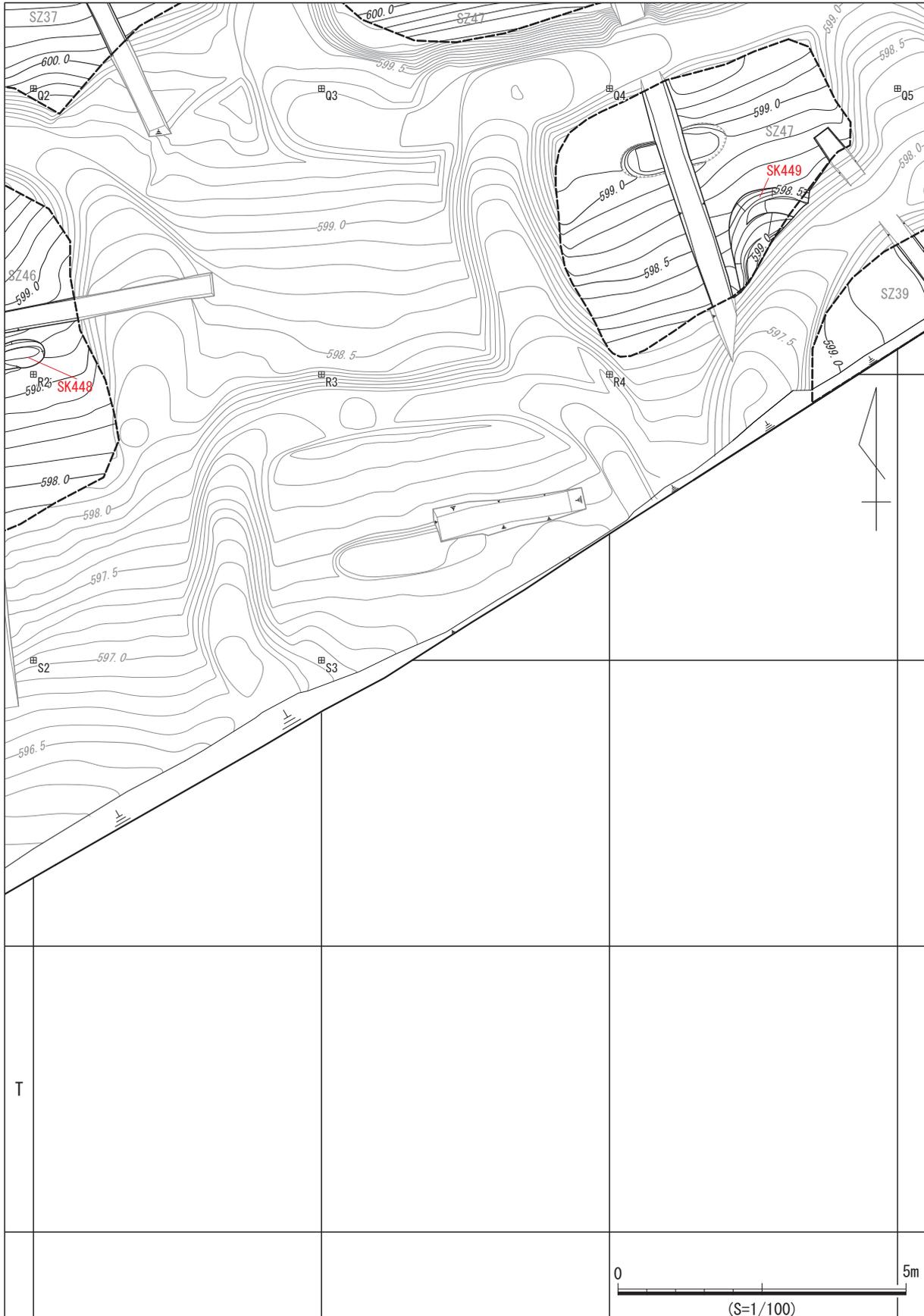


図 373 発掘区全域図 分割図 (71)

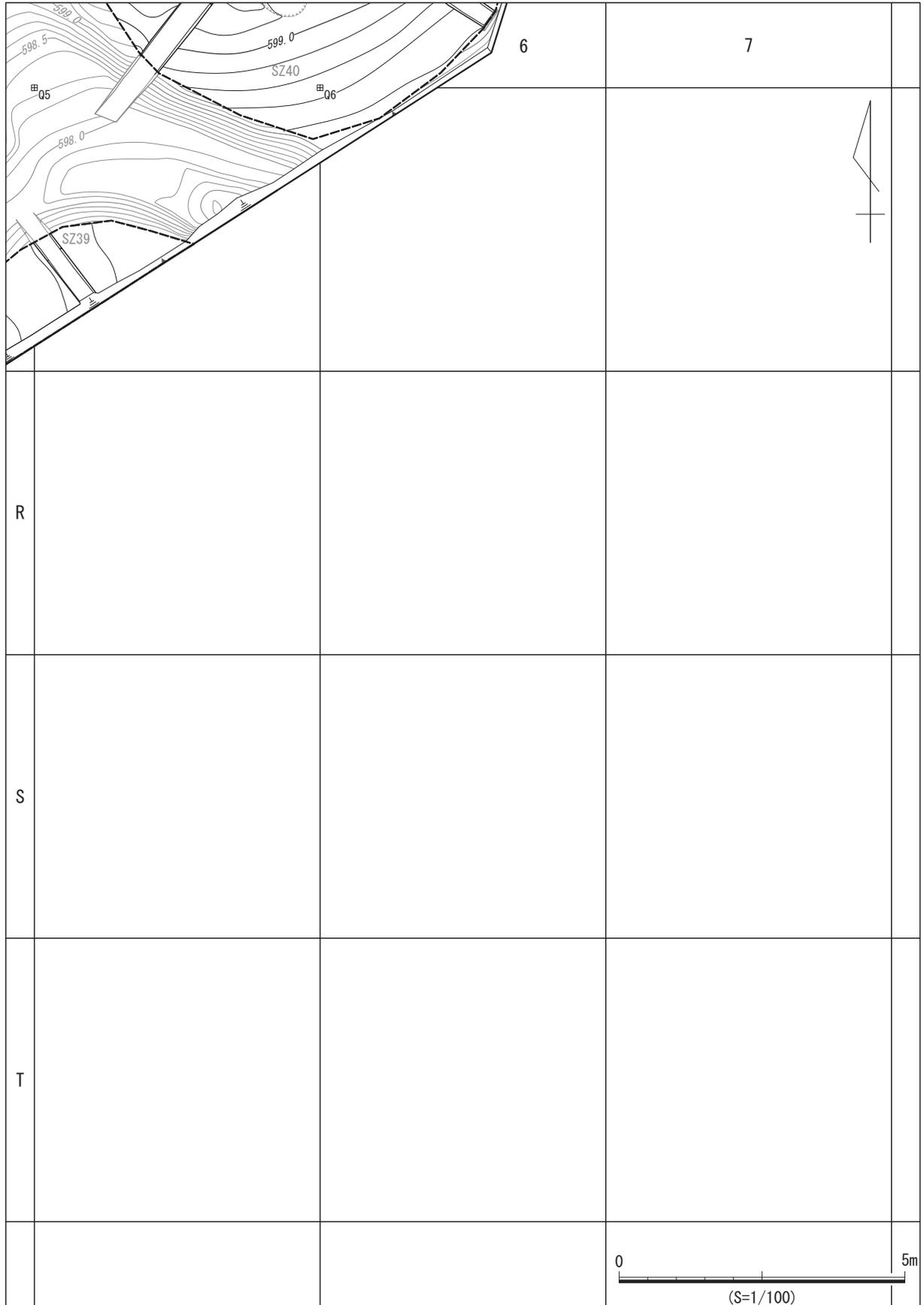


图 374 发掘区全域图 分割图 (72)



图 375 発掘区全域図 分割図 (73)



图 376 发掘区全域图 分割图 (74)

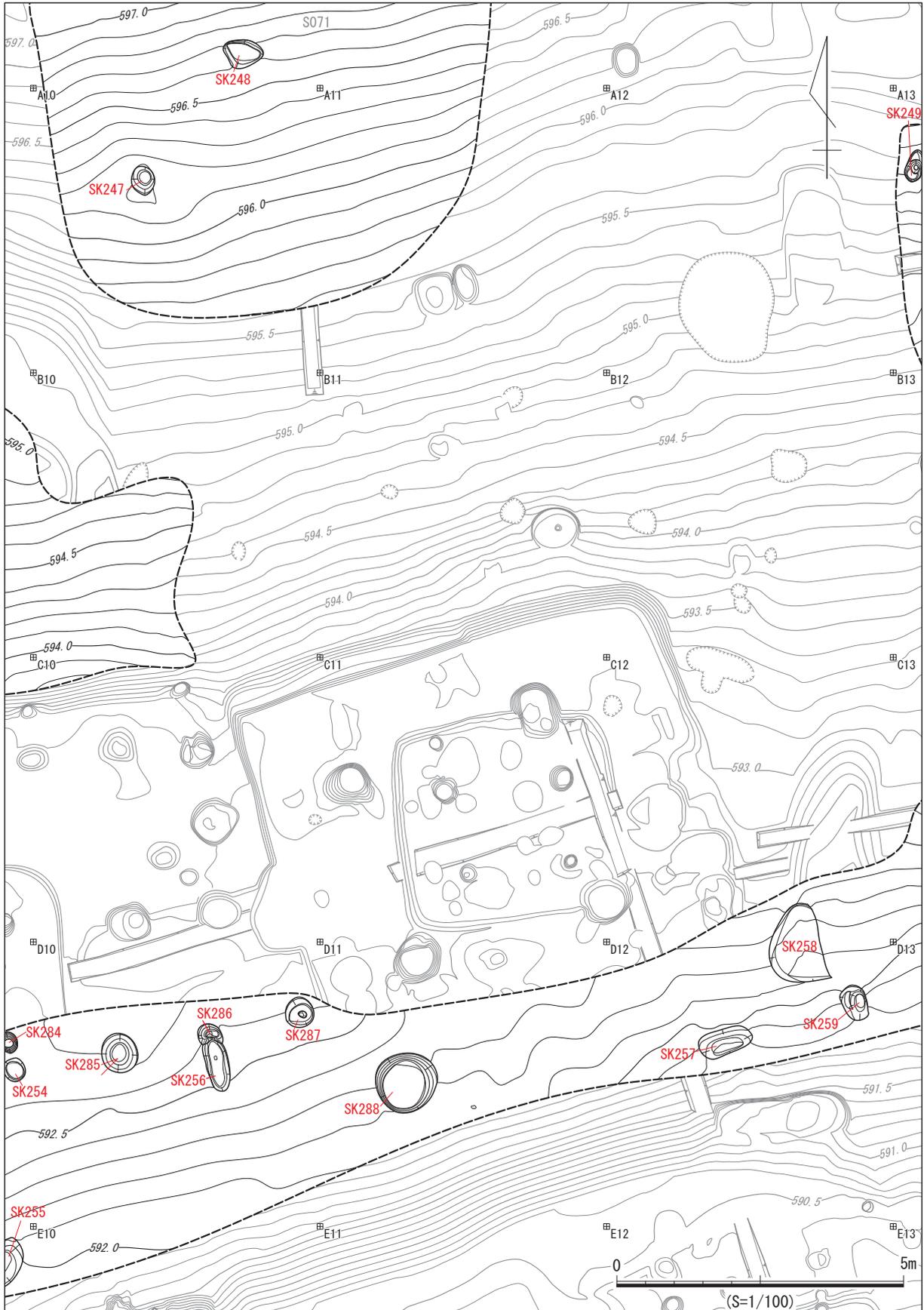


图 377 発掘区全域図 分割図 (75)

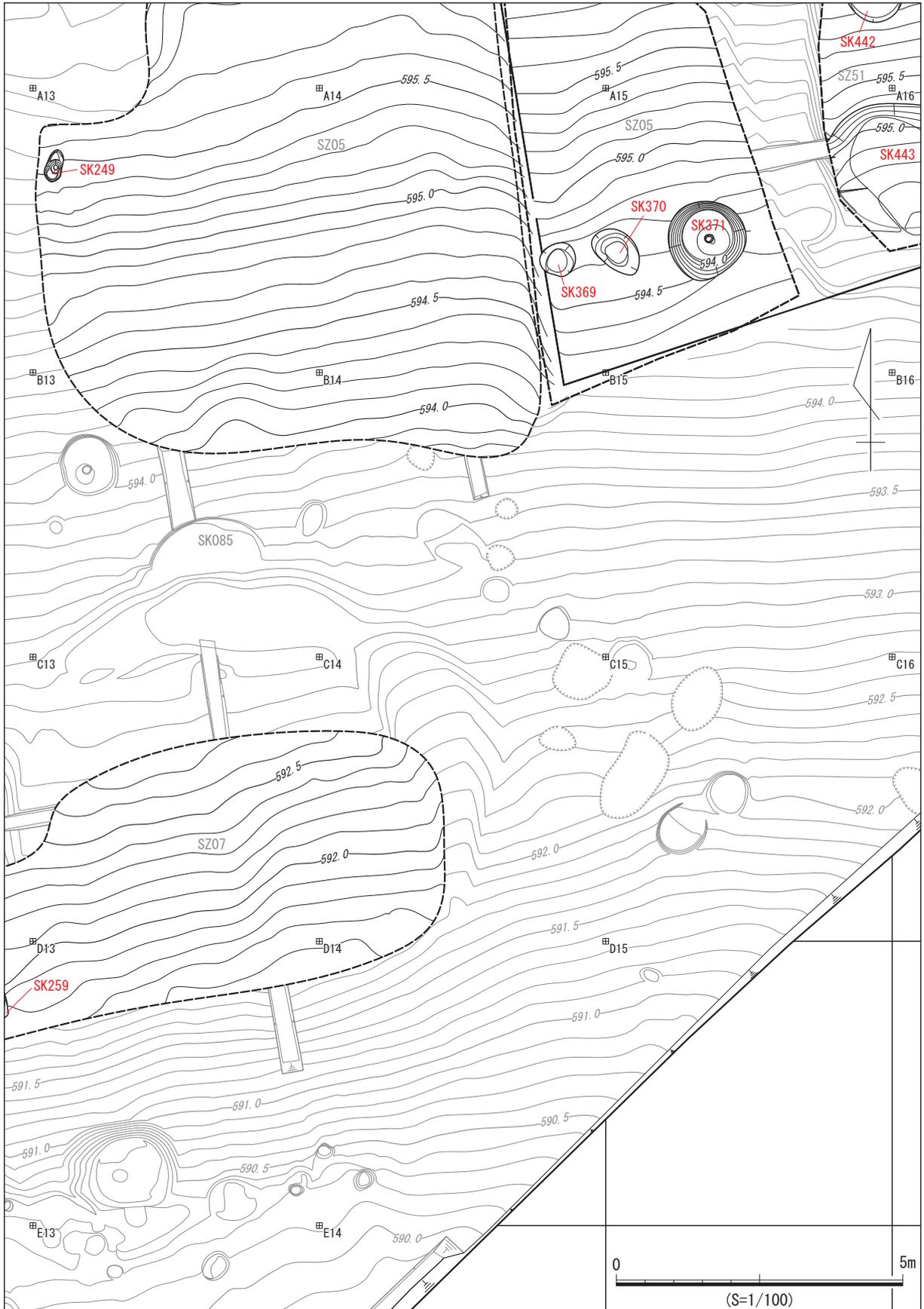


图 378 发掘区全域图 分割图 (76)

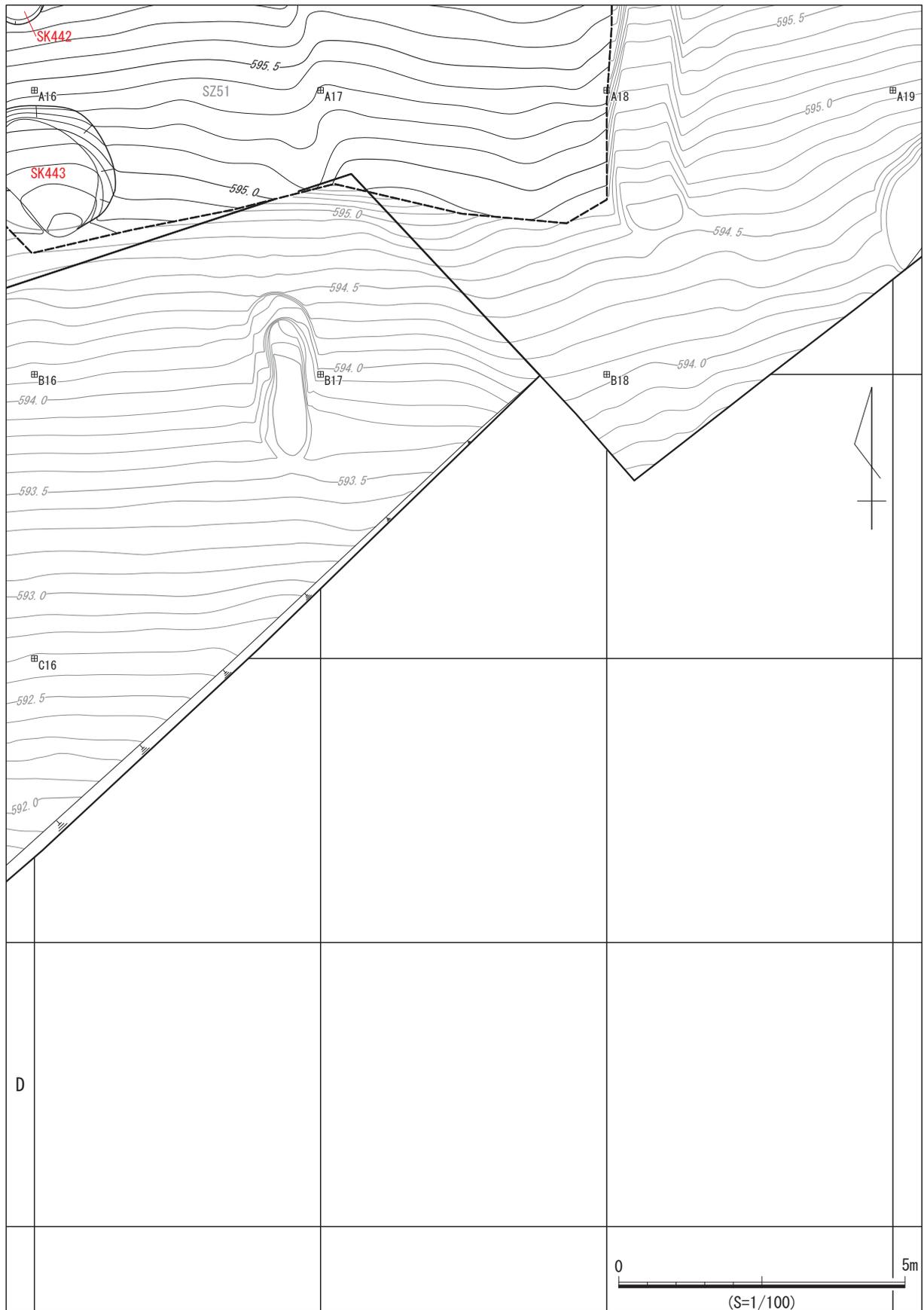


图 379 発掘区全域図 分割図 (77)

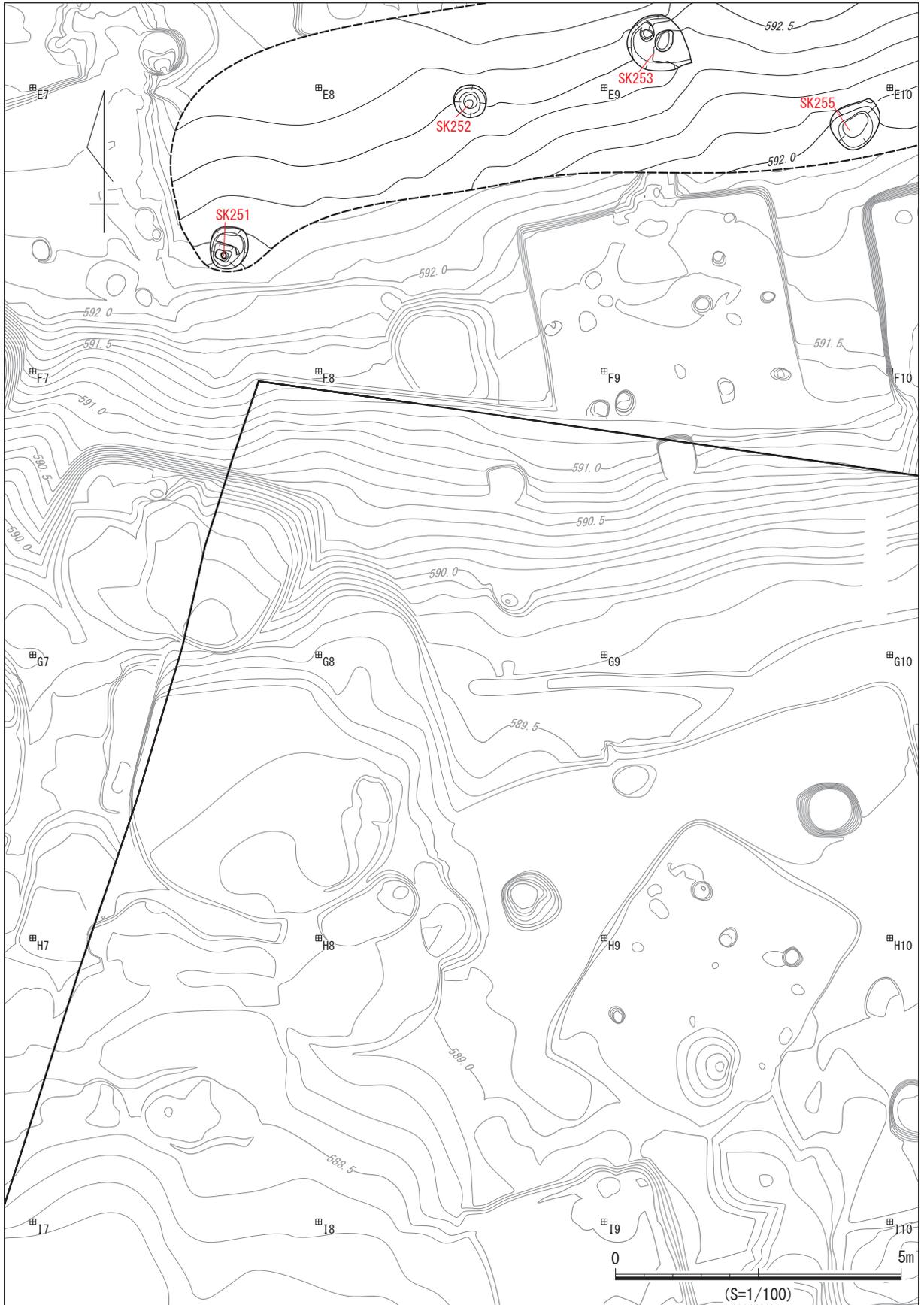


图 380 发掘区全域图 分割图 (78)

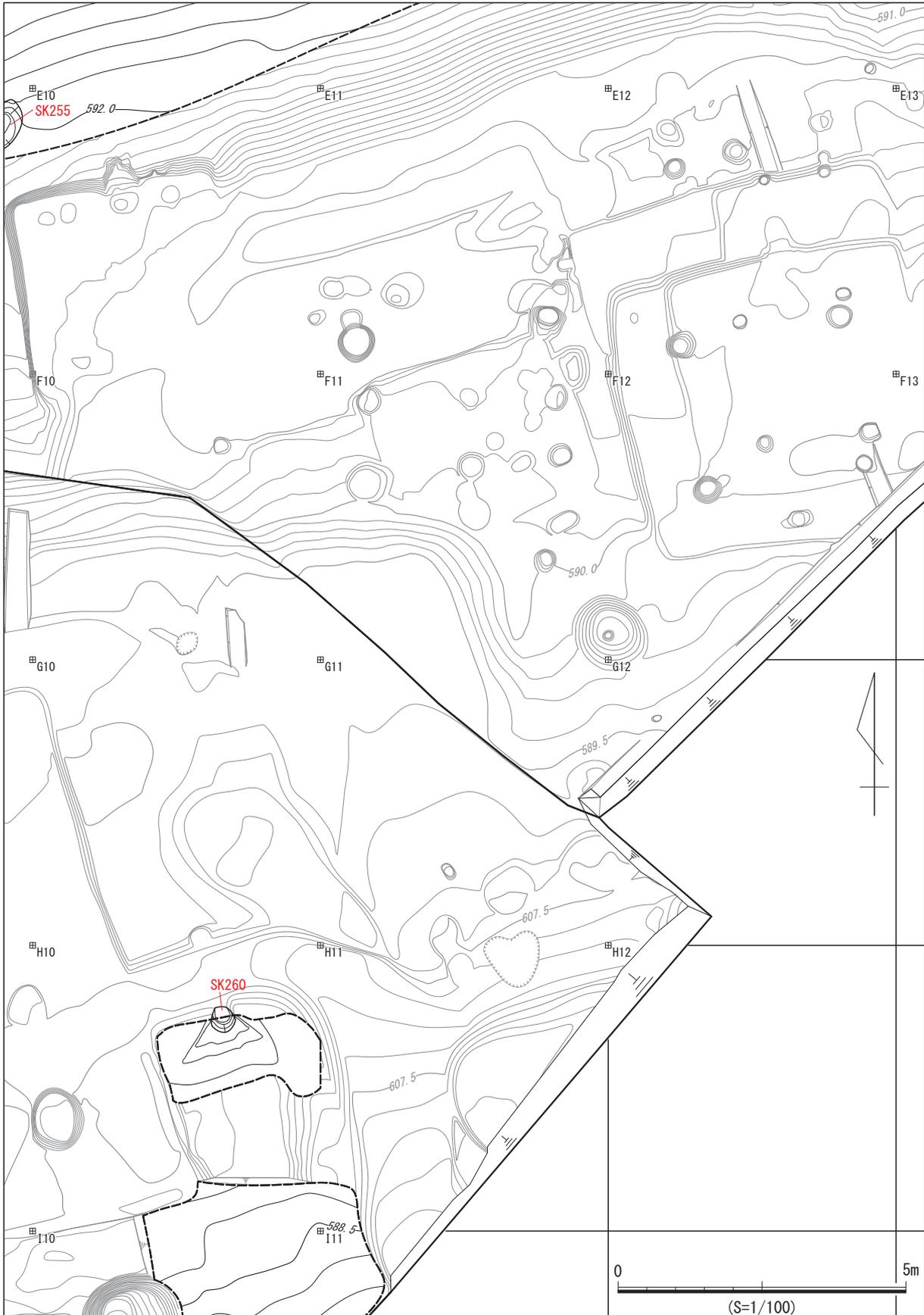


图 381 発掘区全域图 分割图 (79)

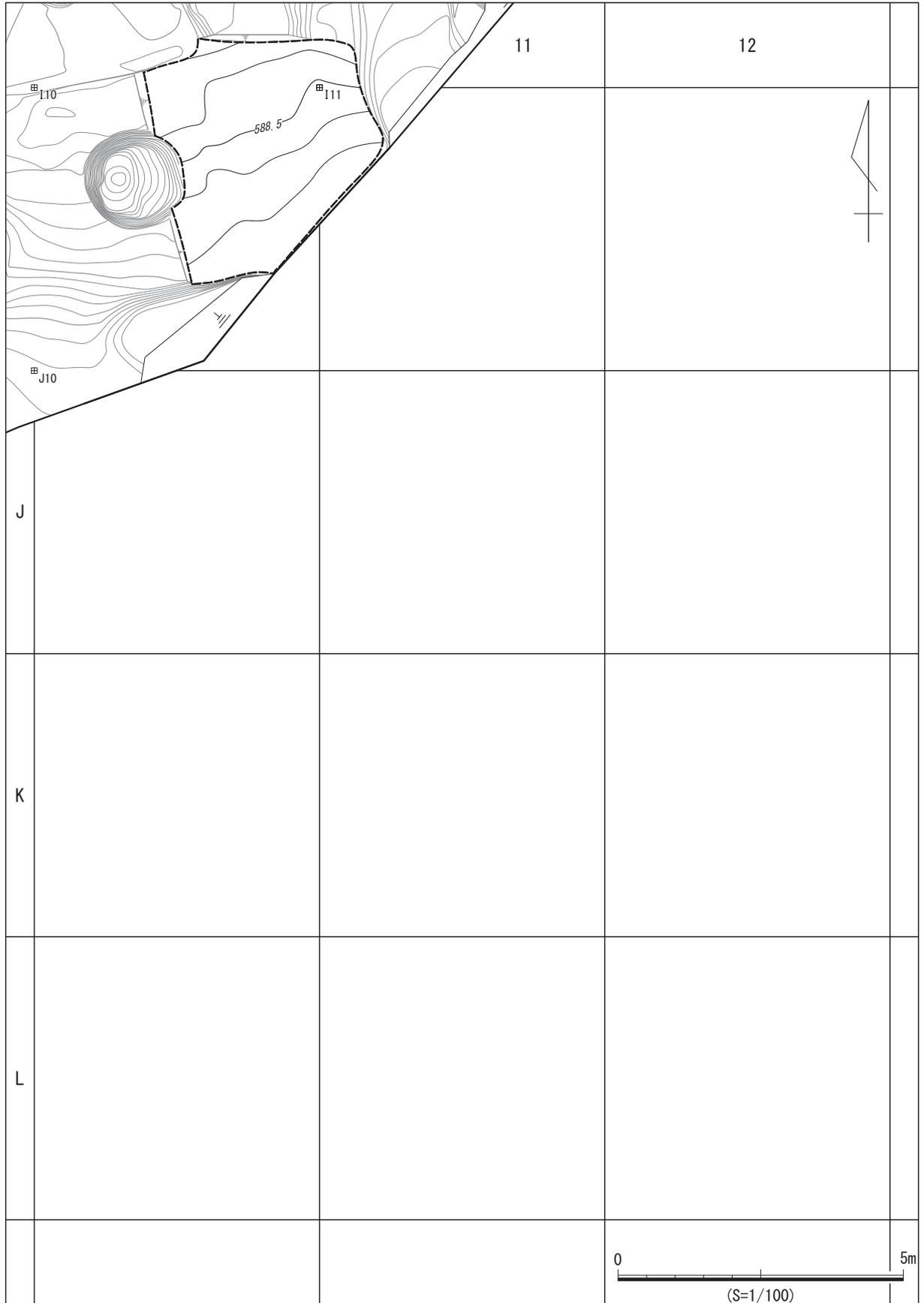


图 382 发掘区全域图 分割图 (80)

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 分析の概要

本節では、次節以降に記載する自然科学分析を実施した経緯と、結果の概要及び考察を述べる。

#### 1 放射性炭素年代測定（第2節）

**実施の経緯** SZ35 では、墳丘や主体部、周溝埋土から出土した遺物が少なく、時期が明確に分かる遺物も極めて少ないこと、重複関係で SZ35 よりも新しい SZ36 においても、出土した遺物がなかったことから、SZ35 主体部から出土した炭化物の年代測定を実施した。

**結果の概要と考察** 出土した炭化物の年代測定の結果、暦年代は BC102～AD26 年の弥生中期後葉から後期前葉の値を示した。他の古墳から出土した遺物は、弥生時代末から古墳時代初頭ものがあることから、同時期のものと想定していたが、分析結果からはそれよりも古い暦年代が示された。しかし、古木効果の影響を受けている可能性が指摘されていることから、測定結果よりも新しい年代であると考えられる。

#### 2 上切寺尾古墳群出土八稜鏡付着物の同定（第3節）

**実施の経緯** 礎石建物内の須弥壇下で検出した土坑（SK223）から、八稜鏡が出土した。この鏡背面には繊維状の有機物が付着しており、土坑内に埋納した際に鏡を包んでいたものである可能性が考えられたため、その素材を同定した。

**結果の概要と考察** 付着物の素材を同定した結果、試料は楮を原料とした和紙（楮紙）である可能性が高いことが判明した。このことから、鏡を埋納する際に楮紙で包んでいたと思われる。

#### 3 土器付着物同定（第4節）

**実施の経緯** 礎石建物周囲の遺構などから黒色の有機物が付着した土器が 50 点出土した。県内の調査事例では、宗教関係施設に関係する土器に漆が付着する事例があることから、付着物が明瞭に残る土器 5 点を選択し、付着物の同定を行った。

**結果の概要と考察** 付着物を同定した結果、試料 No. 2 では漆特有の縮みが観察され、成分分析でも漆成分と一致したため、漆と断定できたが、他の 4 点については、断定はできないものの漆の可能性が高いことが判明した。また、漆質物が厚く付着している土器については、パレットのように使用した可能性が考えられる。

#### 4 土坑内堆積物の微細物分析（第5節）

**実施の経緯** 礎石建物内の須弥壇下の土坑（SK223）からは、八稜鏡の他に粃殻 1 点が出土した。この粃殻は八稜鏡を取り上げた下から出土しており、鏡と共に五穀が埋納された可能性があることから、土坑埋土中に含まれる種実類の採集及び同定を行った。土坑の埋土は八稜鏡の上部（1層）と下部（2層）に分けて採取した。

**結果の概要と考察** 子嚢菌が 1 層から 23 点と 2 層から 10 点検出したが、肉眼で採取した粃殻 1 点以外には、穀物に類するものは確認できなかった。なお、粃殻の表面にはふ毛が良好に残存しており、鏡の金属成分の影響によるものと考えられる。

## 第2節 放射性炭素年代測定

### 1 はじめに

SZ35 主体部から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。分析はパレオ・ラボ AMS 年代測定グループ（伊藤茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtavidze・小林克也）が担当した。

### 2 試料と方法

試料は、方形周溝墓である SZ35 の主体部から出土した炭化材 1 点である。時期については、弥生時代末～古墳時代初頭と考えられている。樹種はサワラで、最終形成年輪は残っていなかった。測定試料の情報、調製データは表 71 のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

表 71 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-33390	試料No. 1 遺物No. 07349 地区：D地区 遺構：SZ35主体部 位置：方形周溝墓主体部底部	種類：炭化材（サワラ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸： 1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩 酸：1.2N）

### 3 結果

表 72 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代、暦年較正結果を、図 383 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代（yrBP）の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、及び半減期の違い（ $^{14}\text{C}$  の半減期 5730  $\pm$  40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に  $2\sigma$  暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表 72 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-33390	-24.52 $\pm$ 0.45	2032 $\pm$ 21	2030 $\pm$ 20	52 cal BC- 3 cal AD (68.2%)	102 cal BC-26 cal AD (95.4%)

#### 4 考察

主体部から採取した試料は、弥生時代中期後葉～後期前葉（BC102～AD26）の値を示した。試料は最終形成年輪が残っていなかったため、実際の伐採（又は枯死した）年代と使用年代は、古木効果により、測定結果よりも新しくなる。つまり、樹木の生育期の値であり、実際には更に伐採（又は枯死）年代と使用年代が付加されることを考慮する必要がある。なお、分析試料の樹種はサワラ（針葉樹）と考えられる。

発掘調査では、他の墳墓から弥生時代後期の法仏式や山中式から古墳時代早期の月影式や廻間式の土器が出土しているが、今回分析した試料は遺物が示す年代よりも古いため、墳墓群出現期はさらに古くなる可能性がある。また、試料内に最終形成年輪が確認できなかったことについて、少なくとも使用に際して外皮部分に手を加えて除去した可能性が考えられる。

#### 参考文献

赤塚次郎 2009 「弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代」 『日本文化財科学会第26回大会研究機発表要旨集』 日本文化財科学会第26回大会実行委員会編、日本文化財科学会

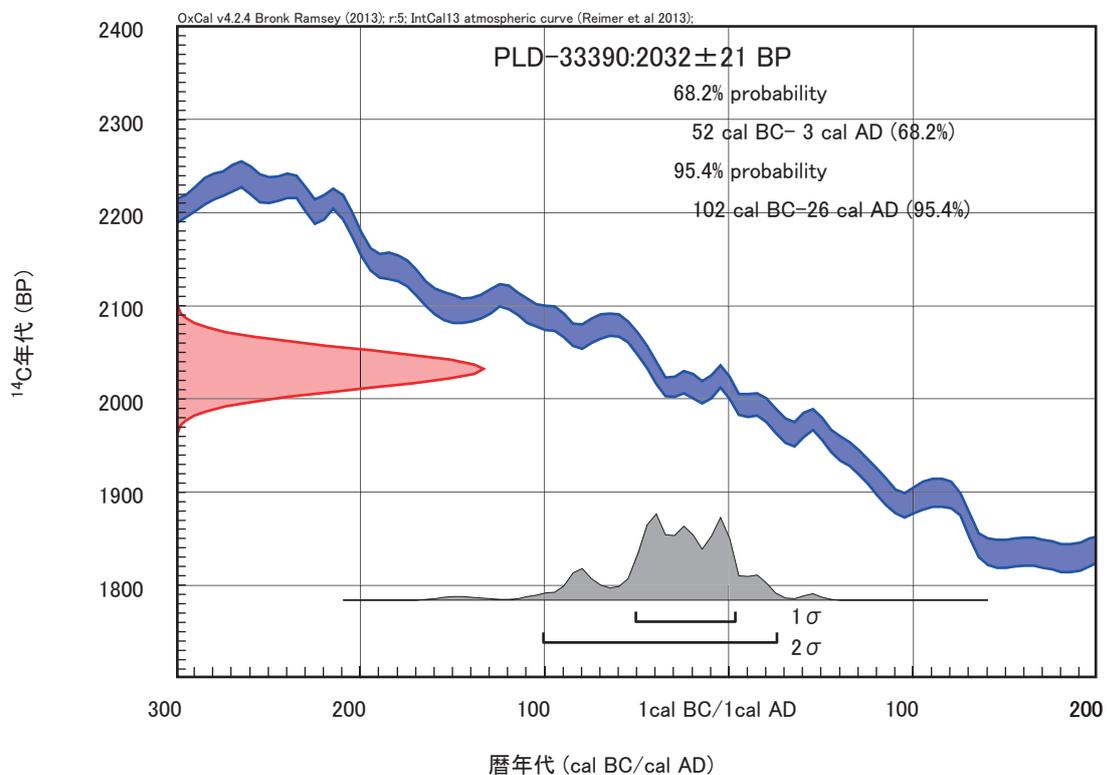


図 383 暦年較正結果

- Bronk Ramsey, C. 2009 「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates」 『Radiocarbon, 51(1)』
- 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」 『日本先史時代の 14C 年代』 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編、日本第四紀学会
- Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. 2013 「IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0- 50,000 Years cal BP」 『Radiocarbon, 55(4)』

### 第3節 礎石建物内土坑出土の八稜鏡付着物の同定

#### 1 はじめに

平安時代の礎石建物内の土坑（SK223）から出土した、鏡に付着していた紙片と思われる試料について、素材の同定を行った。分析は黒沼保子・竹原弘展（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

#### 2 試料と方法

試料が付着していた鏡は、礎石建物内の土坑から出土した平安時代の八稜鏡である。

分析方法としては、繊維の形態観察と C 染色液を用いた繊維分析を行った。実体顕微鏡観察と写真撮影の後、試料の一部を採取した。C 染色液は JIS P 8120 に基づいて作製した。プレパラートに紙試料から採取した繊維を載せて水を滴下し、繊維を分散させた。乾燥後、C 染色液を滴下し、カバーガラスを載せて光学顕微鏡で観察を行った。

なお、紙の青銅鏡成分の影響を評価するために蛍光 X 線分析を行った。分析は、紙をマイラーフィルムに挟んで非破壊で測定した。分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製エネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。

#### 3 結果

繊維は半透明で縦条痕があり、ところどころに断層や節状の横線がみられる。繊維幅はおよそ 10～25 μm である。繊維は配列に規則性がなく、各繊維が絡み合っているため、試料は布ではなく紙と判断した。また、写真 5 の 4・5（付着物）と 6・7（楮）との比較や、C 染色液では、薄めの赤茶色に染まったため、素材の原料は楮であると考えられる。

紙自体の蛍光 X 線分析を行った結果、青銅成分である銅（CuO）、鉛（PbO）が若干検出された（表 73）。

表 73 紙の蛍光 X 線分析結果（重量%）

試料	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	SO <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CuO	ZnO	As <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SnO <sub>2</sub>	Sb <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	PbO
紙	26.34	47.75	7.63	1.59	2.5	0.97	1.72	0.06	4.41	5.95	0.02	0.3	0.18	0.01	0.59

#### 4 まとめ

形態観察と C 染色液を用いた分析結果から、本試料は楮紙である可能性が高い。楮はクワ科コウゾ

属の総称で、ヒメコウゾ (*Broussonetia monoica* Hance)、ツルコウゾ (*Broussonetia kaempferi* Siebold)、カジノキ (*Broussonetia papyrifera* (L.) L'Hér. ex Vent.) と、ヒメコウゾとカジノキの雑種であるコウゾ (*Broussonetia* × *kazinoki* Siebold) の4種がある (平井 1996)。コウゾ属の樹皮にある靱皮繊維は強靱で長く、和紙の原料として奈良時代から現代まで利用されている。

なお、紙の蛍光X線分析を行った結果、青銅成分の銅 (CuO)、鉛 (PbO) が検出されているが、各

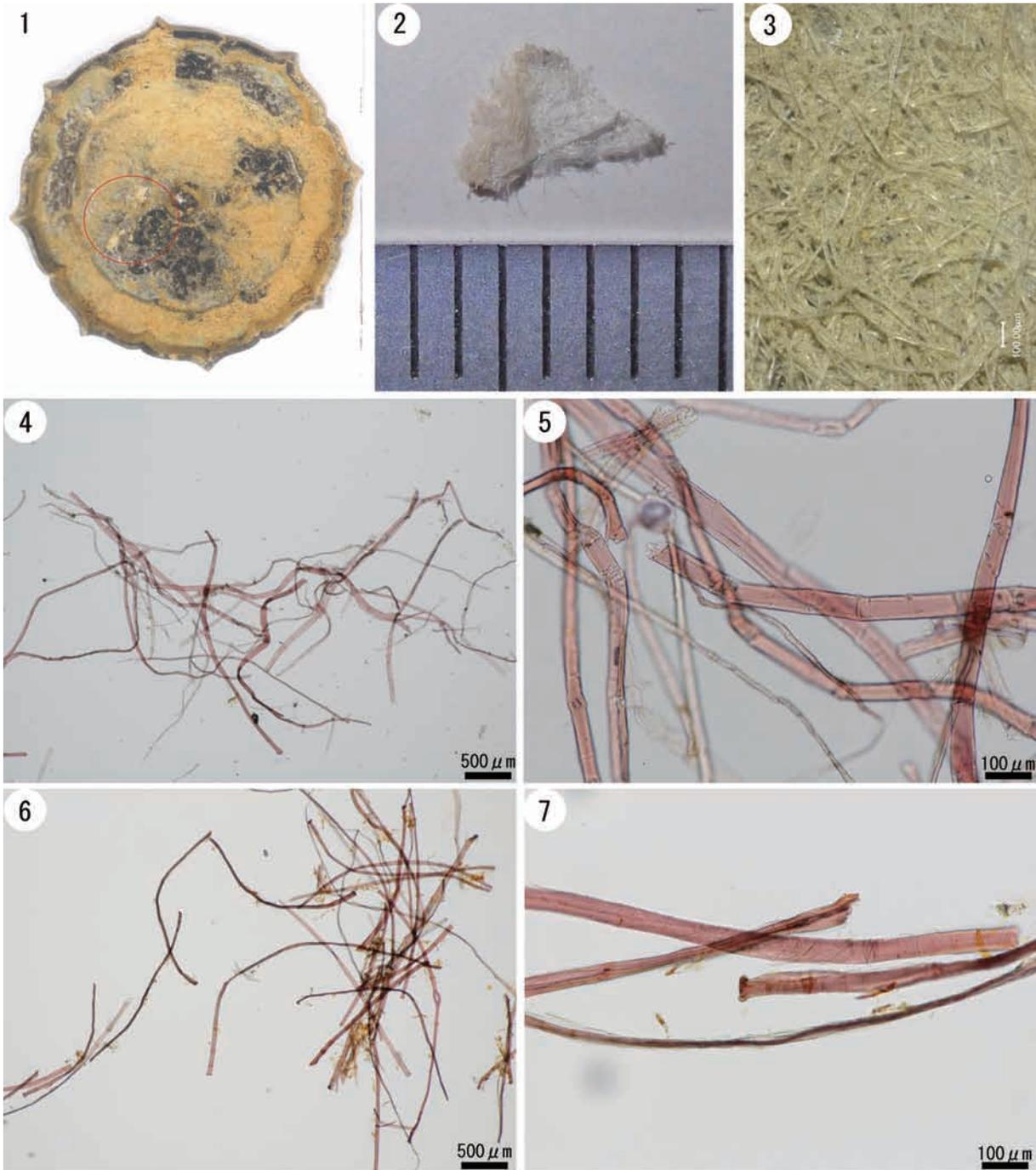


写真5 鏡付着の紙片の試料写真と顕微鏡

1. 試料採取箇所、2. 試料写真、3. デジタルマイクロスコープ写真、4-5. 光学顕微鏡写真 (C染色液の光学顕微鏡写真)、6-7. 楮紙の比較試料 (C染色液の光学顕微鏡写真)

成分の含有量は少なかった。ただし、通常の土壌中には銅と鉛は含まれないため、青銅成分の影響により、生の紙が残存した可能性が考えられる。

### 参考・引用文献

平井信二 1996 『木の大本科』 394p、朝倉書店。

日本工業（JIS）規格 1998 『JIS P 8120 紙・板紙及びパルプ—繊維組成試験法』

宍倉佐敏・林伸次 2008 『繊維判定用 和紙見本帳』 紙の温度株式会社

宍倉佐敏編 2011 『必携 古典籍・古文書試料事典』 455p、八木書店

## 第4節 土器付着物同定

### 1 はじめに

調査では、尾根地を中心に古墳 42 基、斜面地から平坦地にかけて飛鳥時代～奈良時代の竪穴建物 36 軒、平安時代の礎石建物 1 軒が検出された。このうち、平安時代の礎石建物周辺から、黒色物が付着した土器が出土した。ここでは、これらの黒色付着物の材質について検討した。分析は藤根久（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

### 2 試料と方法

分析試料は、黒色物が付着した灰釉陶器多口瓶 1 点と土師器 4 点である（表 74、写真 6・7）。分析は、赤外分光分析と、アスファルトを判定する簡便法としてクロロホルム溶融試験を行った。

表 74 黒色付着物を伴う遺物の詳細

分析No.	遺物種別	遺物No.	遺構No.	層位	時期	付着物の特徴	採取場所
1	ロクロ土師器碗	697	SK209	d層	9～11世紀	光沢のない黒色物	内面
2	ロクロ土師器皿	490	SB04-P23	1層		光沢のある厚い黒色物、縮み皺	内面
3	ロクロ土師器碗	713	SK239	f層		光沢のある厚い黒色・褐色物	内面
4	ロクロ土師器皿	493	SB04基壇	1層		光沢のある黒色物	内面
5	灰釉陶器多口瓶	508	IIIa層	-		やや光沢のある厚い黒色物、縮み皺	内面

試料は、遺物の内面に付着する黒色物表面から手術用メスを用いて小片を採取した。各小片の一部を厚さ 1 mm 程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に押しつぶして、油圧プレス器を用いて約 7 トンで加圧整形した。

測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光（株）製 FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて、透過法により赤外吸収スペクトルを測定し、生漆などの吸収スペクトルと比較・検討した。

クロロホルム溶融試験（高妻ほか 2011）は、クロロホルム（chloroform；純正一級、純正化学株式会社製、CHCl<sub>3</sub>）を用いた。各試料の小片を蒸発皿に入れ、クロロホルム試薬を 10cc 加えて、30 分程度放置した。

### 3 結果

以下に、各試料の赤外分光分析結果について述べる。なお、赤外吸収スペクトルを示した図 384 と図 385 では、縦軸が透過率（%T）、横軸が波数（Wavenumber（cm<sup>-1</sup>）；カイザー）を示す。また、各スペクトル図はノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は生漆の主な赤外吸収位置を示す

(表 75)。

[分析 No. 1 (内面付着物)]

黒色物は、内面の一部と外面の一部に付着する。内面の付着物は、光沢のない黒色物である(写真6-1a、1b)。赤外分光分析では、漆などの有機物にみられる炭化水素の吸収(吸収No.1及びNo.2)が明瞭に見られた。また、漆を特徴づけるウルシオール(ウルシ)の吸収の一部(吸収No.7)に吸収の変換点(ピーク)が確認された(図384-1)。以上の結果から、漆の可能性が考えられる。なお、吸収No.9付近に大きな吸収がみられ、漆の劣化に伴うゴム質の吸収と考えられる。

[分析 No. 2 (内面付着物)]

黒色物は、内面の全面と外面の一部に付着する。内面の付着物は、光沢のある厚い黒色物であり、一部に縮み皺が見られた(写真6-2a、2b)。赤外分光分析では、漆などの有機物にみられる炭化水素の吸収(吸収No.1及びNo.2)が明瞭に見られた。また、漆を特徴づけるウルシオール(ウルシ)の吸収の一部(吸収No.7)が確認された(図384-2)。以上の結果から、漆と同定される。

[分析 No. 3 (内面付着物)]

黒色物は、内面の半分と、底部を除く外面全面に付着する。内面の付着物は、光沢のある厚い黒色物である(写真6-3a、3b)。赤外分光分析では、漆などの有機物にみられる炭化水素の吸収(吸収No.1及びNo.2)が明瞭に見られた。また、漆を特徴づけるウルシオール(ウルシ)の吸収の一部(吸収No.7)に吸収の変換点(ピーク)が確認された(図384-3)。以上の結果から、漆の可能性が考えられる。

[分析 No. 4 (内面付着物)]

黒色物は、内面のほぼ全面と外面の口縁部に付着する。内面の付着物は、光沢のある黒色物である(写真6-4a、4b)。赤外分光分析では、漆などの有機物にみられる炭化水素の吸収(吸収No.1及びNo.2)が明瞭に見られた。また、漆を特徴づけるウルシオール(ウルシ)の吸収の一部(吸収No.7)に吸収の変換点(ピーク)が確認された(図385-4)。以上の結果から、漆の可能性が考えられる。

[分析 No. 5 (内面付着物)]

黒色物は、内面の半分と外面の一部に付着する。内面の付着物は、光沢のある厚い黒色物であり、一部に縮み皺が見られた(写真6-5a、5b)。赤外分光分析では、漆などの有機物にみられる炭化水素の吸収(吸収No.1及びNo.2)が明瞭に見られた。また、漆を特徴づけるウルシオール(ウルシ)の吸収の一部(吸収No.7)が確認された(図385-5)。以上の結果から、漆の可能性が考えられる。

#### 4 考察

いずれの黒色付着物も炭化水素の吸収が明瞭に見られたが、ウルシオール(ウルシ)の吸収が明瞭に確認された試料は分析No.2のみであり、分析No.1は漆成分のゴム質の劣化により、分析No.3~5は漆以外の混入物を含む可能性が高いことで漆成分との相異が見られたため、「漆の可能性はある」との結果にとどまった。吸収が明瞭に検出されなかった分析No.3~5は、漆以外の混入物が想定され、漆にアスファルトを混ぜて使用する事例があることから、クロロホルム溶融試験でアスファルト成分の有無を確認したが、検出されなかった。混入物が「アスファルト」でないことは確認できたが、その混入物

表 75 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	生漆		
	位置	強度	ウルシ成分
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

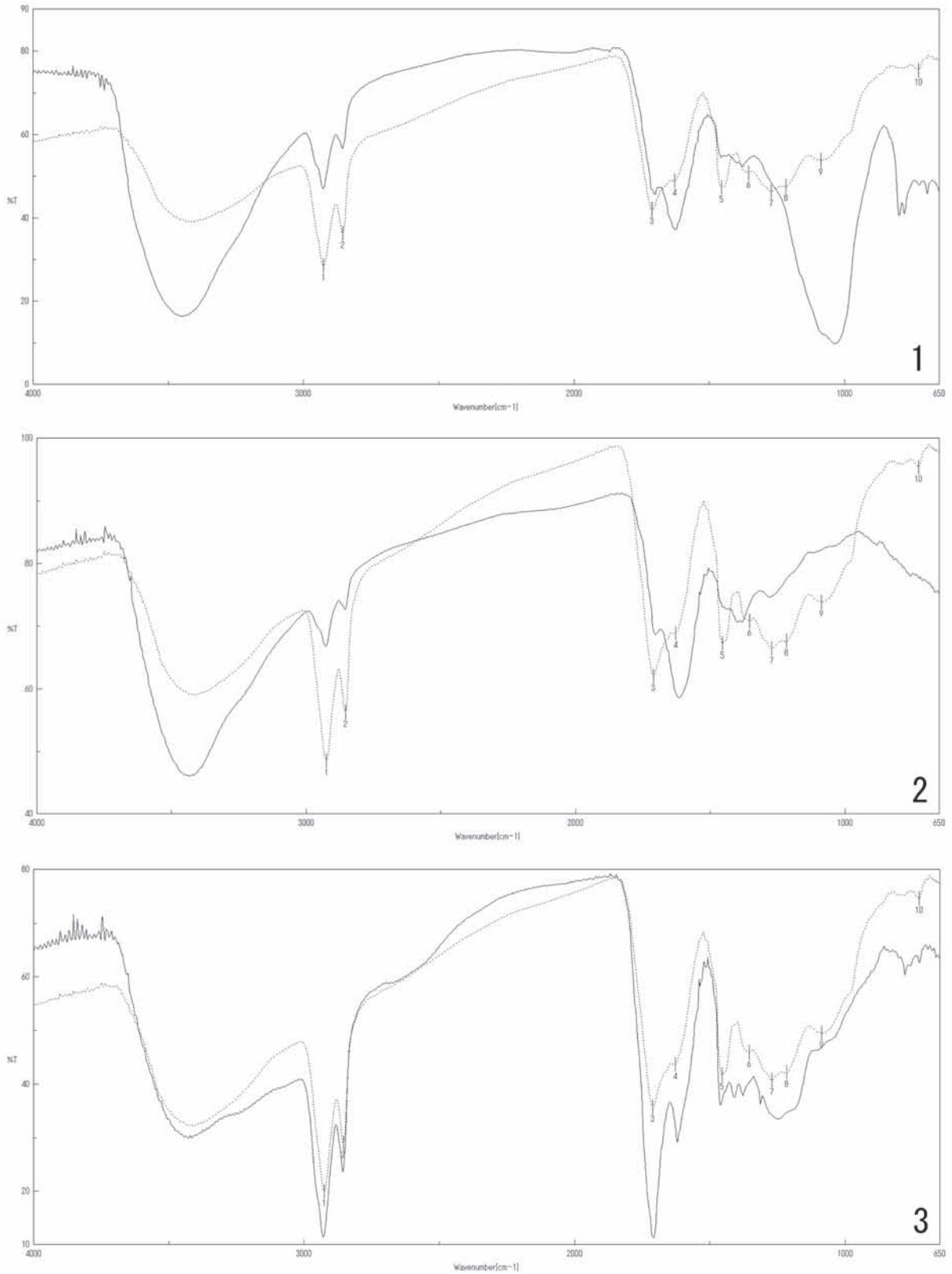


図 384 黒色付着物（内面）の赤外分光スペクトル図（1）

（実線：塗膜層、点線：生漆、数字：生漆の赤外吸収位置）

1. 分析 No. 1 2. 分析 No. 2 3. 分析 No. 3

の詳細については不明である。なお、分析 No. 2 や No. 5 には縮み皺が見られた。これらの遺物には、漆質物が厚く付着しており、パレットとして利用されたと考えられる。

### 引用文献

高妻洋成・赤田昌倫・本多貴之 2011 「漆関連遺物の調査」『漆下遺跡 第4分冊 自然科学分析・まとめ篇』

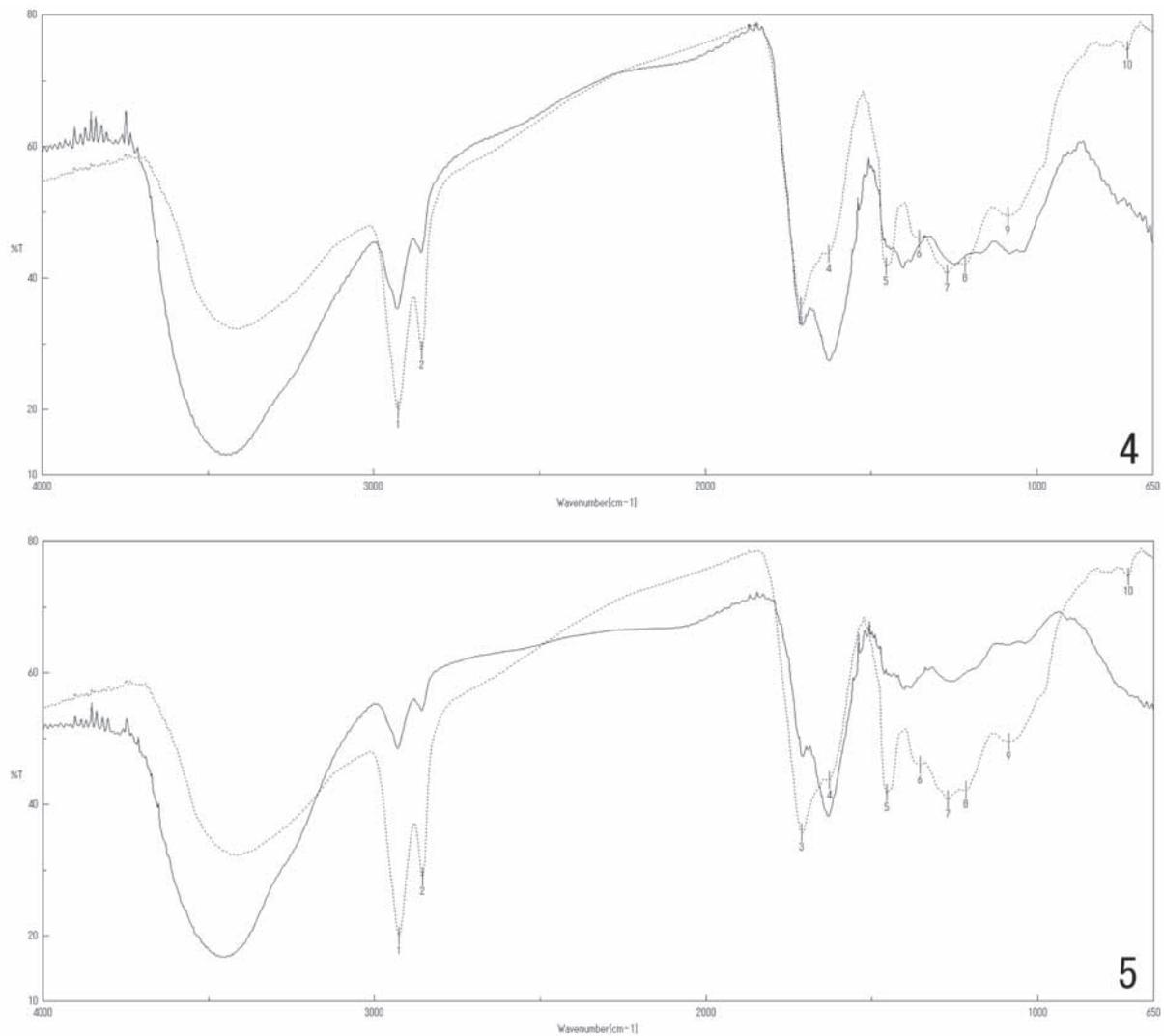


図 385 黒色付着物（内面）の赤外分光スペクトル図（2）

（実線：塗膜層、点線：生漆、数字：生漆の赤外吸収位置）

4. 分析 No. 4 5. 分析 No. 5

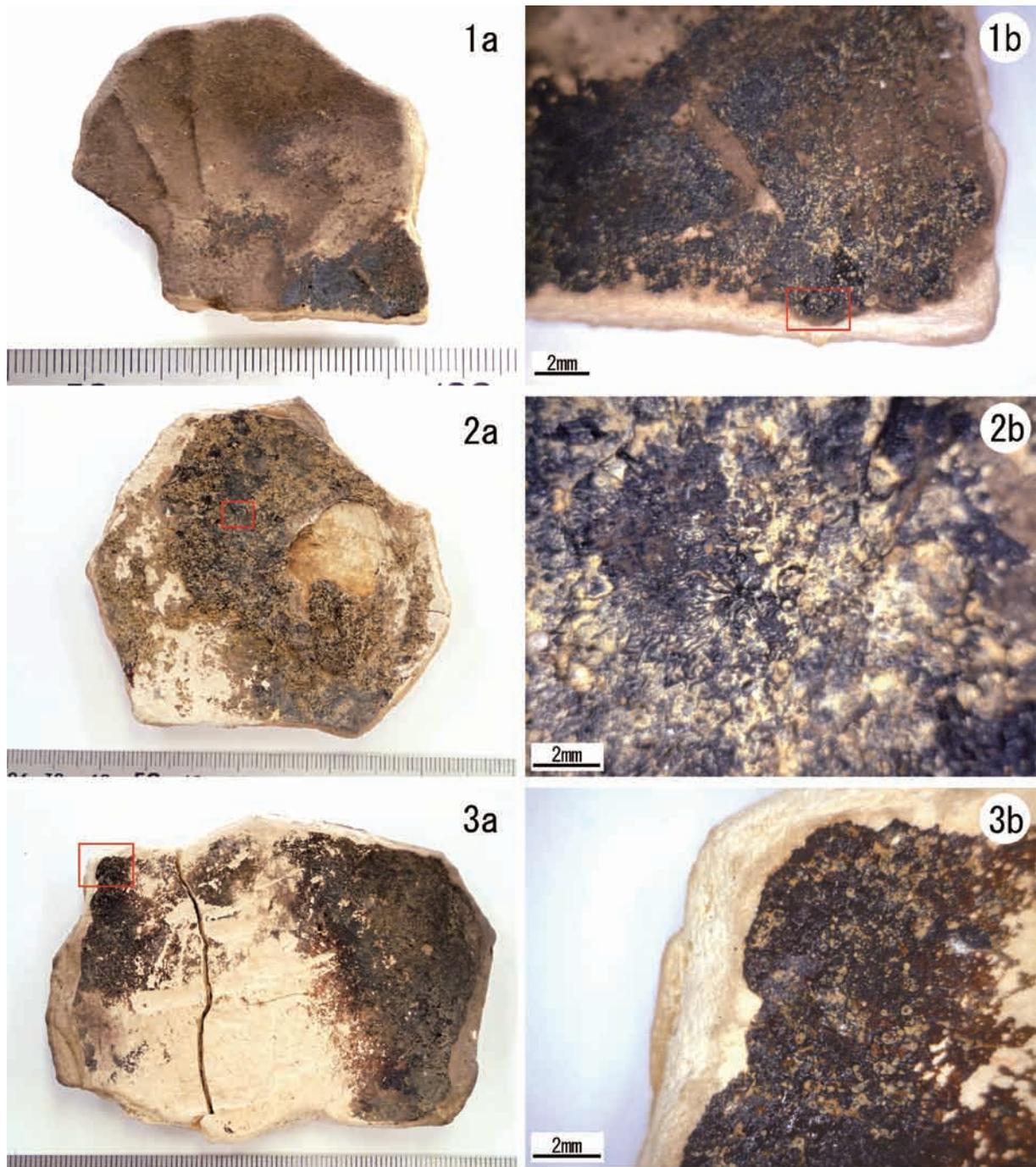


写真6 黒色物が付着したロクロ土師器と採取位置（赤枠部分）

1. 分析No. 1（内面）、2. 分析No. 2（内面）、3. 分析No. 3（内面）

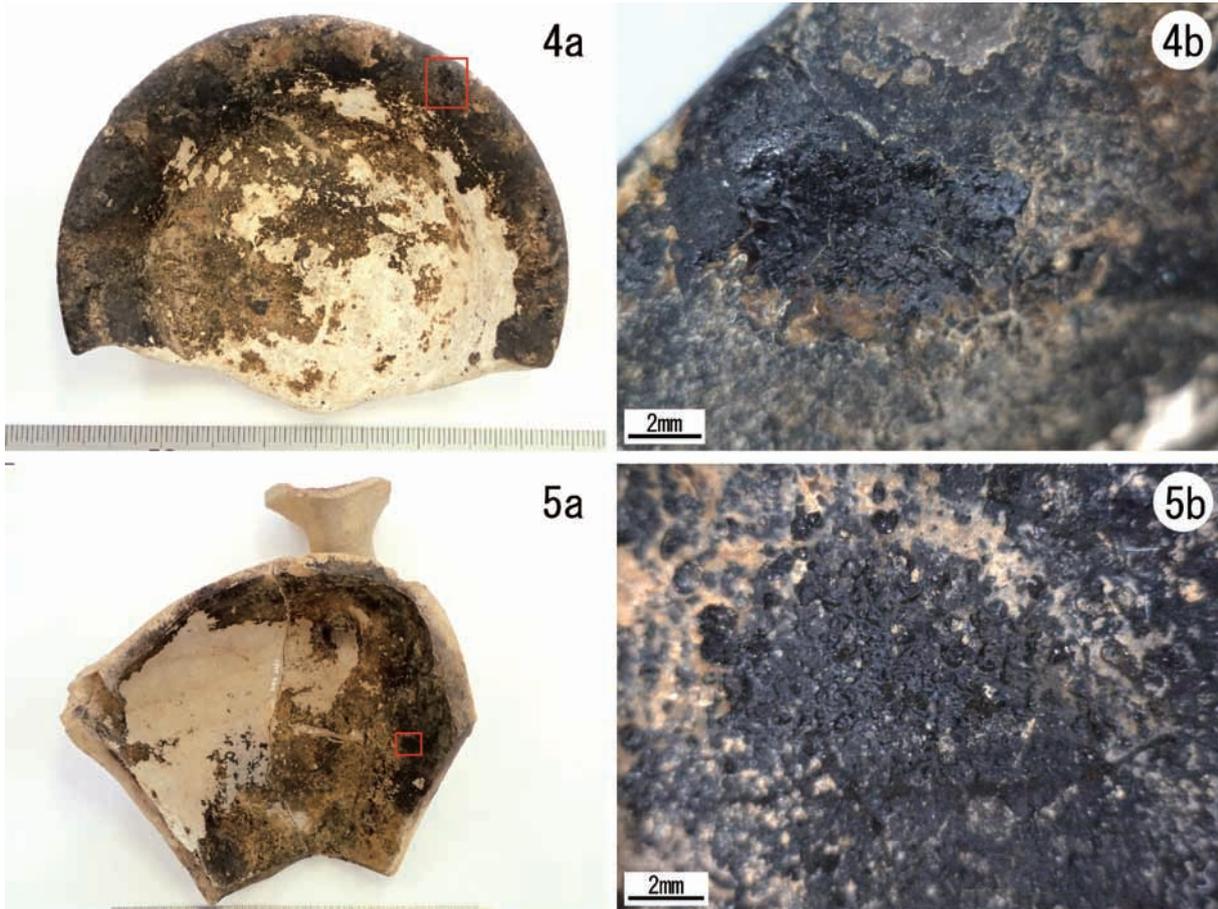


写真7 黒色物が付着したロクロ土師器・灰釉陶器と採取位置（赤枠部分）

4. 分析No. 4（内面）、5. 分析No. 5（内面）

## 第5節 土坑内堆積物の微細物分析

### 1 はじめに

平安時代と考えられる礎石建物 SB04 内の SK223 から瑞花双鳳八稜鏡が鏡面を上にした状態で検出した。この鏡の下から籾殻が発見されたため、さらなる微細物の検出を目的として、鏡の上下の土壌を水洗し、検討を行った。分析は佐々木由香・バンダリ スダルシャン・竹原弘展（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

### 2 試料と方法

試料は、礎石建物内の SK223 から出土した八稜鏡の上層（1層）と下層（2層）から回収された堆積物2試料である。また、鏡の下から肉眼で確認・回収された籾殻1点である。試料の時期は、平安時代（10世紀前半頃）と推定されている。

堆積物は、200ccを0.25mm目、100ccを1.0mm目の篩を用いて水洗し、微細物を抽出した。微細物の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形又は一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。

なお、籾殻の青銅鏡成分の影響を評価するために蛍光X線分析を行った。分析は、籾殻をマイラーフィルムに挟んで非破壊で測定した。分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製エネルギー分散型蛍光X線分析計 SEA1200VX を使用した。

### 3 結果

肉眼で確認され、鏡の下から回収された種実  
は、草本植物のイネ籾殻1点であった。一方、  
堆積物に含まれる微細物を同定した結果、子囊  
菌が得られた（表76）。子囊菌は、鏡の上層で  
ある1層から23点、下層である2層から10点  
（破片1点を含む）が得られた。

次に、大型植物遺体の記載を行い、図版に写  
真を示して同定の根拠とする。

(1) イネ *Oryza sativa* L. 籾殻 イネ科

黄褐色で、完形ならば上面観が楕円形で、側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な2条の稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。上部にふ毛が残る。残存長6.3mm、幅3.5mm。

(2) 子囊菌 Ascomycotetes 炭化子囊

球形で、表面は平滑か、微細な網目状隆線がある。長さ0.7~1.0（平均0.8）mm、幅0.7~1.0（平均0.8）mm。

籾殻自体の蛍光X線分析を行った結果、青銅成分である銅（CuO）、鉛（PbO）が若干検出された（表77）。

### 4 考察

八稜鏡の下からは栽培植物であるイネの籾殻1点を得られた。籾殻の表面にはふ毛が良好に残存し、現生の籾殻に近い状態であった。遺跡から出土する大型植物遺体で、低湿地遺跡や現代の遺跡を除いて、生の状態でふ毛が良好に残ることは稀であるため、鏡の金属成分が浸透して残存しない限り、平安時代のふ毛がついた生の籾殻は残存しないと考えられる。

なお、籾殻の蛍光X線分析を行った結果、青銅成分の銅（CuO）、鉛（PbO）が検出されているが、各成分の含有量はかなり少なかった。ただし、通常の土壌中には銅と鉛は含まれないため、青銅成分の影響により、生の籾殻が残存した可能性が考えられる。鏡の上下の堆積物を同定した結果、種実を含め、同定可能な微細物は得られなかった。遺跡は生の動植物遺体が残りにくい陸成堆積物上に立地しており、土壌中に生の動植物遺体は残りにくかったと考えられる。子囊菌は土壌に含まれるほか、木材に付着して残存する。今回の試料の子囊菌は炭化しており、かつ硬いため、堆積物中に残存したと考えられる。

表77 籾殻の蛍光X線分析結果（重量%）

試料	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CuO	ZnO	As <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	ZrO <sub>2</sub>	SnO <sub>2</sub>	PbO
籾殻	1.05	32.52	50.04	3.98	1.89	0.63	1.48	0.29	5.25	2.32	0.01	0.19	0.01	0.02	0.31

表76 微細物の同定結果

遺構		SK233	
遺物番号		492	
層位	1	2	
時期	10世紀後半		
分類群	水洗量	300	現地取上げ
イネ	籾殻	(1)	
子囊菌	炭化子囊	23	9 (1)
括弧内は破片数			



写真8 SK223 から出土した微細物

1. イネ籾殻、2・3. 子囊菌炭化子嚢（2層）、4. 子囊菌炭化子嚢（1層）

## 第5章 総括

### 第1節 平安時代の礎石建物について

上切寺尾古墳群A地区南側で礎石建物1棟を検出した。以下に、礎石建物の性格と地域における歴史的意義づけについて検討する。

#### 1 礎石建物（SB04）の立地・位置について

上切寺尾古墳群で確認した礎石建物（SB04）は、三枝山の山麓に位置する（図386）。礎石建物の西側には白山神社が鎮座する。白山神社の創立年代は不詳であるが、里説にこの地は昔、三枝別、又は三枝連さいくさべのむらしの本拠であったので、その族人が祖神を奉納した社であるといわれている<sup>1)</sup>。白山神社の現況は、本殿まで続く石段の途中で平場があり、ここから石段が3段でなくなり本殿まで土道となる。このことは古代の社寺の特徴を良く伝えている<sup>2)</sup>。白山神社と礎石建物は、山寺によく見られる位置関係にあり<sup>3)</sup>、礎石建物と白山神社の間の谷は水源があり、「寺洞」という地名であることから、北に延びる谷奥部全体が寺に関連する場所として利用されていたと考えられる。また、關伽水あかみずを仏様に供えするための水汲場<sup>4)</sup>として、寺域に水源があることは、山寺の必要条件に適合する立地と言える。

#### 2 礎石建物について

##### （1）建物の規模・寸法について

今回の発掘調査では、桁行5間、梁行3間の礎石建物を検出した。建物は真北方向を意識した南面建物で、柱間は図387のとおりである。図に示した柱間は現地にて柱の当たりを確認し、測定した距離である。おおよそ0.298mで割り切れることから、この建物は1尺0.298mで造営されたと考えられる。須弥壇は身舎の中央に配置される。須弥壇の礎石及び縁石は、遺跡に近い川上川の河原石を用いている。礎石・縁石の石材は白色の濃飛流紋岩の川原石をそのまま用いるが、隅のP07・P09・P14の礎石のみ石材は青緑色の凝灰岩を用い、外隅を斜めに整形することから縁石内側を意識する意図がうかがえる。須弥壇のP08・P13は南側と北側の外側の礎石列と柱筋が通らず、また本尊の中央と重なるため、通し柱ではなかったと考えられる。柱のあたりをもとに須弥壇北側の柱筋をみると、縁石の中央を通る。このことから、礎石や縁石に壁を受けるための作り出し痕跡は認められないものの、来迎壁らいごうがあった可能性がある。一方、須弥壇南側の柱筋は縁石の北側（須弥壇側）を通る。南側には床束を支えるような小さな礎石があり、柱筋の内側に位置する。このことからP13及び南側の床束には供物台<sup>5)</sup>があった可能性がある。今回検出した礎石建物は、静岡県湖西市大知波峠廃寺<sup>6)</sup>の仏堂群に見られるような広底部を前面に持たない。調査時は前面の平坦面が崩れており、広底部分が消失した可能性もあるが、階段状遺構も近接しているため、礼堂をもたない建物と考えられる。また、礎石建物北側の基壇縁石外に沿うように雨落溝を確認した。礎石建物の東側・西側には雨落溝はないが基壇縁石の位置から建物の軒の出を推定することができる。

##### （2）基壇・階段状遺構・石畳について

建物の基壇は南側を除き、河原石を1列並べただけの縁石状の乱石積基壇である。東西の縁石の幅は約13.1mであり、礎石建物と同じ1尺0.298mで基壇が築成された場合、44尺となる。南側の平坦

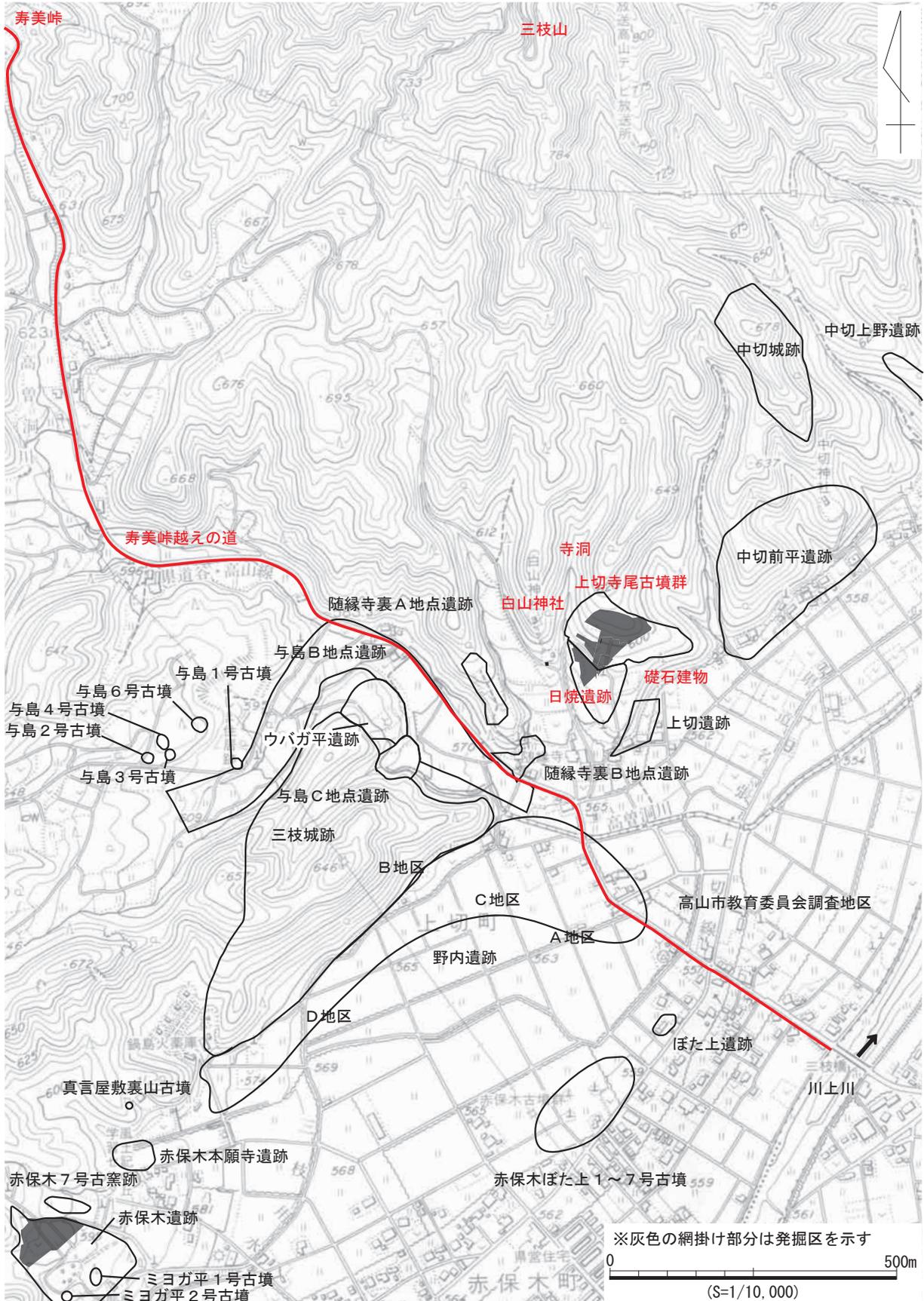


図 386 遺跡の立地（平成4年高山市市街図其一をもとに作成）

面が崩れているため基壇上端が不明であるが、階段状遺構の東側には基壇南側の最下段の縁石がある。北の縁石と南側の縁石の幅は約 13.1mあり、東西の基壇幅と同じになることから 44 尺の方形の基壇と考えられる。基壇南側の傾斜地は、調査前は杉の木や攪乱坑があり、表土が攪拌された状態であったが、表土中から人頭大の河原石が多く出土した。このことをふまえると基壇の南側は河原石を何段か積み上げて築成された可能性がある。また、階段状遺構は、須弥壇東側の柱筋の延長部に耳石が位置する。耳石はほぼ基盤の傾斜に合わせて出土したことから、基壇南側の勾配は緩やかであった可能性が高い。階段状遺構は踏石が須弥壇西側の柱筋の延長部で途切れることから須弥壇の幅に合わせて作られたと考えられる。階段状遺構の南側には石畳があり、石畳の東側は発掘区外、南側は日焼遺跡 B 区発掘区域にあたるが、耕地整備により大きく改変しているため続きがあったかは不明である。しかしながら、西側の石畳は途切れることから、石畳は東西方向には延びずに南側に延びていたと考える。このほかに礎石建物南西部の西側に硬化面を確認した。通路と推定される。

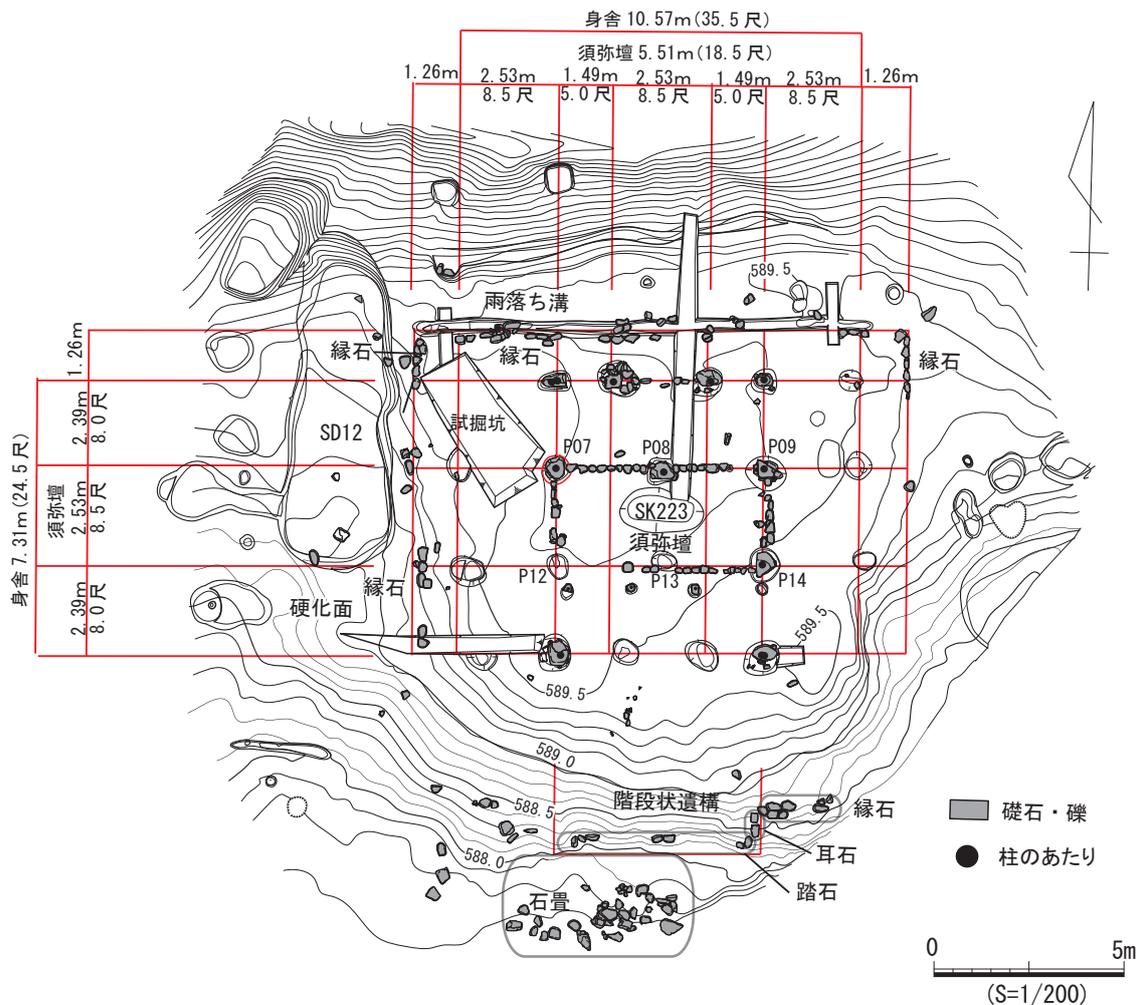


図 387 礎石建物

## (3) 地鎮・鎮壇について

基壇中からは玉類や古銭などの地鎮に関わる遺物は出土していない。礎石建物下で検出した SI26 からは耳環・刀子が 1 点ずつ出土しているが、出土位置は SI26 の床面に近く、基壇に関わる遺物とは考えにくい。また、44 尺の方形基壇を想定した場合は P13 が中央になるが、P13 では地鎮具と認められる遺物はなかった<sup>7)</sup>。須弥壇中央の土坑 (SK233) で八稜鏡 (492) が出土した。この鏡は鏡面を上にし、やや南側 (正面方向) 傾けた状態で出土した。鏡背に楮紙が付着していること (第 4 章 3 節参照) や鏡の下から籾殻が出土したこと (第 4 章 5 節参照) をふまえると、鎮壇に際して、土坑の底面に紙を敷き、五穀を埋めた行為が想定される<sup>8)</sup>。また、鏡を鎮壇具として埋納することや輪宝と擦若しくは独鉗が出土していないことから、鎮壇具の埋納方法は古い様相があるといえる。

## (4) 八稜鏡について

礎石建物の創建時期は、礎石建物に関わる基壇や溝 (SD12)・廃棄土坑 (SK239) の所属時期が 10 世紀後半であることから、礎石建物は 10 世紀後半の建物と考えられる。SK233 で出土した鏡はこの礎石建物の鎮壇具と考えられ、創建時期を決める資料となるが、伝世品の可能性もあるため、既存の研究成果をもとに今回出土した鏡の形式・時期について検討した。鏡は鏡の文様から瑞花双鳥八稜鏡と考えられる。材質も上質で錆が少なく、また直径 15.4 cm と非常に大きい。長久智子氏による全国出土の八稜鏡の集成<sup>9)</sup>においても 10 cm 前後のものが多い。背面には、八稜形の界圏の内区に鳳凰と瑞花唐草文を各 2 個ずつ、紐を中心に内向旋回させる。紐座は花座で円状の紐穴をもつ。今回出土した鏡は、鳳凰の顔を内側に向けるという古い要素、非円形界圏で瑞花文は枝茎が消え繁縷になるという新しい要素がある鏡と言える<sup>10)</sup>。長久氏による分類<sup>11)</sup>ではⅡ類 (舞鳳形) - A 群 (2 羽) - 2 式 (内向旋回) - 扇状瑞花文 I 又はⅢ: 正円紐孔工房系と考えられる。長久氏による編年では、時期を特定しがたいが、舞鳳形で内向旋回という古い様相であることをふまえれば、10 世紀後半前後のものと考えられる。また、中川あや氏による分類<sup>12)</sup>では分類 c - ii (長い尾を横方向に伸ばす鳥文) - ii (求心配置+顔横向き。頭を紐側に向けた鳥が対置する。顔は前を向く。)と考えられる。中川氏による編年では、分類 c は 10 世紀後半から 11 世紀初頭となる。岐阜県内の八稜鏡の分布状況を見てみると、長久氏の集成<sup>13)</sup>では岐阜県内で 4 例しか確認されていない。また、いずれも美濃地域で確認した例であるため、県内における時期・分布傾向はつかめない。しかしながら、長野県内の奈良・平安時代の鏡の出土例<sup>14)</sup>を見ると、瑞花双鳥八稜鏡が出土した遺構の時期は 10 世紀～11 世紀前半であり、特に 10 世紀後半のものが多い傾向にある。今回確認した鏡は 10 世紀後半のものとしても違和感がないといえる。

## (5) 礎石建物及びその周辺から出土した遺物について

礎石建物及びその周辺から螺髪・塑像片・金属製品が出土した。分布状況は図 388 のとおりである。螺髪は 2 点 (372・512) 出土した。372 は SI25 から出土しているが、出土位置は基壇盛土のない場所の 1 層で出土したことや 512 と大きさ・形状が類似するため、同じ塑像仏のものと考えられる。また、螺髪は須弥壇に近い位置で出土しているため、須弥壇に安置された仏像と考えられる。この他に礎石建物の西側 SK184 で塑像片 (648) が出土した。胎土に雲母を混ぜた良質な粘土であること、白土を塗った後に稜線に沿って赤彩色があり、衣文表現が認められることから塑像の衣の一部と考えられる。塑像片の出土位置は須弥壇からは離れているものの、SK184 は礎石建物と同じ 10 世紀後半であること

から、螺髪と同一の仏像が廃棄されたと考えられる。この他に筒状銅製品（524・525）が須弥壇付近で出土した。筒の直径は約5cmと細く、また須弥壇付近で出土していることから、仏像の后背を支える竿（荘厳具）の飾り金具の可能性が高い。釘は礎石建物内及び東面で多く出土したことから礎石建物に使用された釘と考えられる。円頭釘（523）が1点あるが、多くは叩折釘か巻頭釘<sup>15)</sup>である。いずれも4寸以下で軸部が細いタイプのものである。瓦も多く出土した。分布状況は図4のとおりである。礎石建物のある上切寺尾古墳群では889点出土したが、瓦<sup>16)</sup>の多くは礎石建物北側の包含層及びSK239で出土し、残存状態のよいものが多い。この他に竪穴建物からはSI09で1点、SI25で3点、SI26で6点出土したが少量であり、竪穴建物の埋土上面で本来検出すべき土坑等の遺構を見落とした可能性が高く、白鳳時代の瓦以外は礎石建物の瓦と考えられる。格子タタキで側板連結摸骨文が残る

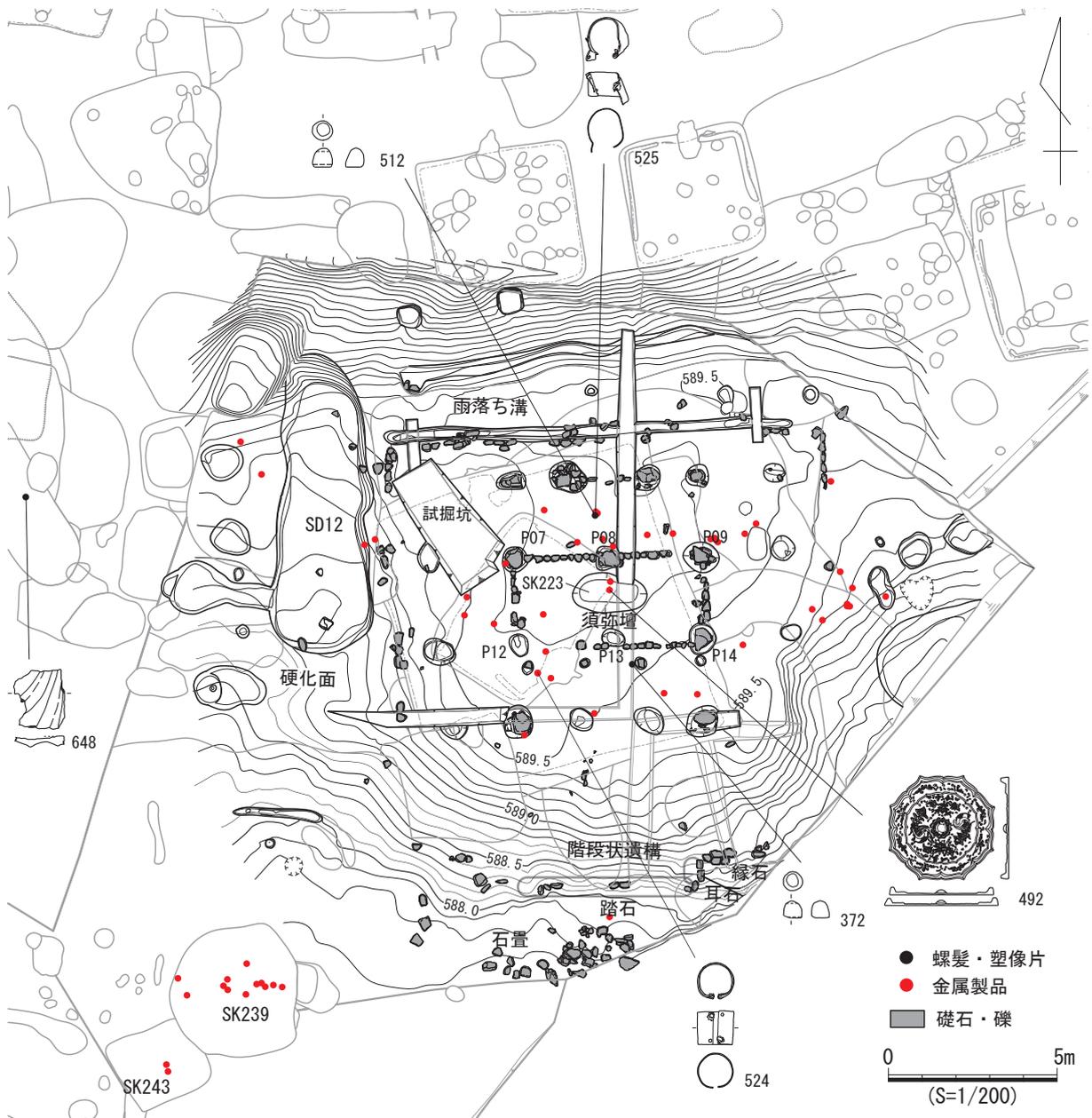


図 388 礎石建物に関わる遺物の分布

瓦（481・515 など）や縄タタキで布目圧痕しかもない瓦（516 など）が少数出土しているが、大半は当遺跡で出土した10世紀のロクロ土師器と類似する白色の胎土で造られた熨斗瓦（518 など）・丸瓦（513 など）である。熨斗瓦は、凸面のナデ・ケズリ、側面のケズリ、凹面の側面部を面取り、凹面は丁寧にナデが施され、布目は観察できない。また、玉縁の作り出しは断面に接合痕が見いだせないことから、削り出しによって作り出された可能性がある。少量出土したタタキのあるものは7世紀後半のもので高山市三仏寺廃寺<sup>17)</sup>の瓦に類似する。しかしながら、白色の胎土の熨斗瓦の製作技法は7世紀後半以降にみられる飛騨地域の瓦造りの技法にも、8世紀後半以降の国分寺の瓦造りの技法<sup>18)</sup>にも見られない。このことから、礎石建物の造営に伴って10世紀後半頃に焼かれた瓦と考えられる。また、白色の胎土の瓦は、少量の丸瓦が出土したが、大半は熨斗瓦である。礎石建物の屋根は総瓦葺



図 389 礎石建物周辺の瓦の分布

ではなく、大棟のみ瓦を敷いていたと推定される。瓦の分布状況は、礎石建物の北側に集中する。瓦の分布は建物の倒壊方向を示す可能性もあるが、釘の分布傾向と異なることや SK239・243 のように瓦や釘を一括廃棄した状況も認められることから、二次的に移動に移動した可能性が高い。SK239・243 から出土した遺物は 10 世紀後半におさまることから、礎石建物は 10 世紀後半のうちに廃絶したと考えられる。

#### (6) 礎石建物周辺の主要遺構と遺物について

礎石建物周辺では南側を中心に掘立柱建物や柵などを確認した。主な遺構及び墨書土器が出土した遺構を図 390 に示した。出土遺物から掘立柱建物の時期を特定できるのは SB06 のみで、10 世紀前半の遺構である。このほかに SB06 と建物の主軸方位があう SB05・SB09 が SB06 と同時期と考えられる。SB09 は礎石建物 (SB04) の南西に位置する。礎石建物の南から石畳が南へ続くことを想定した場合、礎石建物と建物の主軸方位が大きく異なるのは不自然である。SB09 は礎石建物の柱配置に類似した建物で、柱穴の掘方も長方形に近いものもあることから、礎石建物よりも古い仏堂の可能性もある。礎石建物と同じ時期の遺構は、建物の主軸方位が合う SB07・SB08、SB04 と SB07・SB08 の間を東西方向に延びる SA02・SA03 と考えられる。飛騨地域の集落跡では 10 世紀後半まで竪穴建物<sup>19)</sup> が確認できることから、これらの掘立柱建物は僧坊のような建物の可能性が高い。

礎石建物周辺を中心に寺に関わる出土遺物が出土した。礎石建物の基壇・SK517 から煤・タールが付着した土師器碗・皿 (493・494・496・806~813) が出土している。これらは灯明具であり、仏堂内で夜の悔過を修する際に使用されたと考えられる。また、礎石建物周辺では多口瓶 (507・508・509・765) が出土している。507 は 8 世紀後半、508・509・765 は 10 世紀後半のものである。8 世紀後半の多口瓶は礎石建物の前身寺院から引き継いだものと思われ、いずれのものも礎石建物の廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。礎石建物の廃絶時には、周辺に穴を掘り、廃棄したと考えられる。礎石建物の西側には 10 世紀後半の土器が多く出土した土坑 SK183~185・200・201・209・485・506・511・517 がある。SK511・517 には「寺」の墨書された土器があり、寺の存在を物語る。いずれの土坑も 8 世紀後半から 9 世紀頃の土器を伴う特徴があり、前身寺院から引き継いだものを礎石建物の廃絶に伴って廃棄された可能性があるといえる。SK485 は 9 世紀前半 (772)・9 世紀後半 (777)・10 世紀前半 (775) と各時期の墨書土器が出土している。775 の墨書「万」は吉祥句と考えられるが、772 の墨書「大令」、777 の墨書「令」は郡衙の官職名であり、寺院造営に関与していたことを示唆している。このほかに丘陵尾根部分で小型の埴塙 (886) が出土した。BM8 グリッドと B010 グリッドのものが接合しており、同グリッドでは須恵器や灰釉陶器が多く出土している。時期は特定できないが、埴塙の内外面に緑青や銅のスラグが付着していることから、寺院に関わる青銅製品を製作していたと考えられる。

### 3 寺院の変遷と意義

最後に寺院の変遷と意義について概観する。今回の調査では 8 世紀後葉に寺院が造営されたと考えられる。仏堂は確認できていないが、多口瓶 (507) やこの時期の遺構 SK64・SD4 があり、SD04 から鉄鉢形土器 (598) が出土していることから窺い知ることができる。この時期は野内遺跡 B 地区<sup>20)</sup> の竪穴建物数が急増する時期である。周辺では 8 世紀前半頃には窯業生産が開始されるが<sup>21)</sup>、9 世紀前葉には鉄鍛冶も開始する。野内遺跡は、この時期に「窯業や鍛冶などの手工業生産を含めた地域開

発のために、官衙（公的施設）などが主体となって工人を誘致し、村落形成が広域に展開した<sup>22)</sup> 遺跡であり、当遺跡周辺もそれに呼応するように、郡の政務を司る大領・少領などの在地地方有力氏族が関与し、寺院造営・維持を行ったと思われる。10世紀前半になると、仏堂（SB09）が造営され、僧坊（SB06・05）が建つ。この時期まで野内遺跡は安定して集落の再開発・新規開発がされる時期である。引き続き、郡の政務を司る大領・少領などの在地地方有力氏族が関与し、寺院造営・維持を行ったと思われる。10世紀後半には場所を変えて仏堂（SB04）が造営され、これに合わせて僧坊（SB07・08）が建てられる。仏堂は瓦葺屋根の礎石建物でSB09とは異なり真北を意識して造営される。鎮壇具は純密ではなく、古い様相を示すことから、仏像は塑像で前身寺院のものを受け継いだものと思われる。螺髪のある仏像は如来にのみ持つ特徴である。安置された仏像は阿弥陀如来か薬師如来のいずれかに絞られるが、遺跡の南側には大野郡と吉城郡へいたる寿美峠越えの道<sup>23)</sup> があることから、久保智

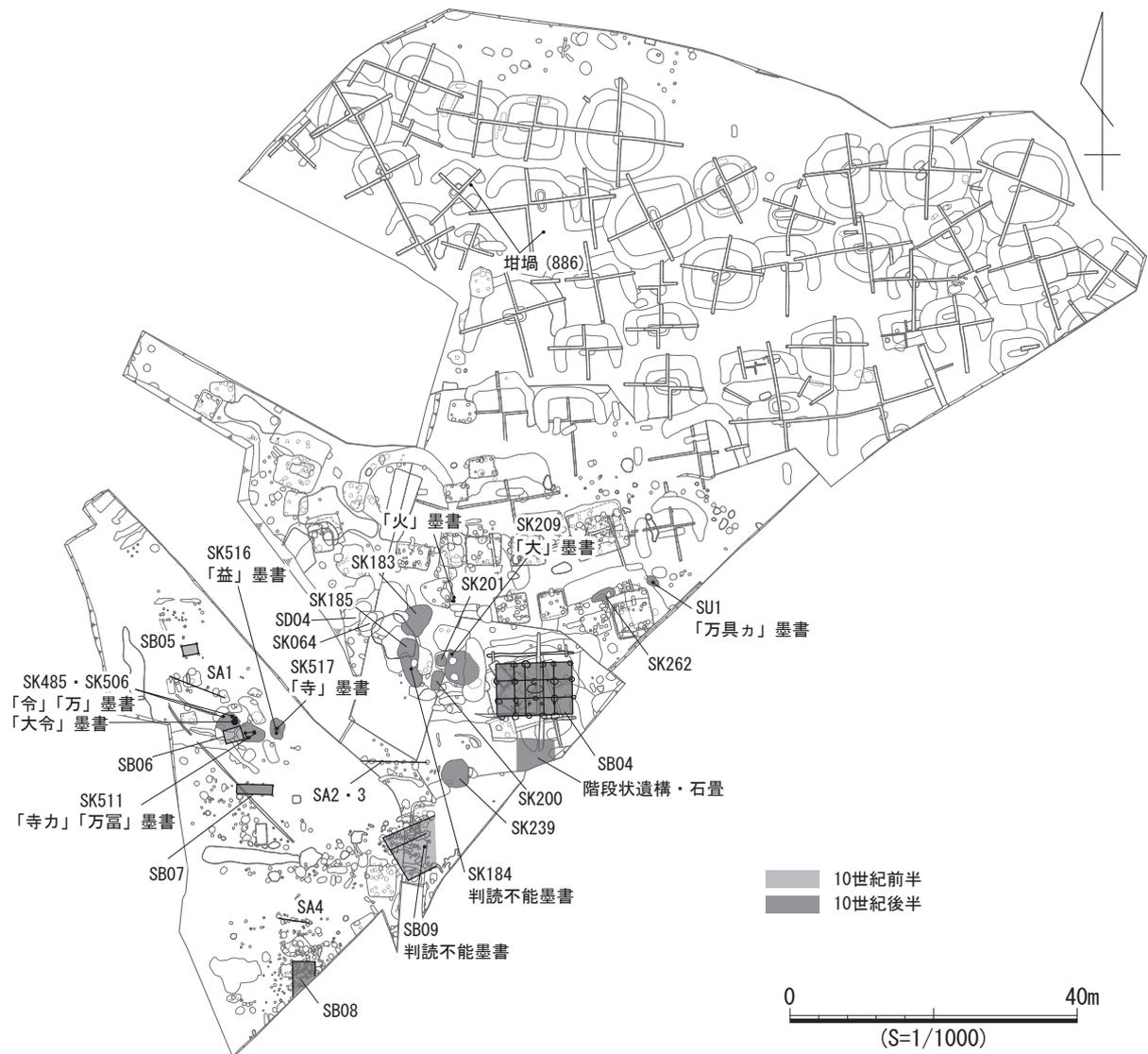


図 390 礎石建物周辺の主要遺構及び仏堂に関わる遺物

康氏が言うように、国衙もみずから国域内の疫疾消除を求めて、郡境の山寺に薬師悔過<sup>けかごんじゅ</sup>を勤修させたと考えられる<sup>24)</sup>。この仏堂は10世紀後半に廃絶される。野内遺跡においても竪穴建物は10世紀後半になると減少し、11世紀には途絶える。川上川左岸の集落遺跡も途絶えるため、空白期となる。10世紀後半に途絶えた仏堂は瓦や使用していた土器などを土坑に廃棄し、片づけ行為を行っているため、寺洞の中で仏堂を新たに造営した可能性もある。図6のような中世以降によくみられる地割や中央の道は上切寺尾古墳群の丘陵尾根へと続く道であり、11世紀以降も継続した可能性もある。しかしながら、今回の発掘区で11世紀の遺物がほぼないことをふまえると、高山盆地北部丘陵部において窯業<sup>25)</sup>や鍛冶などの手工業生産が衰え、寺院の造営・維持に関わった郡領層などの在地有力氏族が後退し、その後ろ盾を失った結果、廃絶されたものと考えられる<sup>26)</sup>。

注

1) 北野興策 2000「第三章第1節 神社と祭礼」『上枝村史』、上枝村史編纂委員会 650頁

2) 久保智康氏に御教示いただいた。

3) 久保智康氏は、山寺と神社の位置関係を四つのパターンに大別し、山寺へ至る手前の山麓に神社が鎮座するパターンが全国各地で見られる最も一般的なあり方であるとしている。

久保智康 2016「山寺と神社の構成—神仏習合の空間論序説—」『日本の古代山寺』高志書院 153・154頁

4) 久保智康氏は、山寺を作る個別具体的な必要条件として、閼伽水を仏様にあげなければいけないため、寺域の中に水源があることが重要であると述べている。

前掲 3) 46頁

5) 供物台の類例として、奈良県新薬師寺本堂がある。

6) 10世紀中頃から後半に建てられた仏堂Aは、正面五間×側面四間の正面庇の建物で広庇を除く礎石配置や須弥壇の造りが似ている。このため、今回の調査時にも広庇部分にあたる部分に礎石及び礎石据え付け穴がないかを確認したが、確認できなかった。

後藤健一 2007「IV 発見された建物跡」『日本の遺跡 22 大知波峠廃寺跡 三河・遠江の古代山林寺院』、同成社

7) 「陀羅尼集経」中に、仏教の地鎮めとして仏堂建立の際、阿闍梨が道場の北東隅から西南隅にかけて縄を引き、そして東南隅から西北隅へ同じように綱を引き、中央の交差した場所に小さな穴を掘り、七宝と五穀を埋める内容の記述がある。

森郁夫「二 資料に見る地鎮供養」『日本古代寺院造営の研究』、法政大学出版局 307頁

8) 前掲 7) 321頁に台密の鎮壇に際しての埋納例の記録として、穴の底に一枚の紙を敷くことや五穀を入れて埋める内容の記述がある。

9) 長久智子 2010「9世紀における瑞花双鳥門八稜鏡の初源形式」『愛知県陶磁資料館研究紀要』15、愛知県陶磁資料館

10) 久保智康 1999「和鏡の成立」『中・近世の鏡』、至文堂 19-21頁

11) 前掲 9)

12) 中川あや 2010「瑞花双鳥八稜鏡の出現」『遠古登攀 遠山昭登君追悼考古学論集』

13) 前掲 10)

- 14) 原秋芳 2014 「塩尻市野辺沢出土の毛抜形太刀と瑞花双鳥八稜鏡をめぐって」『長野県立歴史館研究紀要』20号、長野県立歴史館
- 15) 釘の種類は金田善敬の分類に従った。  
金田善敬 2017 「七 鉄釘の技術」『モノと技術の古代史 金属編』、吉川弘文館 276 頁
- 16) 瓦の製作技法については梶原義実氏、三好清超氏に指導いただいた。
- 17) 高山市教育委員会 2003 『三仏寺廃寺発掘調査報告書』
- 18) 三好清超氏に御教示いただいた。
- 19) 10 世紀の集落跡として、高山市野内遺跡B地区がある。野内遺跡B地区では 10 世紀後半の竪穴建物が減少するが、高山市藤ノ木遺跡では 10 世紀後半の竪穴建物を確認していることから、飛騨地域は 10 世紀までは竪穴建物が住居として利用されたと考える。  
財団法人岐阜県文化財保護センター2009『野内遺跡B地区』(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第111集)。  
藤本健三 2007 「第5章第4節奈良時代から平安時代までの集落」『国府町史 考古・指定文化財編』、国府町史刊行委員会 356-360 頁
- 20) 財団法人岐阜県文化財保護センター2009『野内遺跡B地区』(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第111集)。
- 21) 高山市教育委員会 2005 「平野遺跡・平野1号古窯跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 22) 前掲 21) 2分冊 237-238 頁
- 23) 島本洗一 2012 『地図でみる東日本の古代』、平凡社 81 頁
- 24) 久保智康 2001 「国府をめぐる山林寺院の展開—越前・加賀の場合—」『国宝と歴史の旅3 神護寺薬師如来の世界』、朝日新聞社 31 頁
- 25) 赤保木8号古窯の遺物を実見したが、上切寺尾古墳群や日焼遺跡で 10 世紀後半とした遺構から出土した高台が低く外面のみ稜をもつ個体と類似するため、10 世紀後半までは窯業生産が行われたと思われる。  
高山市教育委員会 2005 「赤保木8号古窯跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 26) 久保智康氏によれば、越前・加賀の古代の寺院遺跡をみると、8～9世紀の創建された寺院も、100～200年程度の短期間で廃絶してしまう場合と 10～12 世紀に一層規模を拡大し中世へ発展していく場合の二パターンがあるという。前者の場合、寺院の造営・維持に直接・間接的関わっていたのは8世紀勢力を有していた郡領(郡の政務を司る大領・小領)層などが後退し、後ろ楯を失ったことが寺院の衰退を反映したとしている。  
前掲 24) 28・29 頁

## 第2節 上切寺尾古墳群の造墓の変遷及び位置づけについて

今回の調査で検出した墳墓は51基である(第3章第4節)。以下に、造墓の変遷と地域における歴史的意義づけについて検討する。

### 1 墳墓の属性

今回検出した墳墓は、溝によって平面形が方形(長方形)になるよう区画した「方形周溝墓」と同様な構造をもつものが多い。北陸地方の「丘陵上に営んだ周溝墓」<sup>1)</sup>に類似する遺構と考えられる。しかし、これらの遺構の立地や形状から、本古墳群独自の特徴も伺える。そのため、以下のとおり本古墳群の墳墓がもつ属性を抽出し、表78に示した。次項では、各属性に基づきその特徴について検討する。

**内周規模** 方台部の規模を記載した。また、次項で示した規模による分類(1群・2群)についても、「分類」の項目に記載した。

**時期** 飛騨地域においては当該期の詳細な土器編年が確立していないため、本報告では便宜的に、北陸地方における法仏式期を「弥生時代後期後半(弥生後)」、月影式・白江式期を「弥生時代終末期(弥生末)」、古府クルビ式期を「古墳時代初頭(古墳初)」の3時期に区分<sup>2)</sup>し、墳墓の出土遺物に基づき記載した。

**重複する墳墓数** その墳墓が別の墳墓と重複(共有)する基数を記載した。

**周溝** 残存する周溝の形態で以下のとおり分類した。なお、属性Dについては、A～Cに付随する属性として「AD」などと記載した。

A：方台部を全周するもの B：斜面下方側の周溝が認められないもの C：2辺以上が認められないもの D：陸橋状の切れ目を有するもの ×：不明

**方台部** 方台部は方形(長方形)の平面形を基調とするが、不定な形状をとるものも認められる。直線的な周溝に囲まれ明瞭な方形(長方形)と認識できるものを「a」、それ以外のものを「b」、不明なものを「×」とした。

**墳丘盛土** 墳丘盛土の構築方法について、以下のとおり分類した。なお、「一次墳丘」は墓坑掘削前の盛土を示し、墓坑を覆う盛土を「二次墳丘」として、二次墳丘が残存するものを「○」で示した。

I1：方台部周縁に周堤状の盛土をしたのち、その内部を充填するもの

I2：方台部周縁の斜面下方側のみ土堤状の盛土をしたのち、斜面上方側を充填するもの

II：墳丘中央から順に盛土するもの

III：一次墳丘はあるが、IとIIの判別ができないもの

IV：一次墳丘がないもの ×：不明

**主体部** 方台部内で検出した基数を掲載した他、以下の項目について分類した。

深さ：主体部底面が一次墳丘に収まるものを「盛土内」、基盤下にまで達するものを「基盤下」とした。

向き：主体部の長軸が方台部の長軸と直交又は平行するものを「○」、直交又は平行しないものを「△」とした。

**遺物** 出土遺物の内容を簡潔に記載した。

## 2 属性の分析

### (1) 墳墓の規模・形態

飛騨地域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村を含む範囲）では、中野大洞平遺跡<sup>3)</sup>や上町遺跡<sup>4)</sup>、ツルネ遺跡<sup>5)</sup>などで、上切寺尾古墳群とほぼ同時期の方形周溝墓が確認されているが、墳丘の盛土は確認されていない。今回検出した墳墓は、その多くに墳丘盛土が残存しており、飛騨地域のみならず県内全域においても稀有な状況といえる。この、墳丘が残存するという特徴があるために斜面下方側の周溝が確認できなかった墳墓でも方台部の規模を計測することが可能であるが、今回の調査では墳丘裾部の状況を十分確認しておらず（後述）、表78の「規模」の数値は、一部土層断面図や平面図に基づく推定値を含む。この数値に基づき、図391に墳墓方台部の長軸長と短軸長による散布状況を示した<sup>6)</sup>。長短軸比では、大半の墳墓は長軸が短軸の1.5倍以下であり、長軸と短軸の長さに大きな差がない形態をもつ。長短軸比が1.5倍以上あるSZ49は、南側のSZ51より新しく改変は受けていないため、東西に長い形状と考えられ、周溝以外の遺構をもたないことから、他の墳墓とは性格を異にする可能性がある。一方、方台部規模の長短軸の散布状況からは、2つのグループに分けることができる（図391の「規模による散布状況」。「1群」は方台部の長軸が10m前後のもので、SZ01・SZ17・SZ22・SZ24・SZ29・SZ41・SZ51の7基が含まれる。最も規模が大きい墳墓はSZ41で、長軸は13.59mを測る。SZ41は、傾斜に直行する軸の長さは他の1群の墳墓と類似するが、傾斜に平行する方向の軸が長い。これは、斜面に1群と同等規模の墳丘を構築する際、墳頂部を他の墳墓と同様の規模にした結果、斜面下方側へ墳丘裾の範囲が広がったと考えられる（図392）。同じ1群のSZ01・SZ51でも、同様な状況が確認できる。2群は長軸の規模が3.6m～8.5mのもので、散布範囲は広いものの明確な差が見出せないため、これ以上の分類は行わなかった。なお、これまで飛騨地域で確認されている方形周溝墓はいずれも2群に含まれる規模であり、1群に匹敵するものは確認されていない<sup>7)</sup>。

方台部の平面形は、規模の分類で1群としたものではb類が4基あり、SZ01は円形に近い形状、SZ17・SZ24・SZ41は1辺が丸味のある不定な形状である。2群35基の内b類は4基で、比率的には1群より方形に近い形状をとるものが多い。2群でb類としたものは、1辺が丸味をもつSZ28以外は円形とも方形ともいえない不定な形状である（SZ11・SZ31・SZ35）。

周溝の形態では、尾根上がA類、丘陵南側の斜面がB類というように、主に立地で分かれている。山上の墳墓は尾根上や台地の縁辺など比較的平坦な場所に立地することが多いが、本古墳群では斜面にも墳墓が立地することが大きな特徴である。B類の墳墓については、本文中で「斜面に設置されたため、傾斜の下方となる南溝は確認できなかった」というような表現で形態を説明しているが、これは斜面に墳墓を造営することによって生じた影響を端的に示したものである。しかし、前述のように今回の調査では墳丘裾部の状況を十分確認しておらず、例えばSZ19（図393）は、断面図では基盤を削り出したように表現しているが、斜面に方台部を全周する周溝を設置した場合、斜面下方側の周溝の立ち上がりがなくなり、このような状態になる可能性が高い。これは、基盤層を削り出して墳丘裾を構築するとされる「方形台状墓」の築造に通じる<sup>8)</sup>。弥生時代の造墓においては墓域を区画する意識の発生が特徴とされており<sup>9)</sup>、今回検出した墳墓が、何をもって「区画」していたのかを検証することが重要であったと考える。なお、C類の周溝をもつ墳墓はSZ05のみであるが、墳丘の形状からみると、墳丘南西部が斜面下方へ流出し、周溝の一部が失われた可能性が高い。周溝に陸橋状の切れ目

表 78 上切寺尾古墳群における墳墓の属性

遺構番号	内周規模			時期	重複	周溝	方台部	墳丘盛土		主体部			遺物 (副葬・供献)
	長軸長	短軸長	分類					一次	二次	数	深さ	向き	
SZ01	10.77	9.40	1	—	0	B	b	Ⅲ	○	1	基盤下	△	×
SZ02	10.10	(7.51)	—	—	0	B	b	×	—	—	—	—	×
SZ03	7.32	5.90	2	—	1	B	a	Ⅲ	—	—	—	—	墳丘内、鉢 (9)
SZ04	6.23	4.92	2	—	1	B	a	×	—	2	基盤下	○・△	×
SZ05	7.80	7.79	2	弥生末	2	C	aか	Ⅲ	○	1	基盤下	○	壺完形 (14)、高坏破片 (11~13)
SZ06	8.94	(4.58)	—	—	0	B	aか	Ⅲ	○	1	基盤下	○	×
SZ07	6.79	6.74	2	—	0	BD	a	Ⅲ	—	1	基盤下	○	×
SZ08	8.75	(5.12)	—	—	0	BD	a	×	—	1	基盤下	○	×
SZ09	13.04	(7.25)	—	—	0	×	a	×	—	—	—	—	×
SZ10	(4.05)	(1.22)	—	—	1	×	×	×	—	—	—	—	×
SZ11	7.01	6.27	2	—	1	AD	b	×	—	—	—	—	×
SZ12	(7.09)	6.98	2	—	3	A	a	Ⅱ	—	1	盛土内	○	×
SZ13	7.16	6.48	2	弥生末	3	A	a	I1	○	1	盛土内	○	周溝埋土内から北陸系有段口縁壺 (40)、高坏 (41) 完形
SZ14	(3.57)	(2.92)	—	—	2	×	aか	I1	—	—	—	—	×
SZ15	6.36	(6.09)	2	—	2	Aか	a	Ⅱ	○	1	盛土内	○	周溝埋土中散在、鉢破片 (42)
SZ16	6.98	5.39	2	弥生後	1	A	a	Ⅱ	○	1	基盤下	○	墳頂部 (封土下か) から有段口縁台付鉢 (51) と高坏 (52)、その他周溝内に破片
SZ17	9.82	9.64	1	—	0	A	b	I1	○	1	基盤下	○	×
SZ18	5.53	(4.14)	2	—	0	B	a	I2	○	1	基盤下	○	×
SZ19	6.44	6.17	2	古墳初	1	B	a	I2	○	1	基盤下	○	周溝埋土中散在、装飾器台か (57)
SZ20	8.01	6.16	2	—	2	AD	a	Ⅲ	○	1	基盤下	△	主体部直上封土、脚部破片 (58)
SZ21	7.52	6.89	2	—	2	Aか	a	I2	○	1	盛土内	△	×
SZ22	10.11	9.66	1	—	1	A	a	I1	○	1	盛土内	○	×
SZ23	6.56	4.28	2	—	0	BD	a	Ⅲ	—	1	盛土内	○	周溝東溝埋土中に細片
SZ24	10.04	8.81	1	弥生末	1	B	b	Ⅱ	—	1	基盤下	△	周溝北溝西部で破片集積 (甕・鉢、完形は68のみ)、北溝中央東寄り器台 (74) 完形、主体部から土器片
SZ25	4.93	(4.10)	2	—	1	Aか	a	×	—	—	—	—	×
SZ26	6.33	5.80	2	—	0	A	a	Ⅱ	○	1	基盤下	○	×
SZ27	6.10	5.66	2	—	1	Aか	a	Ⅳ	○	1	基盤下	×	×
SZ28	6.71	6.27	2	弥生末	0	B	b	I2	○	2	盛土内 基盤下	△	周溝底面付近壺 (79)
SZ29	10.31	8.66	1	弥生後	3	A	a	I1	○	1	基盤下	○	周溝で高坏 (84) と鉢 (83)、器台 (85) は周溝南西隅完形
SZ30	5.44	4.65	2	—	2	Aか	a	Ⅲ	○	1	基盤下	○	×
SZ31	3.63	3.49	2	—	0	B	b	Ⅳ	○	1	基盤下	○	×
SZ32	(8.22)	7.22	2	弥生末	2	B	a	I1	—	1	基盤下	○	主体部埋土層で高坏 (88)、周溝で壺 (86) 完形
SZ33	8.52	7.40	2	—	2	A	a	I1	—	1	基盤下	△	×
SZ34	8.56	(6.13)	2	—	1	B	a	Ⅲ	—	1	基盤下	○	×
SZ35	6.11	5.35	2	—	1	A	b	×	—	1	基盤下	○	×
SZ36	(6.10)	4.13	2	—	2	B	a	Ⅲ	—	1	基盤下	○	×
SZ37	6.40	4.88	2	—	4	A	a	Ⅲ	—	—	—	—	周溝底面付近で壺破片 (92)
SZ38	8.37	6.20	2	弥生末	5	A	a	Ⅱ	—	1	盛土内	○	周溝底面で台付装飾壺 (93) 主体部で93とセットとなる蓋 (94) と緑色凝灰岩製の管玉 (95)
SZ39	(1.95)	(1.54)	—	—	2	×	×	Ⅲ	—	—	—	—	×
SZ40	(7.42)	(7.32)	—	—	3	AD	a	Ⅱ	○	1	基盤下	○	×
SZ41	13.59	9.62	1	—	2	B	b	I2	—	1	盛土内	△	×
SZ42	5.95	5.94	2	—	1	B	a	I2	—	1	基盤下	○	×
SZ43	6.25	4.36	2	—	0	B	a	Ⅲ	—	1	基盤下	○	×
SZ44	6.89	6.04	2	弥生末	2	A	a	I2	—	1	基盤下	○	器台 (99) 東溝南部埋土中で出土、詳細不明
SZ45	(3.95)	2.41	2	—	1	Aか	a	×	—	—	—	—	×
SZ46	6.67	5.40	2	—	2	B	a	Ⅱ	—	1	盛土内	○	×
SZ47	4.89	(3.73)	2	—	4	B	a	Ⅲ	○	1	基盤下	○	×
SZ48	6.54	5.89	2	—	1	×	a	I1	—	1	基盤下	○	壺 (102) 等が西溝中央埋土中で出土
SZ49	7.84	(2.97)	2	弥生末	1	B	a	×	—	—	—	—	周溝で台付装飾壺 (104)、104はSZ51の周溝でも出土
SZ50	6.21	(3.52)	—	—	1	×	a	×	—	1	基盤下	○	×
SZ51	11.22	9.04	1	—	2	BD	a	I2	○	1	基盤下	○	周溝埋土中で破片が出土、蓋 (106) は詳細不明

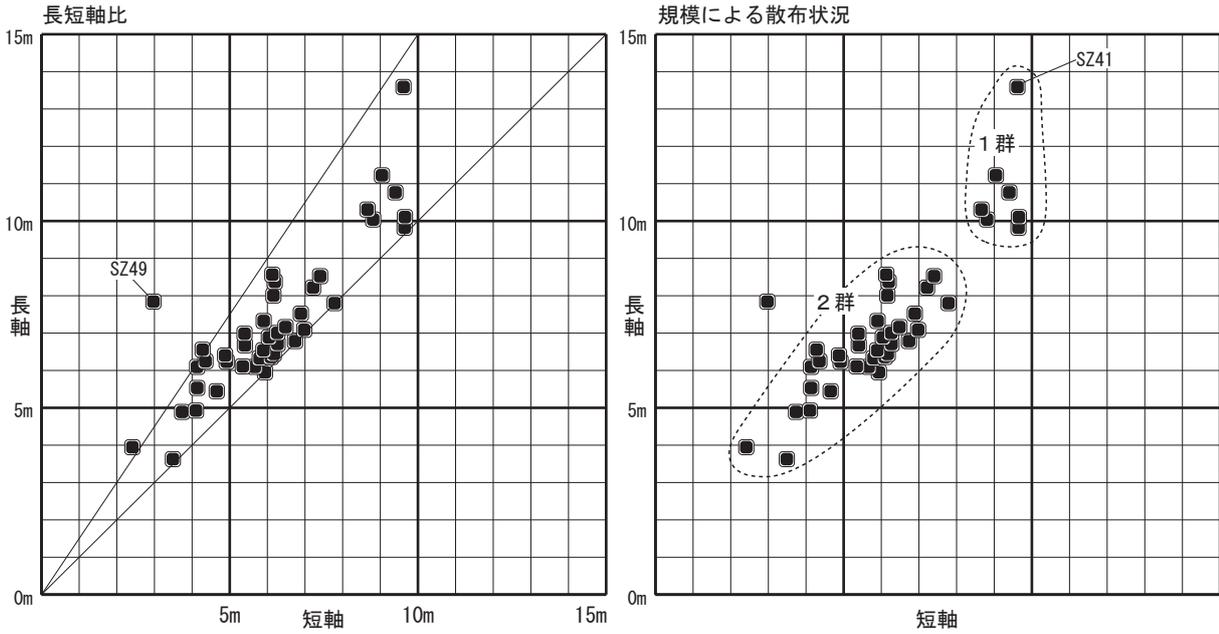


図 391 墳墓の規模

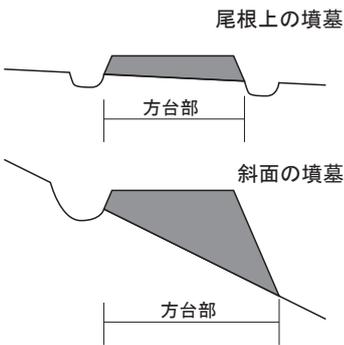


図 392 斜面における方台部構築の模式図

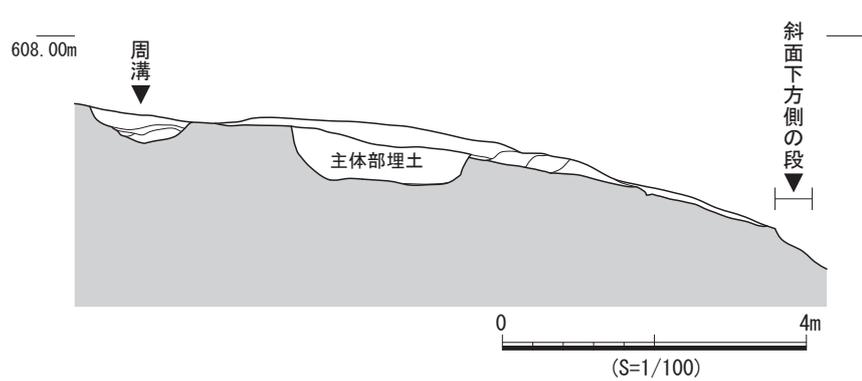


図 393 斜面下方側の掘削 (SZ19)

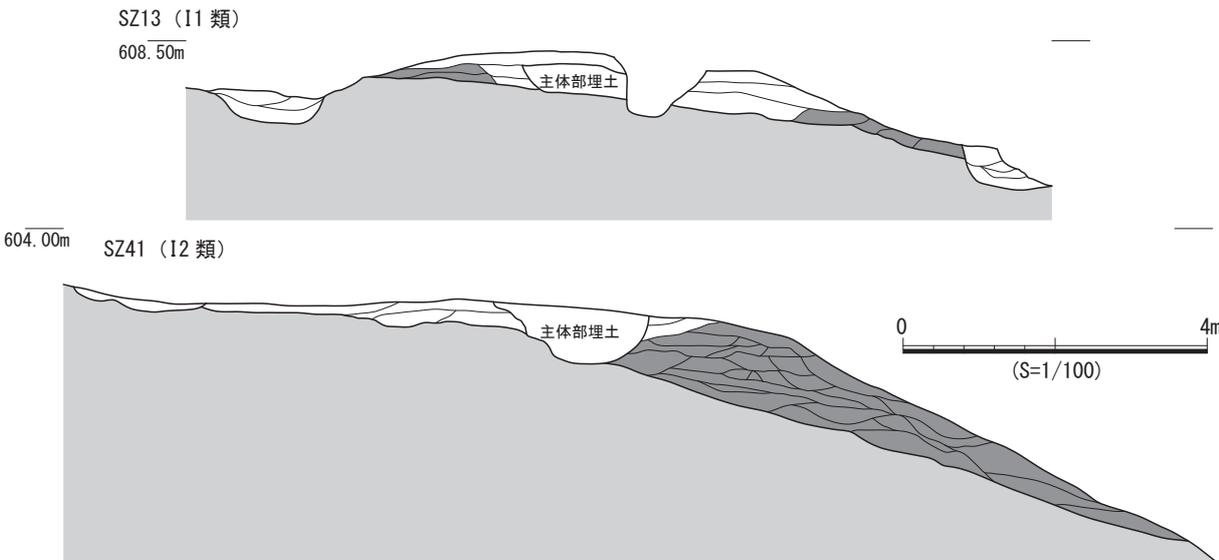


図 394 墳丘の盛土 (I類)

をもつ（属性D）墳墓は7基あるが、いずれも周溝の屈曲部付近の1個所が切れている。SZ11<sup>10)</sup>を除き、いずれも山側の標高が高い部分に陸橋状の切れ目がある共通点がある。ただし、SZ40の本文（第3章第4節）で触れたように、周溝の図化に問題がある可能性があり、「陸橋状の切れ目をもつ周溝」が本古墳群の墳墓の属性の一つとするには課題が残る。この他の特徴として、SZ16やSZ26のように周溝が2段に掘り込まれるなどして、底面に深淺が存在するものがある。中野大洞平遺跡の2号墓は四隅切れの周溝墓<sup>11)</sup>とされているが、上面が完全に削平されていることを考えると、もともとはSZ26のように周溝の4辺が2段に掘り込まれた周溝であったことも否定できない。こうした事例があることを踏まえると、今後飛騨地域において同種の遺構を調査する上で、重要な観点になると思われる。

### （2）墳丘の構築と主体部

今回検出した墳墓の墳丘盛土は、旧表土や基盤層土に由来すると考えられ、周溝掘削により生じた排土を利用した可能性が高い。主体部は、墳丘盛土が確認できなかったものを除くと、ほとんどが一次墳丘構築後に掘削している。構築墓坑のような、盛土を構築する過程で埋葬する主体部は確認できなかった<sup>12)</sup>。一次墳丘がないと判断できるもの（基盤を直接掘削して主体部設置後に盛土）は2基（SZ27・SZ31）にとどまる。一次墳丘の構築方法は、概ね4種類（I～IV）に分けることができる。I類（図394）は、方台部の周縁に土塁状の盛土を行った上でその内部を充填するもので、周溝を掘削しつつ方台部内の手近な位置に置き、最後に土塁状の盛土内を整地するという連続した工程を示している可能性がある。分類におけるI1類とI2類の違いは旧地形の傾斜の違いによると推定され、I2類には、主体部を設置する面を水平に近付けたり盛土の崩壊を予防したりする意図があると思われる。I類の工法は、規模の分類における1類7基の内6基に採用されている他、SZ13など比較的明瞭な方形の平面形の墳墓に用いられている。一方II類は、1類のSZ24をはじめ、尾根上に立地する墳墓にのみ採用されている。比較的平坦な尾根上であれば、II類の工法でも問題なく構築できたのかもしれない。なお、III類は、調査時に墳丘を掘り過ぎて判別できなかったものも含むが、比較的低い墳丘をもつものがほとんどである。

主体部は、一つの墳墓に対し1基がほとんどで、2基あるものはSZ04・SZ28のみである。3基以上主体部があるものは認められない。主体部の長軸方位は、墳墓の長軸方位と直行・並行するものが多いが、それ以外のもも少なからず存在する。主体部の底面が盛土内に収まるものは、2基主体部を確認したSZ28を含めて10基あるが、いずれも尾根に近い位置に立地する比較的墳丘が明瞭な墳墓であり、底面が基盤層まで達しているものが多い。これは当初から、低墳丘で築かれていたものが多いことを示すと考える。なお主体部の埋土が墳丘盛土と極めて類似性が高いことから調査時の誤認や図面の不整合が多く、主体部の構造や埋没過程については十分検証できなかった。

### （3）出土遺物（図395）

今回検出した墳墓の内、SZ01～SZ11やSZ41のように古代の集落跡と重複する墳墓からは古代の土器類が出土しているが、それ以外にも山上の墳墓群にも古代の土器が持ち込まれている状況を確認した。しかし、墳墓自体は古代に大きな改変は受けていないため、墳墓造営時に土器を使った供献行為が行われていた場合、その状況をとどめている可能性が高い。このことを踏まえ、以下に墳墓の遺物出土状況を概観する。

墳丘及び周溝から弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物が出土した墳墓は、51基中18基ある。全体

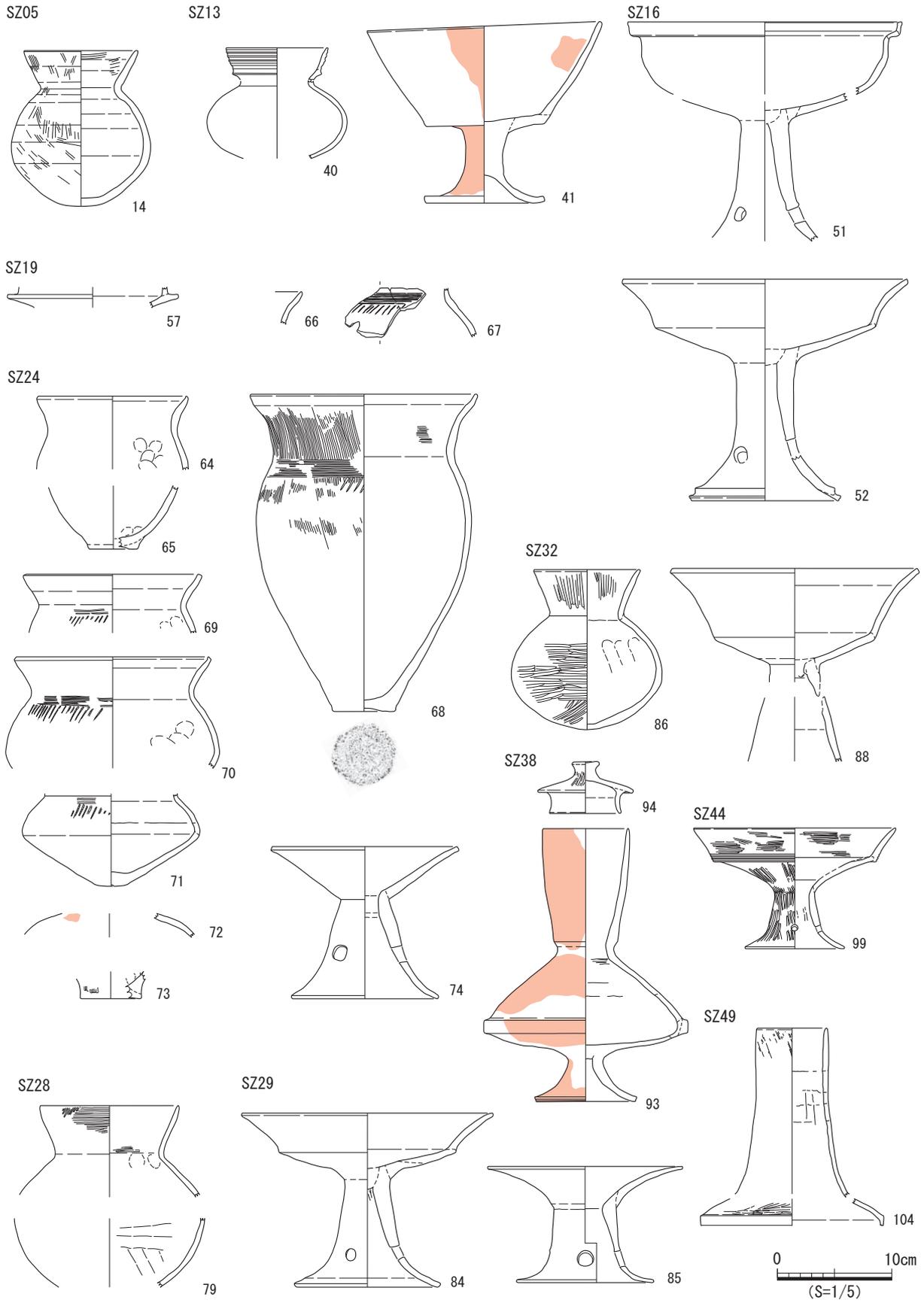


図 395 主な出土土器

の半数にも満たないことから、墳墓の詳細な時期決定を困難にしている。これらの遺物の出土状況は、以下のように分類できる。

- ①周溝底面付近で、完形に近い土器がそのまま出土するもの。
- ②周溝底面付近で、接合可能な土器片が集積した状態で出土するもの。
- ③主体部上面で、土器がまとまって出土するもの。
- ④主体部の埋土内で、比較的残存状態のよい土器片が出土するもの。
- ⑤墳丘盛土や周溝埋土で、土器片が出土するもの。

①の出土状況を確認した墳墓は7基ある。現位置を保っていると考えられるが、周溝が若干埋没した状況で出土した土器（SZ13-41、SZ32-86）もあり、墳丘から転落した可能性もある。これらの土器の器種は、高坏・器台・壺といった供膳具である。高坏はSZ13の41のみで、在地と思われる特徴的な器形をもつ。器台は、SZ24（74）・SZ29（85）・SZ44（99）で出土した。99は北陸系の月影式期、74と85は東海系で、74は廻間I式期、85は山中式期まで遡る可能性がある。壺は、SZ38で月影式期の台付装飾壺（93）、SZ05とSZ32で口縁部が直線的に開き体部下半に最大径をもつ壺（14・86）が出土した。

②の出土状況を確認した墳墓は4基で、これらの土器の器種は壺が多いが、SZ24では甕や鉢といった煮沸具が出土した。完形にならないものがほとんどで、一部が斜面下方へ流出したか、欠損した状態で遺棄されたと考えられる。SZ13では月影式期の有段口縁壺（40）が前述の高坏（41）と近接した位置で出土したが、41と異なり半身や底部を欠く。SZ24では前述の器台（74）の西側から、鉢や甕がまとまって出土した。甕（68）は接合の結果完形となったが、それ以外は複数個体の甕や鉢であった。68は美濃山間部に類似する器形があり<sup>13)</sup>、その他の鉢や甕も東海系と考えられる。SZ28（79）・SZ49（104）では、それぞれ壺の一部が出土しておりいずれも底部を欠く。79は14・86と類似する器形である。104は前述の93とは異なり口縁部に段を持たないタイプの台付装飾壺で、月影式期のものと思われる。

③の出土状況を確認した墳墓は、SZ16のみである。ただし、墳丘盛土を確認するための断ち割りトレンチを掘削した際一括して取り上げており、出土座標の記録から類推した。有段口縁鉢（51）・高坏（52）とも北陸系で、法仏式期と考えられる。北陸地方では、法仏式期以降に方形周溝墓や台状墓の墓坑上面で土器が集積されることが知られており<sup>14)</sup>、同様な祭祀行為が行われていた可能性がある。

④の出土状況を確認した墳墓は、SZ32のみである。近畿北部地域における「墓壙内破碎土器供献」との関連も考えられるが、北陸における類例は少ないとされる<sup>15)</sup>。88は脚部を欠くが、月影式期の高坏と思われる。

⑤の出土状況は、土器の二次的な移動によるものが多いと考えられるが、本古墳群は同時代の集落跡と重複して立地していないため、近い時期のまったく墳墓に関係ない遺物が混入することは考えにくい。なお、SZ29の高坏（84）やSZ49の台付装飾壺（104）は離れた位置の周溝から出土したものが接合しており、意図的に分散して廃棄した可能性もある。

表 79 時期別の出土状況

時期	①	②	③	④
弥後	SZ29	—	SZ16	—
弥末	SZ05 SZ24 SZ32 SZ38 SZ44	SZ13 SZ24 SZ28	—	SZ32
古初	—	—	—	—

以上、土器の出土状況を分類して述べたが、土器の所属時期を踏まえると表 79 のようになる。古墳時代初頭については⑤の出土状況のみであった。①～④を土器の「供献行為」とすれば、これらの行為が認められる墳墓は 51 基中 11 基であり、墳墓の形状や配置には共通点や他と違った特徴は認められない。そのため、今回の調査事例をもって、飛騨地域における土器の供献行為を類型化することは困難と考える。今後の資料の増加を待ちたい。なお、副葬と考えられる事例は SZ38 でのみ認められた（第3章第4節）。

### 3 造墓の変遷と上切寺尾古墳群の意義（図 396）

最後に墳墓の配置及び重複状況を踏まえた造墓の変遷と、上切寺尾古墳群の意義について概観する。

今回の調査においては、墳墓の重複状況を確認した。大半が周溝同士の重複<sup>16)</sup>であるが、周溝が方台部を削り込んで、その形状を変化させる事例が 4 例認められる（SZ25・SZ27・SZ45・SZ47）。その 4 基の共通点は、いずれも周囲の墳墓より古いこと、比較的小規模なこと、墳丘がないか低い点がある。SZ25 は弥生時代後期後半の SZ29 より古いが、SZ24 の周溝で方台部が削られており、SZ24 の構築において SZ25 の存在が考慮されていない。また SZ27 は、SZ20 の周溝によって方台部の北東部が削られており、周囲の墳墓の重複状況とは異質な印象を受ける。SZ27 の西側には、尾根上に連続して SZ17・SZ26 が築かれており、やや丸味がある平面形や、SZ26 と SZ27 については規模も類似する。SZ47 は一見周囲の墳墓と周溝を共有しているように見えるが、SZ39 との重複で方台部が削られている。以上の観点から、SZ17・SZ26 を含む 6 基については、周溝を共有しながら連綿と築く墓域という概念が薄い状態で弥生時代後期後半以前に導入されたと考えられる。ただし、いずれも出土遺物がないため、現段階で詳細な所属時期は不明である。

続いて造営されたのは、尾根上に周溝を共有しながら並ぶ SZ12・SZ14～SZ16 の 4 基と思われる。前述の 6 基とは明らかに墳墓の平面形や配置が異なる。地形測量や盛土の状況から、SZ14 は 1 類の規模をもつ墳墓の可能性があり、これを起点に連続して築かれた可能性がある。なお、4 基の中で最も新しい SZ16 で法仏式期の土器が出土しており、この一群は弥生時代後期後半以前に位置づけられる。SZ16 東側の尾根上には、前述した SZ17 を含む 3 基が存在するが、さらに東側に展開する墳墓群は尾根と斜面に密集して墳墓が築かれており、発掘区外にも続いている（第3章第3節）。この中で最も古い SZ14 の所属時期は不明であるが、SZ16 の構築後に SZ17 等を避けた上で、尾根上に連続して築かれた可能性が考えられる。また、SZ29 も弥生時代後期後半には築かれていたと思われるが、これより斜面下方の墳墓は、いずれも傾斜を意識した向きで方向がそろっており、基本的に斜面上方から下方に向かって造墓が進んだとみられる。しかし、区画を共有するという意識は低く、尾根上の一群より密集度が低い。斜面に設置するという状況から、構築しやすい場所が選定されていたのかもしれない。また、SZ19 では尾根に近い位置にあるが廻間Ⅲ式まで降る可能性がある土器片 (57) が出土しており、上方から下方への動きとは別に、空閑地を選地して造墓するようなことも行われていたと考えられる。この SZ19 周囲には、小型で平面形が不定形の SZ23 や SZ31 があり、これらが墳墓群の最終段階に位置付けられるのかもしれない。今回の調査では各墳墓の時期決定が難しく、これ以上の分析は困難であるが、大きな流れとしては、方形周溝墓の導入→尾根上に連続する造墓と継続→丘陵南斜面への展開といった動きがあったと考えられる。

最後に上切寺尾古墳群の生み出された背景について考察する。第2章第2節で述べたとおり、上切

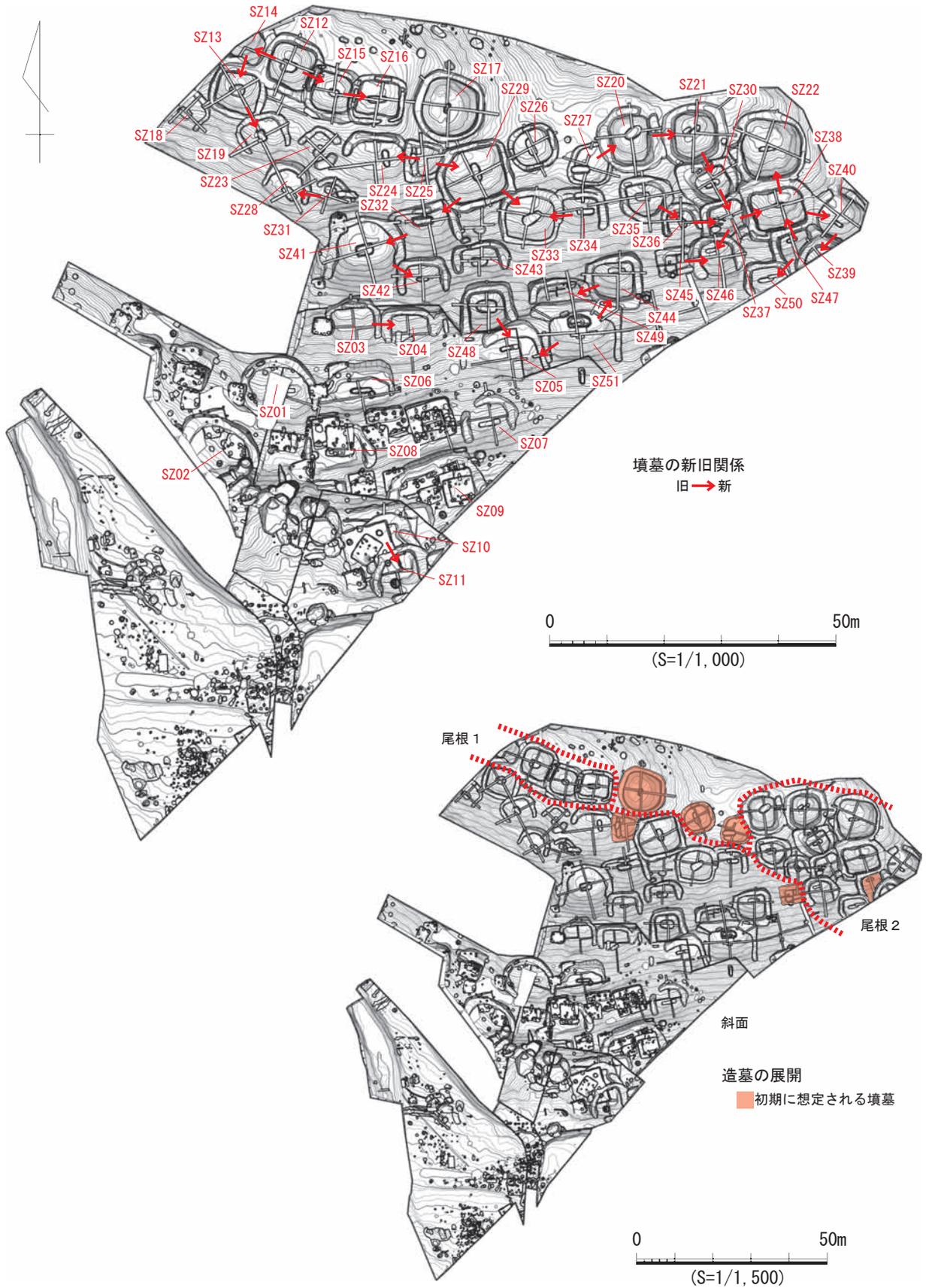


図 396 墳墓の配置と造墓の変遷

寺尾古墳群周辺では多くの発掘調査が行われている。その中で、当該地域では野内遺跡C地区のある後背湿地を生産背景にした集団が断続的に活動していたことが明らかとなっており、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の居住域も確認されている<sup>17)</sup>。しかし、野内遺跡の背後にある丘陵では墳墓が確認されておらず、墓域の解明は一つの課題であった。野内遺跡や赤保木遺跡に住む集団が造墓にかかわっていたのは一つの可能性としてあげられる。しかし、高曽洞川の谷を挟んで立地することや、尾根上に造墓するグループと斜面に造墓するグループが同時に存在したことを考えると、本古墳群周辺にも同様な集団が存在した可能性もある。今回の調査における日焼遺跡や、西に隣接する随縁寺裏B地点遺跡<sup>18)</sup>、東に位置する中切上野遺跡<sup>19)</sup>の調査でも当該期の集落跡を確認しておらず、候補としては、野内遺跡B・C地区の集落と同様な本古墳群南側の緩斜面があげられる。また、丘陵尾根上から斜面にかけて密集した墳墓が築かれるようになった背景には、一定範囲が必要となる墳墓を導入した結果、設置できる場所が不足したことが考えられる。当時川上川に面した低地を生産域として居住が行われていたが、暴れ川として知られる川上川の流路が安定しておらず、居住域も狭い丘陵裾の緩斜面に限定されていた。この状況が変わるのは、野内遺跡A地区の集落跡<sup>20)</sup>や赤保木古墳群が築かれる古墳時代中期である。そのため、墳墓を築くのに必要な場所がなく、丘陵上をやむを得ず選地した結果と考えられる。高曽洞川を挟んで東西では丘陵の地質が大きく異なっており、東側が花崗岩を主体とした比較的緩やかな丘陵であることも墳墓を築くのに好都合であったと考えられる(第2章第1節)。田中秀明氏は三重県の安濃川流域において、方形周溝墓(平野の墳墓)の数が雲出川流域より少なく方形台状墓(丘陵上の墳墓)が多いことに言及し、両者に質的な差はないという観点から、「平野部に方形周溝墓を造るに適した地形があまりなく、周辺に低丘陵が多いという地理的条件から丘陵上に墓地を求めた」結果としている<sup>21)</sup>。また、藤井整氏は、畿内地域では平野部の方形周溝墓と丘陵上の方形台状墓の設定期においては立地の違いのみで質的な差はないとし、山がちな地形であれば「居住域と生産域を確保した後に墓域を確保しようとした場合に、墓域は丘陵上に上がることを余儀なくされ」たことを推定している<sup>22)</sup>。現段階で、SZ16やSZ29のような弥生時代後期後半の墳墓は、飛驒地域における最古の墳墓(方形周溝墓)である。「方形周溝墓」という新しい墓制を地域に受容した際に、立地や形態を地域の状況に合わせて造墓活動を行ったと推定される。なお、近年の調査で、本古墳群の東に位置する中切上野古墳群も、上切寺尾古墳群と同時期の墳墓であることが明らかとなった<sup>23)</sup>。今後は、飛驒地域における当時の居住域と墳墓群の関係や、後続する古墳時代前期の墓制を明らかにすることが、大きな課題になると思われる。

## 注

- 1) 前田清彦 2004 「若狭・越前の弥生墳墓」『台状墓の世界』両丹考古学研究会・但馬考古学研究会
- 2) 弥生時代の時期区分は、高橋 2009 を参考とした。馬場伸一郎氏からは、SZ05 出土の壺(14)について白江式期まで下る可能性について御指導を得たが、それ以外で明確に白江式に比定できる土器は確認できなかった。しかし、時期不明の墳墓が多数存在し、古墳時代初頭まで降る可能性がある遺構もあるため、白江式期の遺構が存在する可能性は否定できず、月影式・白江式期を弥生時代終末期として一括して扱うこととした。なお、馬場氏は野内遺跡C地区 1220SB 出土遺物について、その大半を白江式段階としている。

高橋浩二 2009 「北陸における弥生墓制」『中部の弥生時代研究』中部の弥生時代研究刊行委員会

馬場伸一郎 2016「弥生時代」『高山市史』（先史時代から古代編（下））

岐阜県文化財保護センター2012『野内遺跡C地区』

- 3) 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『中野大洞平遺跡II』

- 4) 古川町教育委員会 1991『上町遺跡D地点発掘調査報告書』

- 5) 高山市教育委員会 1978『ツルネ遺跡発掘調査報告書』

- 6) 明らかに古代において方台部が削平を受けたもの（SZ06・SZ08等）や、発掘区外に続いて規模が不明なもの（SZ02・SZ14・SZ39等）を除く。

- 7) 南垣内遺跡では、円形の「墳墓」（国府町史では「円形周溝墓」）とされる周溝の内径が約15mある遺構が確認されている。報告書では4世紀後半から5世紀初頭とされる土器が出土したことから、「周溝墓の特徴を色濃く残しながら、古墳時代の遺物を出土しているため、弥生時代の最終末から古墳時代への過渡期」の遺構としている。4世紀後半から5世紀初頭は、一般的に古墳時代前期でも後半に当たる時期であるため、飛騨地域では空白となっている弥生時代終末期から古墳時代前期の墓制を踏まえた見解と思われる。今回確認した上切寺尾古墳群の墳墓群より時期が降ると考えられるため、ここでは詳しく触れないが、牛丸岳彦氏は飛騨地域において、「方形周溝墓から前方後方形の周溝墓となり、円形周溝墓、前方後円墳へつながるながれ」があるとしており、SZ01など円形に近い墳墓との関係は注目される。

国府町教育委員会 1995『南垣内遺跡』

国府町史刊行委員会 2007『国府町史』考古・指定文化財編

牛丸岳彦 2016「飛騨の古墳時代」『高山市史』先史時代から古代編（下）高山市教育委員会

- 8) 「方形台状墓」の定義に関しては様々な意見があり一致を見ない。山上にあつて基盤層を削り出すことによって構築するものを台状墓とするものが多いが、これを定義とするならば、SZ18やSZ19のような場合でも一部定義に当てはまることになる。

- 9) 森岡秀人氏は方形周溝墓について、「縄文時代からの系譜はたどれない」墓であつて、その性格として「一定面積を占める区画の重視があり、内外・生死・階層・階級などの隔絶や芽生えが想定されている」としている。

森岡秀人 2013「弥生の墓」『墓の考古学』吉川弘文館

- 10) SZ11の南側は畑地の造成によって失われており、陸橋状の切れ目が存在する方台部南側の周溝は、別の墳墓に伴う可能性もある。斜面にA類は多く立地しないことから、その方が自然である。

- 11) 東海地方において、四隅が陸橋状になるタイプの方形周溝墓は、弥生時代前期後半から中期に多いとされる。中野大洞平遺跡の方形周溝墓は、弥生時代終末期とされており、上切寺尾古墳群と同時期である。

赤塚次郎 2005「東海地域の方形周溝墓」『方形周溝墓研究の今』雄山閣

- 12) 可児郡御嵩町に所在する金ヶ崎遺跡の調査において、上切寺尾古墳群とほぼ同時期の方形周溝墓 SX03及びSX05が、方台部周縁に土壘状の盛土をしたのちに木棺を設置した後にその周りを充填したとされており、構築墓坑的な主体部の構築を行っていたことが示されている。

早野壽人 2003「金ヶ崎遺跡における方形周溝墓の墳丘構築について」『金ヶ崎遺跡・青木横穴墓』財団法人岐阜県文化財保護センター

- 13) 恩田知美氏の分類で、「F 口縁端部がやや屈曲するく字状口縁平底甕」のVI 2期（廻間I式後半）の段階のものが近い器形をもつ。

恩田知美 2004「美濃地方における弥生時代後期から古墳時代初頭の土器様相」『美濃の考古学』（第7号）  
美濃の考古学刊行会

- 14) 高橋浩二 2005「北陸の弥生墳墓から古墳へ」『季刊考古学』（第92号）雄山閣

- 15) 古屋紀之 2005「弥生墳墓の土器配置にみる祭祀」『季刊考古学』（第92号）雄山閣  
高橋浩二 2005 前掲

- 16) 今回の調査では、周溝の先後関係を明確にすることを優先するあまり、無理に分層したと思しき土層図面が多く残る。立花実氏は、隣り合う2つの方形周溝墓について、「両者が同時存在したと読み取することは不可能な事例やどうみても覆土上層から切っている（埋まり切ってから掘削している）としか考えられない事例が溢れている」とし、周溝を共有する方形周溝墓の存在を否定するような調査事例が多いことに言及している。今回の発掘区では、立地的に人為的行為がない限り、周溝がすぐに埋没することは考えにくい。立花氏の指摘するような遺構図が多く作成されている。重複関係を誤認とはしないが、墳墓の変遷を考える上では、「堆積状況を勘案すると埋没後時間がたってから」などというような解釈は加えずに論を進める。

立花実 2005「弥生墓制研究の新展開」『季刊考古学』（第92号）雄山閣

- 17) 弥生時代後期後半は野内遺跡D地区で竪穴建物を1軒、弥生時代終末期は野内遺跡B地区で3軒、C地区で2軒、古墳時代初頭は赤保木遺跡で2軒を確認した（時期区分は本報告に合わせて記載）。

岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『赤保木遺跡』

岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡B地区』

岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡D地区』

岐阜県文化財保護センター2012『野内遺跡C地区』

- 18) 岐阜県文化財保護センター2015『随縁時裏B地点遺跡』

- 19) 高山市教育委員会 1999『中切上野遺跡発掘調査報告書』

- 20) 岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡A地区』

- 21) 田中秀明 2005「方形台状墓」『三重県史』（資料編 考古1）三重県

- 22) 藤井整 2004「近畿地域からみた丹後・但馬の特質」『台状墓の世界』両丹考古学研究会・但馬考古学研究会

- 23) 岐阜県文化財保護センター2017『平成29年度中切上野遺跡現地見学会資料』

岐阜県文化財保護センター2018『平成30年度中切上野遺跡現地見学会資料』

岐阜県文化財保護センター2019『令和元年度中切上野1号古墳現地見学会資料』

### 第3節 飛騨地域における古代の土器について

今回の調査で古代の土器として、土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。

土師器は高坏、壺、鉢、甗、甕、長胴甕が出土している。また、当遺跡では回転糸切痕が残存するロクロ成形による土師器碗、皿類を特に「ロクロ土師器」として非ロクロ成形の土師器と区別している。須恵器は、坏・蓋類、碗、高坏、有台盤、脚台盤、香炉、甗、鉢、器台、平瓶、横瓶、堤瓶、多口瓶、長頸壺、短頸壺、広口壺、小壺、有耳壺、鉄鉢形土器、甕が出土している。灰釉陶器は、碗、小碗、輪花碗、皿、折縁皿、段皿、壺、長頸壺、瓶類、多口瓶が出土している。

#### 1 土師器

土師器の掲載遺物は85点である。内訳は、甕・長胴甕69点、把手付甕1点、甗4点、鉢3点、壺1点、坏1点、碗1点、高坏1点、器種不明4点である。遺構種別ごとでは墳墓5点、土坑墓2点、竪穴建物69点、掘立柱建物1点、溝状遺構1点、土坑4点、遺物包含層3点である。

墳墓からは鉢、高坏、甕・長胴甕が出土している。これらは墳丘直上若しくは周溝埋土から出土している。これらの土師器には須恵器も共伴することから、墳墓に隣接して営まれた竪穴建物の集団によって弥生時代終末期から古墳時代初頭の墳墓を使って祭祀が行われていたと考えられる。

竪穴建物から出土する土師器は、甕類が主体をなす。他に高坏、壺、鉢なども認められる。共伴する須恵器は主に坏類と甕である。共伴須恵器の年代観から多くの竪穴建物の時期が7世紀後半から8世紀前半に比定され、土師器も概ねこの時期に比定できる。このほかに暗文土器が3点出土している。高坏(SI21、322)、坏(SI37出土、448)、器種不明(SK186、663)でいずれも8世紀前葉の遺構からの出土である。土坑墓(ST04)出土の鉢(178)は埋納品ではないが、出土部分以外を意図的に割り取ったものである。

#### 2 須恵器

須恵器の掲載遺物は、291点である。内訳は坏・蓋131点、碗7点、高坏11点、盤類8点、甗2点、壺類39点、瓶類15点、多口瓶2点、鉢5点、甕61点、香炉1点、鉄鉢形土器4点、器台1点、器種不明4点である。遺構種別ごとでは墳墓31点、土坑墓1点、竪穴建物155点、掘立柱建物・礎石建物21点、溝状遺構4点、土坑49点、遺物包含層30点である。生産地別では美濃須衛産106点、在地産39点、猿投窯産24点、産地不明122点である。

土師器同様に墳墓から坏、高坏、横瓶、壺、甕などが出土している。墳墓出土須恵器31点のうち、産地が判明したものは7点で、美濃須衛産4点、在地産3点である。竪穴建物から出土する須恵器は坏類と甕を主体となし、高坏、壺なども認められる。竪穴建物出土須恵器155点のうち、産地が判明したものは120点で、美濃須衛産77点、在地産29点、猿投産14点である。また、SB04周辺からは、SB04前身寺院に由来すると考えられる一群の須恵器が出土している。これらについてはSB04周辺遺物包含層出土の須恵器多口瓶(507)、SI19出土の特殊器形鉢(304)や香炉(307)、SI14、SI26、SD04、SK184出土の鉄鉢形土器(266、394、598、630)、SK485出土の「大令」墨書有台盤(772)をはじめとする墨書土器群があげられる。

#### 3 灰釉陶器

灰釉陶器の掲載遺物は118点である。内訳は碗類91点、皿類19点、瓶類2点、壺類3点、多口瓶

3点である。遺構種別ごとでは墳墓4点、竪穴建物3点、掘立柱建物・礎石建物4点、溝状遺構2点、土坑69点、土器集積19点、柱穴1点、遺物包含層16点である。生産地別では美濃須衛産23点、在地産5点、東濃産4点、産地不明86点である。時期（窯式）別では折戸10号窯式併行1点、黒笹90号窯式併行1点、折戸53号窯式併行3点、折戸53号窯式～東山72号窯式併行2点、東山72号窯式併行10点、時期不明101点である。竪穴建物のほとんどは8世紀前葉までしか存在しないため、灰釉陶器は主に礎石建物SB04を中心とする遺構群に関連する遺物と考えられる。

#### 4 ロクロ土師器

ロクロ土師器の掲載遺物は70点である。碗47点、皿17点、碗か皿か判然としないもの6点である。遺構種別ごとでは竪穴建物4点、礎石建物3点、溝状遺構2点、土坑52点、土器集積6点、遺物包含層3点である。

当遺跡で特徴的な遺物であるロクロ土師器について検討する。飛騨地域と隣接する富山県においては8世紀前葉から11世紀にかけての遺跡でロクロ土師器が出土し、土師器食器の一角をなす<sup>1)</sup>。一方、飛騨地域においてはこれまでロクロ土師器の出土例はほとんどなく、飛騨市・上町遺跡で3点のロクロ土師器が出土しているのみである<sup>2)</sup>。また、食膳具である北陸地方のロクロ土師器と当遺跡のロクロ土師器は使用目的が異なると考えられる。この点についてロクロ土師器の分類を行って検討する。



図 397 ロクロ土師器の出土位置

## (1) ロクロ土師器の分類

当遺跡のロクロ土師器 70 点を器形、胎土などから以下のとおり分類した。

I類：口径は 9.6 cm～9.7 cm と小さく、口径は底径の 2 倍を超えることはない (493:1.5 倍、711:1.8 倍)。器高は 2.0 cm～2.1 cm である。器壁は厚く、口縁は外反する。出土点数は 2 点である。

II類：口径は 11.4 cm～17.0 cm と大きく、底径は 4.4 cm～6.6 cm、口径は底径の 2 倍を超える (2.1 倍～2.7 倍) である。器高は 2.1 cm～3.7 cm である。体部の器壁は底部付近では比較的厚いが口縁部付近に向けて薄くなり、口縁はやや外反する。器種は碗か皿である。焼成はおおむね不良で、胎土は白色である。出土点数は 44 点である。

III類：口径は 10.4 cm～14.8 cm と II 類と比較してやや小さいものが多い、底径は 4.4 cm～7.2 cm、口径は底径の 2 倍程度 (2.1 倍) である。器高は 2.4 cm～3.8 cm である。体部の器壁は全体に厚く、口縁はやや外反する。焼成は土師器としては良好で焼きしまり、胎土は白色だがやや赤みがあったものもある。観察の結果、土質は II 類と同質の土を使用していると考えられ、II 類との色調の違いは焼成具合の違いによるものと考えられる。出土数は 18 点である。

IV類：底部に高台がつくものを IV 類とした。出土点数は 6 点である。

## ① I類

I類のロクロ土師器 2 点は、いずれも器形から北陸から中国地方の山寺で見られる「口が広がる灯明皿」である<sup>3)</sup>。礎石建物 SB04 基壇盛土から出土した 493 は煤が付着し、SB04 の前身寺院に由来すると考えられる。自然科学分析の結果、漆の成分も検出したことから、漆を溶く皿として二次利用された可能性もある。SB04 廃絶時 (10 世紀後半) の廃棄土坑 SK239 から出土した 711 は 493 とほぼ同型の皿で、口縁部の外反は 493 ほど顕著ではない。煤、漆の付着は認められず、未使用のまま廃棄された灯明皿である。I類のロクロ土師器は 2 点のみで、使用機会、場所等が限定された灯明皿といえる。493 は SB04 前身寺院、711 は SB04 廃絶に伴うことから、493 が 711 に先行すると考えられる。

## ② II類

II類のロクロ土師器は、口縁部へ向けて体部の器壁が薄く作られている。器形は口径、底径、深さとも III 類と比較すると焼成は不良である。44 点のロクロ土師器が土器集積 (SU01)、溝状遺構 (SD12)、土坑 (SK183、SK184、SK185、SK200、SK201、SK209、SK262、SK517、SK644) などから出土している。これらの遺構は礎石建物 SB04 廃絶時に瓦、灰釉陶器、釘など寺院に関わる遺物を廃棄したと考えられる。また、II類のうち、口縁部から底部まで残存する 17 点及び口縁部のみ残存する 2 点の計 19 点にはすべて煤の付着が確認できる。このうち 15 点には内面口縁部付近に灯芯の痕跡が確認できる。灯芯痕跡の形状から、灯芯は紐状 (583 など 10 点) 若しくは先端を振った帯状の布片 (804 など 5 点) を内面体部から口縁部に沿わせたことがわかる。底部のみ残存する 25 点のうち煤の付着は 6 点で、残る 19 点には煤の付着は確認できないが、全体形がわかる II 類が灯明皿であることから煤の付着がない 19 点も灯明皿として使用されたものと考えられる。

## ③ III類

III類のロクロ土師器は、全体に器壁が厚く作られている。II類と比較すると全体に焼成は良好なも

表 80 ロク口土師器観察表

掲載番号	器種	出土区2	分類	煤	灯芯痕跡	漆	特記事項
493	皿	SB04基壇盛土	I	内外面	○	内外面	口縁部外反
711	碗	SK239	I				口縁部外反
381	碗か	SI26	II				
413	碗か・皿	SI28	II			内外面底部	
414	碗か・皿	SI28	II				
415	碗か・皿	SI28	II				
583	皿	SU01	II	内外面口縁部	○		
584	皿	SU01	II			内面底部、外面体部	
585	皿	SU01	II				
601	無台碗	SD12	II			内面底部	
625	無台碗	SK183	II	内外面口縁部	○		
636	皿	SK184	II				
637	皿	SK184	II	内外面口縁部	○		
652	碗	SK185	II	内外面			割れ口全体に煤付着
653	皿	SK185	II	内外面			割れ口全体に煤付着
675	無台碗	SK200	II				
676	無台碗か・皿	SK200	II	内外面			割れ口全体に煤付着
679	碗	SK201	II	内外面		内外面	割れ口全体に煤付着
680	碗	SK201	II			内面底部	
695	碗	SK209	II	内外面			内面は口縁部のみ、外面は体部全体
696	碗	SK209	II				
758	碗	SK262	II	内面底部			
759	碗	SK262	II				
760	碗	SK262	II	外面体部			
793	碗	SK517	II				
794	碗	SK517	II				
795	碗	SK517	II				
796	碗	SK517	II				
797	碗	SK517	II				
798	碗	SK517	II	内外面体部			煤の付着は口縁部付近と考えられる。
799	碗	SK517	II				
800	碗	SK517	II				
801	碗	SK517	II			内外面	内外面全体に漆、漆は外面底部に及ぶ 漆塗りの可能性
802	碗	SK517	II	内外面体部	○		
803	碗	SK517	II	内外面口縁部	○		
804	碗	SK517	II	内外面体部	○		痕跡が幅広 帯状の灯芯の可能性
805	碗	SK517	II	内外面口縁部	○		痕跡が幅広 帯状の灯芯の可能性
806	碗	SK517	II	内外面口縁部	○		痕跡が幅広 帯状の灯芯の可能性
807	碗	SK517	II	内外面口縁部	○		灯芯の痕跡が確認できる。
808	碗	SK517	II	内外面口縁部	○		灯芯の痕跡が確認できる。
809	碗	SK517	II	内外面体部			
810	碗	SK517	II	内外面体部	○		口縁部割れ口も含む内外面全体に煤が付着 長期間の使用
811	碗	SK517	II	内外面口縁部	○		
812	碗	SK517	II	内外面口縁部	○		痕跡が幅広 帯状の灯芯の可能性
813	碗	SK517	II	内外面体部	○		
825	皿	SK644	II	内外面口縁部	○		痕跡が幅広 帯状の灯芯の可能性
490	皿	SB04-P23	III			内面底部	
494	皿	SB04基壇盛土	III			内面底部	
622	無台碗	SK182	III			内外面体部	
631	碗	SK184	III				
632	碗	SK184	III				墨書
633	皿	SK184	III	内外面		内外面体部底部	割れ口全体に煤付着
634	皿	SK184	III	内外面			割れ口全体に煤付着
635	皿	SK184	III				
638	皿	SK184	III	外面体部		内外面体部底部	割れ口全体に煤付着
639	皿	SK184	III				
654	皿	SK185	III	内外面			割れ口全体に煤付着
671	無台碗か・皿	SK186	III				
698	碗	SK209	III			内外面	漆は外面底部に及ぶ 漆塗りの可能性
712	碗	SK239	III			内外面底部	漆は外面底部に及ぶ 漆塗りの可能性
713	碗	SK239	III			内外面	内外面全体に漆、漆は外面底部に及ぶ 漆塗りの可能性
714	皿	SK239	III				
871	碗	包含層	III				
872	碗	包含層	III			内面体部	底部内面と外面に「大」墨書
510	碗	EH10	IV				仏器か
586	碗	SU01	IV				
587	碗	SU01	IV				
588	碗	SU01	IV				
602	碗	SD12	IV				
697	碗	SK209	IV			内外面	内面にヘラ状工具で漆を伸ばした痕跡、高台はがれ

のが多い。18 点のロクロ土師器が礎石建物 (SB04)、土坑 (SK182、SK184、SK185、SK186、SK209、SK239) などから出土している。これらの遺構は礎石建物 SB04 建設時若しくは礎石建物 SB04 廃絶時の遺構と考えられる。また、Ⅲ類のうち、SK184 と SK185 から出土した 4 点に煤の付着が確認できるが、これらは全て割れ口も含んで土器全体に煤の付着が及んでいることから、廃棄後に二次的に被熱したものと考えられる。また、9 点に漆の付着が認められ、うち 3 点には漆の付着が底部外面にも及ぶことから、これらは漆を溶いたものではなく、全体に漆が塗られていた可能性もある。なお、一方で 9 点は漆の付着が確認できない。Ⅲ類のロクロ土師器は漆の付着したものは漆を溶いたパレットか漆塗りの供膳具、漆の付着しないものは未使用のパレット又は素焼きの供膳具の可能性はある。

④ IV類

IV類のロクロ土師器は、灰釉陶器と同様の貼り付け高台をもつ。510 を除く 5 点が底部のみの出土で全体形を確認できない。Ⅱ類同様焼成は不良である。6 点のロクロ土師器が礎石建物 (SB04) 周辺の遺物包含層、土器集積 (SU01)、土坑 (SK209) から出土している。礎石建物 SB04 廃絶時の遺構等と考えられる。510 は SB04 周辺の遺物包含層から出土している。同じ範囲から多口瓶 (507~509)、

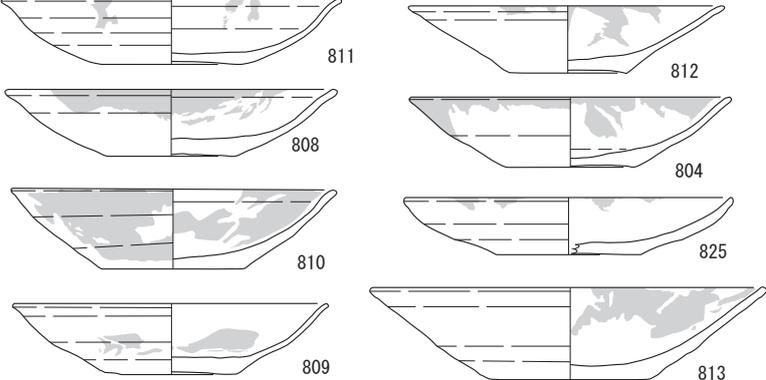
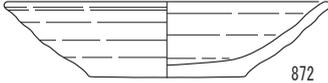
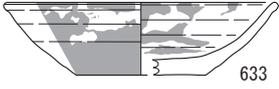
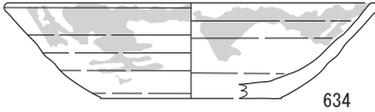
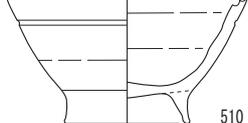
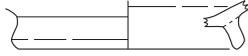
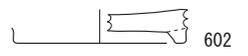
	SB04 建立前	SB04 廃絶後
I類	 493	 711
Ⅱ類		
Ⅲ類	 872	 631  633  634
IV類	 510	 586  587  588  602

図 398 ロクロ土師器分類図

螺髪(512)など、SB04 前身寺院に由来・伝世し、SB04 廃絶時に廃棄されたと考えられる遺物が出土していることから、510 も SB04 廃絶時に廃棄された前身寺院由来の伝世品と思われる。高い高台が付き、六器(仏具)の可能性もある。高台の付く4点は高台の形状から折戸53号窯式(586)と東山72号窯式(587、588、602)に比定できる。また、697は高台部分が剥がれている。内外面に漆が付着し、体部内面にはへら状工具で漆を伸ばした痕跡が確認できる。漆を溶いたパレットとして使用されたと考えられる。697 以外は煤や漆は付着しない。Ⅳ類の出土数もⅠ類同様非常に少ないことから、使用機会、場所等が限定されたものと考えられる。

### (2) ロクロ土師器の時期

ロクロ土師器の時期を検討する。SB04 礎石(SB04-P23)及びSB04 基壇盛土から出土したロクロ土師器(Ⅰ類:493、Ⅲ類:490、494)は前身寺院に由来し、SB04 建設時に混入した遺物と考えられる。また、SB04 包含層出土ロクロ土師器(Ⅲ類:871、872、Ⅳ類:510)は前身寺院由来の伝世品であり、SB04 建設以前に位置づけられる。これら前身寺院由来のロクロ土師器の時期を明確に比定することは難しいが、SB04 周辺包含層出土の須恵器多口瓶(507)が8世紀後半に比定されることから、8世紀後半から10世紀後半(SB04 建設時)の間と考えられる。

また、上記以外のロクロ土師器は、いずれもSB04 廃絶時に廃棄されたと考えられる遺構から出土している。SB04 周辺では11世紀に比定される灰釉陶器の出土がないことから、廃絶は建設と同じ10世紀後半でSB04の建物の存続期間は50年以内である。Ⅱ類は全てSB04 廃絶時に廃棄されたと考えられること、Ⅱ類の薄手の器壁をもつ灯明皿として使われた土師器が50年以上にわたり伝世したとは考えにくいことから、Ⅱ類のロクロ土師器は10世紀後半に比定できる。

### (3) ロクロ土師器の位置づけ

上述のとおり、ロクロ土師器はSB04 及びその前身寺院に関わる遺物と考えられる。飛騨地域で類例がほとんど見られないこと、特にⅠ類とⅡ類は用途が灯明皿に特定できることなどから、ロクロ土師器は寺院祭祀に伴い、灰釉陶器窯に特注されたものと考えられる。胎土は白く、美濃須衛産の灰釉陶器の胎土と非常に近いと考えられるが、美濃須衛窯で同種のロクロ土師器がこれまで確認されていない。また、ロクロ土師器を美濃須衛窯から搬入することは須恵器や灰釉陶器と比較して破損のリスクが多いことから、生産者は在地の灰釉陶器窯を想定したい。飛騨地域での灰釉陶器窯の調査事例が極めて少ないため断定はできないが、現時点では赤保木8号古窯跡出土の灰釉陶器の胎土が美濃須衛窯産に近い印象がある。飛騨地域で美濃須衛窯産の灰釉陶器は多数確認されているが、この中には飛騨在地産の灰釉陶器が含まれる可能性を指摘しておく。

注

1) 池野正男 2013 「越中古代後半の土師器食器」『富山考古学研究』(紀要第16号)、公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

2) 上町遺跡では竪穴建物(SI23)から3点のロクロ土師器の皿が出土している。共伴する灰釉陶器から折戸53号窯式期(10世紀前半)に比定できる。

飛騨市教育委員会 2016 『上町遺跡第28～33・37次』

3) 久保智康 1999 「国府をめぐる山林寺院の展開—越前・加賀の場合—」『国宝と歴史の旅3 神護寺薬師如来の世界』朝日新聞社

## 第4節 高山盆地北部丘陵における土地利用の変遷について

当センターでは、これまでに上切寺尾古墳群・日焼遺跡に隣接する赤保木地区から上切地区にかけての発掘調査を行ってきた。本節では、これまでの発掘調査成果をふまえ、当遺跡と周辺の土地利用の変遷について概観する。

### 1 縄文時代

当遺跡では、早期の煙道付炉穴2基（SL02・SL03）、中期後葉の竪穴建物2軒（SI31・SI38）、土坑13基（早期1、中期4、詳細時期不明8）を検出した（図399）。煙道付炉穴は、飛騨地域ではウバガ平遺跡<sup>1)</sup>で1基確認されているが、SL03のように煙道部分が確認されていない遺構である。SL02は煙道部も残り、煙道部の底面から円礫が出土している。美濃加茂市富田清友遺跡<sup>2)</sup>の煙道付炉穴のあり



図399 縄文時代の主要遺構

方と共通し、飛騨地方では他に例のない遺構といえる。中期後葉の竪穴建物は2軒のみで離れた位置で確認した。当該地域では赤保木遺跡<sup>3)</sup>で中期中葉から後葉の竪穴建物25軒が緩斜面に集中し、集落を形成する。当遺跡では、弥生時代以降、緩傾斜地に遺構が密集するため竪穴建物が消失した可能性もあるが、縄文土器の出土量が少ないことから、竪穴建物が集中していたことは考えにくい。短期間の小規模な集落であったと考えられる。

## 2 弥生時代

当遺跡では、弥生時代後期から古墳時代初頭の墳墓を51基検出した。当該地域では、野内遺跡C地区<sup>4)</sup>にある後背湿地を生産背景にした集団が、断続的に活動していたことが明らかになっており、野内遺跡B地区<sup>5)</sup>や赤保木遺跡では、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の居住域も確認されている。野内遺跡の背後にある丘陵では同時期の墓域が確認されていないため、野内遺跡や赤保木遺跡に住む集団が上切寺尾古墳群の造墓に関わっていた可能性がある。現段階では、SZ16やSZ29のような弥生時代後期後半の墳墓は、飛騨地域における最古の墳墓である。当該地域では、弥生時代前期には三枝城跡<sup>6)</sup>の土坑から柴山出村式土器が出土し、中期後半にはウバガ平遺跡で竪穴建物3軒と土坑1基を確認し、在地の内垣内式土器の他、他地域の栗林式土器や小松式土器、榎田タイプの太型蛤刃石斧が出土している。今後は、飛騨地域における当時の居住域と墓域の関係や、後続する古墳時代前期の墓制を明らかにすることが、課題になるとと思われる。

## 3 古墳時代終末期から奈良時代

当遺跡では、古墳時代終末期から奈良時代にかけて竪穴建物35軒、掘立柱建物3棟を検出した。図400のとおり、竪穴建物や掘立柱建物の多くは傾斜地に平坦面を造成して建てられている。7世紀後葉の掘立柱建物と竪穴建物では、規模が最も大きいSI18は建物群の東部に位置し、掘立柱建物や規模の小さい竪穴建物はその西側や南西側に建てられている。8世紀前葉になると、規模が最も大きいSI26はSI18よりも斜面下方のやや傾斜が緩やかになった場所に位置し、他の竪穴建物はその背後となる斜面の平坦面に建てられている。大型竪穴建物が、建物群の奥に位置する時期から、前面に位置する変化を集落の性格の変化、すなわち宗教的な性格を帯びてきたことと関連させて考えることはできないであろうか。その後10世紀後半には、SI26の位置に仏堂と考えられる礎石建物が造られており、この遺跡の性格を示唆する可能性を考えたい。なお、竪穴建物に付属するカマドの位置は、北壁若しくは東壁に作られるものが多いが、7世紀後葉のものでは北壁と東壁では大きな差がないが、8世紀前葉になると北壁が多くなる傾向がある。

当該地域では、野内遺跡B地区で弥生時代終末期から古墳時代初頭の竪穴建物12軒と土坑3基を確認している。竪穴建物12軒は遺構の重複が認められるため、同時期に存在した竪穴建物は2軒程度であり、小規模な集落跡と考えられる。古墳時代中期になると、野内遺跡A地区<sup>7)</sup>の竪穴建物54軒を確認しており、この時期に大規模な集落が形成されたと考えられる。古墳時代後期になると、野内遺跡B地区竪穴建物4軒やウバガ平遺跡竪穴建物9軒確認されている。当遺跡の古代の集落は、この後の時期に営まれたと考えられる。斜面に平坦面を造成して集落を営み、突出した規模の竪穴建物を中心とした建物群の存在は、有力者の出現した可能性が考えられる。当該地域で窯業生産の開始される時期であることから、農業などの生業も含め、今後の調査によって当該期の様相を明らかにされることが期待される。

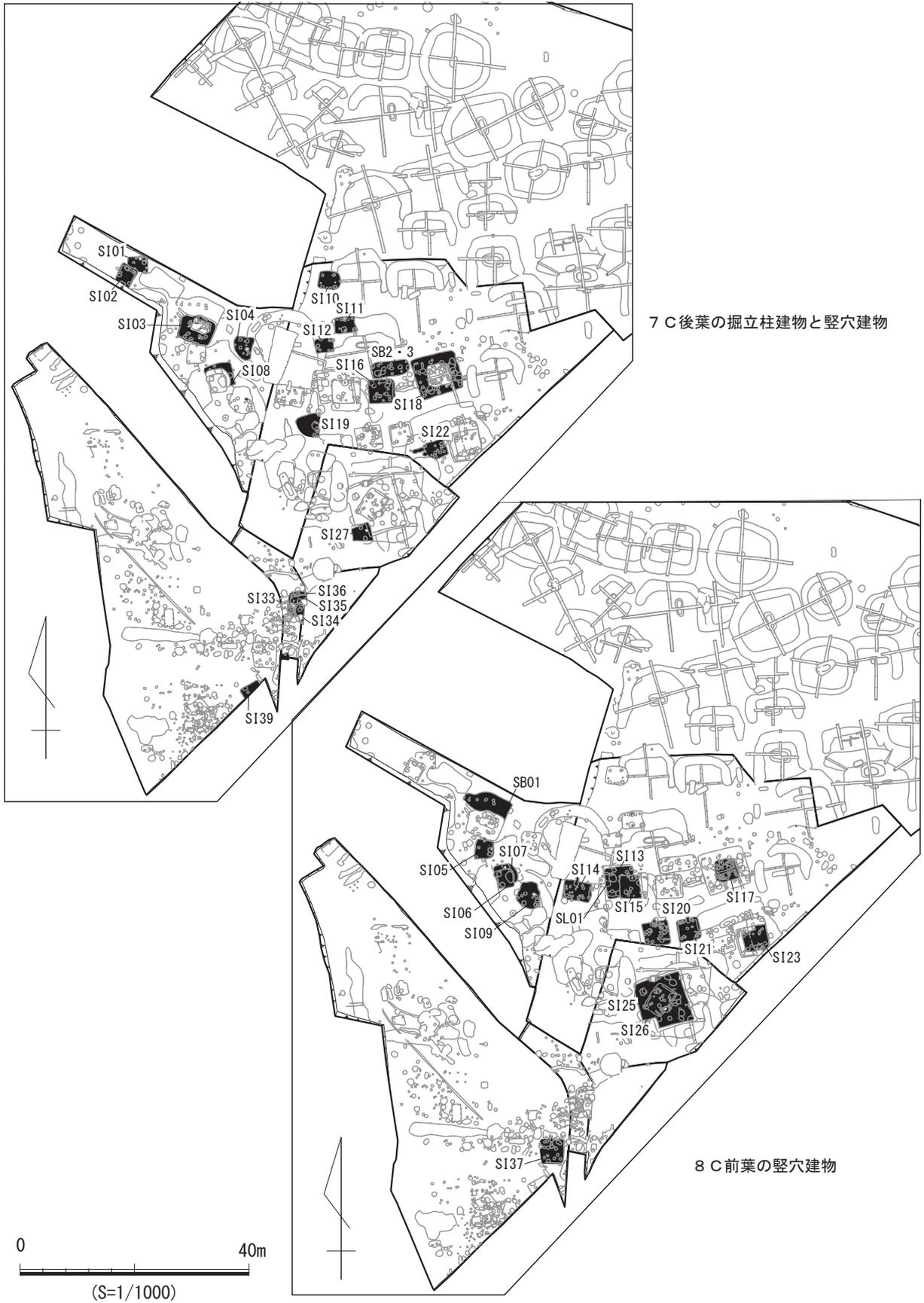


図 400 古代の竪穴建物



## 参考・引用文献

- 赤塚次郎 2005 「東海地域の方形周溝墓」 『方形周溝墓研究の今』、雄山閣
- 池野正男 2013 「越中古代後半の土師器食器」 『富山考古学研究』 (紀要第 16 号)、公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 岩田崇・大石崇史 2003 「飛騨の縄文住居」 『関西縄文時代の集落・墓地と生業』 関西縄文論集 1、関西縄文文化研究会編、有限会社六一書房
- 牛丸岳彦 2016 「飛騨の古墳時代」 『高山市史』 先史時代から古代編 (下) 高山市教育委員会
- 恩田知美 2004 「美濃地方における弥生時代後期から古墳時代初頭の土器様相」 『美濃の考古学』 (第 7 号) 美濃の考古学刊行会
- 金田善敬 2017 「七 鉄釘の技術」 『モノと技術の古代史 金属編』、吉川弘文館
- 北野興策 2000 「第三章第 1 節 神社と祭礼」 『上枝村史』、上枝村史編纂委員会
- 岐阜県文化財保護センター 2010 『ウバガ平遺跡・ウバガ平古墳群』 (岐阜県文化財保護センター調査報告書第 112 集)
- 岐阜県文化財保護センター 2011 『三枝城跡』 (岐阜県文化財保護センター調査報告書第 116 集)
- 岐阜県文化財保護センター 2012 『野内遺跡 C 地区』 (岐阜県文化財保護センター調査報告書第 122 集)
- 岐阜県文化財保護センター 2015 『随縁時裏 B 地点遺跡』 (岐阜県文化財保護センター調査報告書第 134 集)
- 岐阜県文化財保護センター 2017 『平成 29 年度中切上野遺跡現地見学会資料』
- 岐阜県文化財保護センター 2018 『平成 30 年度中切上野遺跡現地見学会資料』
- 岐阜県文化財保護センター 2019 『令和元年度中切上野 1 号古墳現地見学会資料』
- 久保智康 1999 「和鏡の成立」 『中・近世の鏡』、至文堂
- 久保智康 2001 「国府をめぐる山林寺院の展開ー越前・加賀の場合ー」 『国宝と歴史の旅 3 神護寺薬師如来の世界』、朝日新聞社
- 久保智康編 2016 『日本の古代山寺』、高志書院
- 国府町教育委員会 1995 『南垣内遺跡』
- 国府町史刊行委員会 2007 『国府町史』 考古・指定文化財編
- 後藤健一 2007 「IV 発見された建物跡」 『日本の遺跡 22 大知波峠廃寺跡 三河・遠江の古代山林寺院』、同成社
- 近藤義郎 1977 「古墳以前の墳丘墓」 『岡山大学法文学部学術紀要』 37 (近藤義郎 1985 『日本考古学研究序説』 岩波書店に再録)
- 斎宮歴史博物館 2001 『斎宮跡発掘調査報告 I 内院地区の調査 本文編』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2002 『富田清友遺跡』 (岐阜県文化財保護センター調査報告書第 72 集)
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006 『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平 5 号古墳』 (岐阜県文化財保護センター調査報告書 第 98 集)
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2007 『野内遺跡 A 地区』 (岐阜県文化財保護センター調査報告書第 102 集)

- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『中野大洞平遺跡Ⅱ』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第107集）
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『赤保木遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第105集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2009『野内遺跡B地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第111集）
- 島本洗一 2012『地図でみる東日本の古代』、平凡社
- 高野陽子 2013「弥生墳丘墓」『墓の考古学』、吉川弘文館
- 高橋浩二 2005「北陸の弥生墳墓から古墳へ」『季刊考古学』第92号、雄山閣
- 高橋浩二 2009「葬送と儀礼 北陸における弥生墓制」『中部の弥生時代研究』、中部の弥生時代研究刊行委員会
- 高山市教育委員会 1978『ツルネ遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 1999『中切上野遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 2003『三仏寺廃寺発掘調査報告書』（高山市埋蔵文化財調査報告書第27号）
- 高山市教育委員会 2005『高山市内遺跡発掘調査報告書』（高山市埋蔵文化財調査報告書第28号）
- 田代克己 1987「方形周溝墓」『弥生時代の研究』第8巻（祭と墓と装い）、雄山閣
- 立花実 2005「弥生墓制研究の新展開」『季刊考古学』第92号、雄山閣
- 田中秀明 2005「方形台状墓」『三重県史 資料編 考古1』、三重県
- 都出比呂志 1986「墳墓」『岩波講座 日本考古学』4（集落と祭祀）、岩波書店
- 中川あや 2010「瑞花双鳥八稜鏡の出現」『遠古登攀 遠山昭登君追悼考古学論集』、真陽社
- 長久智子 2010「9世紀における瑞花双鳥門八稜鏡の初源形式」『愛知県陶磁資料館研究紀要』15、愛知県陶磁資料館
- 馬場伸一郎 2016「弥生時代」『高山市史 先史時代から古代編（下）』、高山市
- 早野壽人 2003「金ヶ崎遺跡における方形周溝墓の墳丘構築について」『金ヶ崎遺跡・青木横穴墓』財団法人岐阜県文化財保護センター
- 原秋芳 2014「塩尻市野辺沢出土の毛抜形太刀と瑞花双鳥八稜鏡をめぐって」『長野県立歴史館研究紀要』20号、長野県立歴史館
- 飛騨市教育委員会 2016『上町遺跡第28～33・37次』
- 藤井整 2004「近畿地域からみた丹後・但馬の特質」『台状墓の世界』、両丹考古学研究会・但馬考古学研究会
- 藤田憲司 1987「方形台状墓」『弥生時代の研究』第8巻（祭と墓と装い）、雄山閣
- 藤本健三 2007「第5章第4節奈良時代から平安時代までの集落」『国府町史 考古・指定文化財編』、国府町史刊行委員会
- 古川町教育委員会 1991『上町遺跡D地点発掘調査報告書』
- 古屋紀之 2005「弥生墳墓の土器配置にみる祭祀」『季刊考古学』第92号、雄山閣
- 前田清彦 2004「若狭・越前の弥生墳墓」『台状墓の世界』、両丹考古学研究会・但馬考古学研究会
- 三重県埋蔵文化財センター1998『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告

Ⅳ 鴻ノ木遺跡（下層編）』（三重県埋蔵文化財調査報告 123-4 下）

三重県埋蔵文化財センター2016『中野山遺跡（第2・3・6・7次）発掘調査報告—四日市市北山町—』

（三重県埋蔵文化財調査報告 186-8）

森郁夫「二 資料に見る地鎮供養」『日本古代寺院造営の研究』、法政大学出版局

森隆 2006「富山県における古代末・中世の回転台土師器（資料編）」『富山考古学研究—紀要第9号—』、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

森岡秀人 2013「弥生の墓」『墓の考古学』、吉川弘文館

山岸常人 2001「国府をめぐる山林寺院の展開—越前・加賀の場合—」『国宝と歴史の旅2 仏堂の空間と儀式』、朝日新聞社





上切寺尾古墳群・日焼遺跡調査前遠景（南から）



上切寺尾古墳群D地点調査前近景（南から）

図版2 発掘区遠景(1)、全景(1)



上切寺尾古墳群A地点遠景(南西から)



上切寺尾古墳群A地点全景(南西から)



上切寺尾古墳群B地点・日焼遺跡C地点全景(南東から)



上切寺尾古墳群C地点全景(南東から)

図版4 発掘区遠景(2)、全景(3)



上切寺尾古墳群D地点遠景(南から)



上切寺尾古墳群D地点全景(南が上)



日焼遺跡A地点遠景(南西から)



日焼遺跡A地点全景(南西が上)

図版6 発掘区近景(1)



日焼遺跡A地点東側(北東が上)



日焼遺跡A地点北東側SI39付近(北が上)



日焼遺跡B地点全景(北が上)



日焼遺跡C地点南部(東が上)



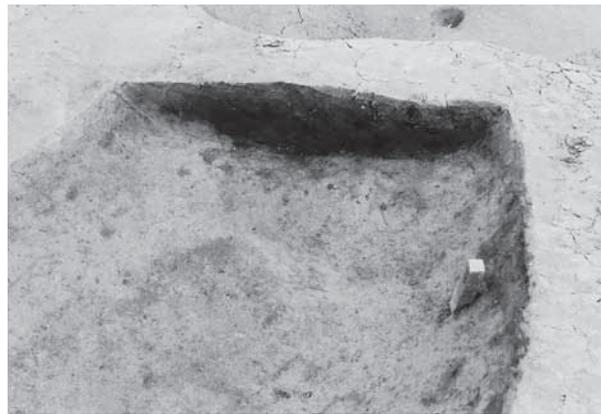
SZ01西半（東から）



SZ01東半（南東から）



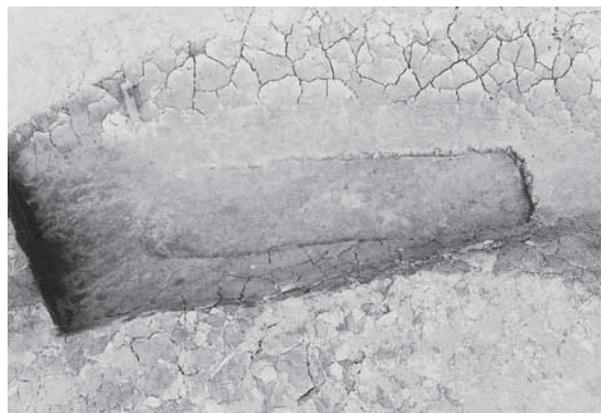
SZ01主体部（東から）



SZ01周溝土層断面（北から）



SZ01周溝内土坑1（南東から）



SZ01周溝内土坑2（南から）



SZ02東半（東から）



SZ02周溝土層断面（東から）



SZ03 (南から)



SZ03周溝土層断面 (南から)



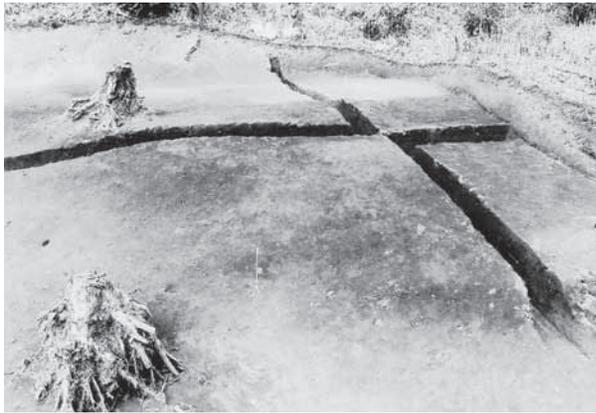
SZ04 (南から)



SZ04主体部 1 (南から)



SZ04主体部 2 (南西から)



SZ05 (南西から)



SZ05主体部 (西から)



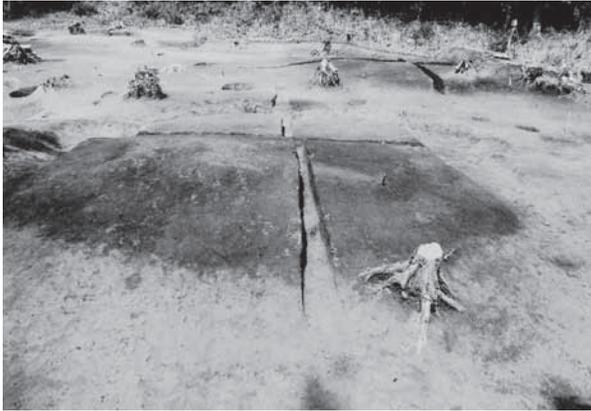
SZ06 (北から)



SZ06主体部 (北から)



SZ06周溝遺物(16)出土状況 (北西から)



SZ07 (南から)



SZ07主体部 (東から)



SZ12 (西から)



SZ12墳丘土層断面 (南西から)



SZ13 (北から)



SZ13主体部 (南から)



SZ13土層断面 (東から)



SZ13周溝遺物(40, 41)出土状況 (東から)



SZ14 (東から)



SZ14墳丘土層断面 (南東から)



SZ15 (北東から)



SZ15主体部 (北から)



SZ16 (南から)



SZ16主体部 (南東から)



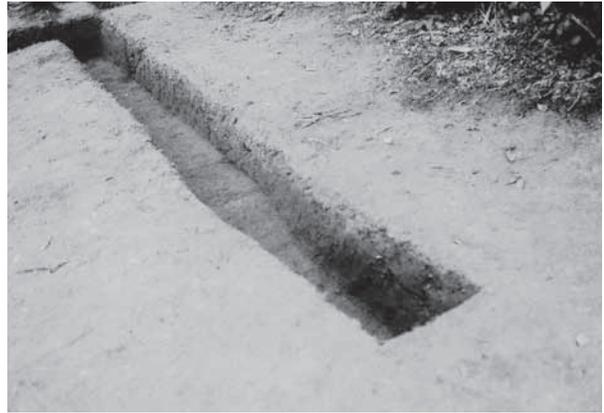
SZ17 (南から)



SZ17主体部 (南西から)



SZ18 (南から)



SZ18墳丘土層断面 (東から)



SZ19 (北から)



SZ19主体部 (西から)



SZ20 (南から)



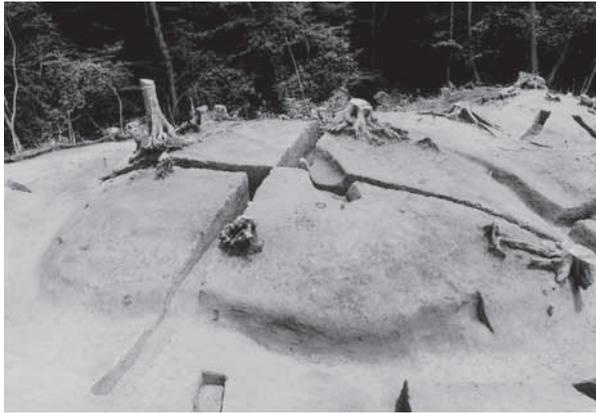
SZ20主体部 (南西から)



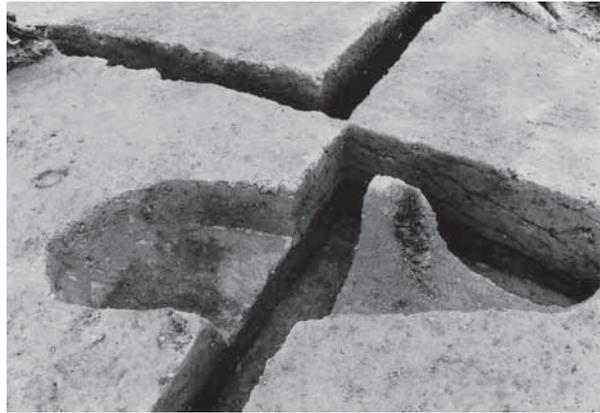
SZ21 (南から)



SZ21主体部 (南から)



SZ22 (西から)



SZ22主体部 (南から)



SZ23 (南東から)



SZ23 (東から)



SZ24 (北東から)



SZ24主体部 (北東から)



SZ24周溝遺物出土状況 (東から)



SZ24周溝遺物(64, 65, 68, 69, 71)出土状況 (北東から)



SZ25 (北西から)



SZ25墳丘土層断面 (南東から)



SZ26 (東から)



SZ26主体部 (東から)



SZ27 (南から)



SZ28 (東から)



SZ28主体部 1 (東から)



SZ28周溝遺物(79)出土状況 (北から)



SZ29 (北から)



SZ29主体部 (東から)



SZ30 (西から)



SZ31 (南から)



SZ32主体部 (東から)



SZ31主体部 (南から)



SZ33 (北西から)



SZ33主体部 (南東から)



SZ34 (北東から)



SZ34主体部 (南西から)



SZ35 (北から)



SZ35-P01 (北から)



SZ35周溝内土坑 (北から)



SZ35-P01炭化物検出状況 (北から)



SZ36 (西から)



SZ36主体部 (南東から)



SZ38 (南西から)



SZ38主体部 (南から)



SZ38周溝土層断面 (北から)



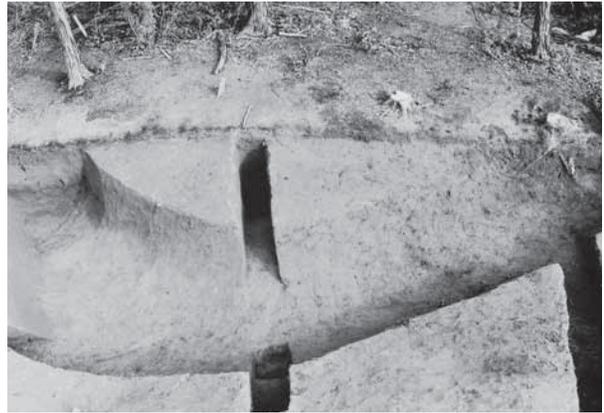
SZ38主体部遺物(94)出土状況 (南から)



SZ38周溝遺物(93)出土状況 (東から)



SZ37 (南から)



SZ39 (北から)



SZ40 (南から)



SZ40主体部 (南西から)



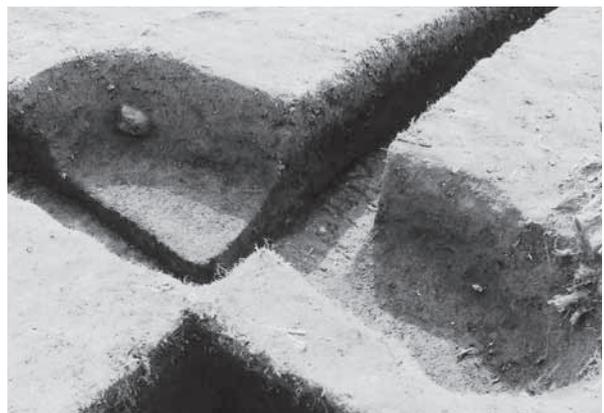
SZ41 (北から)



SZ41主体部 (北西から)



SZ42 (北西から)



SZ42主体部 (北西から)



SZ43 (南から)



SZ43主体部 (北東から)



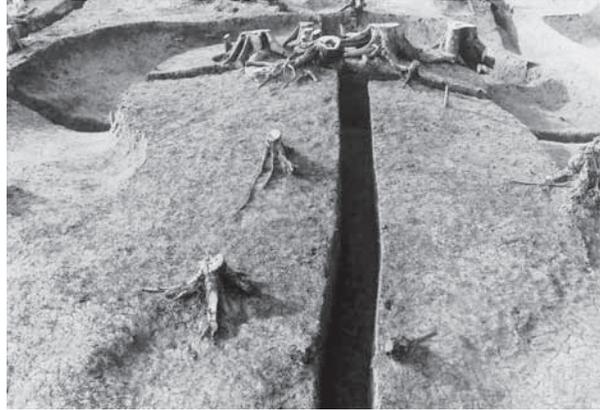
SZ44 (南から)



SZ44周溝内土坑 (南から)



SZ45 (南から)



SZ46 (南から)



SZ47 (南から)



SZ47主体部土層断面 (北から)



SZ48 (北から)



SZ48主体部 (南から)



SZ49 (南から)



SZ49周溝土層断面 (北から)



SZ50 (西から)



SZ50主体部 (南から)



SZ51 (南から)



SZ51主体部 (北西から)



SI31炭化材検出状況（西から）



SI31床面検出状況（西から）



SI31土層断面（南から）



SI31（西から）



SI31-炉土層断面（西から）



S138 (北西から)



S138土層断面 (南東から)



S138-炉 (南から)



S138-P01 (西から)



S138-P02 (東から)

図版 24 炉穴、土坑（1）



SL02（南から）



SL02煙道部（北から）



SL03土層断面（南から）



SL03（南西から）



SK111（西から）



SK357（南から）



SK360（南から）



SK371土層断面（南から）



SK371 (南から)



SK410土層断面 (東から)



SK444 (東から)



SK410 (東から)



SK574 (西から)



ST05 (南から)



ST06 (北から)



ST09 (西から)



SI01-カマド (南から)



SI02 (南から)



SI03 (南から)



SI02-カマド遺物(187, 188)出土状況 (南から)



SI03-カマド (東から)



SI04 (西から)



SI05 (西から)



SI04-カマド (西から)



S106 (南から)



S107 (南から)



S106-カマド (南から)



S107-カマド (南から)



S108 (南から)



SI08-カマド土層断面 (南から)



SI09 (西から)



SI09-カマド土層断面 (西から)



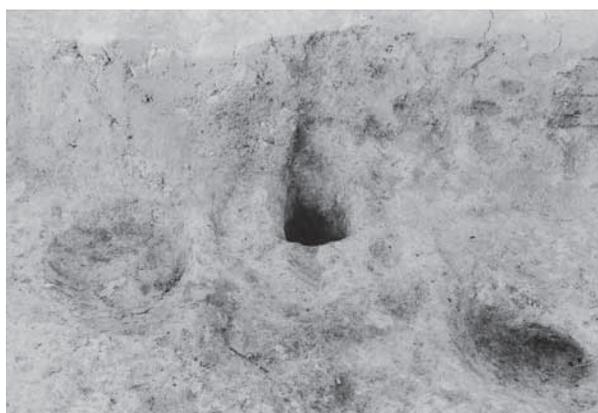
SI10床面検出状況 (南から)



SI10遺物(240)出土状況 (北西から)



SI11 (南から)



SI11-カマド (南から)



SI12-カマド (南西から)



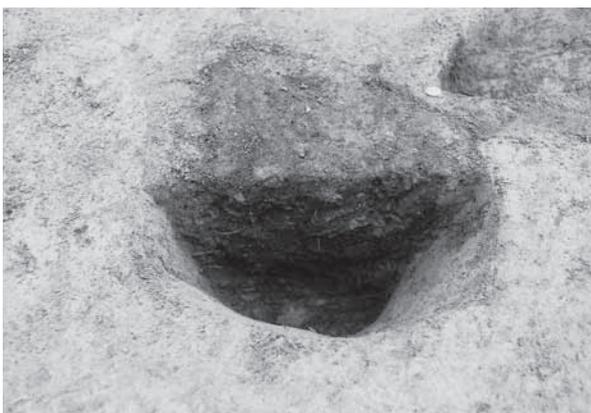
SI12 (南から)



SI13 (南から)



SI12-カマド検出状況 (南西から)



SI13-P02土層断面 (西から)



SI14-カマド完掘状況 (南から)



SI14 (南から)



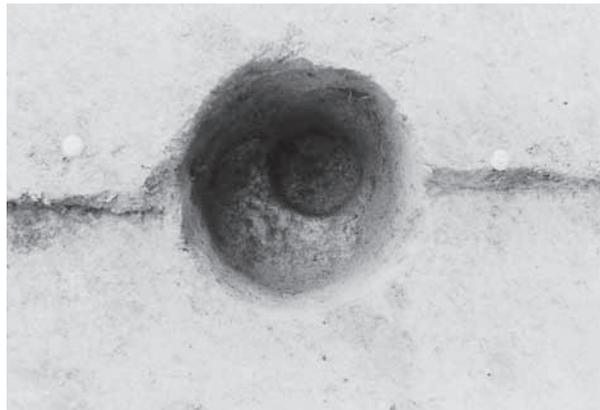
SI14-カマド (南から)



SI15完掘状況 (南から)



SI15-P09 (南から)



SI15-P12 (東から)



SI15 (南東から)



SI15-カマド (南から)



SI16床面検出状況 (南から)



SI16-P03 (南から)



SI16-P04 (南から)



SI16完掘状況（北から）



SI16-カマド（南から）



SI17床面検出状況（南東から）



SI17-カマド（南から）



SI17完掘状況（南から）



SI17遺物(286)出土状況(南から)



SI18-カマド(西から)



SI19(西から)



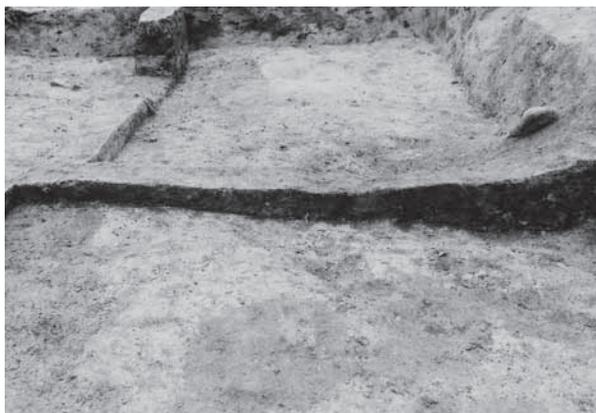
SI19-カマド(南西から)



SI20(南から)



SI20-カマド(南から)



SI20土層断面(東から)



SI21-カマド検出状況(南から)



SI21 (南から)



SI21-カマド (南から)



SI23-カマド (南から)



SI24 (南から)



SI25-P01 礫検出状況 (南から)



S125 (北から)



S125-カマド検出状況 (南から)



S126 (北から)



S126-カマド (北から)



S127 (西から)



S129 (南から)



S129-カマド土層断面 (南東から)



S129-P01土層断面 (東から)



S129-カマド (南から)



S129-P03土層断面 (東から)



S130-P01土層断面 (南から)



S130-P02土層断面 (南から)



S130-P03土層断面 (南から)



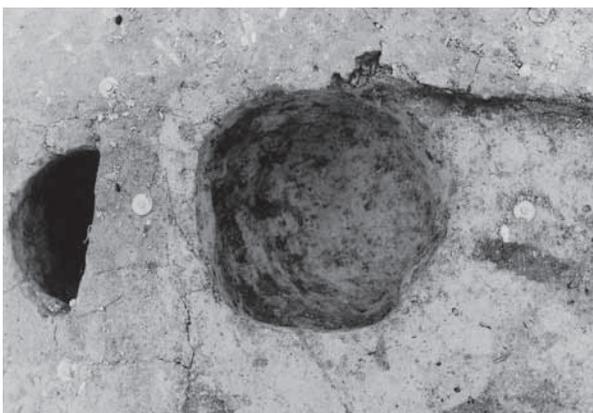
SI30 (北から)



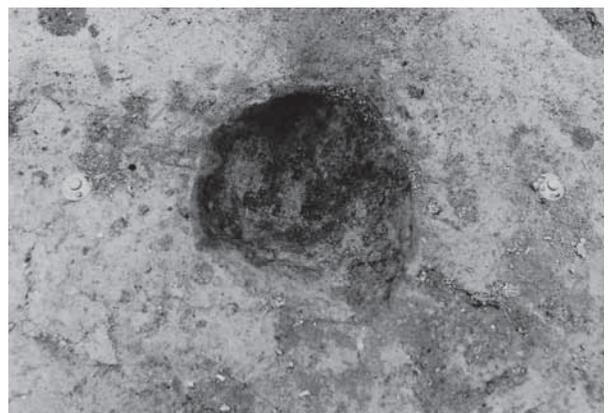
SI30-壁際溝土層断面 (南から)



SI33 (南から)



SI33-P01 (東から)



SI33-P02 (南から)



SI33-P03 (南から)



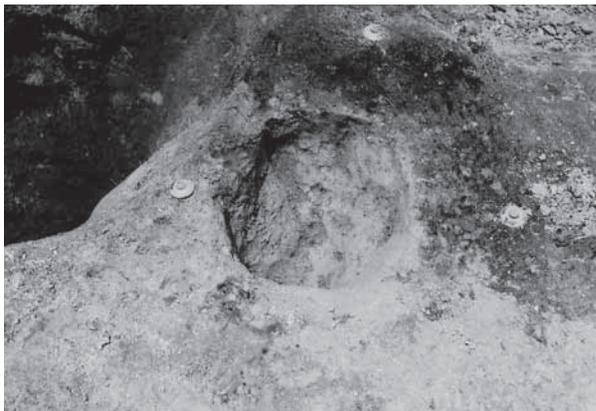
SI34 (南から)



SI34-カマド (南から)



SI35 (南から)



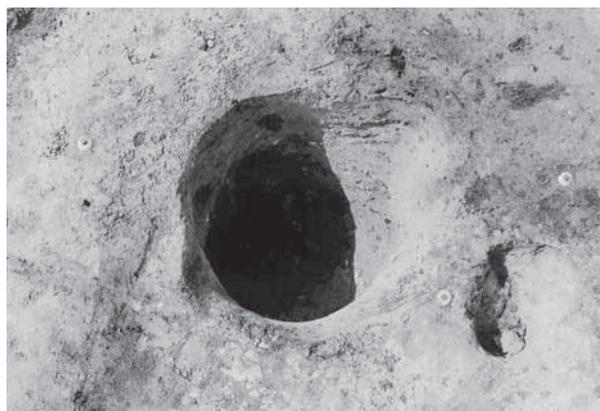
SI35-P01 (南から)



SI35-P02 (南から)



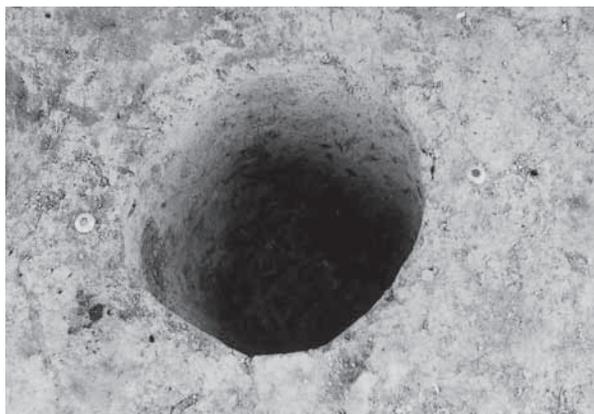
SI36 (南から)



SI36-P01 (南から)



S136-P02 (南から)



S136-P03 (東から)



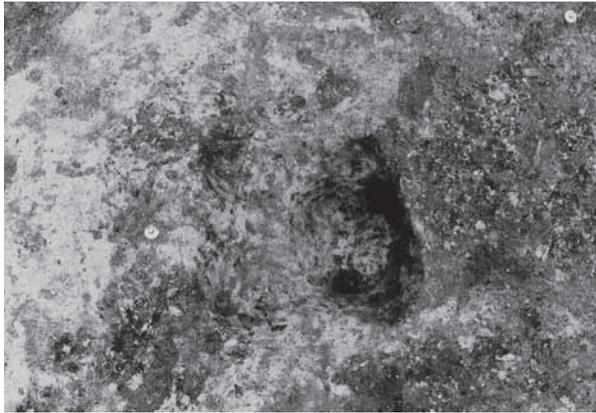
S137 (南から)



S137-カマド検出状況 (南から)



S137-カマド遺物(449)出土状況 (南から)



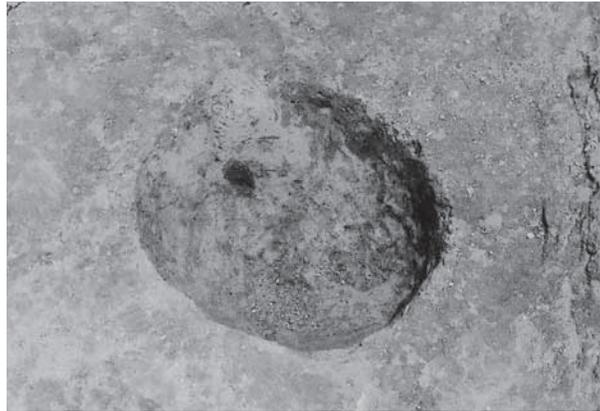
SI37-P01 (南から)



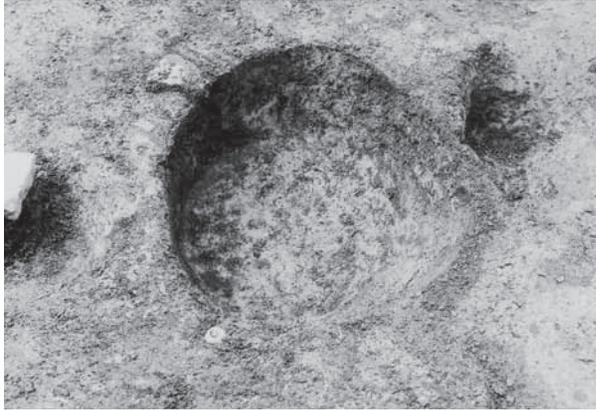
SI37-P02 (南から)



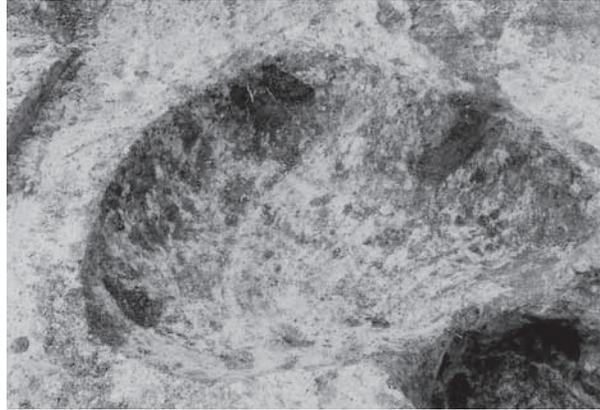
SI37-P03 (南から)



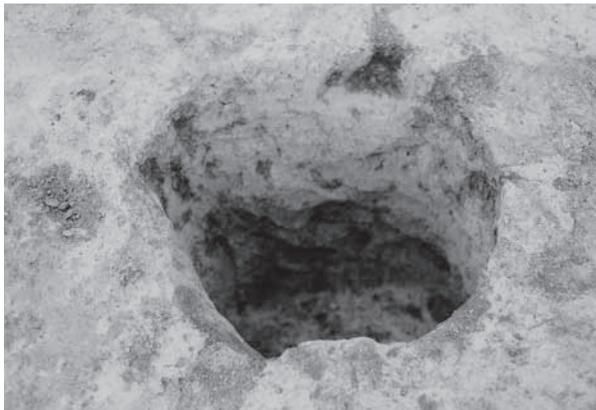
SI37-P04 (南から)



SI37-P05 (北から)



SI37-P06 (南から)



SI37-P07 (南から)



SI37-P08 (南から)



SI39 (西から)



SI39 焼土痕検出状況 (南から)



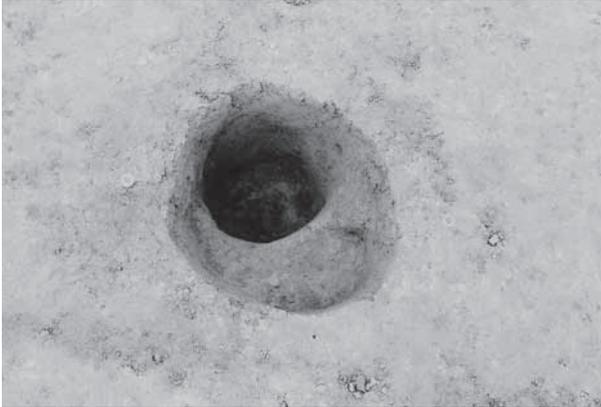
SI39遺物(466)出土状況 (南から)



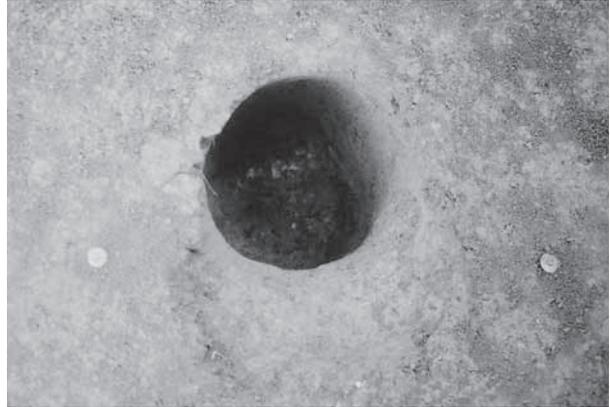
SI39-P01 (西から)



SB01-整地層土層断面 (西から)



SB01-P01 (南から)



SB01-P02 (南から)



SB01-P03土層断面 (南から)



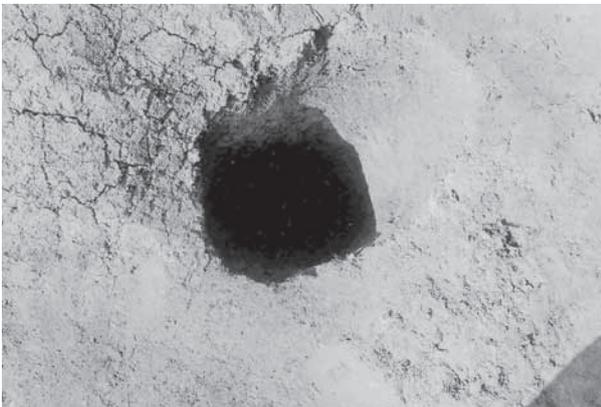
SB01-P03 (南から)



SB01-P04 (南から)



SB01-P05 (東から)



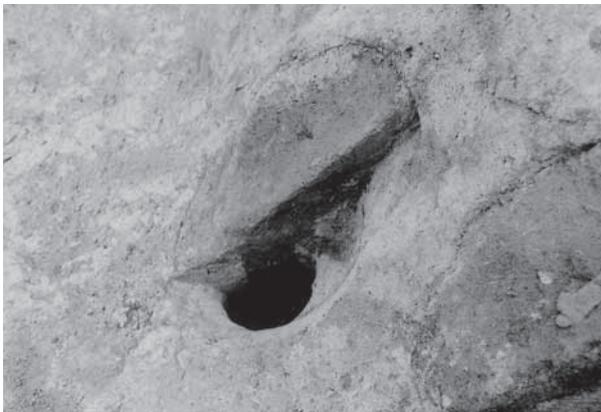
SB02-P01 (南から)



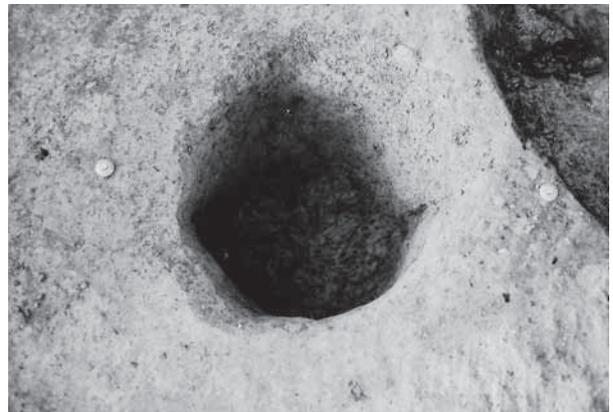
SB02-P02土層断面 (東から)



SB02・SB03 (南から)



SB02-P03土層断面 (東から)



SB02-P05 (南から)



SB03-P01土層断面 (南から)



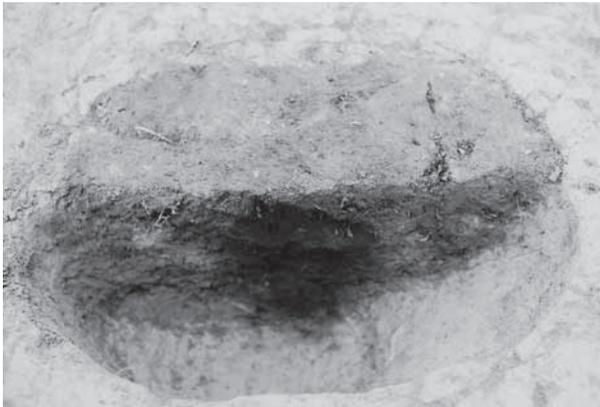
SB03-P05 (南から)



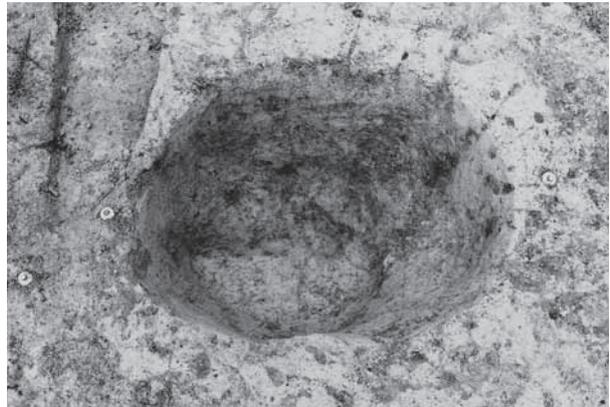
SB03-P02土層断面 (南から)



SB03-P02 (南から)



SB03-P03土層断面 (南から)



SB03-P03 (南から)



SB03-P04土層断面 (南から)



SB03-P04 (南から)



SB04調査前状況 (南から)



SB04-雨落溝 (東から)



SB04 (北から)



SK223鏡(492)出土状況 (東から)



SB04-P01礎石 (南から)



SB04-P02礎石 (南から)



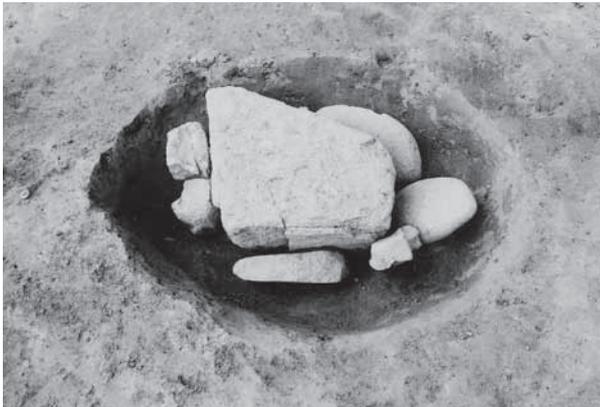
SB04-P03礎石 (南から)



SB04-P04礎石（南から）



SB04-P07礎石（南から）



SB04-P09礎石（南から）



SB04-P14礎石（南から）



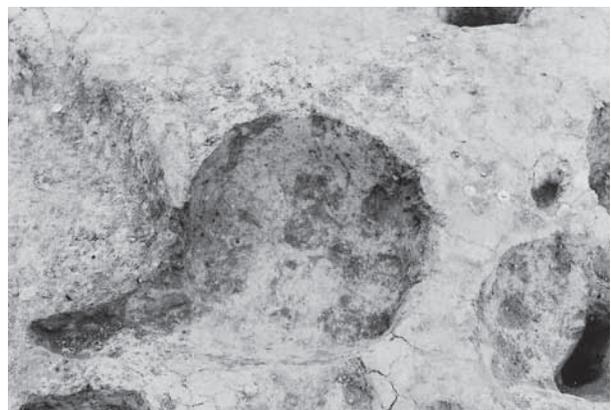
SB04-P17礎石（南から）



SB04-P20礎石（南から）



SB08-P01・P03（西から）



SB08-P02（南東から）



SB07 (東から)



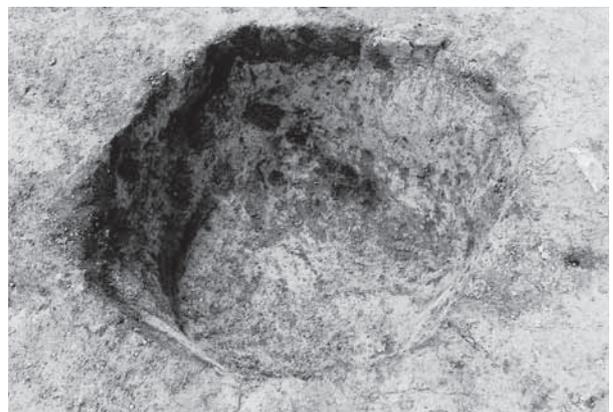
SB08-P04 (南から)



SB08-P06 (北から)



SB09-P01 (西から)



SB09-P02 (東から)



SB09-P03 (南から)



SB09-P05 (南から)



SB09-P06 (北から)



SB09-P07 (西から)



SB09-P08 (南から)



SB09-P09 (南から)



SB09-P10 (南から)



SB09-P11 (北から)



SB09-P12 (南から)



SB09-P13 (東から)



ST07 (南東から)



ST08 (南東から)



SK009土層断面 (東から)



SK064遺物出土状況 (西から)



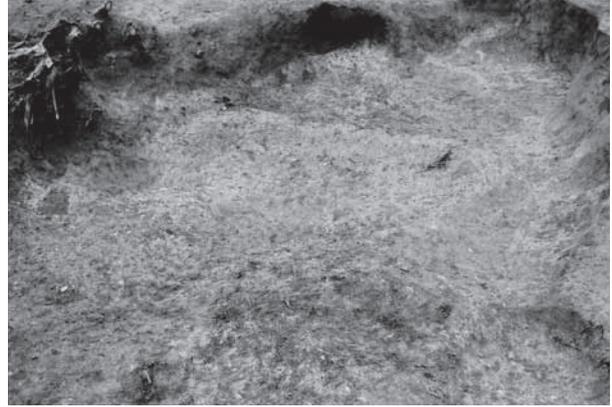
SK182礫検出状況 (南から)



SK183 (南から)



SK185 (南から)



SK186 (南から)



SK194礫検出状況 (西から)



SK200 (南から)



SK517遺物(793~819)出土状況 (南から)



SK598 (南西から)



SK658(左)・SK659(右) (南から)



SK659遺物(827, 828)出土状況 (南から)



38



40



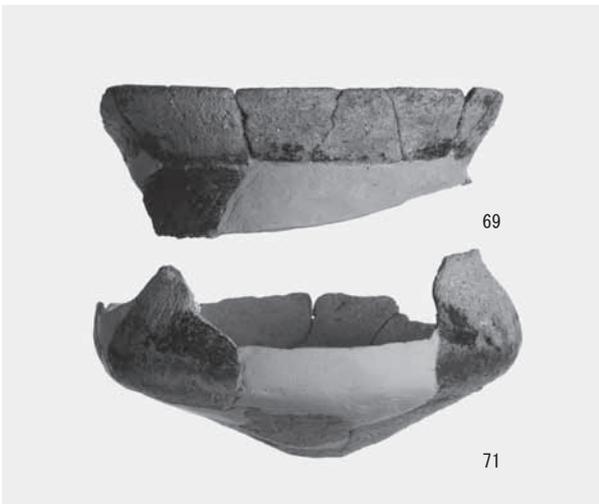
68

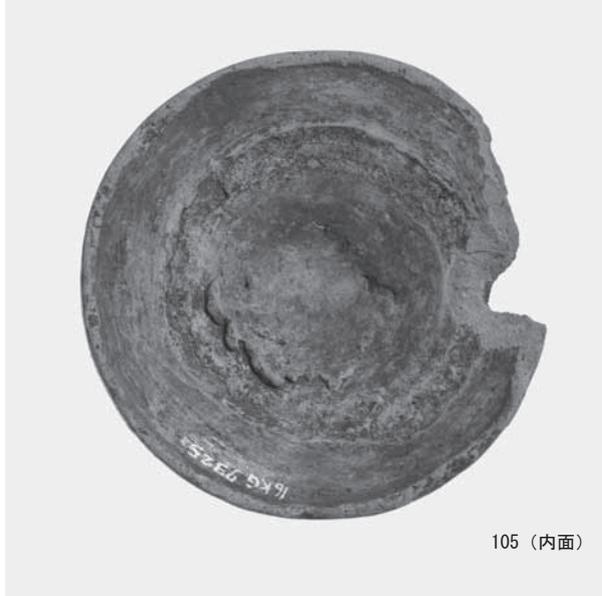


41

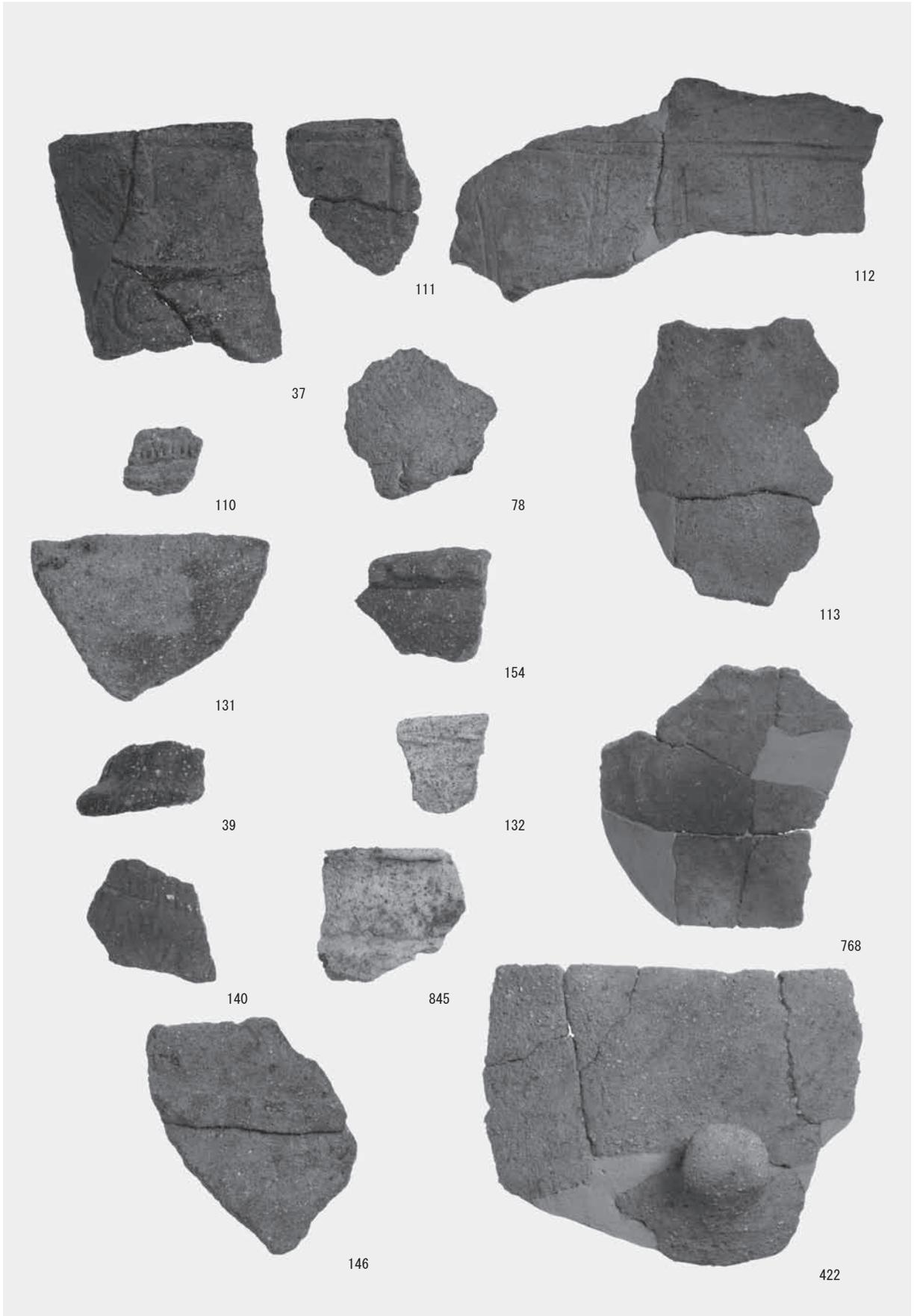


62

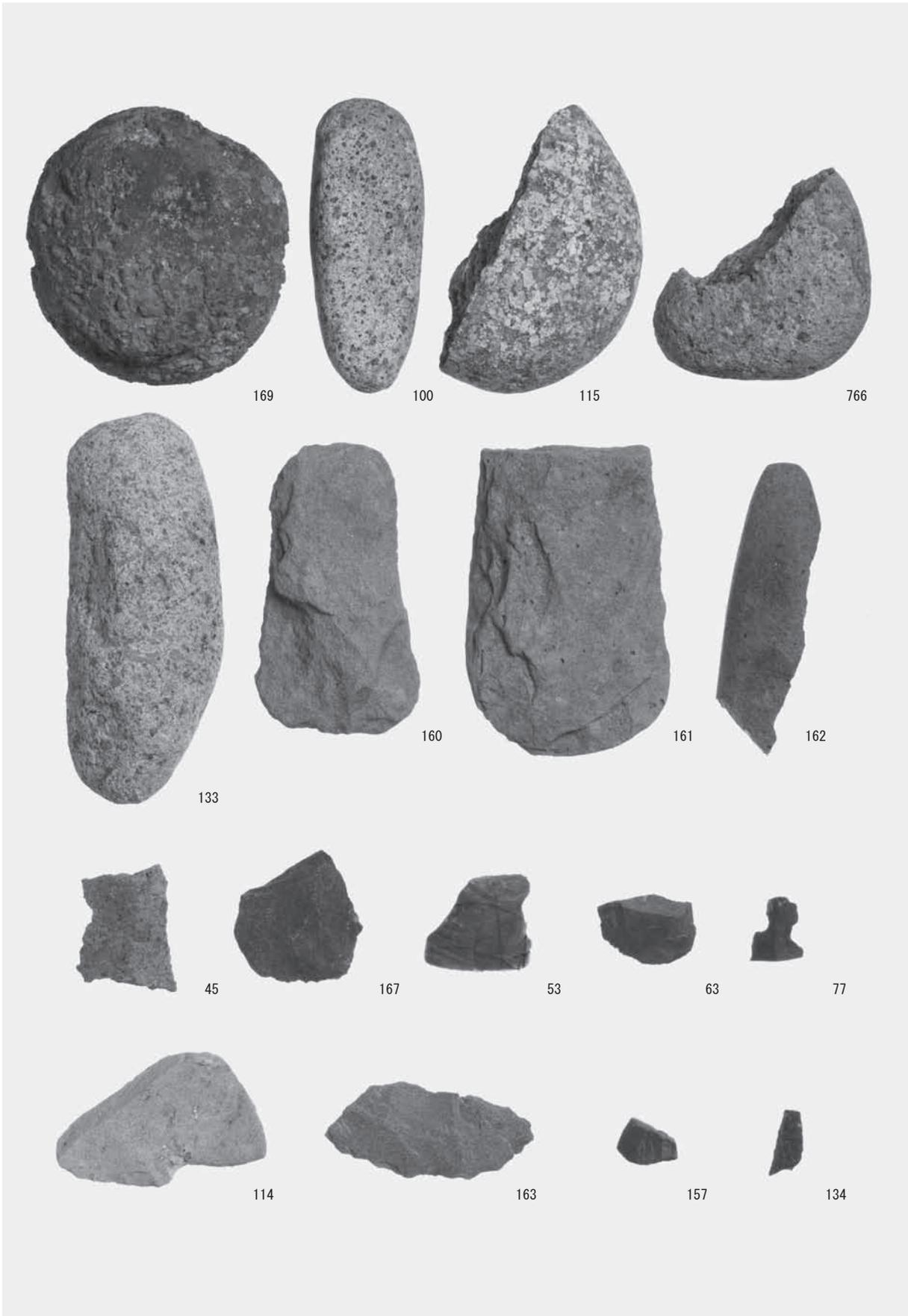




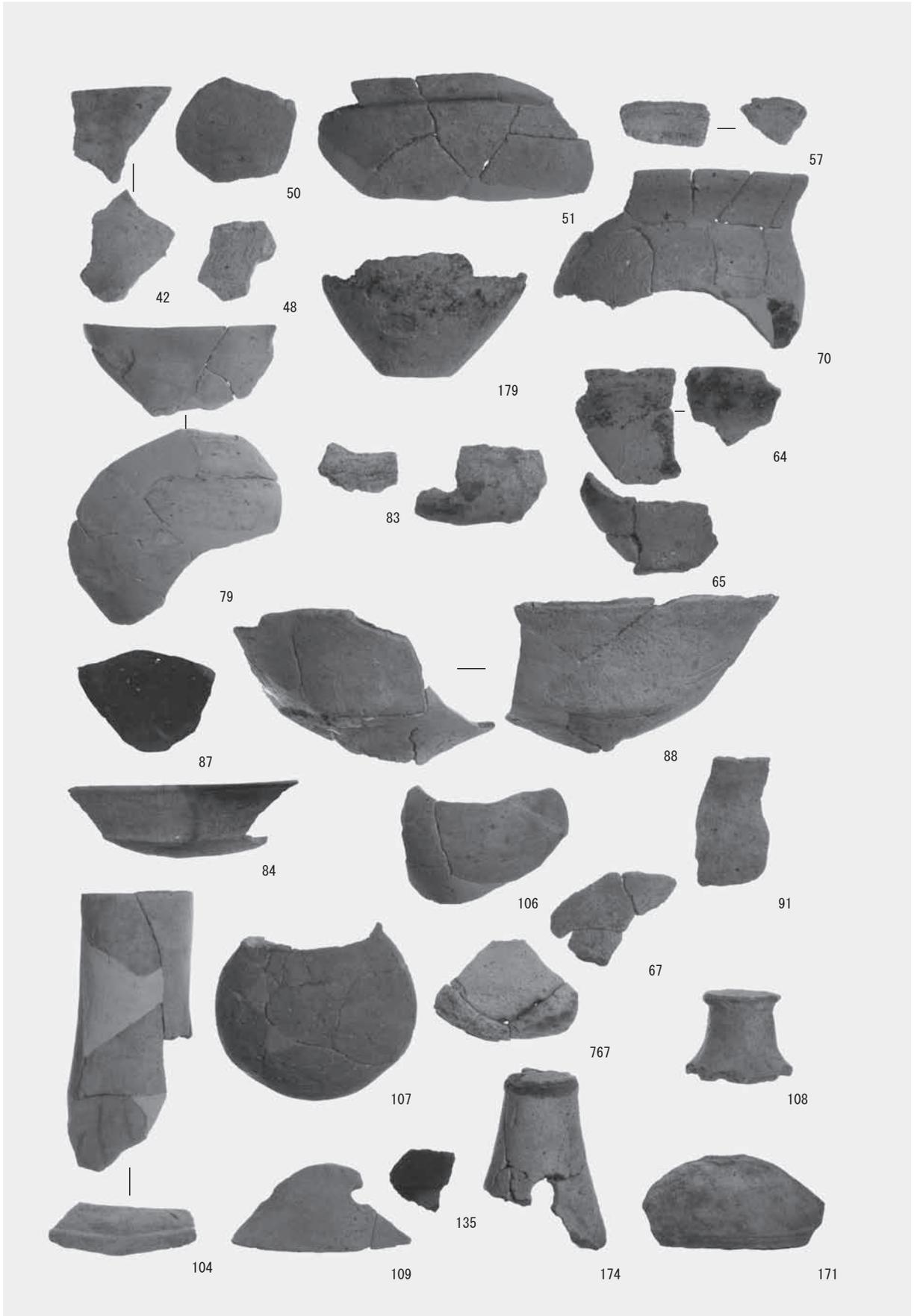




上切寺尾古墳群D地点出土遺物 (縄文土器・土師器)



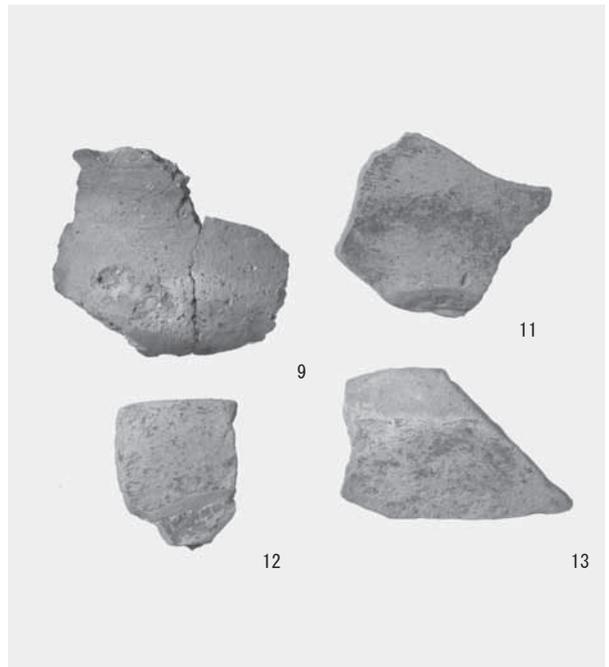
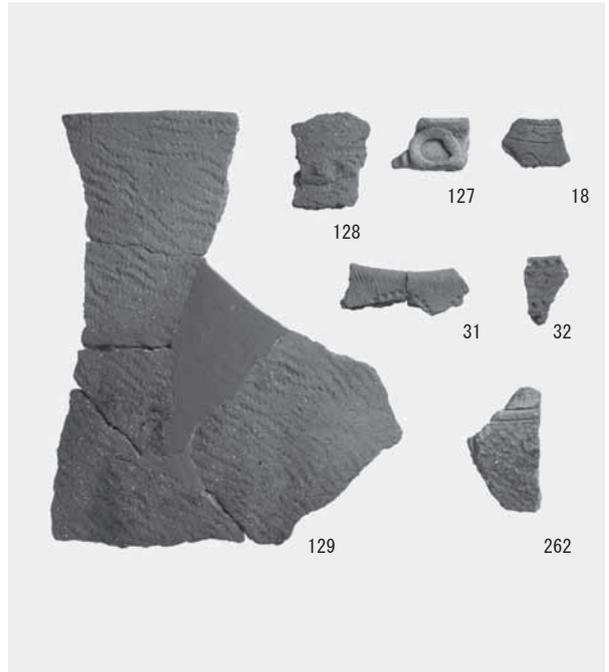
上切寺尾古墳群D地点出土遺物 (石器・石製品)



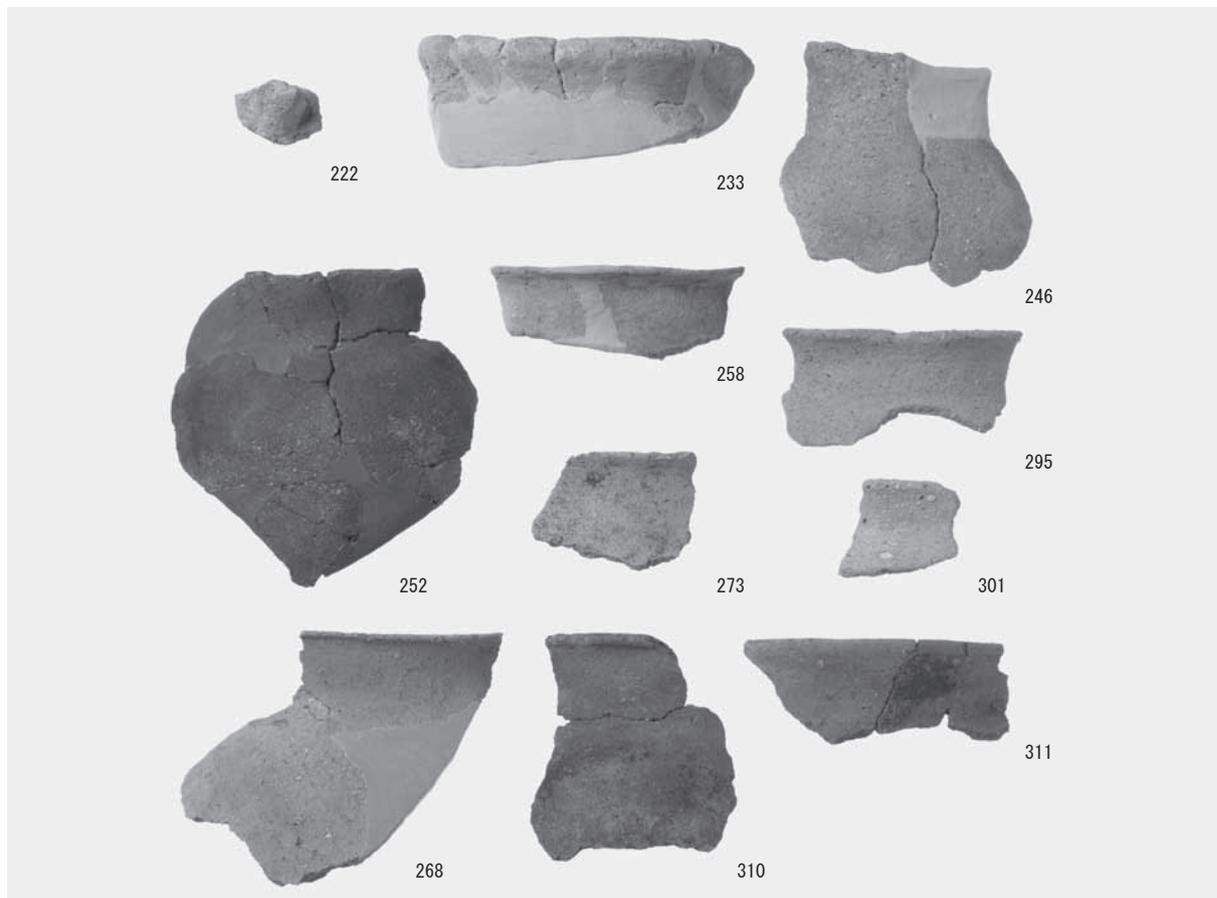
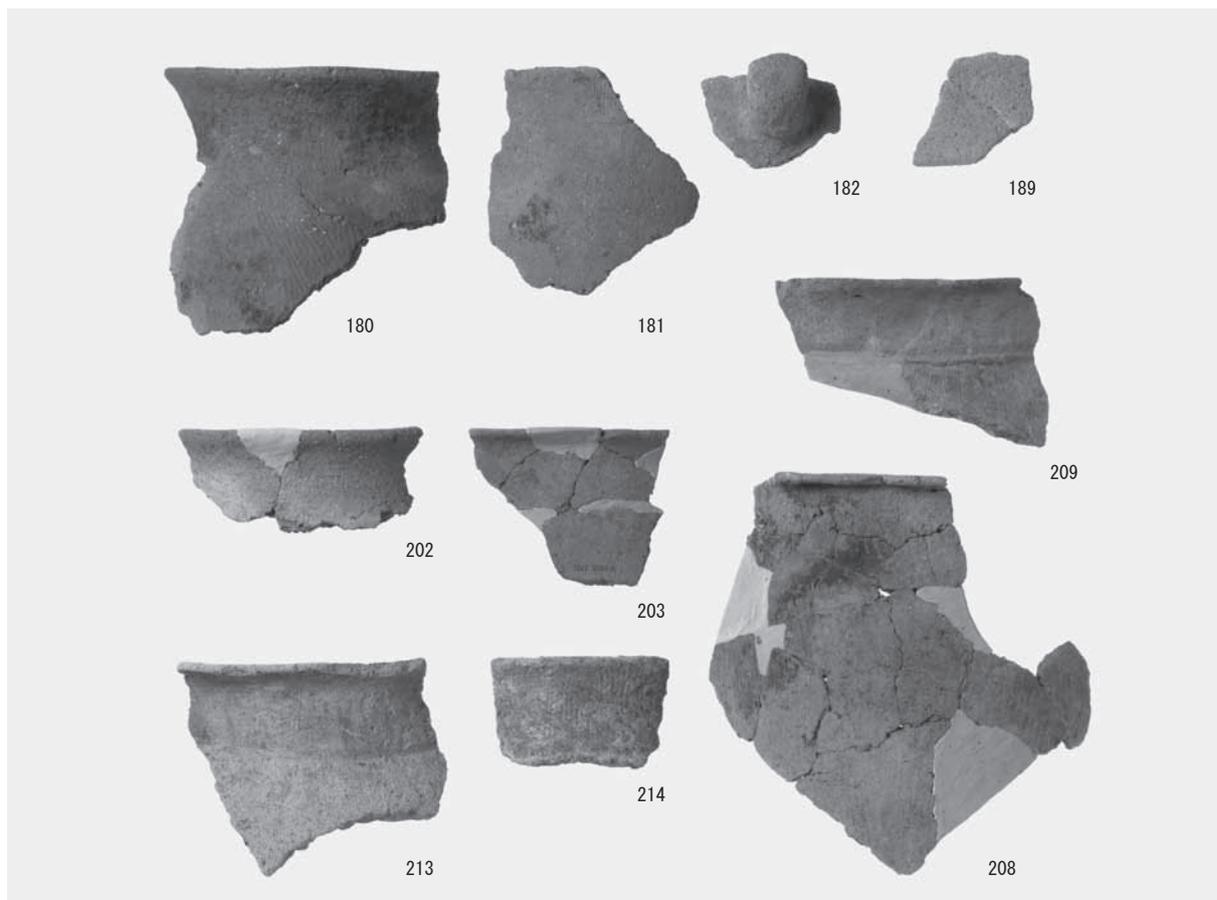
上切寺尾古墳群D地点出土遺物 (弥生土器)

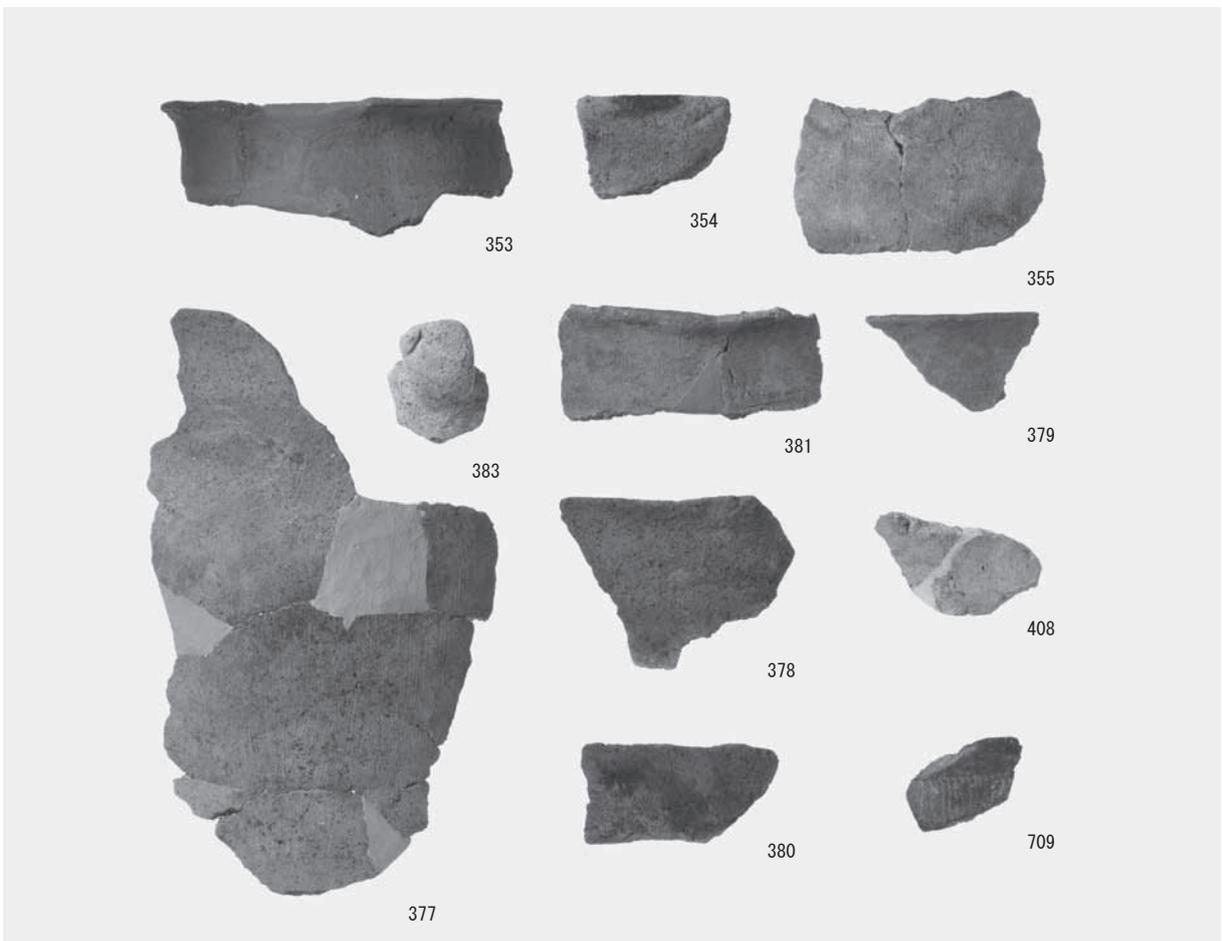
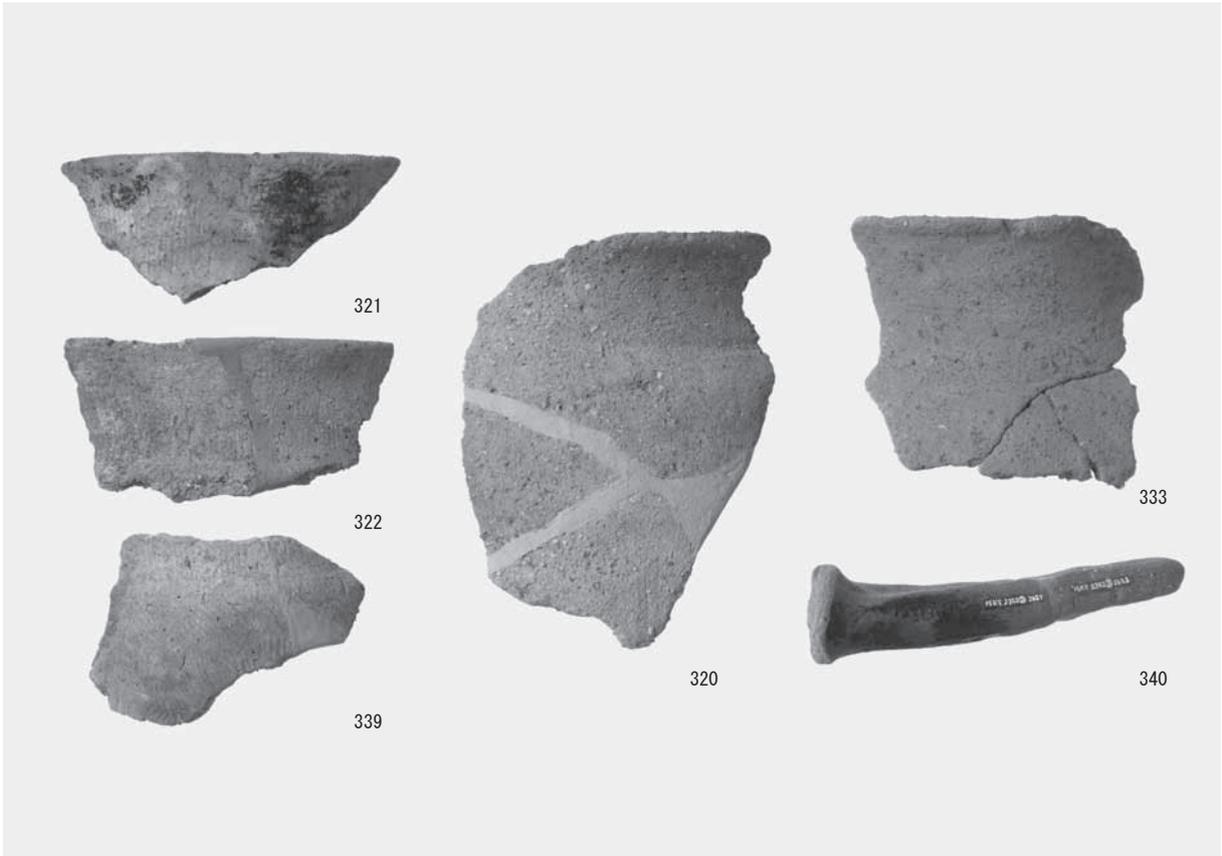


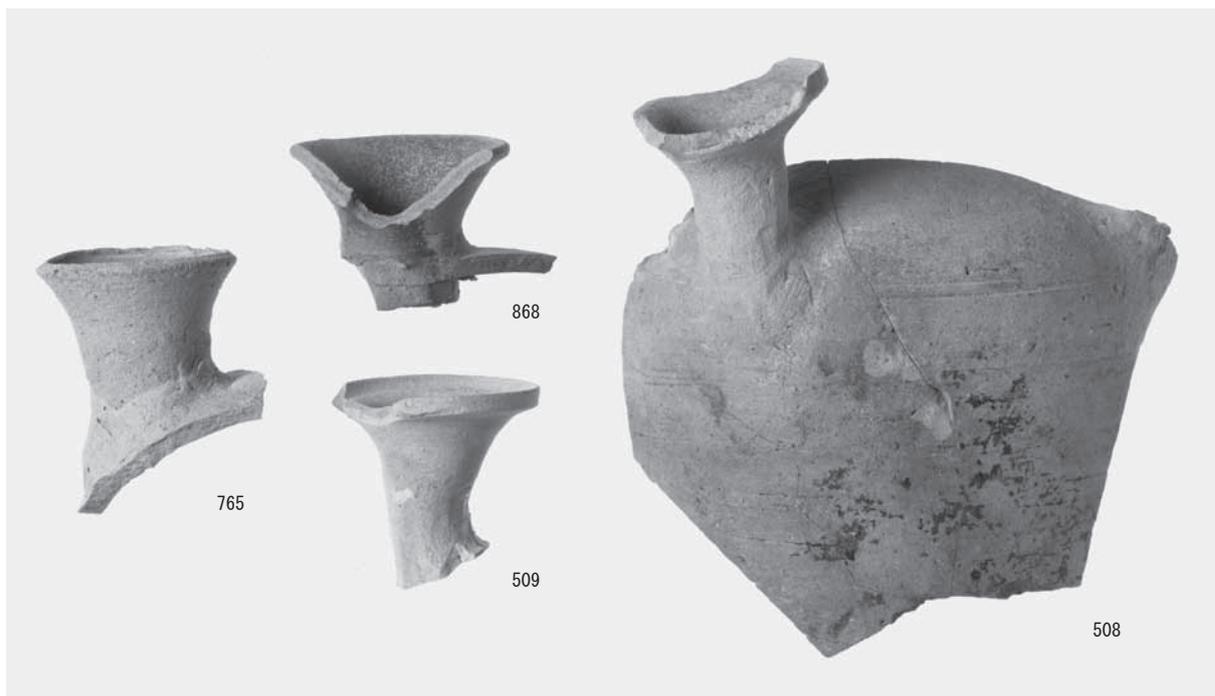
上切寺尾古墳群D地点出土遺物 (須恵器・灰釉陶器)

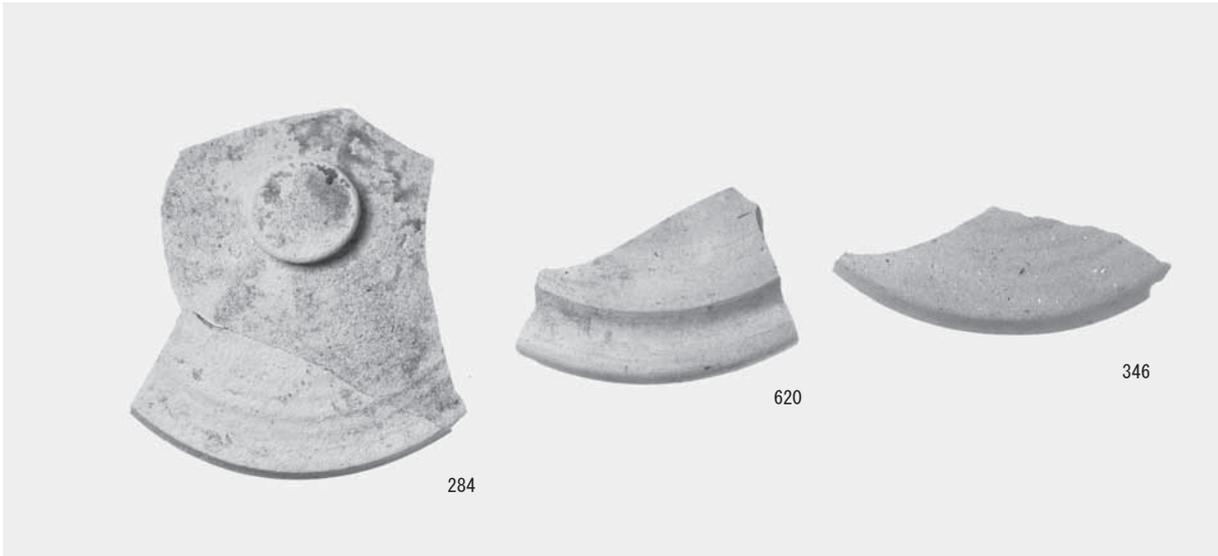






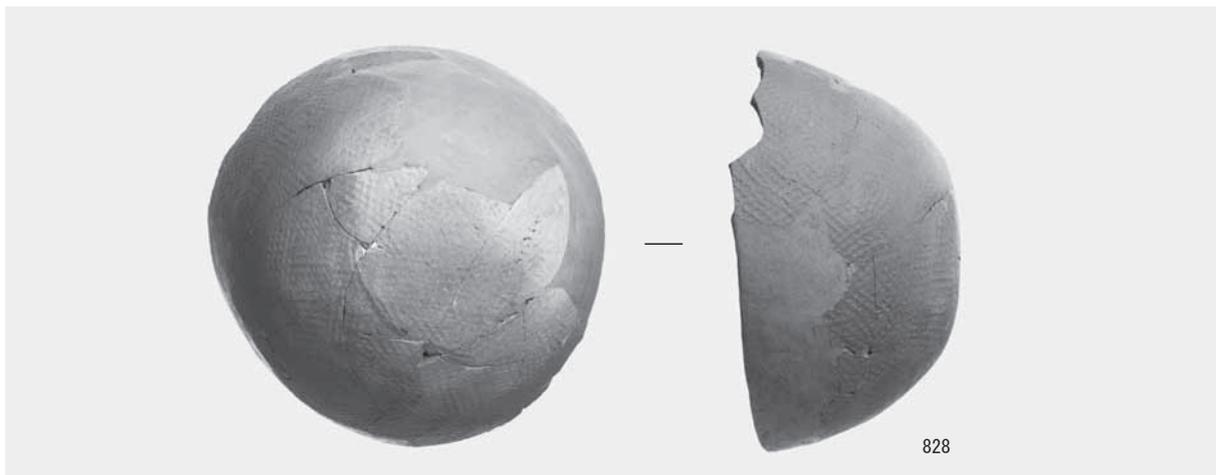




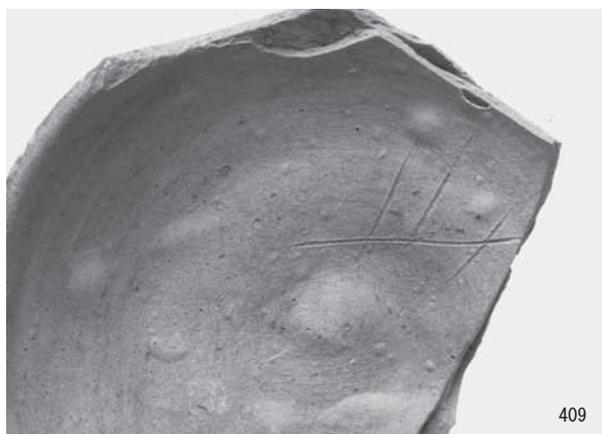




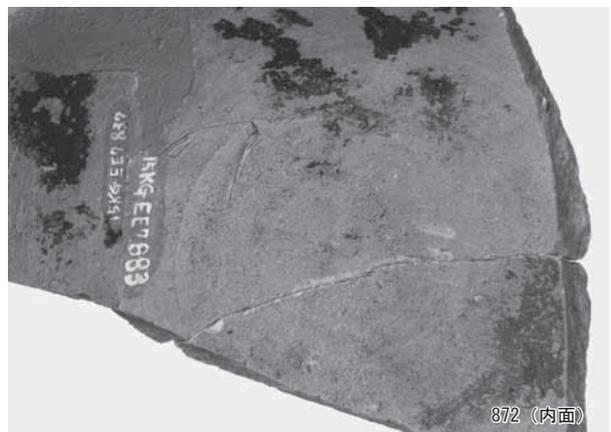




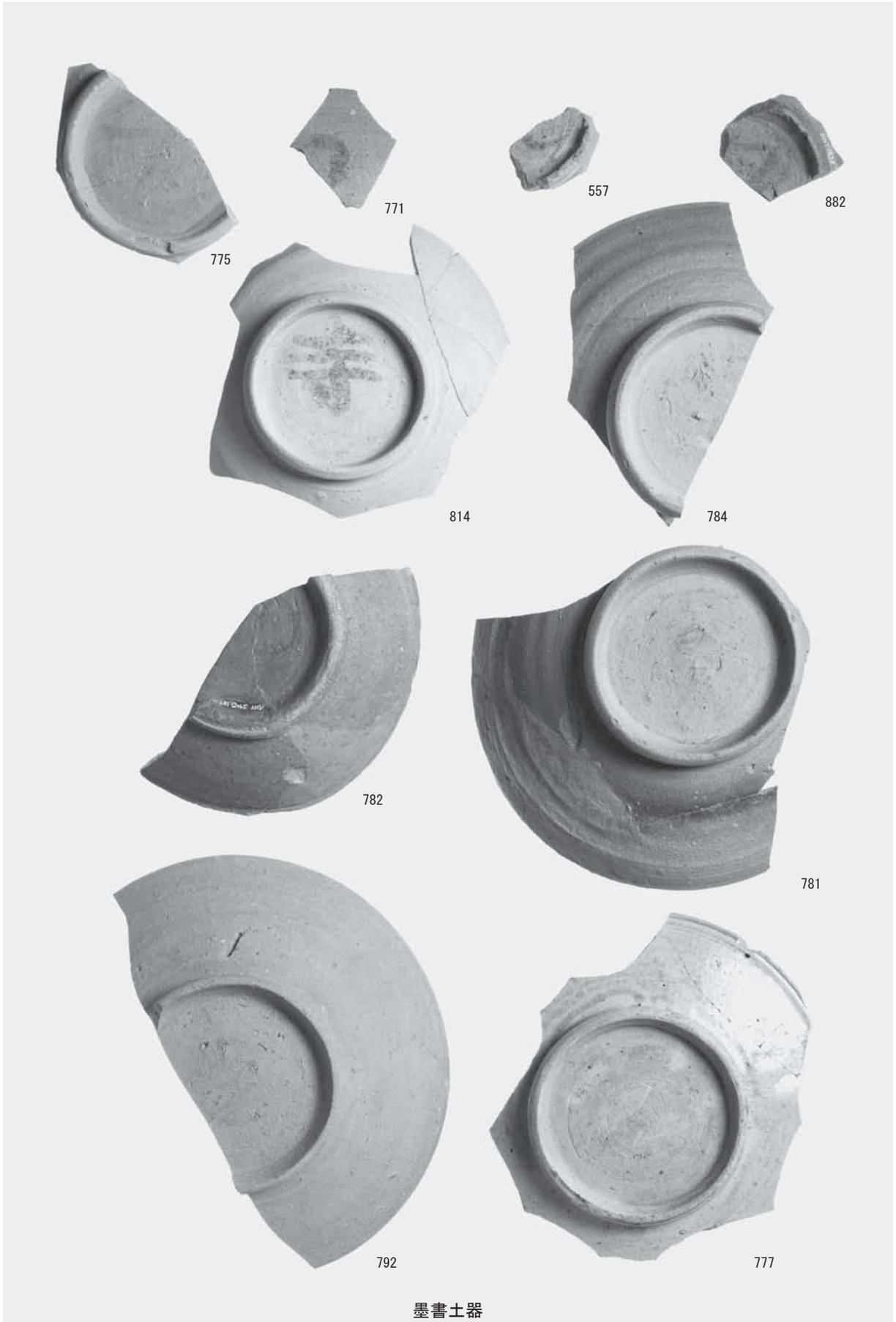


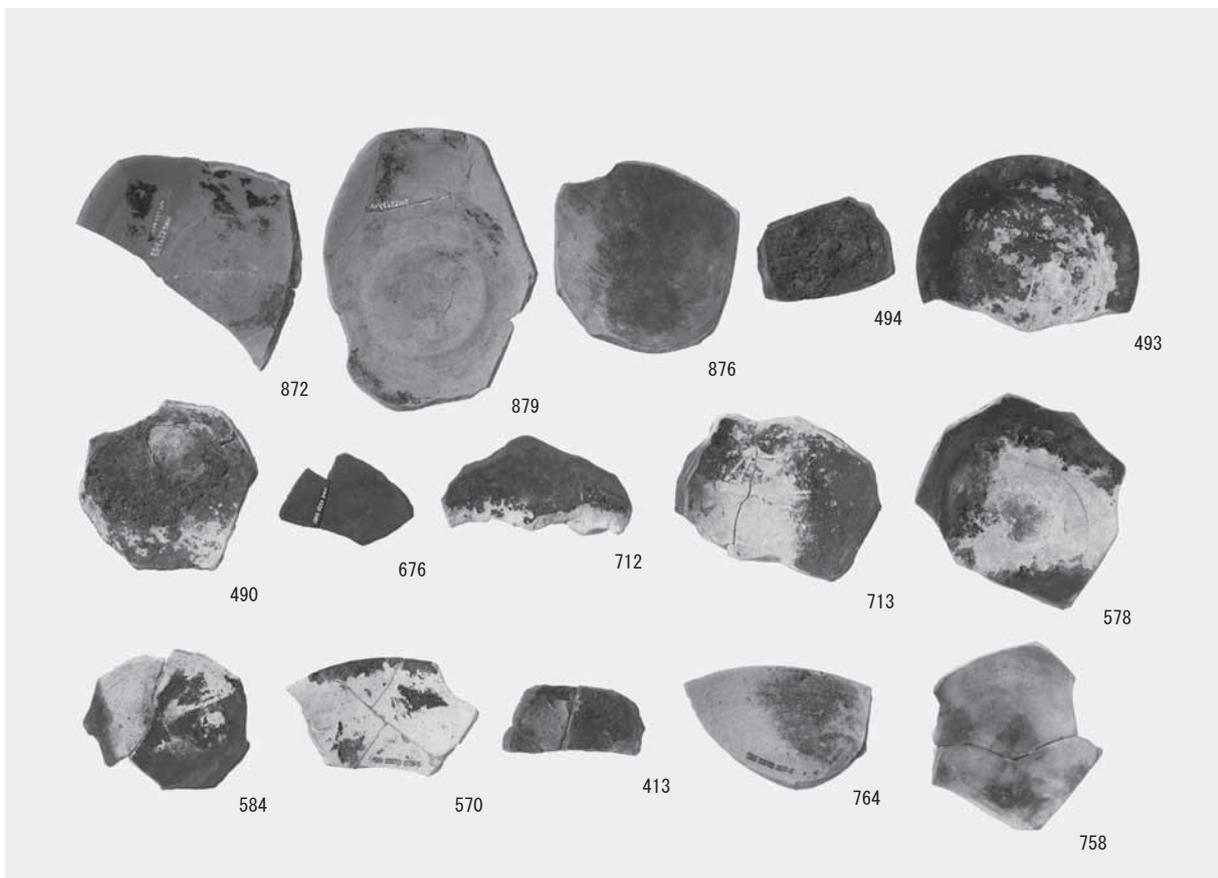
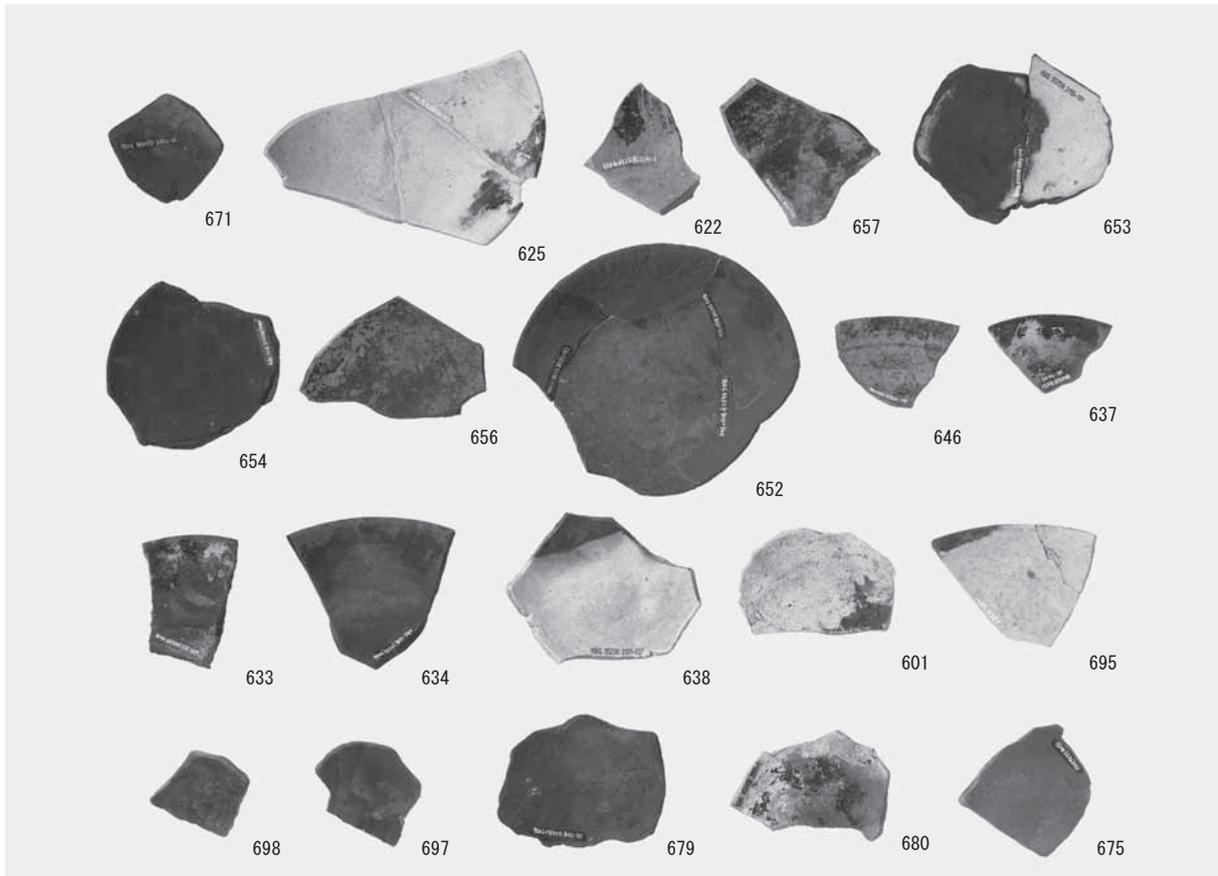


暗文土器・刻書土器 (土師器・須恵器)

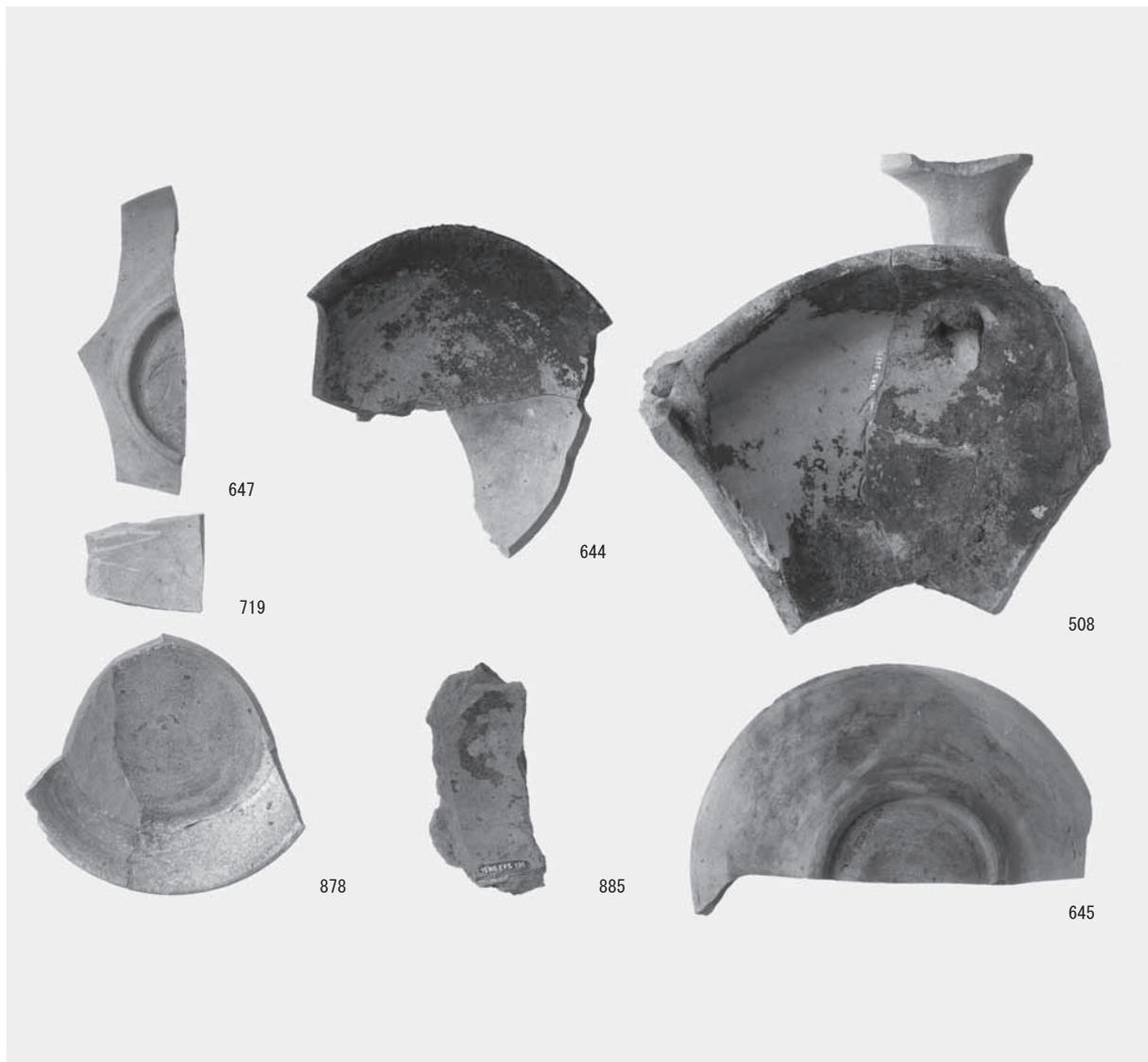


刻書土器・墨書土器 (土師器・須恵器・灰釉陶器)





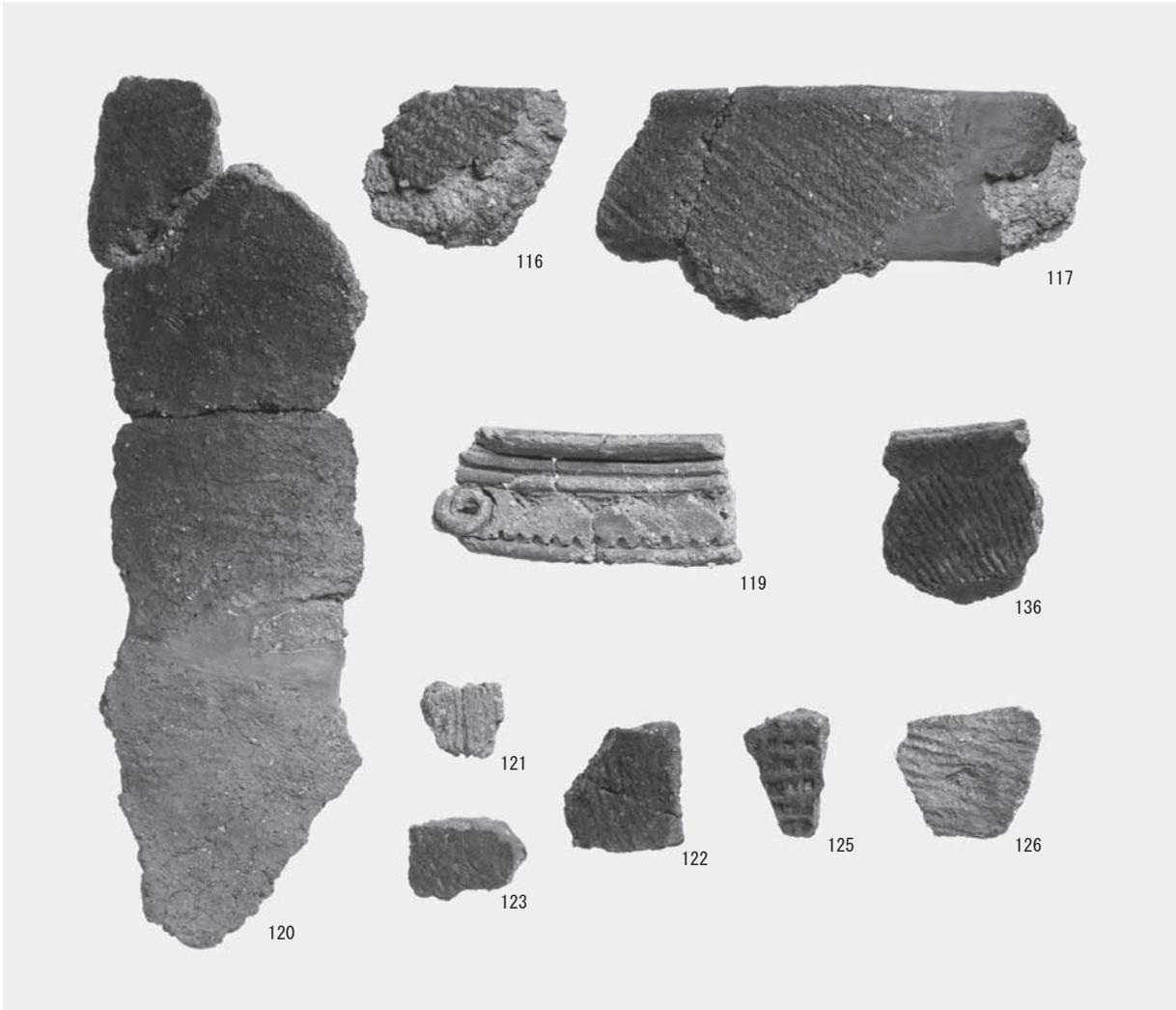
漆・煤附着土器 (ロク口土師器・灰釉陶器)



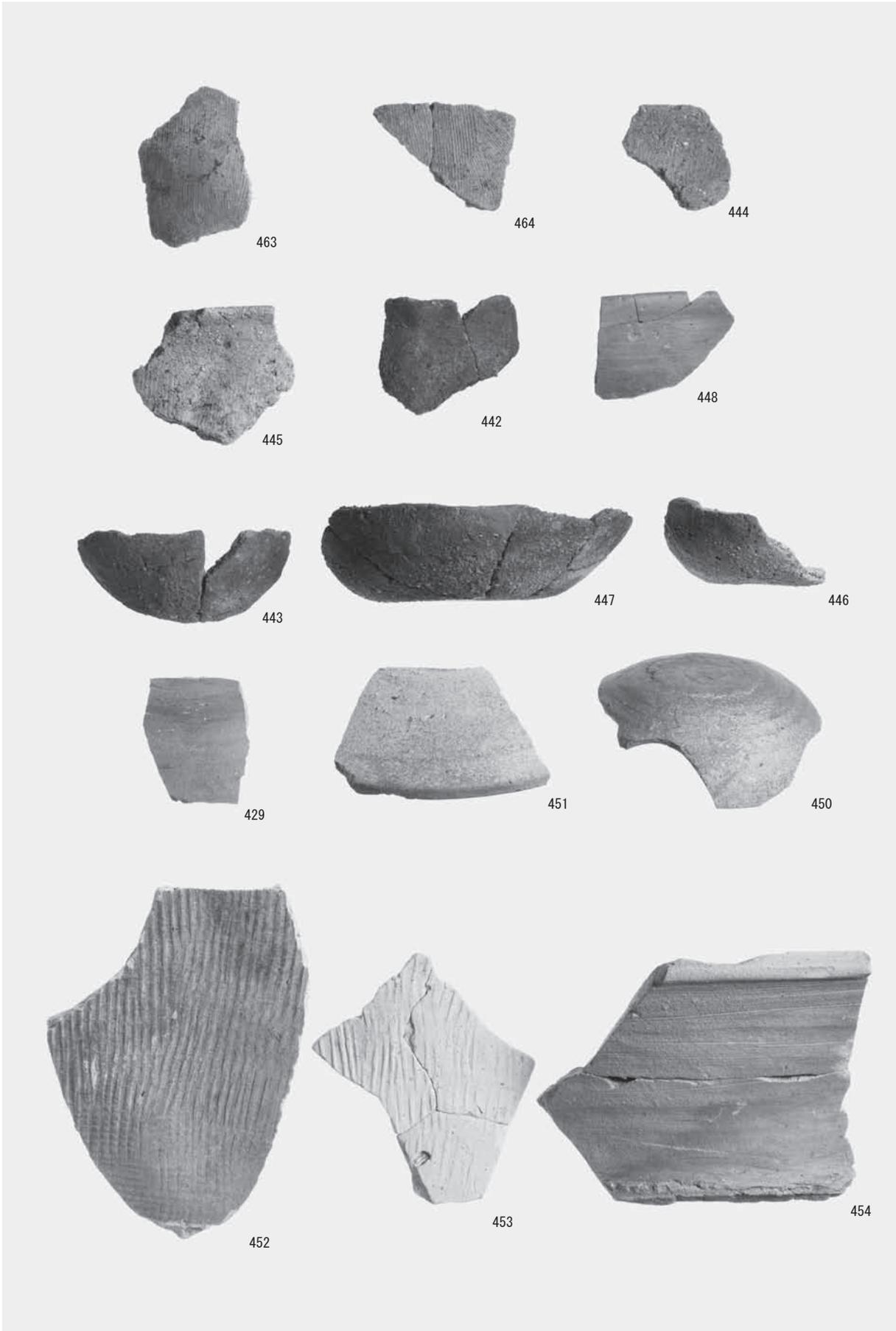
朱・漆・煤付着土器（灰釉陶器）

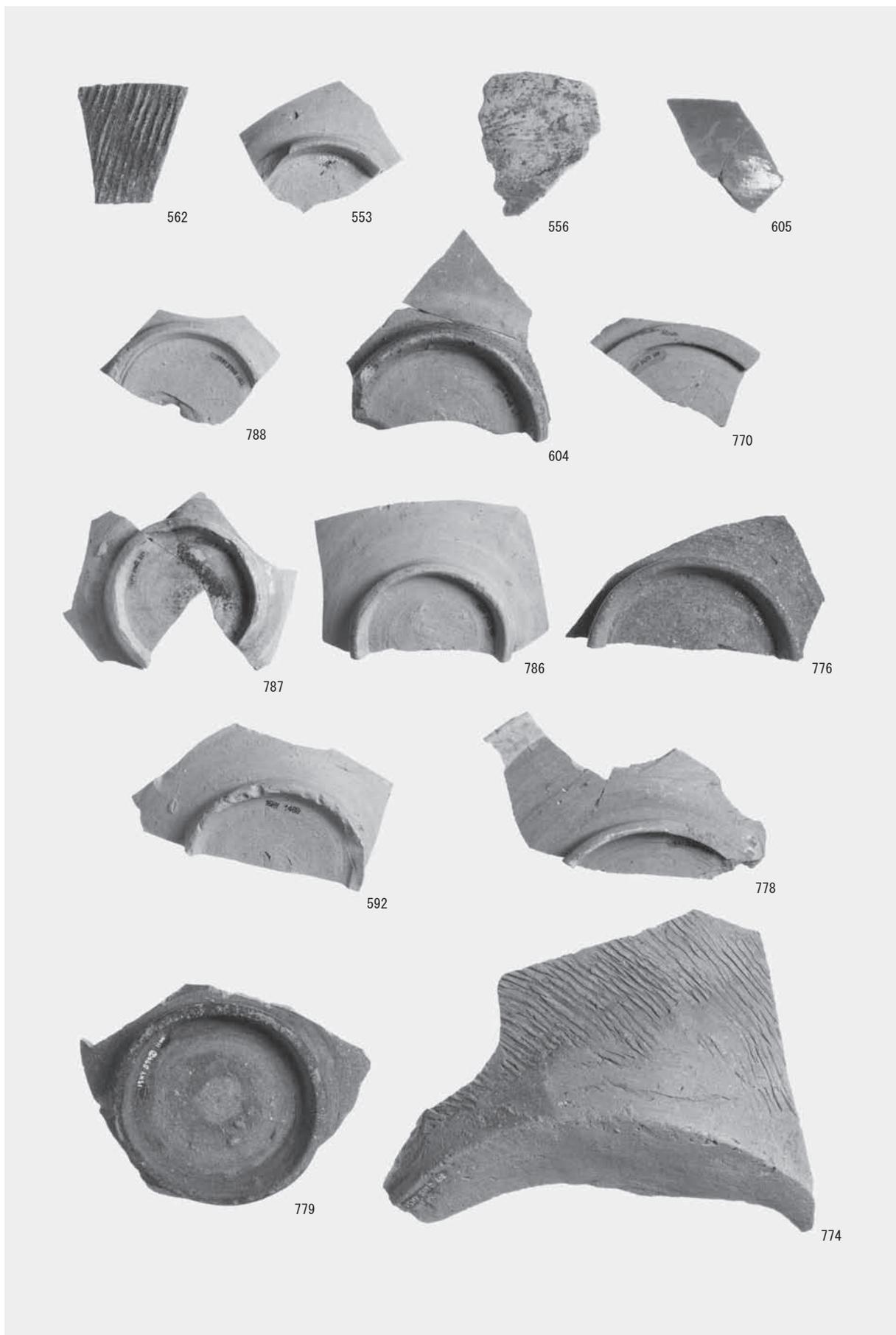


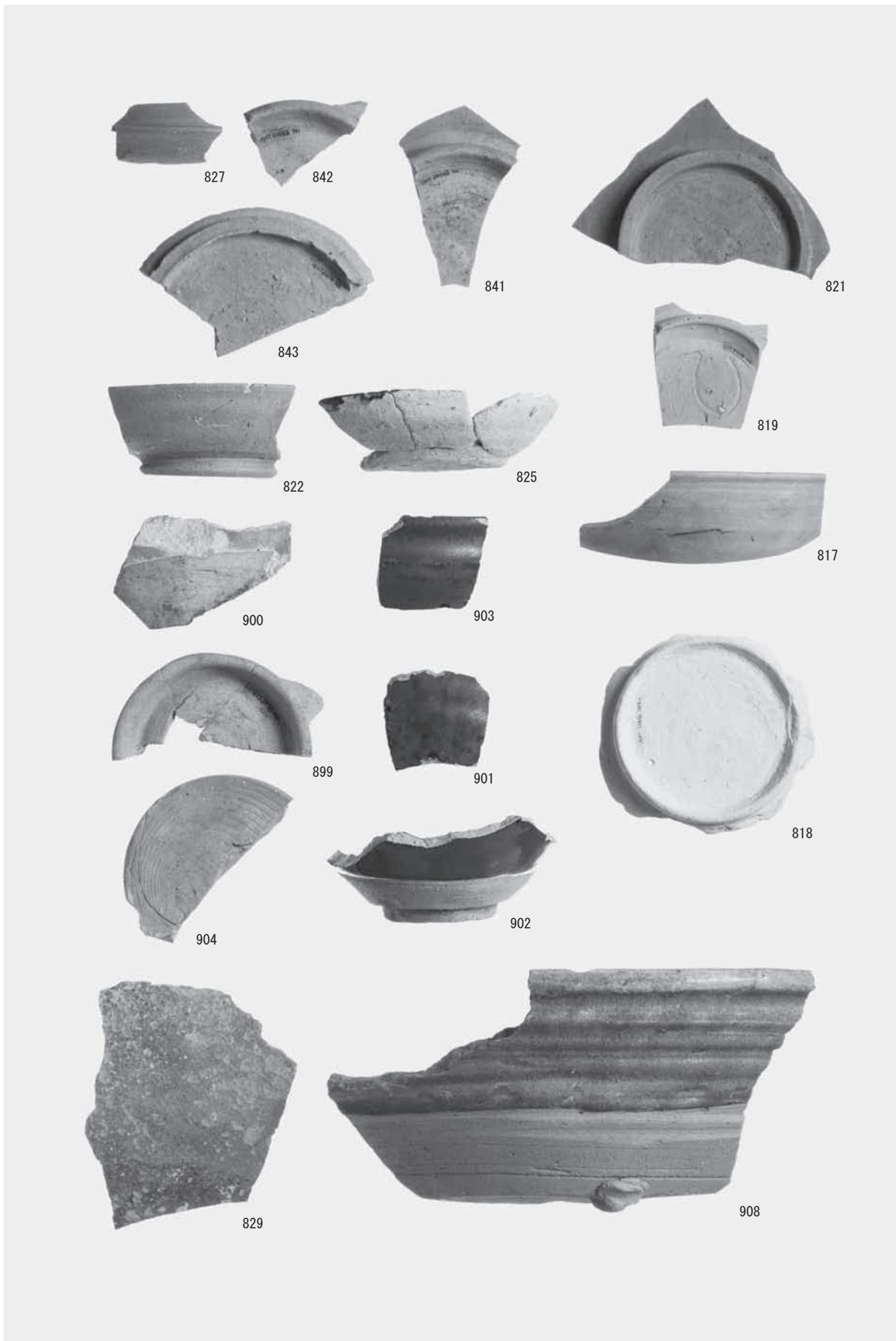
中近世陶器

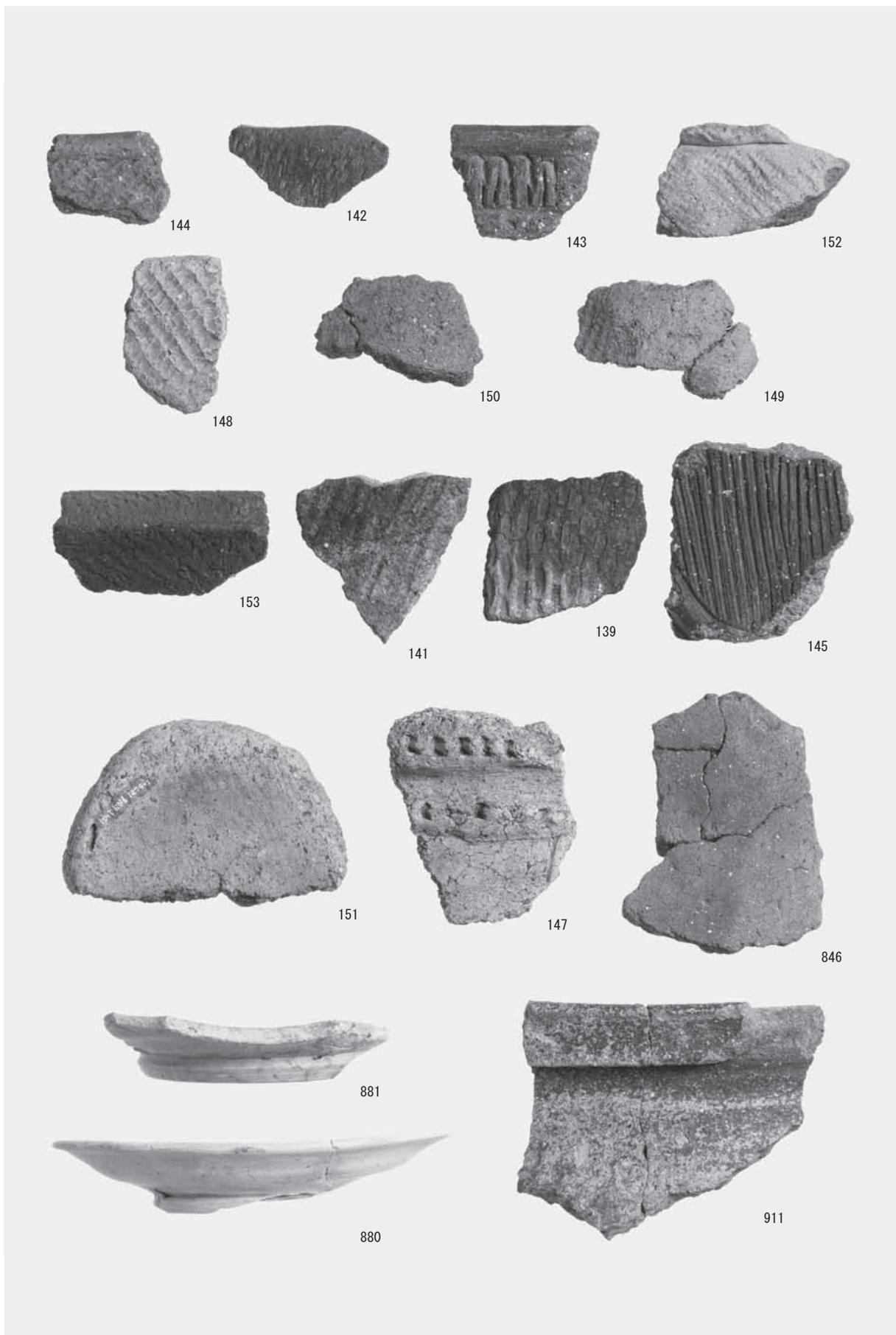


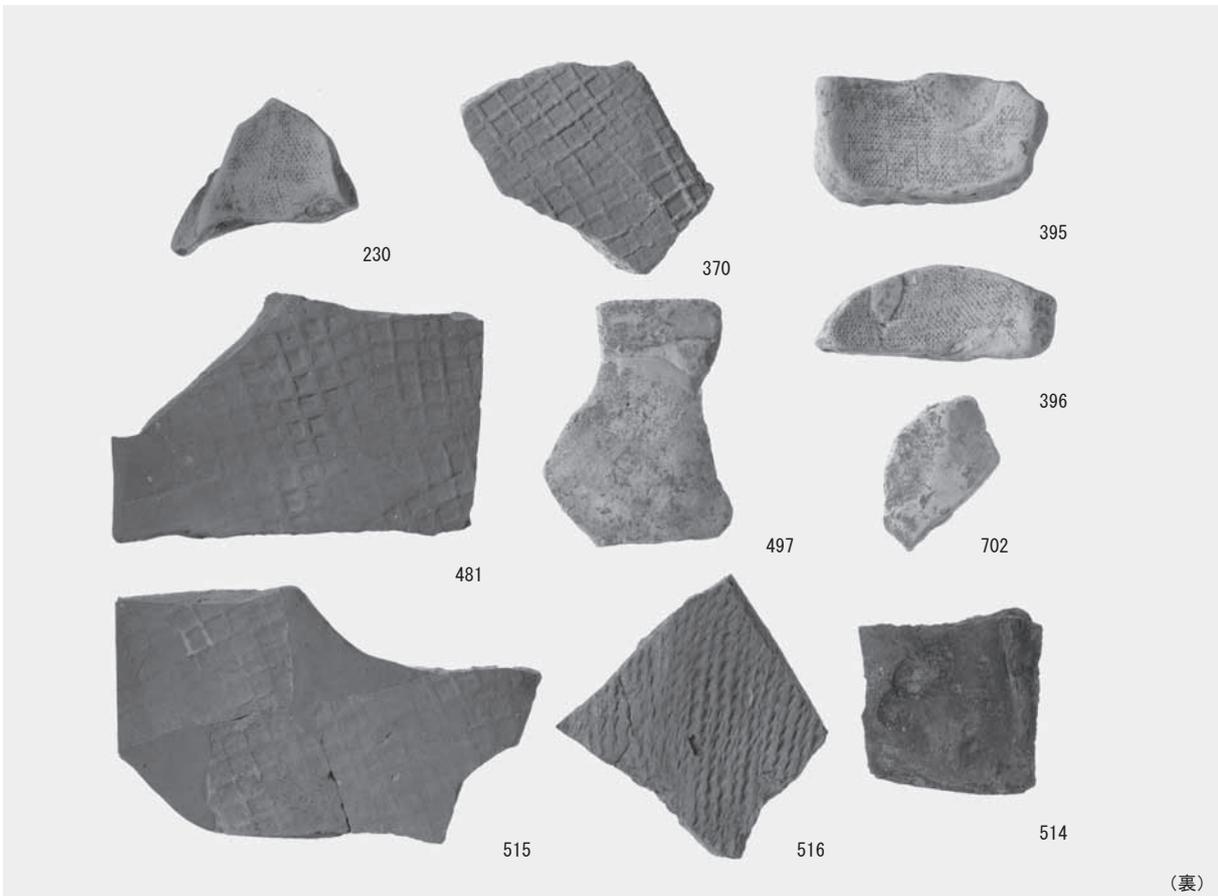
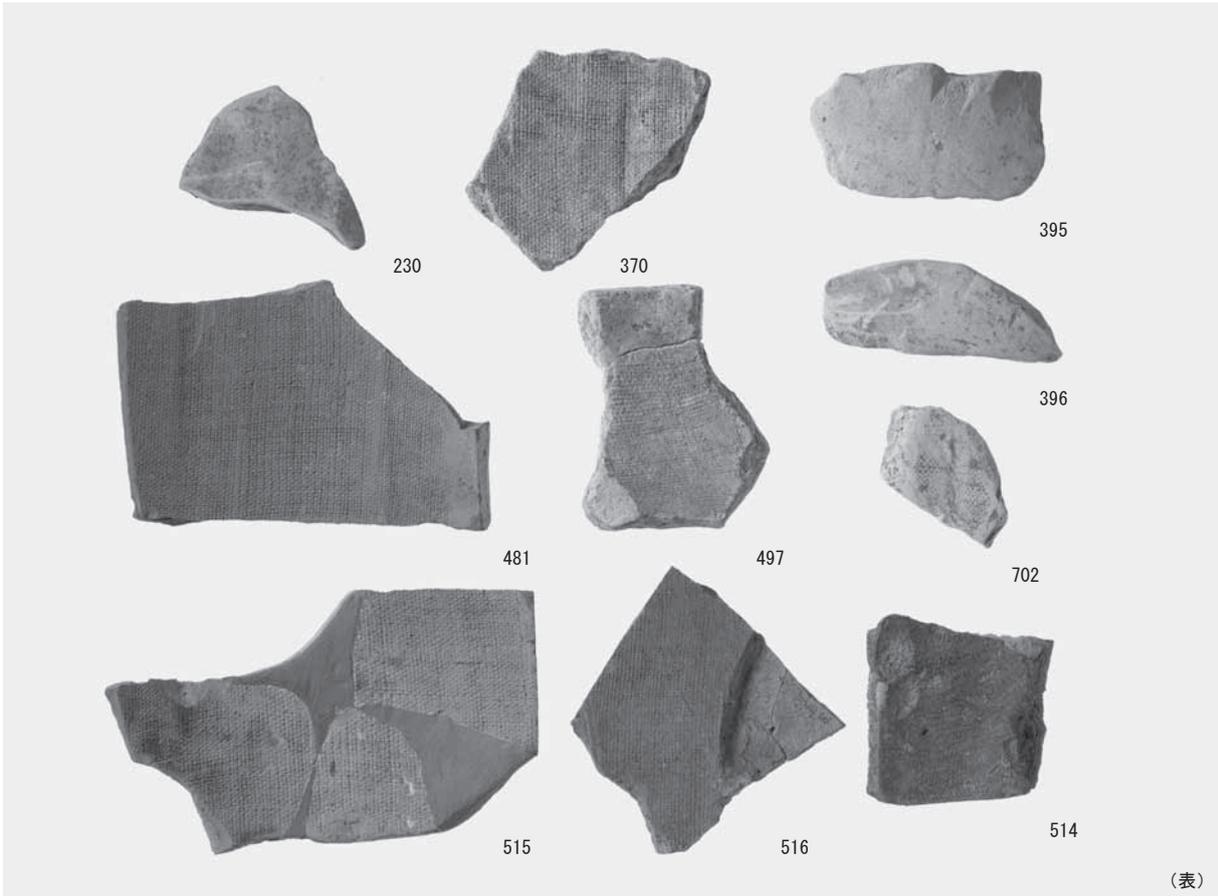


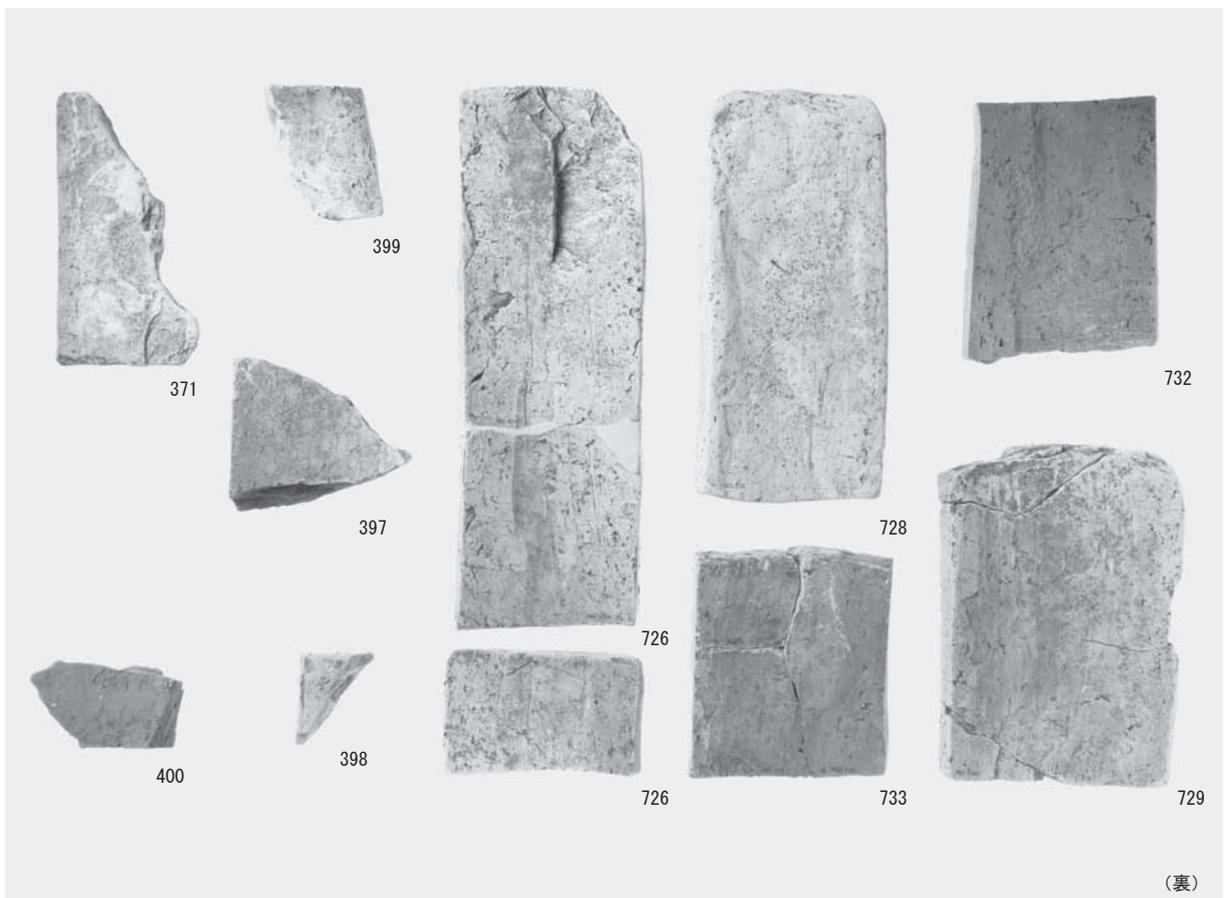
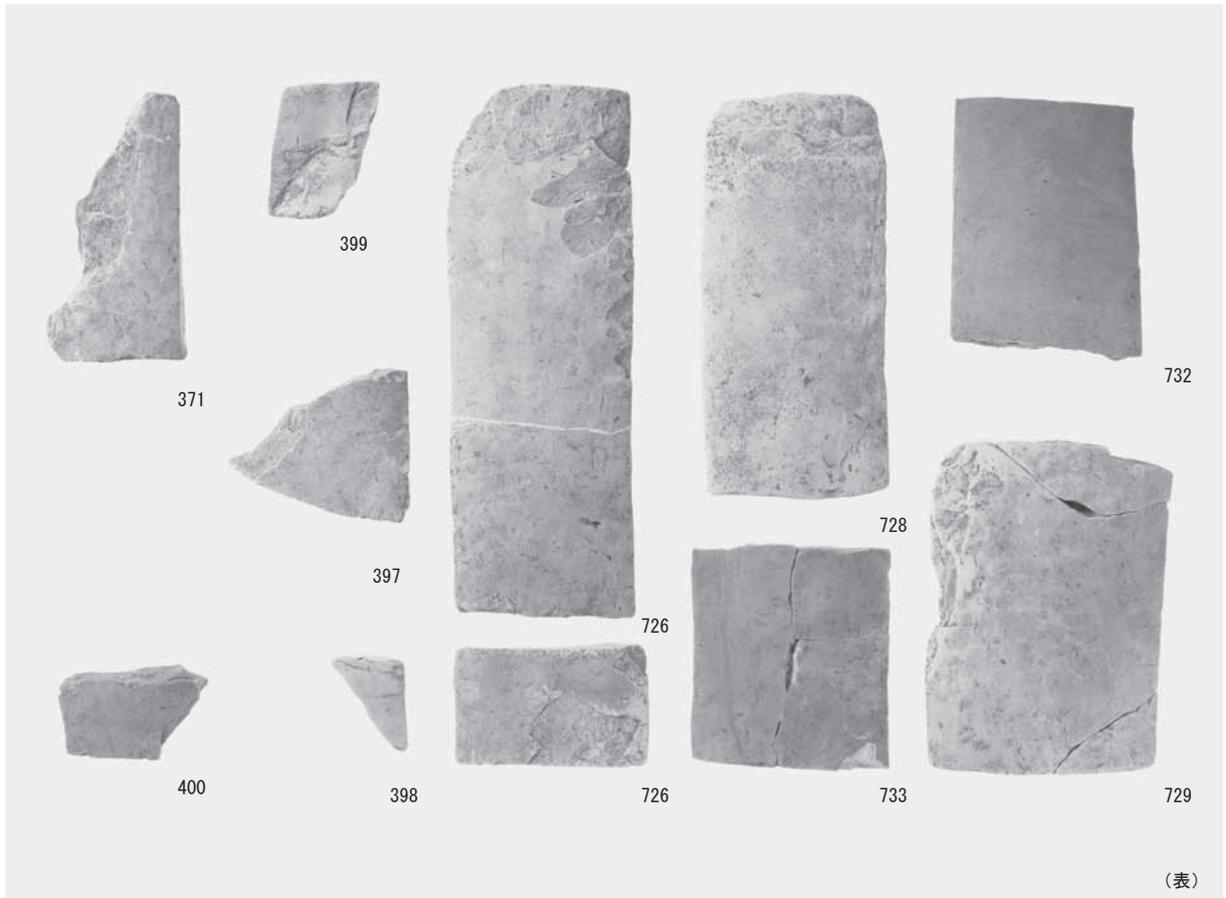


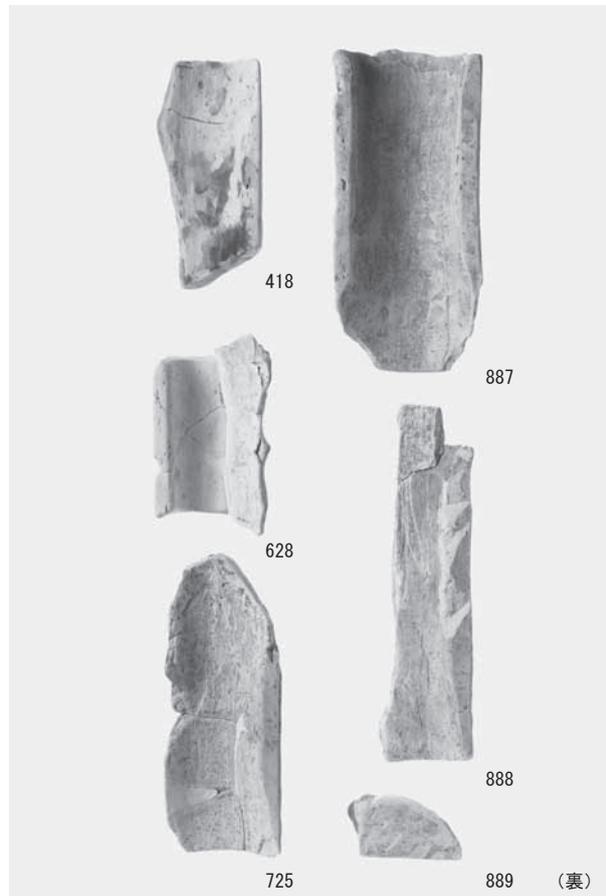
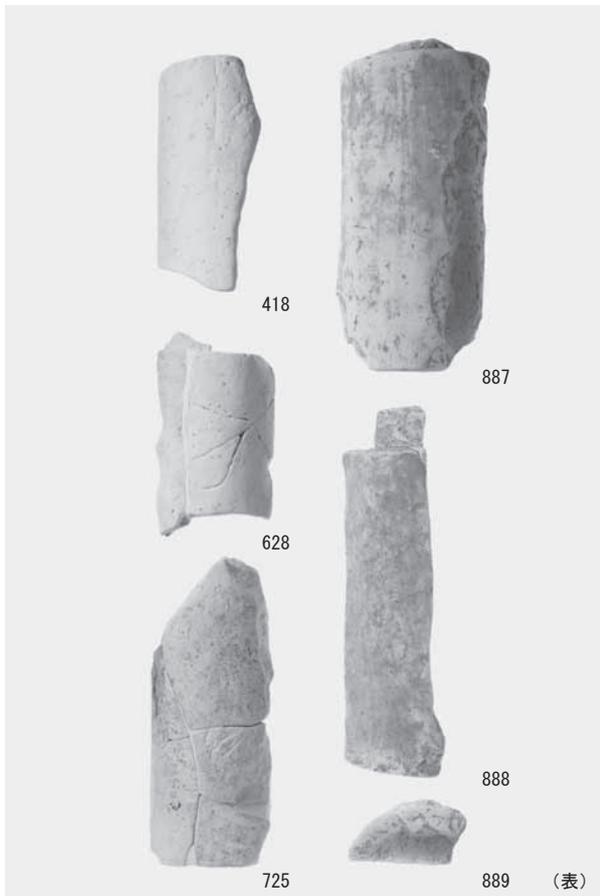
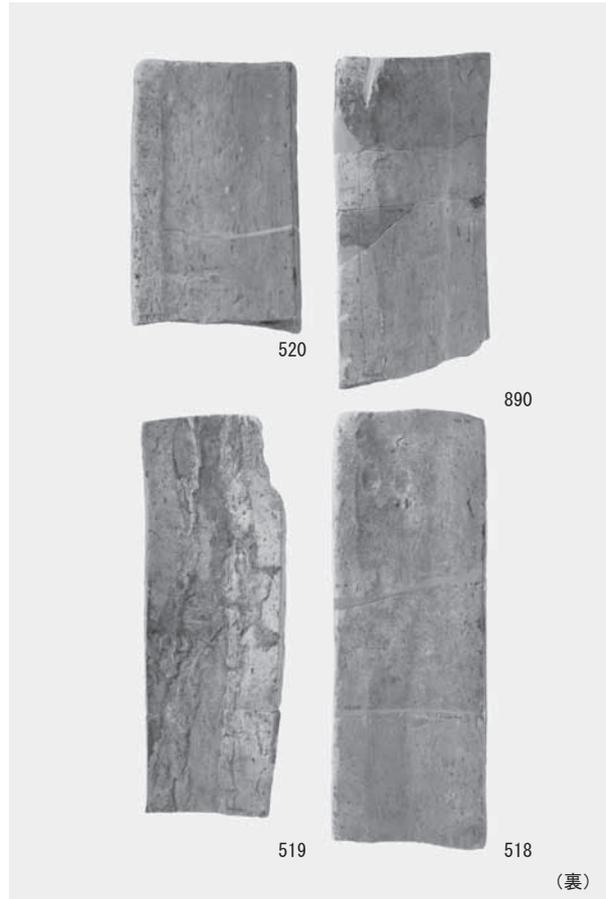
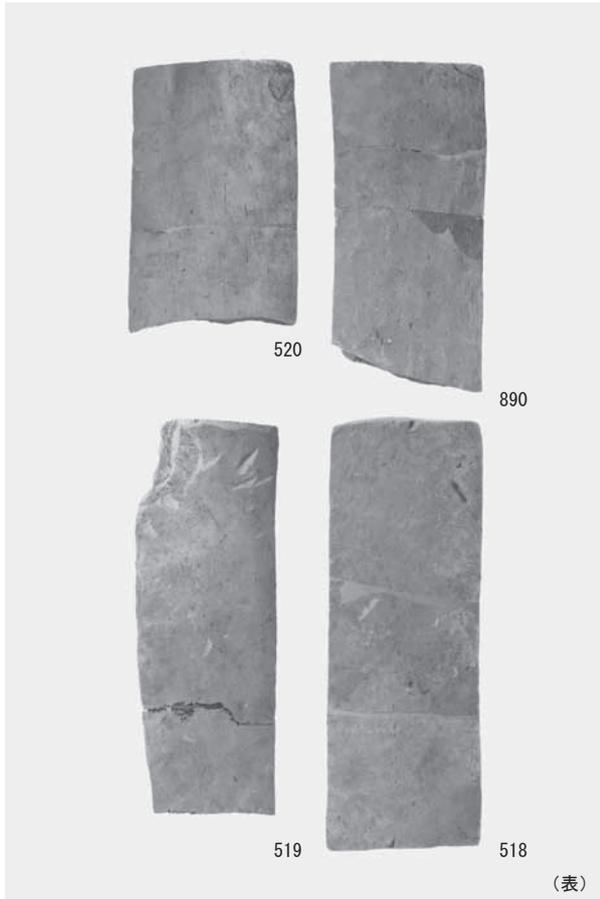


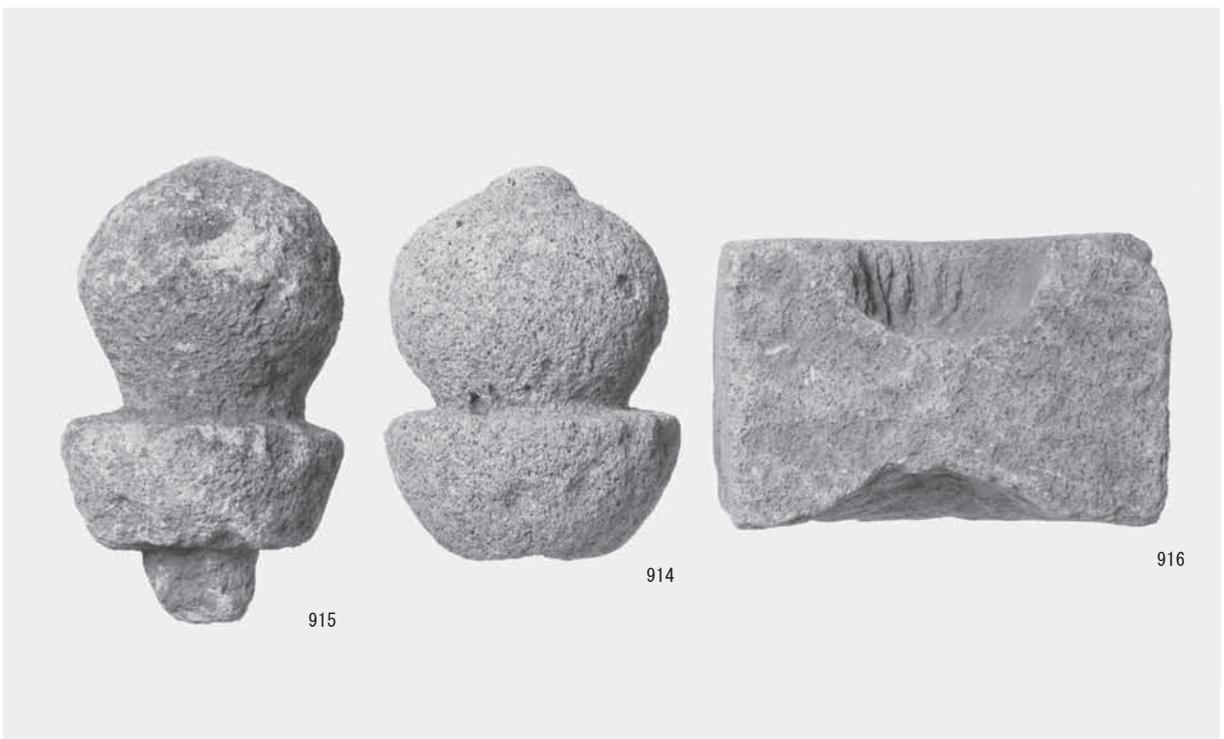
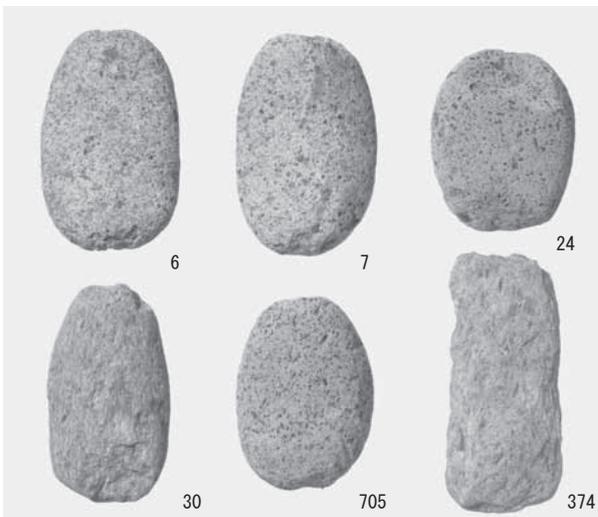
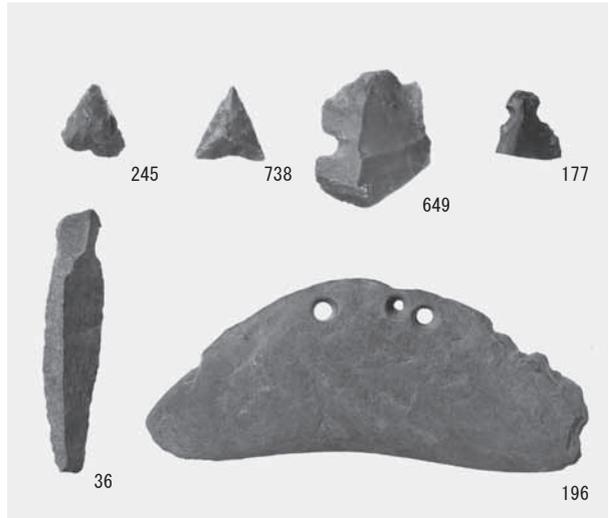
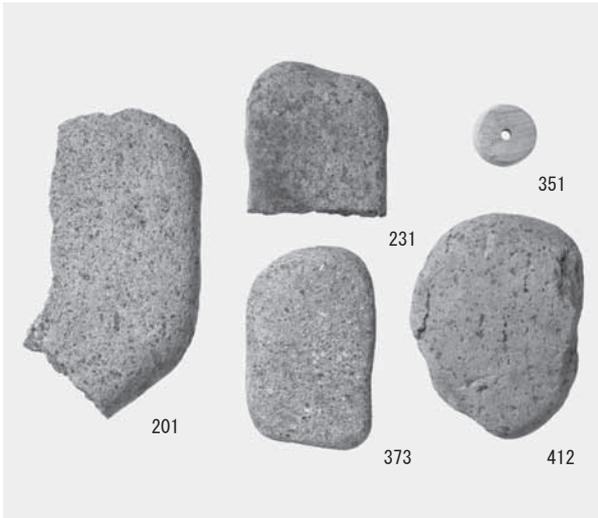


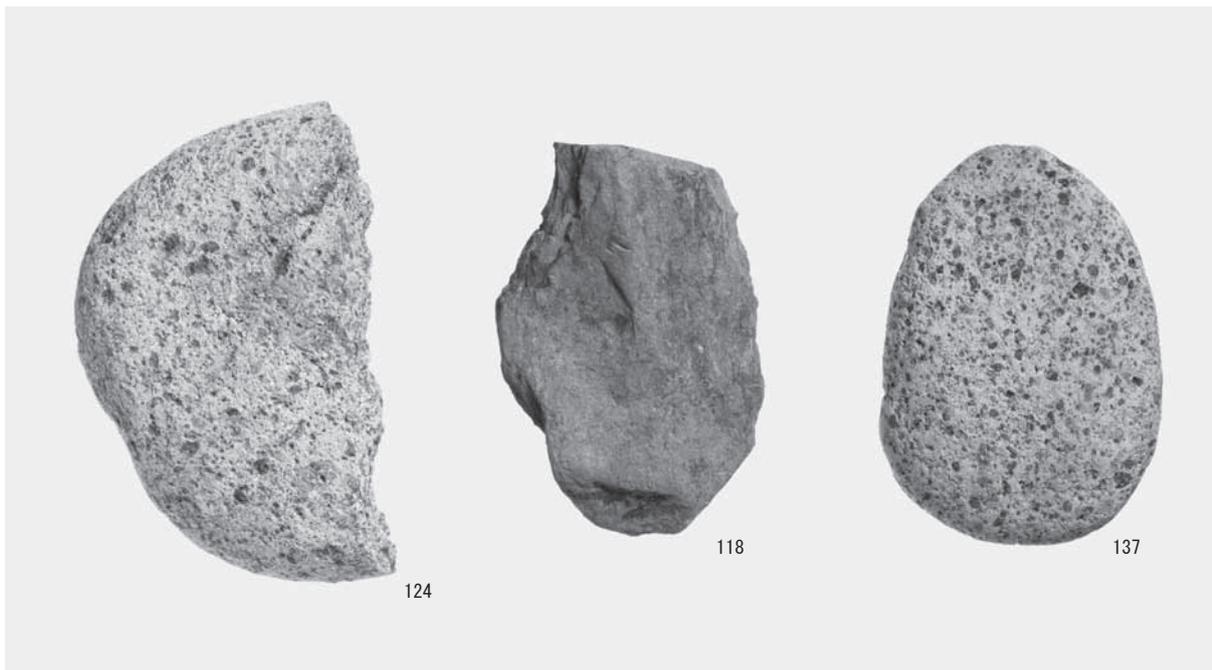


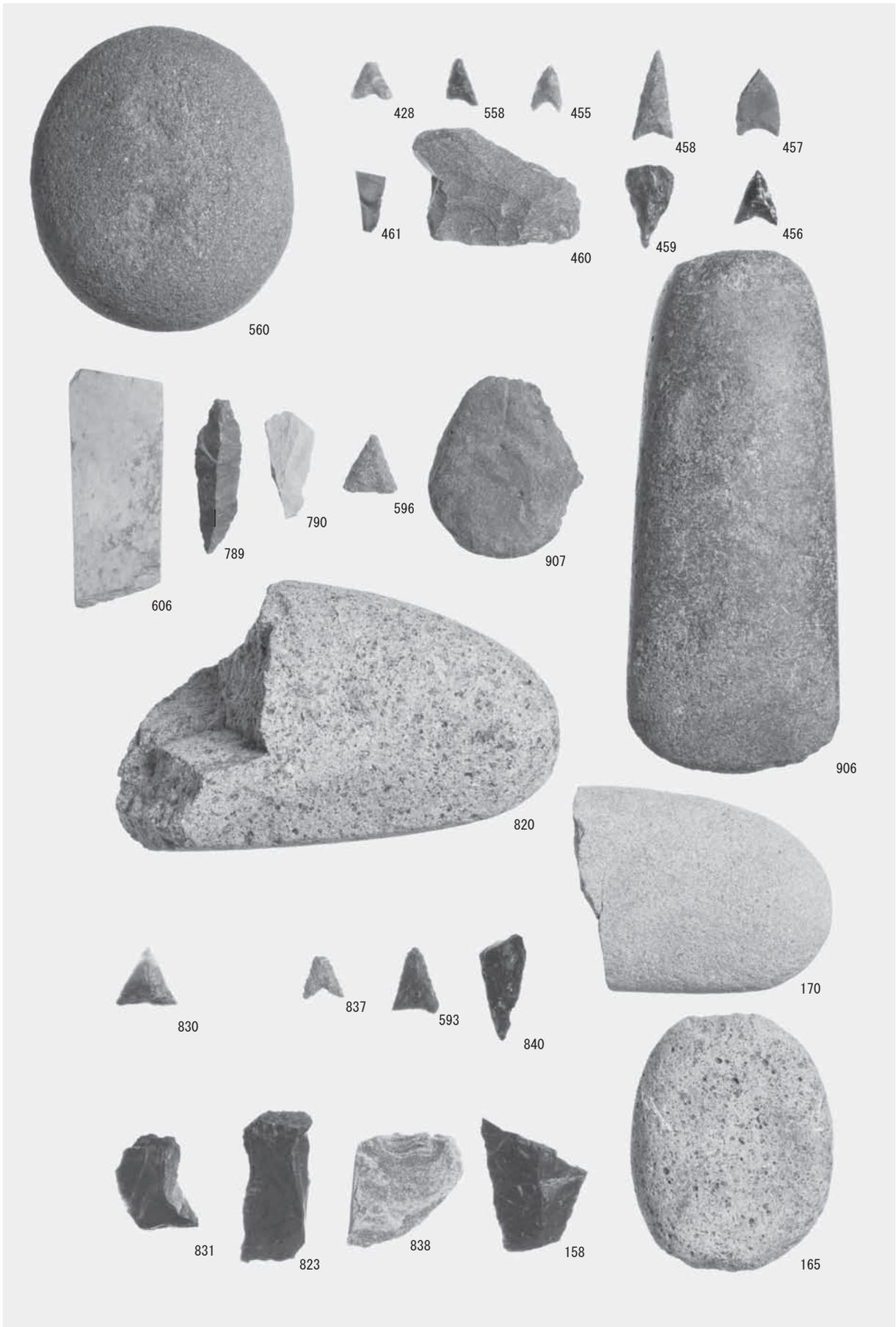










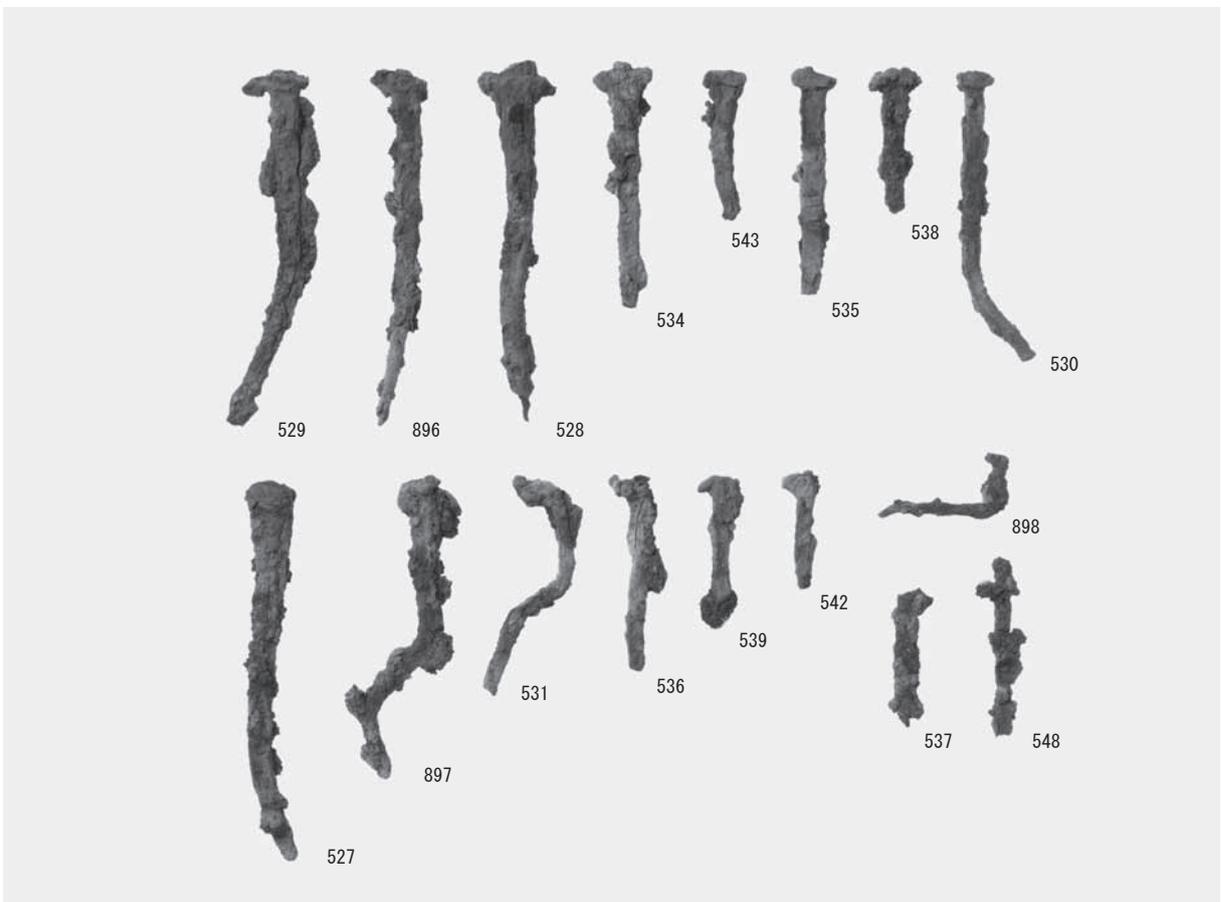
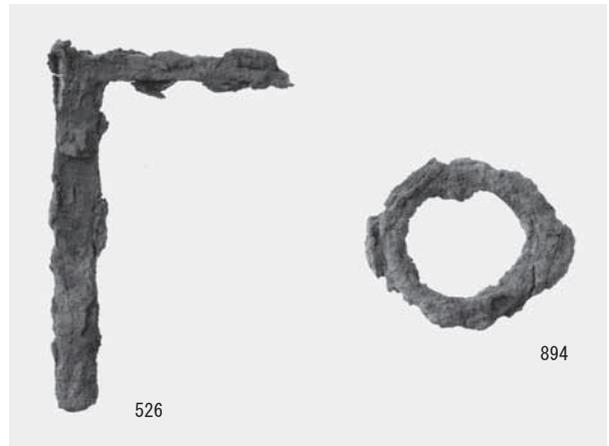
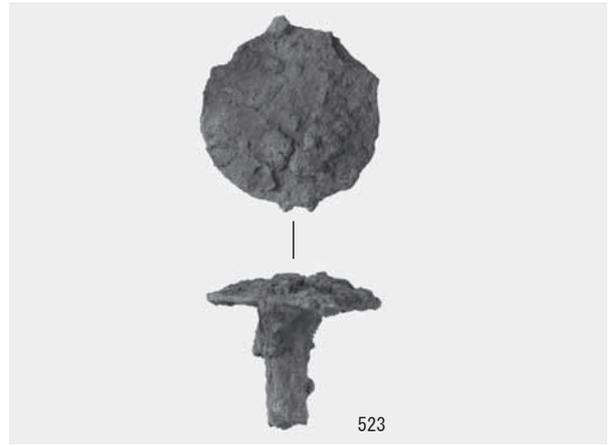


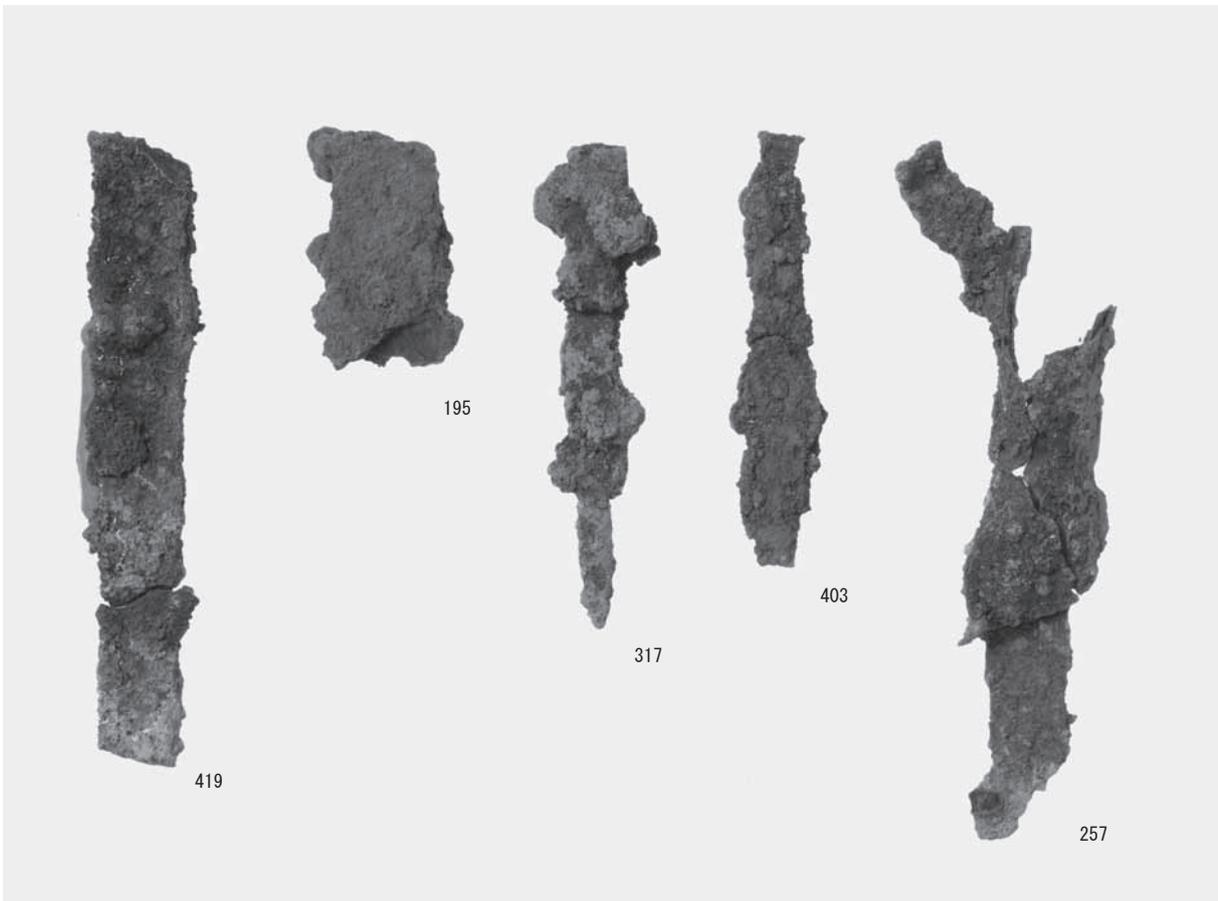
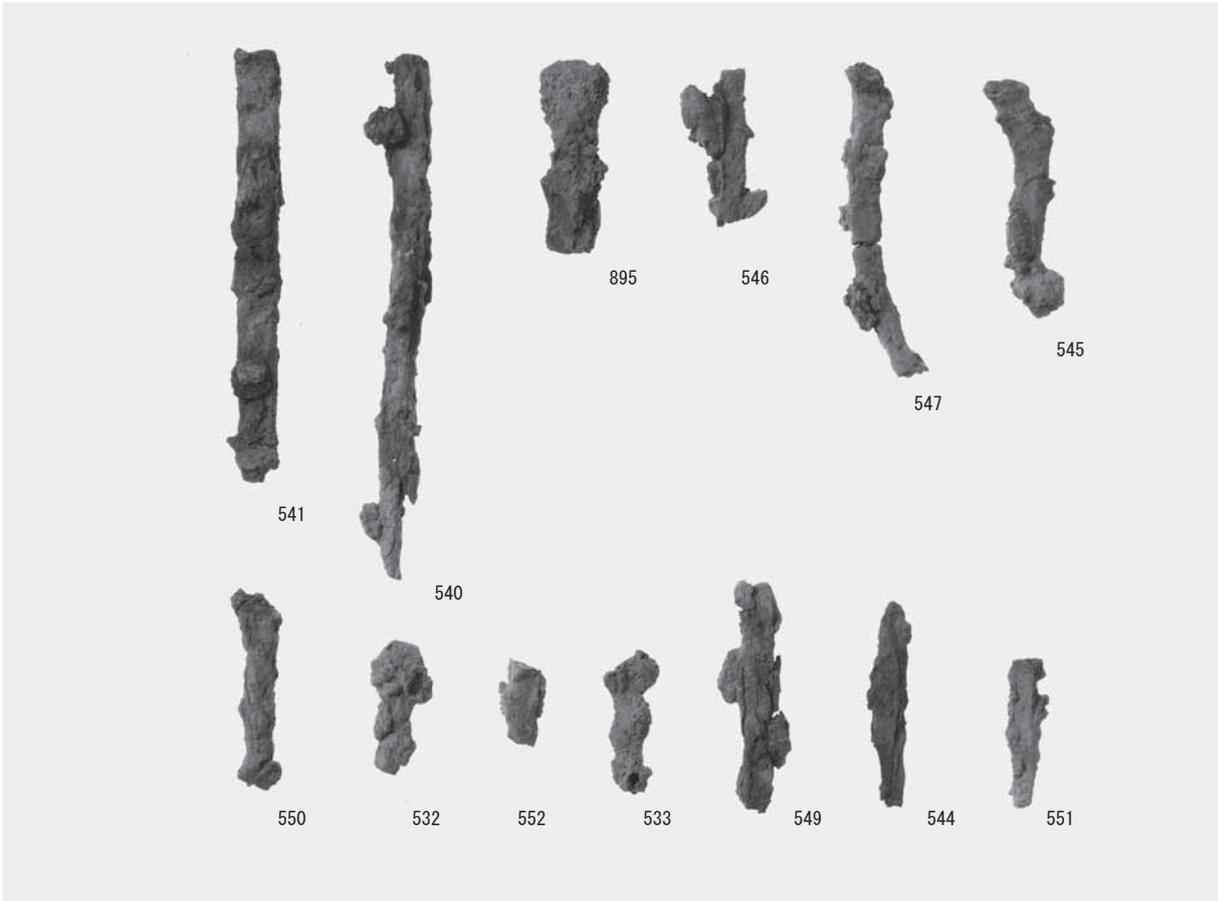


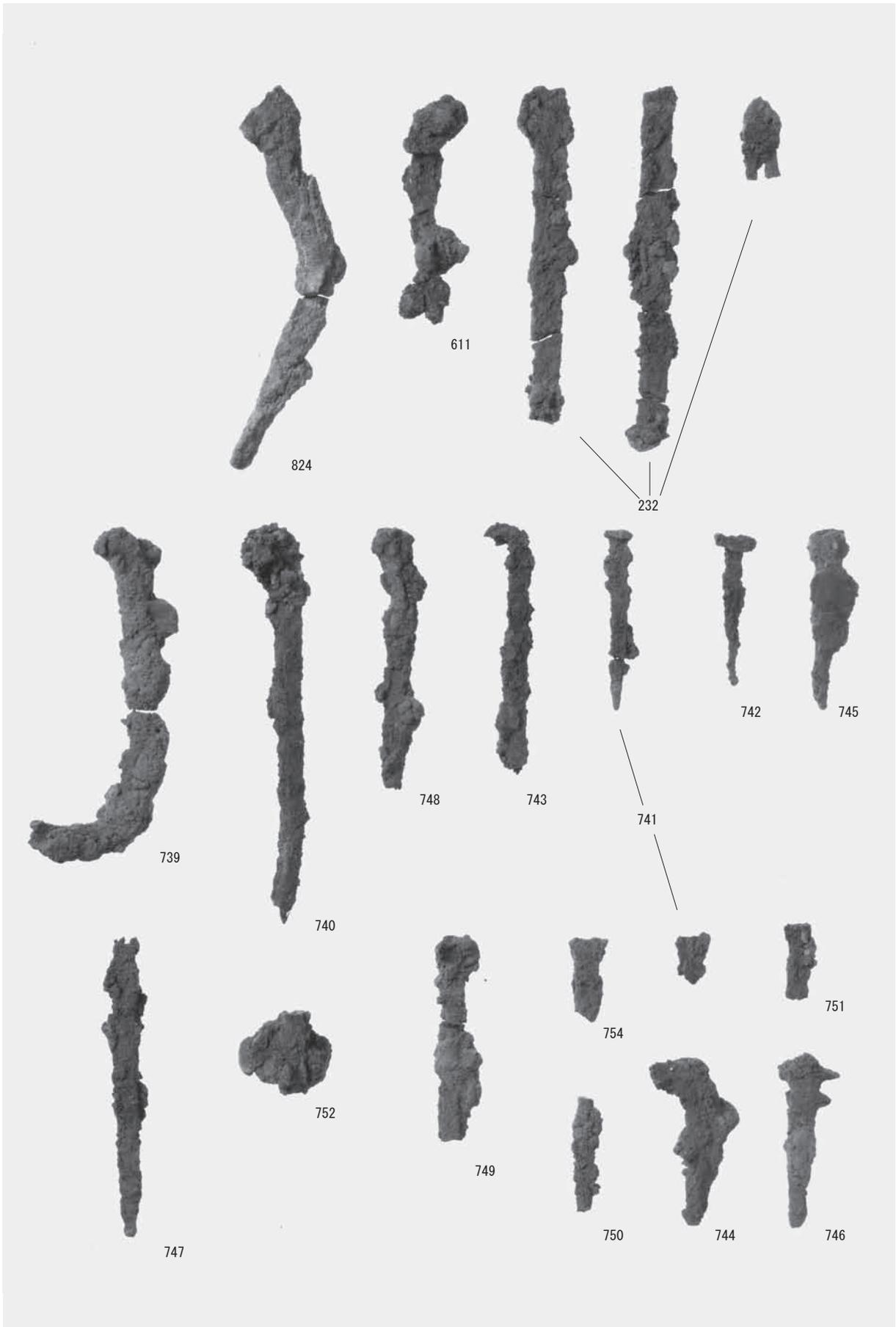
492 (背面)



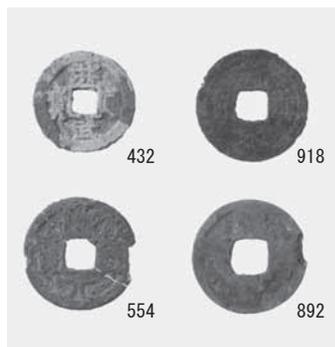
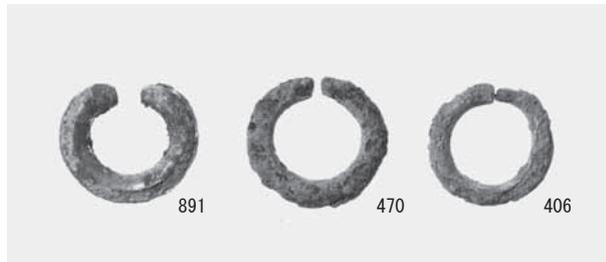
492 (鏡面)







图版 90 出土遺物 (40)



岐阜県文化財保護センター調査報告書 第154集

# 上切寺尾古墳群・日焼遺跡

(第2分冊)

2021年3月5日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印刷 株式会社もとしんさつ

